

感染症発生動向調査事業報告書

令和6年
(2024年)

東京都保健医療局

序

感染症発生動向調査事業は、感染症発生状況の把握・分析、情報提供による感染症の発生及びまん延防止を目的として行われており、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく事前対応型の感染症対策として位置づけられています。東京都健康安全研究センターでは、所内に東京都感染症情報センターを設置し、都内の感染症の発生状況や病原体の検出状況等を迅速に把握し、解析・評価を行ったうえで都民や医療機関等に情報提供を行っています。

コロナ禍以降、感染症に関する話題が報道などで取り上げられる機会が多くなりましたが、2024年の東京における感染症の発生動向にも大きな注目が集まりました。インフルエンザは第45週（11月4日～10日）に流行入りと判断された後、第50週（12月9日～15日）には注意報基準を超える、そのわずか1週間後の第51週（12月16日～22日）には警報基準を超えるました。東京都においてインフルエンザが警報基準を超えたのは5年ぶりとなりました。例年、警報基準を超える時期は1月～2月でしたが2024/2025シーズンでは12月に警報基準を超えるました。また、第43週（10月21日～27日）には、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数が4.84人となり、現行の統計が開始された1999年以来最も高い値となりました。第46週（11月11日～17日）には、伝染性紅斑の患者報告数が6年ぶりに都の警報基準を超えるなど、様々な呼吸器感染症が流行しました。全数把握疾患についても例年にはない動向がありました。コクシジオイデス症や日本脳炎といった希少感染症が届け出られ、また、レジオネラ症や劇症型溶血性レンサ球菌感染症が大幅に増加しました。レジオネラ症は地域集積事例も複数認められ、届出数は、261件と前年の約1.6倍にまで増加しました。劇症型溶血性レンサ球菌感染症も、246件と前年の141件を大幅に上回りました。

本報告書は、東京都感染症予防検討委員会における2024年の感染症発生情報の評価や予防策の検討の結果をまとめたものです。各疾患の発生動向につきまして、五類感染症（定点把握対象）のうち「小児科・内科疾患」と「基幹定点における疾患」は櫻山豊夫前委員長に、「眼科疾患」は稻毛佐知子委員に執筆をお願いしました。また、「一～四、五類感染症（全数把握対象）」及び「性感染症」につきましては当センターの疫学情報担当が、「病原体情報」につきましては同じく微生物部が担当しました。

末筆になりましたが、感染症発生動向調査事業にご協力くださいました東京都医師会、定点医療機関および保健所等の関係者の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

関係各位におかれましては、感染症対策の一助として本書を広くご活用くださいますようお願い申し上げます。

令和7年（2025年）5月

東京都健康安全研究センター所長 吉村 和久

目 次

第1章 東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

1 発生動向調査の概略	
(1) 調査対象疾患	3
(2) 定点医療機関	3
表1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数	3
(3) 運営方法	3
(4) 情報発信	4
2 2024年の概況	
(1) 一～四類、五類感染症（全数把握対象）等	4
(2) 五類感染症（定点把握対象）	6
(3) 疑似症	8
表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（一～四類、五類全数等）	9
表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患畜報告数（全数動物）	10
表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ/COVID-19定点・小児科定点）	11
表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）	12
表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点週報告分）	12
表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点月報告分）	13
表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（性感染症定点）	13
3 各疾患の動向	
(1) 一～四類、五類感染症（全数把握対象）等	14
ア 一類感染症	14
イ 二類感染症	14
ウ 三類感染症	14
エ 四類感染症	17
オ 五類感染症（全数把握対象）	22
表3-1 一～四類、五類感染症（全数把握対象）等 週別患者報告数	35
表3-2 一～四類、五類感染症（全数把握対象）等 保健所別患者報告数	38
表3-3 一～四類、五類感染症（全数把握対象）等 年齢階級別患者報告数	41
(2) 小児科・内科疾患	44
ア インフルエンザ	44
イ 新型コロナウイルス感染症	46
ウ R Sウイルス感染症	47
エ 咽頭結膜熱	48
オ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49
カ 感染性胃腸炎	50
キ 水痘	51
ク 手足口病	52

ケ	伝染性紅斑	53
コ	突発性発しん	54
サ	ヘルパンギーナ	55
シ	流行性耳下腺炎	56
ス	不明発しん症	57
セ	川崎病	58
(3)	眼科疾患	59
ア	急性出血性結膜炎	59
イ	流行性角結膜炎	60
(4)	基幹定点医療機関における週報告疾患	61
ア	細菌性髄膜炎	61
イ	無菌性髄膜炎	62
ウ	マイコプラズマ肺炎	63
エ	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	64
オ	感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）	65
カ	インフルエンザ入院	66
キ	新型コロナウイルス感染症入院	67
(5)	基幹定点医療機関における月報告疾患	68
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	68
イ	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	69
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症	70
(6)	性感染症	71
ア	性器クラミジア感染症	71
イ	性器ヘルペスウイルス感染症	72
ウ	尖圭コンジローマ	73
エ	淋菌感染症	74
オ	膣トリコモナス症	75
表 4-1	週別患者報告数（インフルエンザ/COVID-19・小児科・眼科・基幹）	76
表 4-2	週別定点当たり患者報告数（インフルエンザ/COVID-19・小児科・眼科・基幹）	78
表 5-1	保健所別患者報告数（インフルエンザ/COVID-19・小児科・眼科・基幹）	80
表 5-2	保健所別定点当たり患者報告数（インフルエンザ/COVID-19・小児科・眼科・基幹）	82
表 6	年齢階級別患者報告数（インフルエンザ/COVID-19・小児科・眼科・基幹）	84
表 7-1	二次医療圏別患者報告数（インフルエンザ/COVID-19・小児科・眼科・基幹）	86
表 7-2	二次医療圏別定点当たり患者報告数（インフルエンザ/COVID-19・小児科・眼科・基幹）	87
表 8-1	月別患者報告数（基幹）	88
表 8-2	月別定点当たり患者報告数（基幹）	88
表 8-3	月別・性別患者報告数（基幹）	88
表 8-4	性別・年齢階級別患者報告数（基幹）	89
表 9-1	月別患者報告数（性感染症）	89
表 9-2	月別定点当たり患者報告数（性感染症）	89

表 9-3 月別・性別患者報告数（性感染症）	90
表 9-4 月別・性別定点当たり患者報告数（性感染症）	90
表 9-5 保健所別、二次医療圏別患者報告数（性感染症）	91
表 9-6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（性感染症）	92
表 9-7 年齢階級別患者報告数（性感染症）	93
表 10 検査結果別報告数（基幹）	93
表 11 入院サーベイランス 入院時の状況	94

第2章 東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・内科・基幹病原体定点医療機関からの搬入検体	97
ア インフルエンザ	97
イ R Sウイルス感染症	103
ウ 咽頭結膜熱	103
エ 感染性胃腸炎	104
オ 水痘	105
カ 手足口病	106
キ 伝染性紅斑	107
ク 突発性発しん	107
ケ ヘルパンギーナ	108
コ 流行性耳下腺炎	109
サ 不明発しん症	109
シ 川崎病	110
ス 無菌性髄膜炎	111
(2) 眼科病原体定点医療機関からの搬入検体	111
ア 流行性角結膜炎	111
(3) 性感染症（STI）病原体定点医療機関からの搬入検体	112
ア 性器ヘルペスウイルス感染症	112
イ 尖圭コンジローマ	112
(4) 積極的疫学調査による搬入検体	112
ア 二類感染症	112
イ 四類感染症	112
ウ 五類感染症（全数把握疾患）	113

2 細菌検査結果

(1) 二類感染症の病原体検索	115
ア ジフテリア	115
(2) 四類感染症の病原体検索	115
ア レジオネラ症	115
(3) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索	115

ア カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	115
イ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	115
ウ 侵襲性インフルエンザ菌感染症	117
エ 薬剤耐性アシнетバクター感染症	117
オ 侵襲性肺炎球菌感染症	117
カ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症	118
キ 侵襲性髄膜炎菌感染症	118
ク 百日咳	118
(4) 五類感染症（定点把握対象）の病原体検索	118
ア A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	118
イ 感染性胃腸炎	118
ウ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症	118
エ マイコプラズマ肺炎	118
(5) 性感染症（STI）病原体定点医療機関からの搬入検体	118
ア クラミジア・トラコマチスおよび淋菌	118
イ 膣トリコモナス	119

第3章 資 料

1 東京都感染症発生動向調査定点医療機関名簿	123
2 東京都感染症予防検討委員会委員名簿	140
3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ	141
東京都感染症発生動向調査事業実施要綱	142
別表1 感染症法に基づく感染症の分類	156
別表2 五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期	160
別表3 疑似症の調査単位と報告時期	161
別記様式一覧表	162

第 1 章

東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

1 発生動向調査の概略

(1) 調査対象疾患

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び「感染症発生動向調査事業実施要綱」に定められている全数把握対象疾患及び定点把握対象疾患に加え、厚生労働省令で定める疑似症をサーベイランスの調査対象としている。また、東京都が独自に指定する調査対象疾患として、不明発しん症と川崎病を小児科疾患、臍トリコモナス症を性感染症に加えている。

(2) 定点医療機関

患者定点となる医療機関数は、小児科定点 264、内科定点 155、眼科定点 39、基幹定点 25、性感染症定点 55、疑似症定点 36 が設定され、このうち 70 医療機関が病原体定点を兼ねている。なお、小児科定点はインフルエンザ／新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 定点としての機能も果たしている（新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) については令和 5 (2023) 年 5 月 8 日から）。

表 1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数

（2024年12月31日現在）

定 点 種 別 (疾患数)	患 者 定 点 数	病 原 体 定 点 数
小児科定点 (14)	264	26
内科定点 (2)	155	15
眼科定点 (2)	39	4
基幹定点 (10)	25	21
性感染症定点 (5)	55	4
疑似症定点	36	

(3) 運営方法

全数把握対象疾患は、診断後直ちに（五類感染症は 7 日以内、ただし侵襲性髄膜炎菌感染症、風しん及び麻しんは診断後直ちに）医療機関等から保健所に届出が行われる。小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾患（薬剤耐性菌による感染症）については月単位となっている。

週単位で報告される疾患については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者を、小児科、内科、眼科の各定点医療機関は年齢別の患者数、基幹定点医療機関（薬剤耐性菌による感染症を除く）は年齢及び検出病原体名を保健所に報告する。

月単位で報告される疾患については、性感染症定点医療機関は当該月の性別・年齢別患者数、基幹定点医療機関（薬剤耐性菌による感染症）は当該月の患者の年齢、検体採取部位を保健所に報告する。

疑似症サーベイランスでは、疑似症定点医療機関において届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診察された場合に直ちに保健所に報告する。

医療機関等からの保健所への報告は原則として、感染症サーベイランスシステムへの入力による（令和 5 年 4 月 1 日より、医師が届出を行う場合には、本システムによる報告が努力義務化（厚生労働省令で定める感染症指定医療機関は義務化）された）。東京都健康安全研究センター疫学情報担当（基幹地方感染症情報センター）（以下、疫学情報担当という）は、保健所からの情報を確認後、国へ報告する。

また、疑似症については、保健所は隨時、保健医療局感染症対策部防疫課（以下、防疫課という）へ報告する。保健所からの報告を受けた防疫課は、疫学情報担当へ報告し、両者で検討の上、国へ報告する。

（4）情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果とともに、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページで公開し、広く都民に情報還元を図っている。また、感染症週報には、東京都医師会発行の情報誌から引用した「感染症豆知識」の記事を掲載し、感染症に関する情報発信に繋げている。

さらに、隔月第4木曜日を目途に開催される東京都感染症予防検討委員会において、直近2カ月分の情報について討議し、その情報は情報誌に「感染症だより」として掲載されている。

2 2024年の概況

（1）一～四類、五類感染症（全数把握対象）等

ア 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

イ 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）の届出はなかった。結核については別途「東京都における結核の概況」として報告する。

ウ 三類感染症

コレラ：2件の届出があった。いずれも血清型はO1であり、推定感染地は国外であった。

細菌性赤痢：25件の届出があった。菌種は*S.sonnei* 19件、*S.flexneri* 5件、*S.boydii* 1件であった。推定感染地は国内9件、国外14件、不明2件であった。

腸管出血性大腸菌感染症：471件の届出があった。症状別では患者299人（うち溶血性尿毒症症候群11人）、無症状病原体保有者172人で、推定感染地は国内335件、国外42件、国内又は韓国1件、不明93件であった。血清型・毒素型はO157 VT1・VT2が134件で最多であった。

腸チフス：7件の届出があった。推定感染地は全て国外であった。

パラチフス：4件の届出があった。推定感染地は全て国外であった。

エ 四類感染症

E型肝炎：142件の届出があった。推定感染地は国内104件、国外6件、不明32件であった。

A型肝炎：21件の届出があった。推定感染地は国内11件、国外6件、不明4件であった。

エキノコックス：1件の届出があった。推定感染地は国外であった。

エムポックス：14件の届出があった。推定感染地は国内12件、国外2件であった。

コクシジオイデス症：2件の届出があった。推定感染地は全て国外であった。

チクングニア熱：5件の届出があった。推定感染地は全て国外であった。

つつが虫病：5件の届出があった。推定感染地は全て国内で、うち、東京都は2件であった。

デング熱：68件の届出があった。推定感染地は全て国外であった。

日本脳炎：1件の届出があった。推定感染地は国内であった。

マラリア：10件の届出があった。病型は熱帯熱マラリア8件、三日熱マラリア1件、病型不明マラリア1件であった。推定感染地は全て国外であった。

ライム病：1件の届出があった。推定感染地は国内であった。

レジオネラ症：261件の届出があった。病型は肺炎型249件、ポンティアック熱型9件、無症状病原体保有者3件であった。推定感染地は国内201件、国外3件、不明57件であった。

レプトスピラ症：5件の届出があった。推定感染地は国内4件、国外1件であった。

才 五類感染症（全数把握対象）

アメーバ赤痢：103件の届出があった。病型は腸管アメーバ症96件、腸管外アメーバ症4件、腸管及び腸管外アメーバ症3件であった。推定感染地は国内64件、国外10件、国内又は国外2件、不明27件であった。

ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）：42件の届出があった。病型はB型肝炎25件、C型肝炎6件、エンテロウイルス肝炎4件、サイトメガロウイルス（以下、CMV）肝炎3件、エプスタイン・バール ウィルス（以下、EBV）及びCMV肝炎2件、EBV肝炎、単純ヘルペスウイルス肝炎各1件であった。

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症：209件の届出があった。推定感染地は国内172件、国外4件、国内又はブラジル1件、不明32件であった。

急性弛緩性麻痺：5件の届出があった。推定感染地は国内4件、不明1件であった。

急性脳炎：54件の届出があった。推定感染地は国内47件、国外1件、不明6件であった。

クリプトスボリジウム症：14件の届出があった。推定感染地は国内11件、国外1件、不明2件であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病：11件の届出があった。病型は孤発性プリオン病・古典型クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）が9件（ほぼ確実6件、疑い3件）、遺伝性プリオン病・家族性CJDが2件（全てほぼ確実）であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症：246件の届出があった。血清群はA群149件（うちM1_{UK}株62件）、B群29件、C群4件、F群1件、G群62件、未実施1件であった。

後天性免疫不全症候群：289件の届出があった。AIDS患者62人、HIV感染者227人（指標疾患以外の有症候者18人、無症候性キャリア209人）であった。推定感染地は国内226件、国外10件、不明53件であった。推定感染経路は性的接触が254件（同性間190件、異性間31件、両性間10件、性別不明23件）、不明35件であった。

ジアルジア症：15件の届出があった。推定感染地は国内7件、国外5件、国内又はタイ又は中国1件、不明2件であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症：70件の届出があった。血清型はb型1件、f型3件、型別不能57件、検査未実施9件であった。ワクチン接種歴は4回4件、3回1件、1回1件、なし9件、不明55件であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症：10件の届出があった。推定感染地は国内6件、国外1件、不明3件であった。

侵襲性肺炎球菌感染症：281件の届出があった。血清型が判明したものは101件で、最も多い血清型は3型の27件であった。ワクチン接種歴は4回25件、3回7件、2回3件、1回15件、なし100件、不明131件であった。

水痘（入院例）：68件の届出があった。推定感染地は国内56件、不明12件であった。

梅毒：3,760件の届出があった。病型は早期顎症梅毒I期1,554件、早期顎症梅毒II期1,280件、晚期顎症梅毒34件、無症候887件、先天梅毒5件であった。性別は男性2,462人、女性1,298人であった。推定感染地は国内3,116件、国外44件、国内又は国外4件、不明596件であった。推定感染経路は性的接触が3,477件（異性間2,509件、同性間630件、両性間22件、性別不明316件）であった。

播種性クリプトコックス症：21件の届出があった。推定感染地は国内16件、不明5件であった。

破傷風：3件の届出があった。推定感染地は全て東京都であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症：7件の届出があった。推定感染地は国内4件、国外2件、不明1件であった。耐性遺伝子型はvanA2件、vanB4件、vanC1件であった。

百日咳：400件の届出があった。ワクチン接種歴は4回194件、3回14件、1回9件、なし17件、不明166件であった。

風しん：1件の届出があった。検査診断例であった。推定感染地は国内であった。

麻しん：10件の届出があった。検査診断例は8件、修飾麻しん例は2件であった。推定感染地は国内3件、国外6件、国内又はインド1件であった。

薬剤耐性アシネットバクター感染症：1件の届出があった。菌種はAcinetobacter baumanniiであった。

（2）五類感染症（定点把握対象）

ア 小児科・内科疾患

2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が五類感染症に移行され、予防行動が大きく変化した影響もあって、2023年は、五類感染症（定点把握対象）の小児科・内科疾患の多くが前年（2022年）に比べて増加したが、2024年は、その傾向が継続した疾患もある一方、COVID-19の流行以前の感染状況に近づいた疾患や、COVID-19流行時の予防行動強化の影響により感染が抑えられ、その結果、集団免疫が低下していた影響を受けたと考えられ、大規模に流行した疾患もあった。

伝染性紅斑は前年比26.04倍と大きく増加した。手足口病は、前々年（2022年）に2020年、2021年と比較して報告数が大きく増加しCOVID-19流行以前の例年並みの報告数に近づいた後、2023年には減少したものの、2024年は前年比8.15倍と大きく増加し、過去10年では最高の報告数となった。

咽頭結膜熱、ヘルパンギーナの報告数は、2023年は前々年（2022年）に比べ大きく増加し、それぞれ過去10年では最高の報告数となつたが、2024年は大きく減少し、過去10年の平均値に近づいた。

COVID-19の2024年の報告数は前年並みであったが、2023年の報告数は2023年の5月に定点把握対象となって以後の数値であり、それを考慮すれば前年より減少したと考えられる。

COVID-19と同様の感染経路と考えられるインフルエンザの報告数は、2023年は、前々年（2022年）に比べ大きく増加し、過去10年で最高の報告数となつたものの、2024年は前年比0.86倍と減少した。2023年の流行状況が、COVID-19流行以前の傾向と異なり、2023/24シーズンの流行が早く始まったのに対し、2024/25シーズンの流行開始が、COVID-19流行以前の状況に近づいた影響もあったと考えられる。

【前年比減少疾患】

インフルエンザ：2024年の報告数は143,719人、定点当たり345.47人であった。前年比（定点当たり）は0.86であった。

R Sウイルス感染症：2024年の報告数は6,485人、定点当たり24.69人であった。前年比（定点当たり）は0.92であった。

咽頭結膜熱：2024 年の報告数は 4,310 人、定点当たり 16.44 人であった。前年比（定点当たり）は 0.30 であった。

感染性胃腸炎：2024 年の報告数は 61,265 人、定点当たり 233.59 人であった。前年比（定点当たり）は 0.82 であった。

ヘルパンギーナ：2024 年の報告数は 7,063 人、定点当たり 26.91 人であった。前年比（定点当たり）は 0.44 であった。

不明発しん症：2024 年の報告数は 507 人、定点当たり 1.93 人であった。前年比（定点当たり）は 0.78 であった。

【前年並みであった疾患】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）：2024 年の報告数は 91,965 人、定点当たり 221.34 人であった。前年比（定点当たり）は 1.02 であった。（*2023 年の報告数は 5 月に定点把握対象となって以後の数値であり、それを考慮すれば、前年より減少したと考えられる。）

突発性発しん：2024 年の報告数は 3,571 人、定点当たり 13.61 人であった。前年比（定点当たり）は 1.03 であった。

川崎病：2024 年の報告数は 176 人、定点当たり 0.67 人であった。前年比（定点当たり）は 1.05 であった。

【前年比増加疾患】

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎：2024 年の報告数は 35,588 人、定点当たり 135.59 人であった。前年比（定点当たり）は 1.41 であった。

水痘：2024 年の報告数は 2,706 人、定点当たり 10.30 人であった。前年比（定点当たり）は 1.61 であった。

手足口病：2024 年の報告数は 59,022 人、定点当たり 224.86 人であった。前年比（定点当たり）は 8.15 であった。

伝染性紅斑：2024 年の報告数は 9,187 人、定点当たり 34.90 人であった。前年比（定点当たり）は 26.04 であった。

流行性耳下腺炎：2024 年の報告数は 746 人、定点当たり 2.84 人であった。前年比（定点当たり）は 1.25 であった。

イ 眼科疾患

急性出血性角結膜炎：2024 年の報告数は 14 人、定点当たり 0.36 人、前年比（定点当たり）は 0.65 であった。

流行性角結膜炎：2024 年の報告数は 909 人、定点当たり 23.37 人、前年比（定点当たり）は 0.91 であった。

ウ 基幹定点における週報告疾患

細菌性髄膜炎：2024 年の報告数は 39 人、定点当たり 1.56 人であった。前年比（定点当たり）は 1.08 であった。

無菌性髄膜炎：2024 年の報告数は 61 人、定点当たり 2.44 人であった。前年比（定点当たり）は 1.61 であった。

マイコプラズマ肺炎：2024 年の報告数は 1,855 人、定点当たり 74.20 人であった。前年比（定点当たり）は 37.10 であった。

クラミジア肺炎（オウム病を除く）：2024 年の報告数は 21 人、定点当たり 0.84 人であった。前年比（定点当たり）は 2.33 であった。

感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：2024 年の報告数は 15 人、定点当たり 0.60 人であった。前年比（定点当たり）は 3.00 であった。

インフルエンザ入院：2024 年の報告数は 1,335 人、定点当たり 53.40 人であった。前年比（定点当たり）は 1.52 であった。

新型コロナウイルス感染症入院：2024 年の報告数は 6,194 人、定点当たり 247.76 人であった。前年比（定点当たり）は 5.89 であった（2023 年 39 週より対象疾患となったため、2024 年は前年に比べて著しい増加となった）。

エ 基幹定点における月報告疾患

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：2024 年の報告数は 730 人、定点当たり 29.20 人であった。前年比（定点当たり）は 1.05 であった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：2024 年の報告数は 58 人、定点当たり 2.32 人であった。前年比（定点当たり）は 0.82 であった。

薬剤耐性緑膿菌感染症：2024 年の報告数は 8 人、定点当たり 0.32 人であった。前年比（定点当たり）は 1.00 であった。

オ 性感染症

2024 年に前年より増加した性感染症は膣トリコモナス症で、減少した性感染症は性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症であった。

性器クラミジア感染症：2024 年の報告数は 2,574 人（定点当たり 46.86 人）で、前年比は 0.96 であった。男性の報告数は 1,487 人（前年比 0.93）、女性は 1,087 人（前年比 1.02）であった。

性器ヘルペスウイルス感染症：2024 年の報告数は 485 人（定点当たり 8.83 人）で、前年比は 0.81 であった。男性の報告数は 298 人（前年比 0.79）、女性は 187 人（前年比 0.83）であった。

尖圭コンジローマ：2024 年の報告数は 591 人（定点当たり 10.76 人）で、前年比は 0.56 であった。男性の報告数は 398 人（前年比 0.54）、女性は 193 人（前年比 0.61）であった。

淋菌感染症：2024 年の報告数は 894 人（定点当たり 16.28 人）で、前年比は 0.83 であった。男性の報告数は 647 人（前年比 0.84）、女性は 247 人（前年比 0.82）であった。

膣トリコモナス症：2024 年の報告数は 89 人（定点当たり 1.62 人）で、前年比は 1.12 であった。男性の報告数は 3 人（前年比 0.56）、女性は 86 人（前年比 1.16）であった。

（3）疑似症

1 件の報告があった。

表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(一～四類、五類全数)

		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	ペースト	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-
	結核 ^{*15}							
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 ^{*9}	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1) ^{*1}	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*6}	-	-	-	-	-	-	-
三類	コレラ	-	2	-	-	1	2	2
	細菌性赤痢	109	27	11	2	2	9	25
	腸管出血性大腸菌感染症	466	388	332	329	356	442	471
	腸チフス	11	3	2	1	6	8	7
	パラチフス	10	4	1	-	4	3	4
	E型肝炎	101	128	118	113	131	166	142
	ウェストナイル熱	-	-	-	-	-	-	-
四類	A型肝炎	421	143	24	14	6	13	21
	エキノコックス症	-	-	-	1	3	-	1
	エムポックス ^{*14}	-	-	-	-	5	168	14
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-
	オウム病	2	3	1	-	4	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	-	-	-
五類	キヤサヌル森林病	-	-	-	-	-	-	-
	Q熱	2	-	-	1	-	-	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	-	3	-	-	-	2
	ジカウイルス感染症 ^{*10}	-	-	-	-	-	-	-
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*4}	-	1	-	-	1	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
未定	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱 ^{*2}	-	11	-	-	1	1	5
	つつが虫病	12	12	21	12	14	10	5
	デング熱	61	130	13	-	26	44	68
	東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
海外	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	-	4	-	1	-
	日本脳炎	-	-	-	-	-	-	1
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	-	-	-	-
輸入	ブルセラ症	-	1	-	-	-	1	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-
	ボツリヌス症	1	-	1	1	1	-	-

		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
四 類	マラリア	14	22	6	11	9	14	10
	野兎病	-	-	-	-	-	-	-
	ライム病	1	1	1	-	2	1	1
	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	-	-	-	-
	類鼻疽	1	-	1	-	-	-	-
	レジオネラ症	164	187	148	163	120	168	261
	レプトスピラ症	5	9	2	3	5	5	5
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	-	-	-
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	163	155	116	97	117	88	103
	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	69	98	60	49	35	43	42
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ^{*7}	233	237	171	210	208	228	209
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く) ^{*12}	8	7	4	2	4	6	5
	急性脳炎	65	81	31	26	28	45	54
	クリプトスピロジウム症	3	4	-	-	2	1	14
	クロイツフェルト・ヤコブ病	25	19	17	12	18	20	11
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	87	126	101	85	107	141	246
	後天性免疫不全症候群	422	406	383	357	288	302	289
	ジアルジア症	19	12	8	8	12	12	15
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 ^{*5}	40	85	23	20	19	53	70
	侵襲性髄膜炎菌感染症 ^{*5}	6	5	2	-	1	4	10
	侵襲性肺炎球菌感染症 ^{*5}	401	382	163	128	141	218	281
	水痘(入院例) ^{*7}	61	80	50	32	49	59	68
	先天性風しん症候群	-	2	-	-	-	-	-
	梅毒	1,775	1,712	1,579	2,451	3,677	3,701	3,760
	播種性クリプトコックス症 ^{*7}	18	12	18	14	15	17	21
	破傷風	8	8	8	4	6	7	3
	パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-
	パンコマイシン耐性腸球菌感染症	7	8	8	12	8	9	7
	百日咳 ^{*11}	2,434	1,340	262	69	55	116	400
	風しん ^{*3}	947	860	29	2	4	4	1
	麻しん ^{*3}	23	124	2	-	-	10	10
	薬剤耐性アシнетバクター感染症 ^{*8}	4	2	-	1	2	3	1
	新型コロナウイルス感染症 ^{*13}			68,506	295,833	3,369,318	*13	

*1 2008年5月12日より追加指定。

*2 2011年2月1日より追加指定。

*3 2008年1月1日より五類(定点把握対象)から五類(全数把握対象)に変更。

*4 2013年3月4日より追加指定。

*5 2013年4月1日より髄膜炎菌性髄膜炎に替わり指定。

*6 2013年4月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更。

*7 2014年9月19日より追加指定、2023年5月26日から法令上の名称変更。(変更前はカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症)

*8 2011年2月1日より五類(定点把握対象)に追加指定、2014年9月19日に五類(全数把握対象)に変更。

*9 2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更。

病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。

*10 2016年2月15日より追加指定。

*11 2018年1月1日より五類(定点把握対象)から五類(全数把握対象)に変更。

*12 2018年5月1日より追加指定。

*13 2020年2月1日より指定感染症に追加指定、2021年2月13日より新型インフルエンザ等感染症に変更、2023年5月8日から五類(定点把握対象)に変更。

*14 2023年5月26日から法令上の名称変更。(変更前はサル痘)

*15 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

新型インフルエンザ等感染症

表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患畜報告数(全数動物)

		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
エボラ出血熱のサル	-	-	-	-	-	-	-	-
マールブルグ病のサル	-	-	-	-	-	-	-	-
ペストのプレーリードッグ	-	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のイタチアナグマ	-	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のタヌキ	-	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のハクビシン	-	-	-	-	-	-	-	-
結核のサル	-	-	-	-	-	-	-	-
中東呼吸器症候群のヒトコブラクダ ^{*1}	-	-	-	-	-	-	-	-

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
鳥インフルエンザ(H5N1又はH7N9)の鳥類	-	-	-	-	-	3	-
細菌性赤痢のサル	-	-	-	-	-	-	-
ウエストナイル熱の鳥類	-	-	-	-	-	-	-
エキノコックス症の犬	-	-	-	-	-	-	-

*1 2014年7月26日より追加指定

表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(インフルエンザ/COVID-19 定点・小児科定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
小児科定点数	264	264	264	264	264	264	264	264	264	264
インフルエンザ/COVID-19定点数	419	419	419	419	419	419	419	419	419	419
インフルエンザ	59,435 145.11	125,207 302.31	129,813 314.14	137,262 331.57	148,861 361.04	33,424 81.86	43 0.11	3,318 8.25	166,792 402.93	143,719 345.47
新型コロナウイルス 感染症 ^{*1}									89,884 217.41	91,965 221.34
RSウイルス感染症 ^{*2}	7,197 27.82	7,021 27.06	8,838 34.47	7,830 30.49	8,682 34.00	570 2.20	16,189 62.94	7,564 29.40	7,000 26.90	6,485 24.69
咽頭結膜熱	5,385 20.77	5,026 19.38	7,322 28.21	4,671 17.96	4,405 17.04	1,506 5.84	1,596 6.19	1,420 5.52	14,418 55.36	4,310 16.44
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	35,039 134.57	31,211 120.13	30,664 117.71	32,120 123.25	29,223 112.95	13,314 51.33	4,014 15.58	2,094 8.14	25,052 96.27	35,588 135.59
感染性胃腸炎	91,052 350.13	110,239 423.72	84,981 326.63	79,282 304.52	77,421 299.71	40,036 154.79	45,400 176.04	63,709 248.04	73,680 283.49	61,265 233.59
水 痘	6,765 26.04	5,541 21.34	5,135 19.73	4,515 17.35	5,739 22.25	2,591 10.05	1,287 4.99	990 3.85	1,666 6.41	2,706 10.30
手足口病	32,599 126.39	6,993 26.97	33,056 129.10	8,452 32.65	34,136 132.46	1,020 3.98	2,542 9.82	16,911 65.92	7,183 27.58	59,022 224.86
伝染性紅斑	10,174 39.08	2,485 9.57	1,311 5.04	10,733 41.36	6,071 23.60	465 1.80	265 1.03	174 0.68	349 1.34	9,187 34.90
突発性発しん	7,816 30.10	7,231 27.87	7,056 27.13	6,771 26.05	5,872 22.77	5,610 21.76	5,291 20.53	3,889 15.13	3,447 13.26	3,571 13.61
百日咳 ^{*3}	300 1.15	181 0.70	113 0.44							
ヘルパンギーナ	7,200 27.91	13,094 50.69	6,812 26.54	8,188 32.01	10,341 40.26	674 2.61	2,595 10.03	4,423 17.23	16,077 61.77	7,063 26.91
流行性耳下腺炎	4,883 18.83	8,526 32.88	2,903 11.16	1,246 4.79	994 3.85	688 2.67	651 2.53	487 1.89	593 2.28	746 2.84
不明発しん症 ^{*4}	1,312 5.06	983 3.79	1,101 4.25	1,073 4.14	817 3.17	492 1.91	443 1.72	360 1.40	645 2.48	507 1.93
川崎病 ^{*4}	199 0.77	208 0.80	205 0.79	214 0.82	150 0.58	131 0.51	168 0.65	93 0.36	166 0.64	176 0.67

*1 2023年19週より実施

*2 2003年45週より実施

*3 2018年1月1日から全数把握対象疾患

*4 東京都独自疾患

表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(眼科定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
定点数	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39
急性出血性結膜炎	14	11	12	14	11	11	2	3	21	14
	0.36	0.28	0.31	0.37	0.29	0.29	0.05	0.08	0.55	0.36
流行性角結膜炎	1,256	1,201	1,219	1,060	649	363	284	311	996	909
	32.49	31.03	31.48	28.22	17.35	9.62	7.51	8.21	25.80	23.37

表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点週報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
定点数	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
細菌性髄膜炎	38	33	41	32	39	25	24	17	36	39
	1.52	1.32	1.64	1.28	1.57	1.00	0.96	0.68	1.44	1.56
無菌性髄膜炎	73	77	39	33	48	32	25	18	38	61
	2.92	3.08	1.56	1.32	1.93	1.28	1.01	0.72	1.52	2.44
マイコプラズマ肺炎	770	1,047	237	230	349	169	19	7	50	1,855
	30.85	41.88	9.48	9.20	14.02	6.79	0.76	0.28	2.00	74.20
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	59	50	46	40	39	25	17	22	9	21
	2.36	2.00	1.84	1.60	1.56	1.01	0.68	0.88	0.36	0.84
感染性胃腸炎 *1 (ロタウイルスによる)	99	108	235	110	188	8	4	4	5	15
	3.96	4.32	9.40	4.40	7.53	0.32	0.16	0.16	0.20	0.60
インフルエンザ入院 *2	486	649	902	1,113	1,511	357	2	26	878	1,335
	19.44	25.96	36.08	44.52	60.49	14.28	0.08	1.04	35.14	53.40
新型コロナウイルス 感染症入院 *3									1,052	6,194
									42.08	247.76

*1 2013年42週より実施

*2 2011年36週より実施

*3 2023年39週より実施

表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点月報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
定点数	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	877 35.21	867 34.68	881 35.24	804 32.16	894 35.76	823 32.92	814 32.56	731 29.24	693 27.72	730 29.20
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	158 6.36	138 5.52	105 4.20	102 4.08	96 3.84	22 0.88	42 1.68	40 1.60	71 2.84	58 2.32
薬剤耐性緑膿菌感染症	28 1.12	22 0.88	3 0.12	9 0.36	8 0.32	7 0.28	5 0.20	8 0.32	8 0.32	8 0.32

表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(性感染症定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
定点数	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
性器クラミジア感染症	2,678 49.09	2,712 49.39	2,294 41.77	2,551 46.46	2,767 50.93	2,116 39.31	2,225 40.69	2,261 41.78	2,660 48.59	2,574 46.86
性器ヘルペスウイルス感染症	1,329 24.36	1,400 25.49	1,279 23.29	1,037 18.88	977 17.98	663 12.31	718 13.14	679 12.54	598 10.94	485 8.83
尖圭コンジローマ	1,237 22.68	1,321 24.06	1,021 18.58	1,051 19.14	1,564 28.81	956 17.72	1,056 19.31	1,157 21.42	1,050 19.21	591 10.76
淋菌感染症	1,394 25.55	1,528 27.82	1,109 20.20	1,104 20.11	1,185 21.81	876 16.25	1,018 18.62	1,041 19.26	1,070 19.56	894 16.28
膣トリコモナス症 *	151 2.77	117 2.13	110 2.00	128 2.33	118 2.17	100 1.86	95 1.74	103 1.90	79 1.44	89 1.62
梅毒様疾患 *	221 4.05									

* 東京都独自疾患、梅毒様疾患は2015年末で終了

3 各疾患の動向

(1) 一～四類、五類感染症（全数把握対象）等

ア 一類感染症

一類感染症（エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱）は届出がなかった。

イ 二類感染症

① 結核

結核の発生動向は別途、「東京都における結核の概況（2024年／令和6年）」で報告する。

② その他の二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）は届出がなかった。

ウ 三類感染症

① コレラ

2024年は2件の届出があった。届出の内訳は、性別では全て男性で、年齢階級別では50～59歳1人、60～69歳1人であった。いずれも血清型はO1、抗原型は小川型、生物型はエルトール型、推定感染地はインドであった。推定感染経路は経口感染1件、不明1件であった。

② 細菌性赤痢

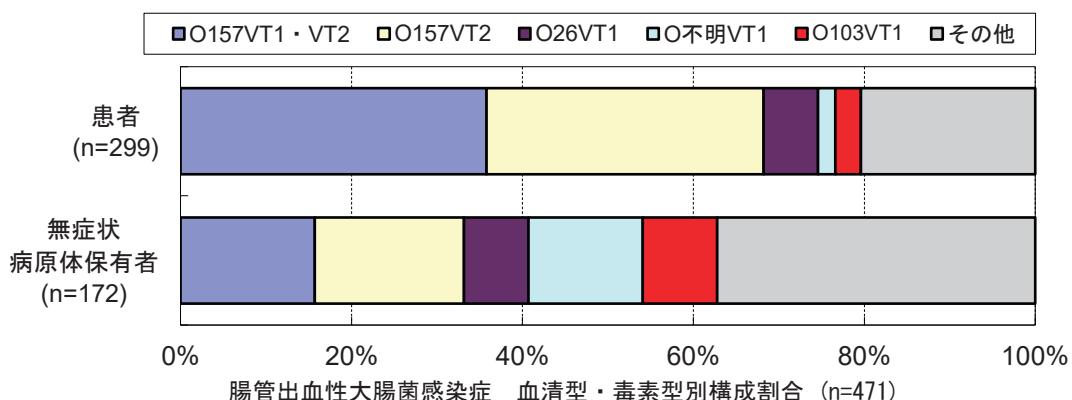
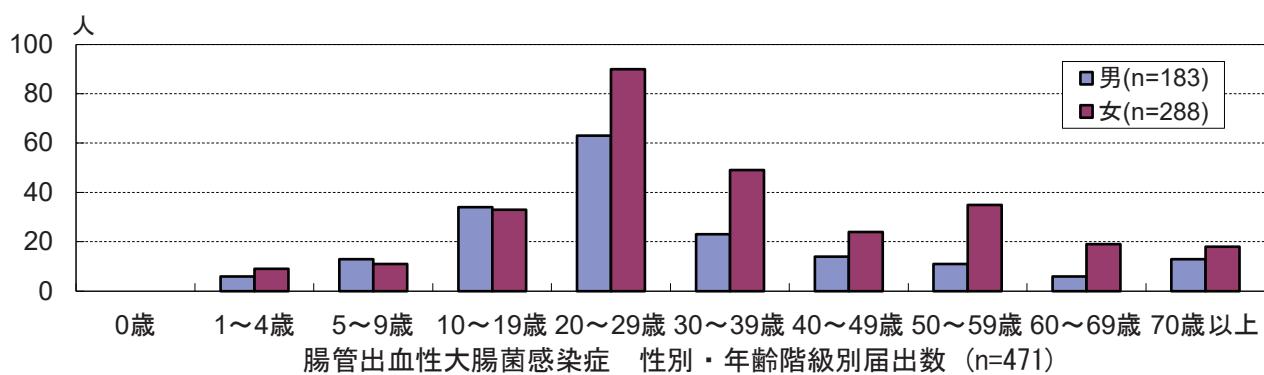
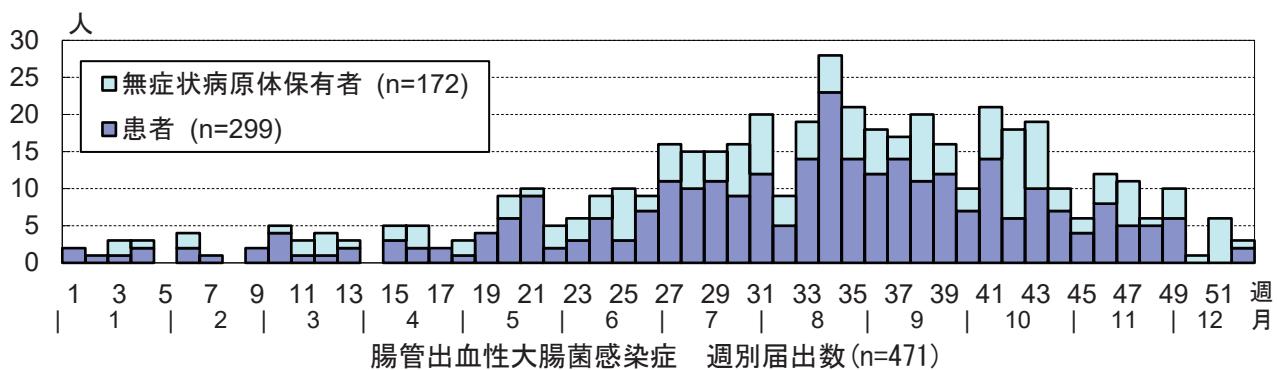
2024年は25件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性11人、女性14人で、年齢階級別では10歳未満1人、10～19歳1人、20～29歳7人、30～39歳5人、40～49歳4人、50～59歳3人、60～69歳3人、70～79歳1人であった。菌種は*S.sonnei* 19件、*S.flexneri* 5件、*S.boydii* 1件であった。推定感染地は国内9件、国外14件（インド、インドネシア各3件、米国2件、オランダ、ネパール、バングラデシュ、南アフリカ、ブラジル又はペルー、南アフリカ又はナミビア又はジンバブエ又はザンビア各1件）、不明2件であった。推定感染経路は経口感染15件、接触感染1件、経口感染又は接触感染1件、同性間性的接触1件、不明7件であった。

③ 腸管出血性大腸菌感染症

2024年は471件の届出があった。症状別では患者299人、無症状病原体保有者172人であった。届出の内訳は、性別では男性183人、女性288人で、年齢階級別では10歳未満39人（うち5歳未満15人）、10～19歳67人、20～29歳153人、30～39歳72人、40～49歳38人、50～59歳46人、60～69歳25人、70～79歳21人、80歳～89歳8人、90歳以上2人であった。血清型・毒素型はO157 VT1・VT2が134件（患者107件、無症状病原体保有者27件）で最多であった。

推定感染地は国内335件、国外42件（韓国31件、インドネシア3件、インド、タイ、台湾、中国、ネパール、フィリピン、フランス、ベトナム各1件）、国内又は韓国1件、不明93件であった。

推定感染経路は経口感染207件、接触感染30件、経口感染又は接触感染3件、不明231件であった。溶血性尿毒症症候群（HUS）と判明しているものは11人おり、10歳未満5人（うち5歳未満3人）、10～19歳3人、20～29歳2人、60～69歳1人であった。



腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別届出数 (n=474)

血清型	毒素型	人数	血清型	毒素型	人数
O8	VT2	2	O143	VT1	1
O15	VT1	1	O145	VT2	6
O18	VT2	2		VT1	1
O26	VT1	33	O146	VT2	1
	VT2	6		VT1・VT2	2
O74	VT1	1	O148	VT2	3
O78	VT1・VT2	1	O152	VT1	2
O91	VT1	3		VT1	7
	VT1・VT2	2	O157	VT2	130
O103	VT1	26		VT1・VT2	134
	不明	3		不明	10
O111	VT1	6	O159	VT2	2
	VT1・VT2	10	O165	VT2	1
O115	VT1	2	O168	VT2	1
	VT1・VT2	1		VT1	29
O121	VT2	4		VT2	21
O126	VT1	1	O 不明	VT1・VT2	14
O128	VT1・VT2	3		不明	2

3名の感染者で複数の血清型が検出されたため、本表の総数は検出された血清型の延べ数とする。

溶血性尿毒症症候群 (HUS) 発症例 (n=11)

受理週	性別	年齢階級	血清型・毒素型	推定感染地	推定感染経路等
26	男	10歳未満	血清型不明 VT2	国内	経口感染 (ささみフライ)
27	女	10歳未満	血清型・毒素型不明	国内	経口感染 (ささみフライ)
27	女	10~19歳	O157 VT2	国内	不明
28	女	10歳未満	O157 VT2	国内	経口感染 (焼肉)
37	女	10歳未満	O157 VT1VT2	国内	不明
39	女	10歳未満	O157 VT1VT2	国内	不明
40	女	20~29歳	O157 VT2	国内	不明
41	女	20~29歳	O157 VT2	国外 (韓国)	経口感染 (ユッケ)
43	男	10~19歳	O157 毒素型不明	国内	経口感染 (鶏肉)
44	女	60~69歳	O157 VT1VT2	国内	不明
47	女	10~19歳	血清型・毒素型不明	国内	不明

④ 腸チフス

2024年は7件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性6人、女性1人で、年齢階級別では10歳未満2人（うち5歳未満1人）、10~19歳1人、30~39歳2人、50~59歳1人、60~69歳1人であった。ファージ型はUVS4型2件、A型、D1型、DVS型、E型各1件、未実施1件であった。推定感染地は全て国外（インド4件、インドネシア2件、パキスタン1件）であった。推定感染経路は経口感染3件、接触感染1件、不明3件であった。

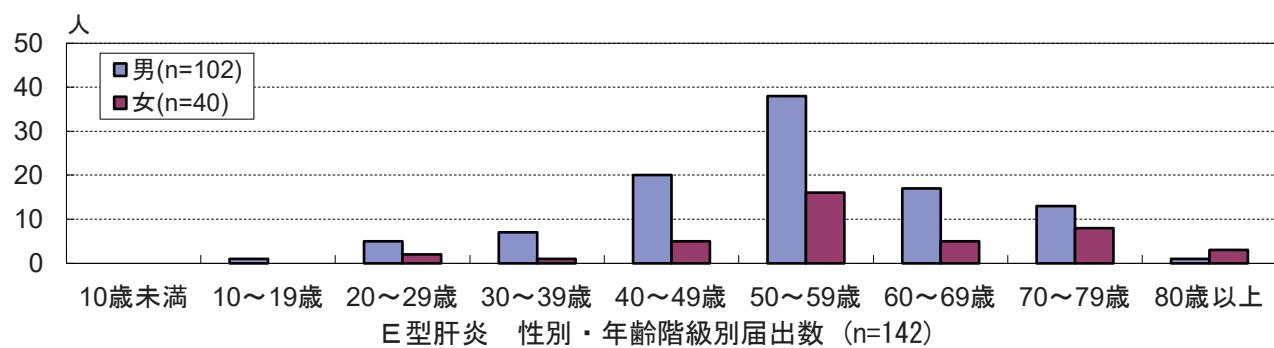
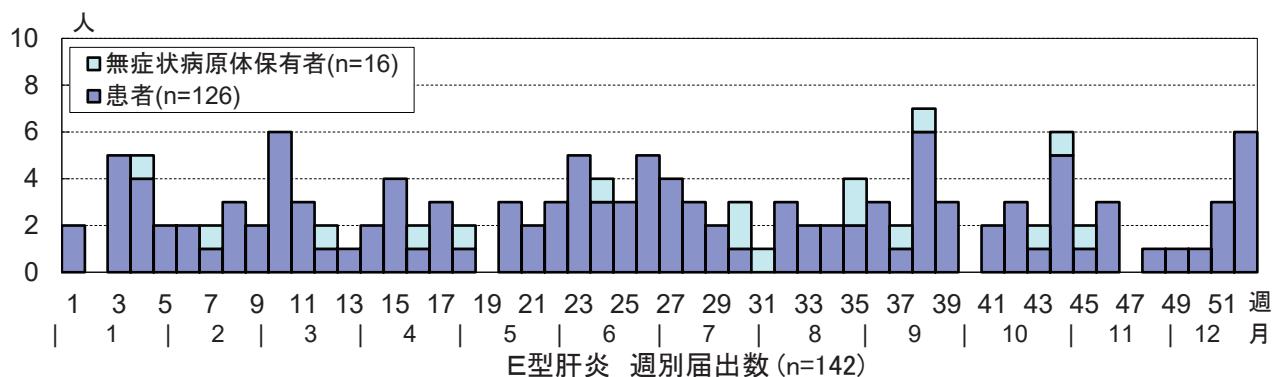
⑤ パラチフス

2024年は4件の届出があった。届出の内訳は、性別では全て男性で、年齢階級別では、10～19歳1人、20～29歳1人、30～39歳1人、60～69歳1人であった。ファージ型はUT (Untypable) 4件であった。推定感染地は全て国外（インド3件、パキスタン1件）であった。推定感染経路は経口感染3件、不明1件であった。

工 四類感染症

① E型肝炎

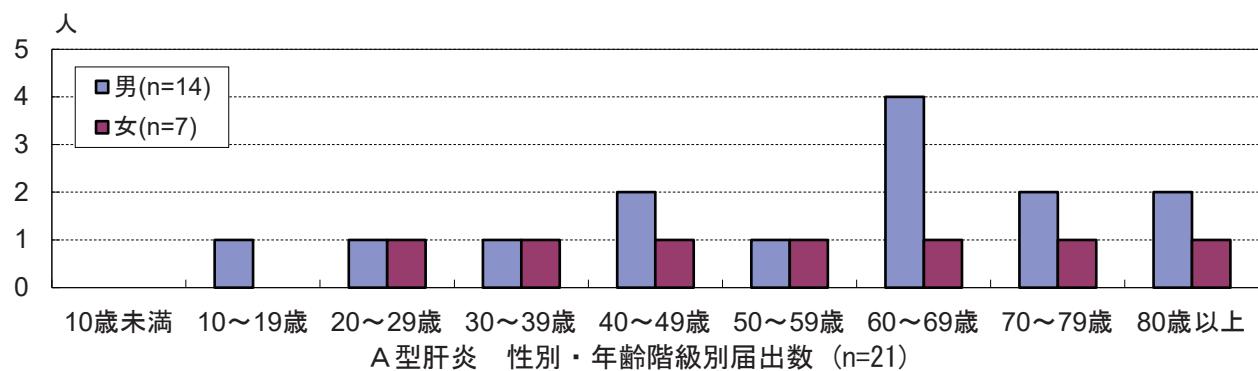
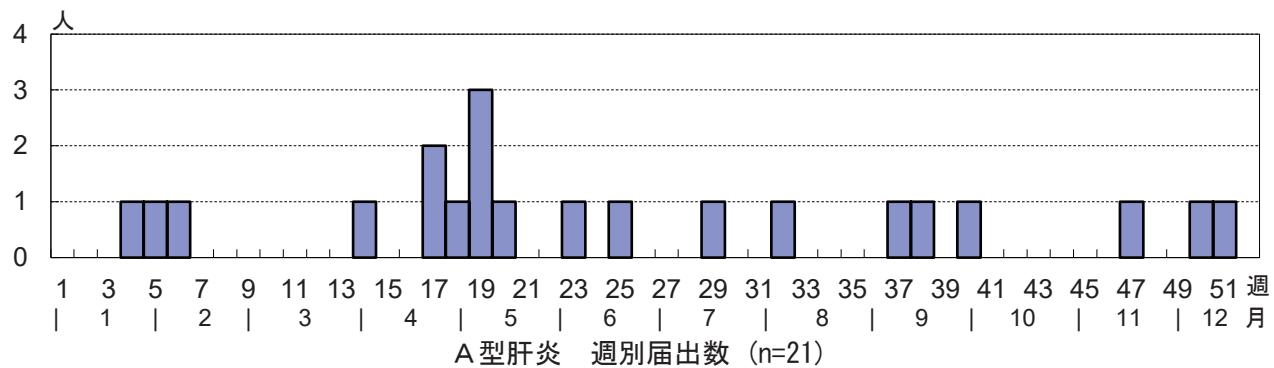
2024年は142件の届出があった。診断類型は患者126人、無症状病原体保有者16人であった。届出の内訳は、性別では男性102人、女性40人、年齢階級別では10～19歳1人、20～29歳7人、30～39歳8人、40～49歳25人、50～59歳54人、60～69歳22人、70～79歳21人、80～89歳4人であった。推定感染地は国内104件、国外6件（韓国、米国、ドイツ、フランス又はミャンマー、台湾又は中国、台湾又はベトナム又はインド各1件）、不明32件であった。推定感染経路は経口感染80件、不明62件であった。経口感染80件の推定原因食品は、肉類43件、魚介類1件、その他の食品1件、不明35件であった。



② A型肝炎

2024年は21件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性14人、女性7人で、年齢階級別では10～19歳1人、20～29歳2人、30～39歳2人、40～49歳3人、50～59歳2人、60～69歳5人、70～79歳3人、80～89歳3人であった。

推定感染地は国内11件、国外6件（インド、エジプト、キルギス、ザンビア、バングラデシュ、南アフリカ各1件）、不明4件であった。推定感染経路は経口感染14件、経口感染又は異性間性的接触1件、不明6件であった。経口感染15件の推定原因食品は魚介類7件、生野菜2件、インドでの飲水・食事1件、不明5件であった。

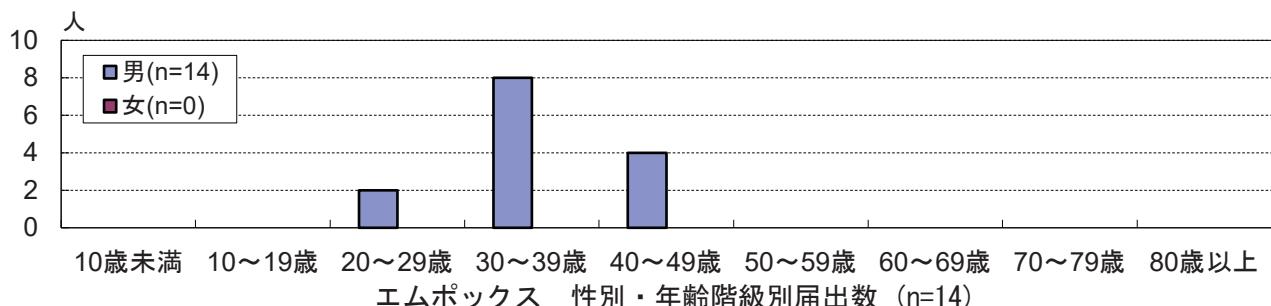
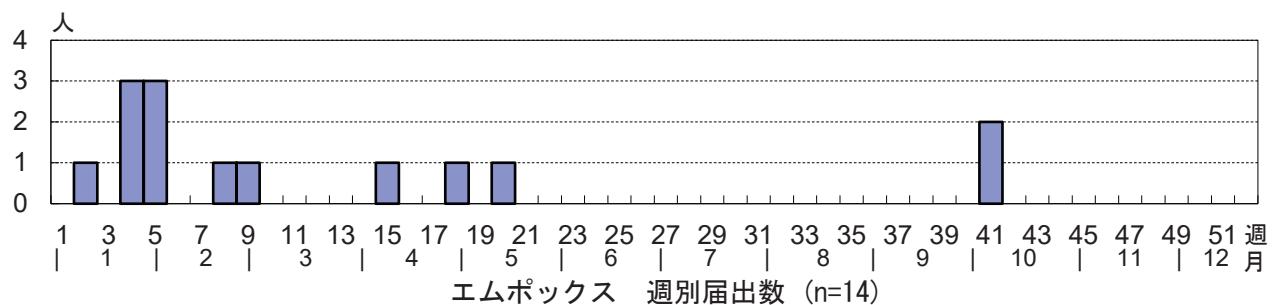


③ エキノコックス

2024 年は 1 件の届出があった。性別は男性で、年齢階級では 20~29 歳であった。推定感染地は国外（ミャンマー）であった。推定感染経路は経口感染（井戸水の摂取）であった。

④ エムポックス

2024 年は 14 件の届出があった。届出の内訳は、性別では全て男性で、年齢階級では 20~29 歳 2 人、30~39 歳 8 人、40~49 歳 4 人であった。推定感染地は国内 12 件、国外 2 件（米国、タイ各 1 件）であった。推定感染経路は全て接触感染であった。遺伝的系統群について判明した 2 件は、全てクレードIIであった。



⑤ コクシジオイデス症

2024年は2件の届出があった。届出の内訳は、性別では全て男性で、年齢階級別では50～59歳1人、60～69歳1人であった。推定感染地は全て国外（米国）であった。推定感染経路は全て塵埃感染であった。

⑥ チケンギニア熱

2024年は5件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性3人、女性2人であった。年齢階級別では30～39歳3人、40～49歳1人、50～59歳1人であった。推定感染地は全て国外（インド2件、インドネシア、バングラデシュ、フィリピン各1件）であった。推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染4件、不明1件であった。

⑦ つつが虫病

2024年は5件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性4人、女性1人であった。年齢階級別では20～29歳1人、30～39歳1人、50～59歳1人、70～79歳1人、80～89歳1人であった。推定感染地は全て国内で、東京都2件（多摩地区、島しょ地区各1件）、栃木県、千葉県又は埼玉県、千葉県又は神奈川県各1件であった。推定感染経路は全て動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

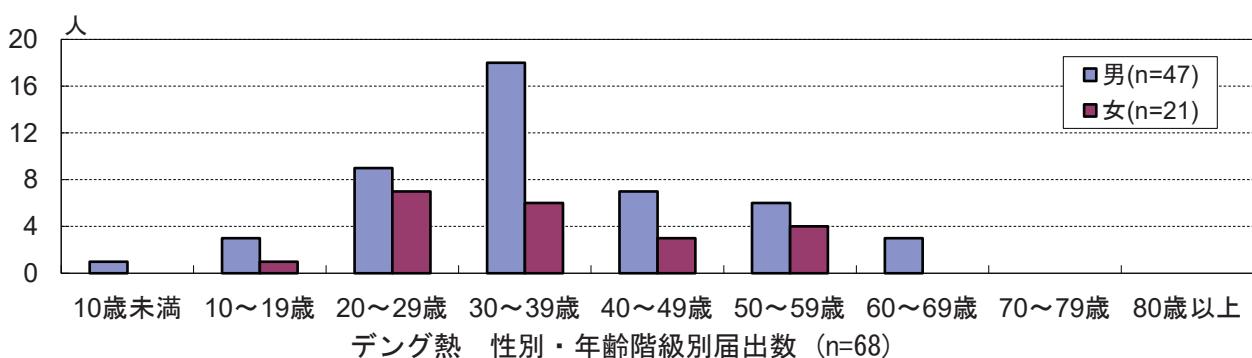
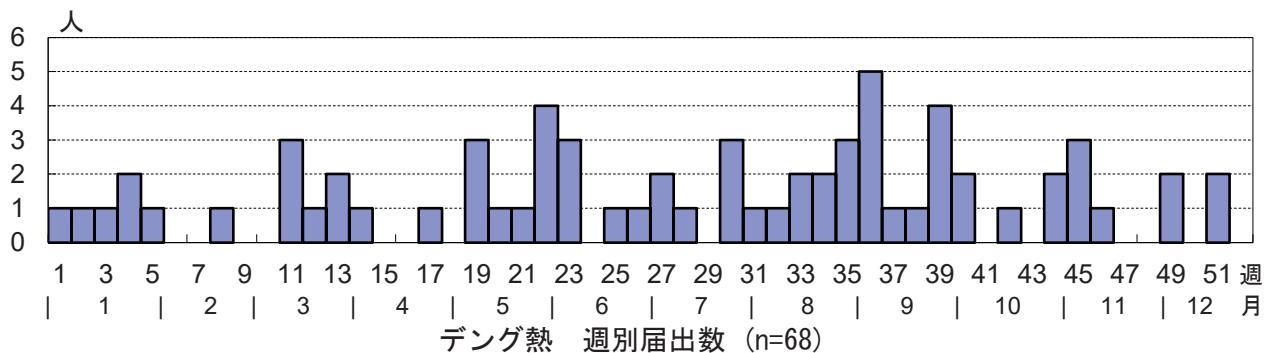
つつが虫病届出例（n=5）

受理週	性別	年齢階級	推定感染地	媒介動物との接触状況
45	女性	70～79歳	栃木県	草むしり
45	男性	20～29歳	東京都（島しょ）	山で作業
50	男性	80～89歳	東京都（多摩）	農作業
51	男性	50～59歳	千葉県又は埼玉県	草刈り
51	男性	30～39歳	千葉県又は神奈川県	山で作業

⑧ デング熱

2024年は68件の届出があった。届出の内訳は、病型ではデング熱66件、デング出血熱2件であった。性別では男性47人、女性21人、年齢階級別では10歳未満1人（うち5歳未満なし）、10～19歳4人、20～29歳16人、30～39歳24人、40～49歳10人、50～59歳10人、60～69歳3人であった。血清型は47件報告されており、その内訳は1型8件、2型24件、3型11件、4型4件であった。

推定感染地は全て国外（インドネシア22件、インド10件、タイ9件、フィリピン8件、スリランカ、ネパール、ラオス各2件、アルゼンチン、カンボジア、シンガポール、パラグアイ、バングラデシュ、ベトナム、メキシコ、モーリシャス、東ティモール各1件、インドネシア又は中国1件、ブラジル又はアルゼンチン1件、マレーシア又はシンガポール1件、台湾又はタイ又はカンボジア1件）であった。推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染62件、不明6件であった。



⑨ 日本脳炎

2024 年は 1 件の届出があった。性別は男性で、年齢階級は 70～79 歳であった。推定感染地は国内(不明) で、推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

⑩ マラリア

2024 年は 10 件の届出があった。届出の内訳は、病型では、熱帯熱マラリア 8 件、三日熱マラリア 1 件、病型不明マラリア 1 件であった。性別では男性 6 人、女性 4 人、年齢階級別では 30～39 歳 2 人、40～49 歳 3 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 3 人であった。

病型別の推定感染地は、熱帯熱マラリアではインド、カメルーン、シエラレオネ、セネガル、タンザニア、パプアニューギニア、リベリア、ルワンダ各 1 件、三日熱マラリアではソロモン諸島、病型不明では韓国であった。推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染 9 件、不明 1 件であった。

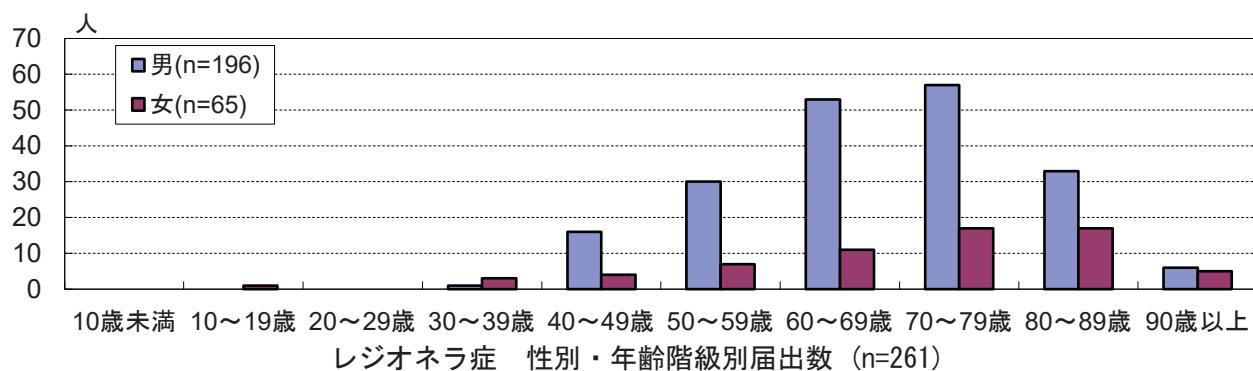
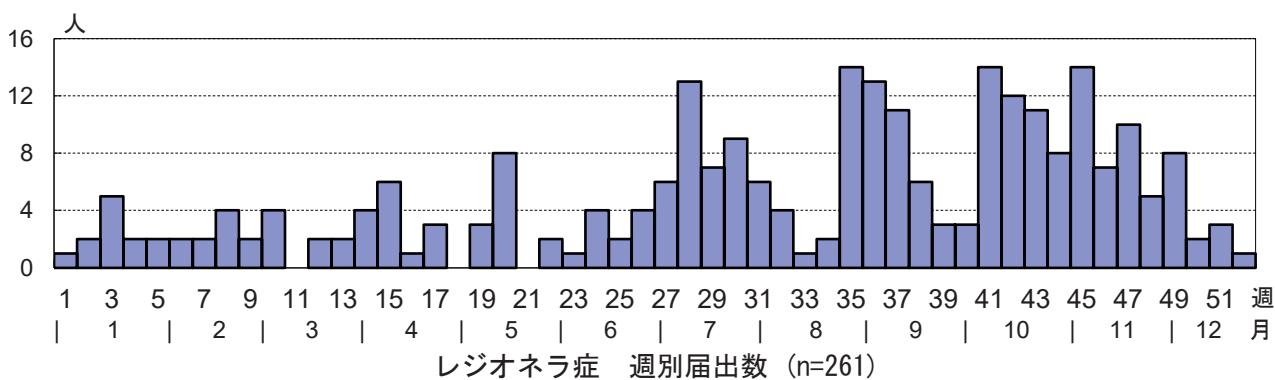
⑪ ライム病

2024 年は 1 件の届出があった。性別は男性で、年齢階級別は 50～59 歳であった。推定感染地は国内(北海道)、推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

⑫ レジオネラ症

2024 年は 261 件の届出があった。届出の内訳は、病型では肺炎型 249 件、ポンティアック熱型 9 件、無症状病原体保有者 3 件、死亡例が 1 人 (80～89 歳) 報告された。性別では男性 196 人、女性 65 人で、年齢階級別では 10～19 歳 1 人、30～39 歳 4 人、40～49 歳 20 人、50～59 歳 37 人、60～69 歳 64 人、70～79 歳 74 人、80～89 歳 50 人、90 歳以上 11 人であった。

推定感染地は国内 201 件、国外 3 件 (タイ、ベトナム、中国各 1 件)、不明 57 件であった。推定感染経路は、水系感染 73 件、塵埃感染 9 件、水系感染又は塵埃感染 2 件、その他 2 件、不明 175 件であった。水系感染のうち、公共浴場施設 (温泉を含む) での感染と推定されたのは 43 件であった。



⑬ レプトスピラ症

2024年は5件の届出があった。届出の内訳は、性別では全て男性で、年齢階級では30~39歳1人、50~59歳3人、60~69歳1人であった。推定感染地は国内4件、国外（タイ）1件であった。

レプトスピラ症届出例 (n=5)

受理週	性別	年齢階級	推定感染地	推定感染経路
23	男	50~59歳	東京都	仕事場（牛舎）にネズミ
32	男	60~69歳	タイ	水系感染（川、露天風呂）
32	男	50~59歳	東京都	ネズミとの接触
39	男	50~59歳	群馬県	ネズミとの接触
40	男	30~39歳	沖縄県	水系感染（湖沼）

⑭ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キヤサヌル森林病、Q熱、狂犬病、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く）、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兎病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱

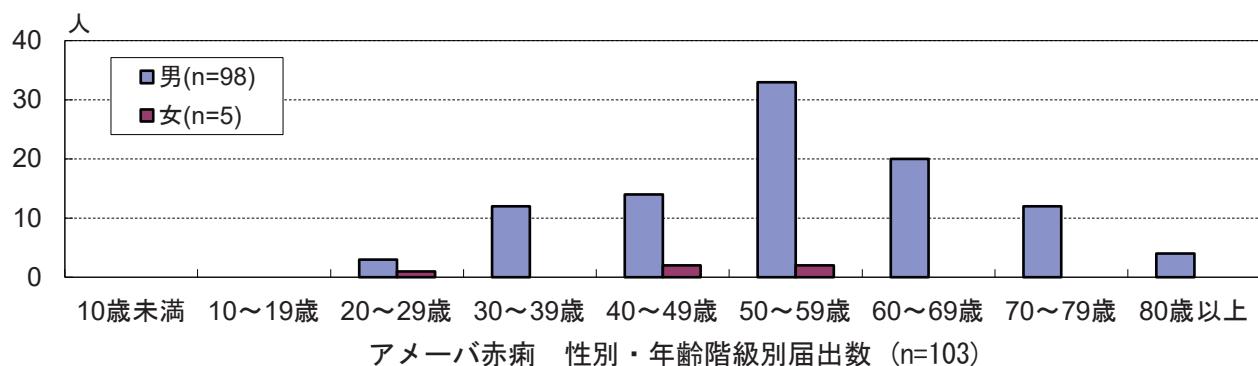
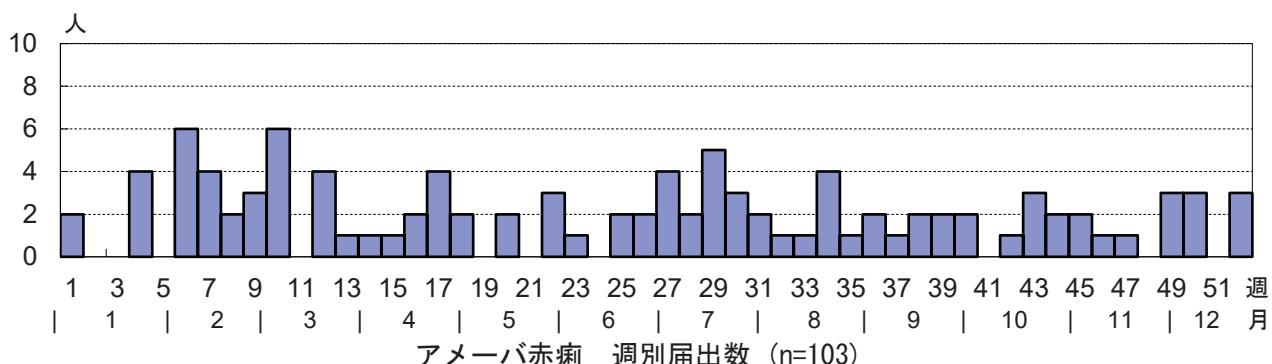
才 五類感染症（全数把握対象）

① アメーバ赤痢

2024年は103件の届出があった。届出の内訳は、病型別では腸管アメーバ症96件、腸管外アメーバ症4件、腸管及び腸管外アメーバ症3件であった。性別では男性98人、女性5人で、年齢階級別では20～29歳4人、30～39歳12人、40～49歳16人、50～59歳35人、60～69歳20人、70～79歳12人、80～89歳4人であった。

推定感染地は国内64件、国外10件（ベトナム2件、インド、インドネシア、タイ、ドイツ、マカオ、モンゴル、米国又はイタリア、インドネシア又はタイ各1件）、国内又は国外2件（インドネシア1件、タイ又は中国1件）、不明27件であった。

推定感染経路は性的接触27件（異性間7件、同性間15件、性別不明5件）、飲食物による経口感染14件、性的接触又は飲食物による経口感染2件（同性間、異性間各1件）、その他1件、不明59件であった。



② ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）

2024年は42件の届出があった。届出の内訳は、病型ではB型肝炎25件、C型肝炎6件、エンテロウイルス（以下、EV）肝炎4件、サイトメガロウイルス（以下、CMV）肝炎3件、エプスタイン・バールウイルス（以下、EBV）及びCMV肝炎2件、EBV肝炎、単純ヘルペスウイルス（以下、HSV）肝炎各1件であった。

B型肝炎は25件の届出があった。性別では男性22人、女性3人で、年齢階級別では20～29歳11人、30～39歳6人、40～49歳3人、50～59歳1人、60～69歳1人、70～79歳1人、80～89歳2人であった。推定感染地は国内19件、国外2件（スペイン又はデンマーク、タイ各1件）、不明4件、推定感染経路は性的接触14件（異性間9件、同性間2件、両性間2件、性別不明1件）、針等の銳利なもの刺入による感染1件、不明10件であった。

C型肝炎は6件の届出があった。性別では男性5人、女性1人で、年齢階級別では30～39歳2人、

40～49歳1人、50～59歳3人であった。推定感染地は国内5件、不明1件、推定感染経路は性的接触4件（同性間3件、性別不明1件）、針等の鋭利なもの刺入による感染1件、不明1件であった。

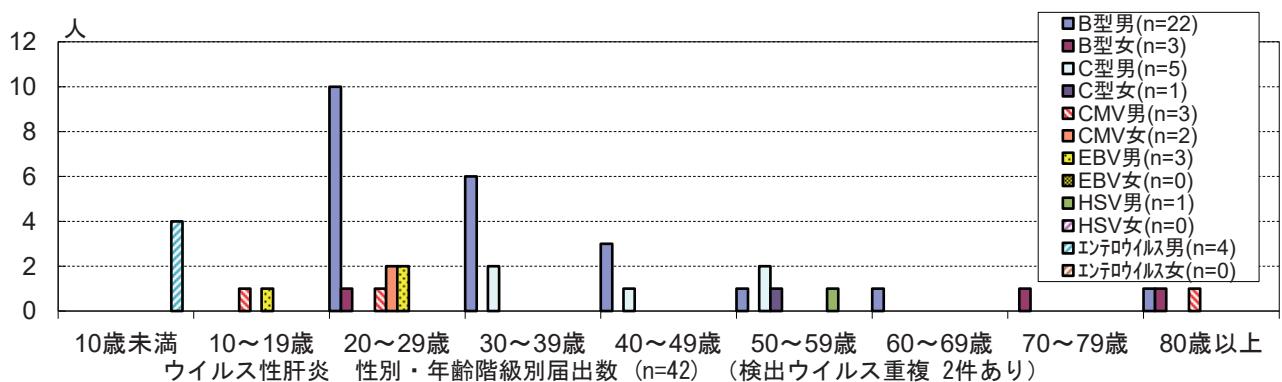
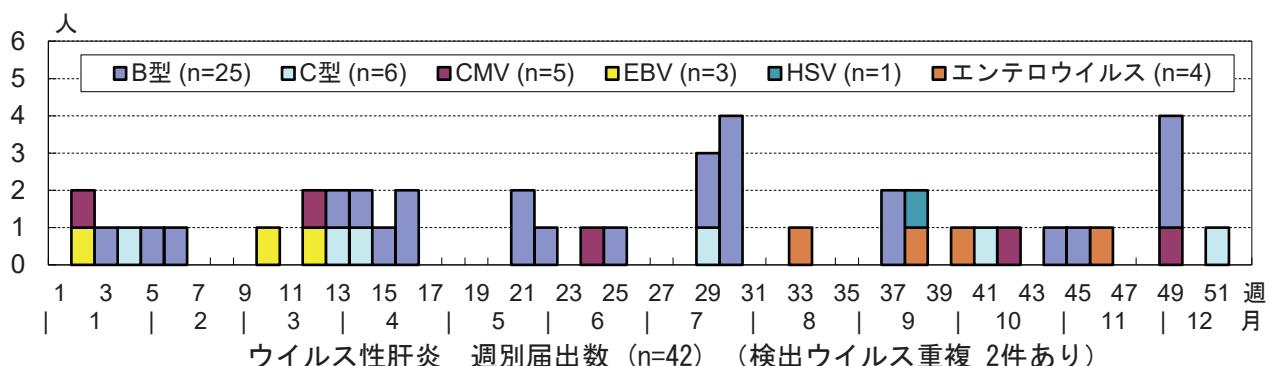
EV肝炎は4件の届出があった。性別では全て男性で、年齢階級別では全て5歳未満であった。推定感染地は国内2件、不明2件、推定感染経路は全て不明であった。

CMV肝炎は3件の届出があった。性別では男性1人、女性2人で、年齢階級別では20～29歳2人、80～89歳1人であった。推定感染地は全て国内、推定感染経路はその他1件、不明2件であった。

EBV及びCMV肝炎は2件の届出があった。性別では全て男性で、年齢階級別では10～19歳1人、20～29歳1人であった。推定感染地は全て国内、推定感染経路は全て不明であった。

EBV肝炎は1件の届出があった。性別は男性で、年齢階級別は20～29歳であった。推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

HSV肝炎は1件の届出があった。性別は男性で、年齢階級別は50～59歳であった。推定感染地は国内、推定感染経路は異性間性的接触であった。



③ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

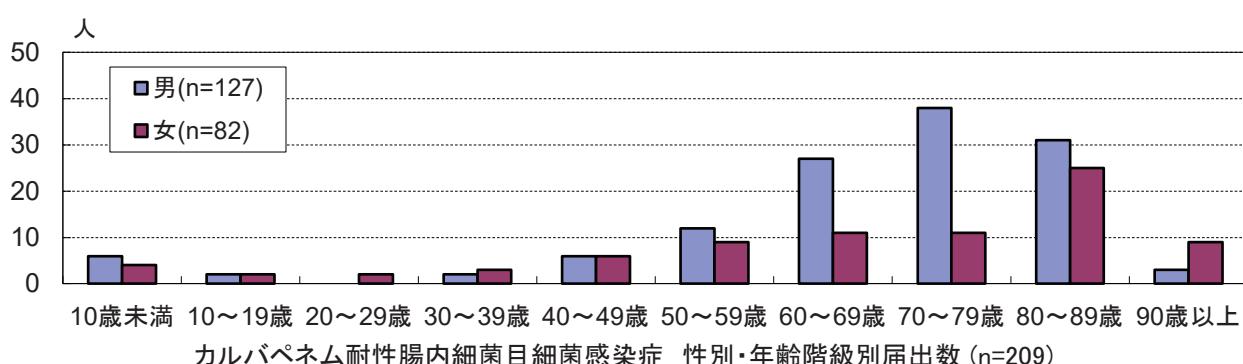
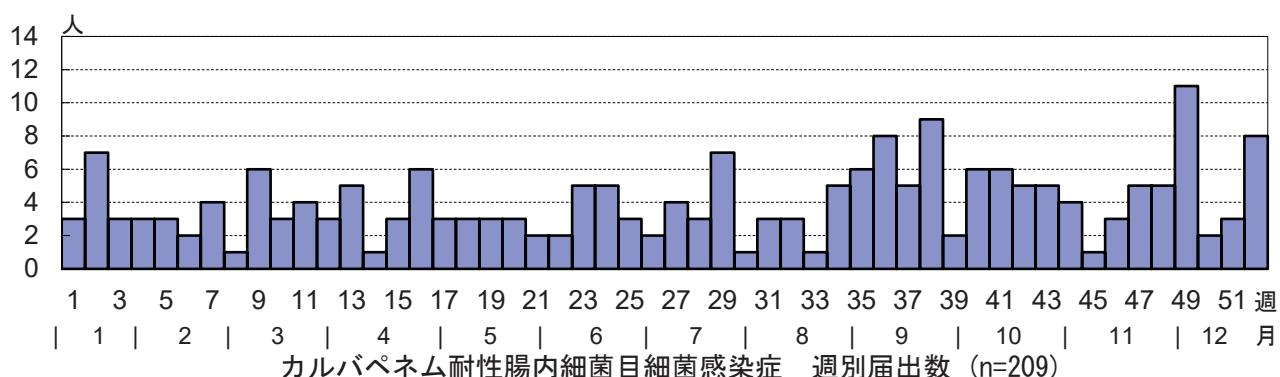
2024年は209件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性127人、女性82人で、年齢階級別では10歳未満10人（うち5歳未満8人）、10～19歳4人、20～29歳2人、30～39歳5人、40～49歳12人、50～59歳21人、60～69歳38人、70～79歳49人、80～89歳56人、90歳以上12人であった。死亡例は12人（50～59歳2人、60～69歳3人、70～79歳4人、80～89歳3人）報告された。

推定感染地は国内172件、国外4件（バングラデシュ2件、中国、ネパール各1件）、国内又はブラジル1件、不明32件であった。推定感染経路は以前からの保菌70件、医療器具関連感染37件（尿路カテーテル20件、中心静脈カテーテル6件、人工呼吸器5件、その他6件）、手術部位感染18件、院内感染9件、院内感染又は医療器具関連感染1件、その他16件、不明58件であった。

分離された菌種は、*Klebsiella aerogenes* 71件、*Enterobacter cloacae complex* 52件、*Klebsiella pneumoniae*

36 件、*Escherichia coli* 17 件、*Citrobacter freundii*、*Serratia marcescens* 各 7 件、*Klebsiella oxytoca* 6 件、*Enterobacter bugandensis* 3 件、*Enterobacter hormaechei* 2 件、*Citrobacter braakii*、*Citrobacter amalonaticus*、*Enterobacter amnigenus*、*Enterobacter asburiae*、*Morganella morganii*、*Providencia stuartii*、*Enterobacter* sp. / *K. aerogenes*、*K. aerogenes*/ *S. marcescens* 各 1 件であった。

Enterobacter cloacae complex に含まれる複数の菌種と *Enterobacter cloacae* は生化学的性状のような一般的な検査室での同定検査では区別できないので、集計項目のうち *Enterobacter cloacae* を廃止し、*Enterobacter cloacae* complex に含めた。



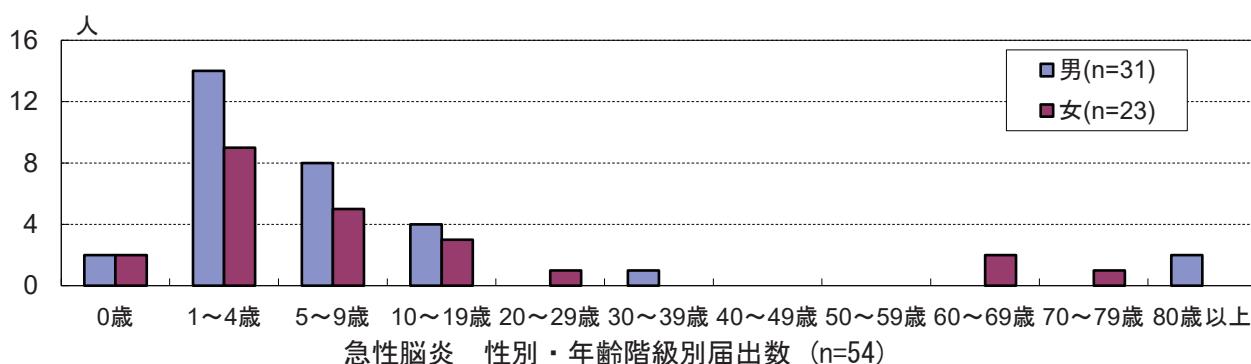
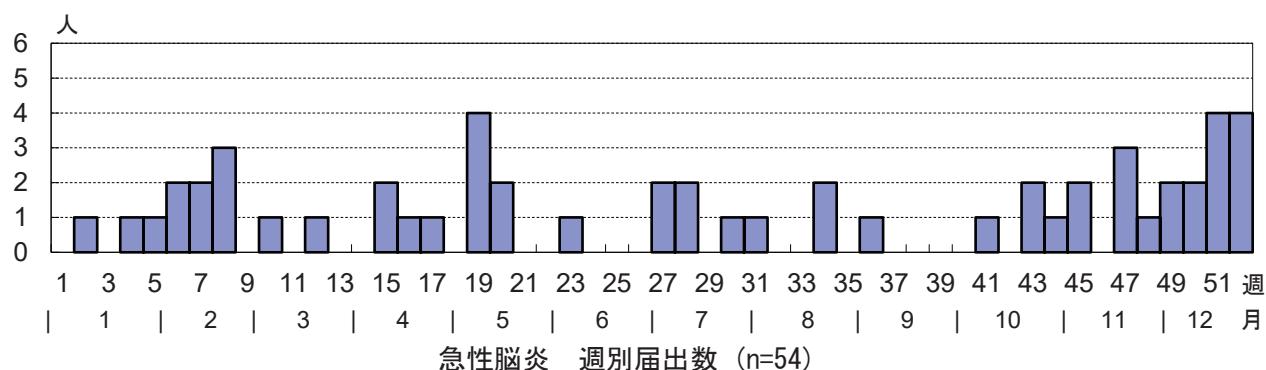
④ 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）

2024 年は 5 件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 2 人、女性 3 人で、年齢階級では、10 歳未満 3 人（うち 5 歳未満 1 人）、10~19 歳 2 人であった。推定感染地は国内 4 件、不明 1 件であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2 件、接触感染 1 件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 1 件、不明 1 件であった。検出された病原体はエンテロウイルス 71 型 1 件、ライノウイルス 1 件、マイコプラズマ 1 件、不明 2 件であった。ポリオワクチン接種歴は、4 回 4 件、不明 1 件であった。

⑤ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

2024 年は 54 件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 31 人、女性 23 人で、年齢階級では 10 歳未満 40 人（うち 5 歳未満 27 人）、10~19 歳 7 人、20~29 歳 1 人、30~39 歳 1 人、60~69 歳 2 人、70~79 歳 1 人、80~89 歳 2 人であった。推定感染地は国内 47 件、国外（フィリピン）1 件、不明 6 件であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 27 件、接触感染 3 件、経口感染 1 件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 1 件、その他 1 件、不明 21 件であった。

検出された病原体は、インフルエンザウイルス3件、インフルエンザウイルスA型5件、インフルエンザウイルスAH1pdm5件、インフルエンザウイルスB型2件、マイコプラズマ5件、SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）3件、ヘルペスウイルス10件（単純ヘルペスウイルス2件、单纯ヘルペスウイルス1型1件、ヒトヘルペスウイルス6型5件、ヒトヘルペスウイルス7型1件、水痘带状疱疹ウイルス1件）、ヒトメタニューモウイルス、アデノウイルス、RSウイルス、パラインフルエンザウイルス3型、肺炎球菌、マイコプラズマ／溶連菌各1件、不明15件であった。



⑥ クリプトスピリジウム症

2024年は14件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性13人、女性1人で、年齢階級別では20～29歳4人、30～39歳3人、40～49歳5人、50～59歳1人、60～69歳1人であった。推定感染地は国内11件、国外（タイ）1件、不明2件で、推定感染経路は性的接触9件（同性間8件、性別不明1件）、経口感染又は性別不明性的接触1件、接触感染1件、不明3件であった。

⑦ クロイツフェルト・ヤコブ病

2024年は11件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性7人、女性4人で、年齢階級別では50～59歳1人、60～69歳1人、70～79歳5人、80～89歳4人であった。

病型は孤発性プリオント病・古典型クロイツフェルト・ヤコブ病（以下、CJD）が9件（ほぼ確実6件、疑い3件）、遺伝性プリオント病・家族性CJDが2件（全てほぼ確実）であった。

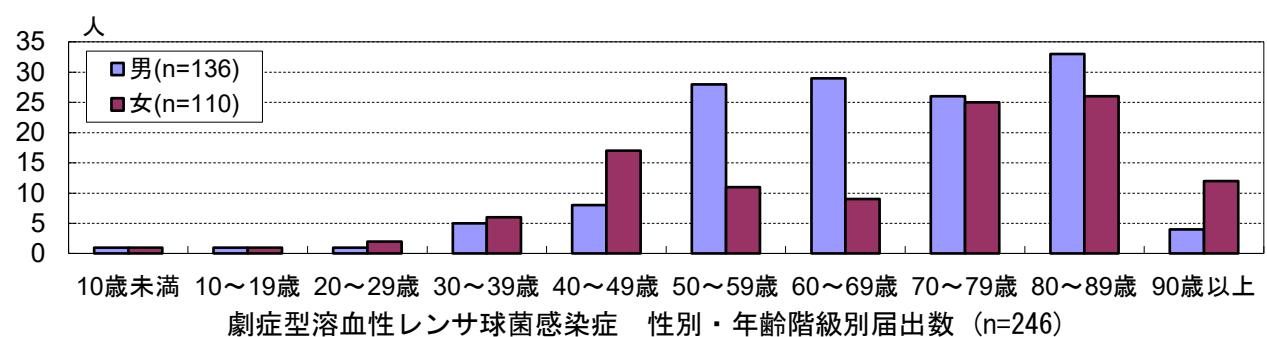
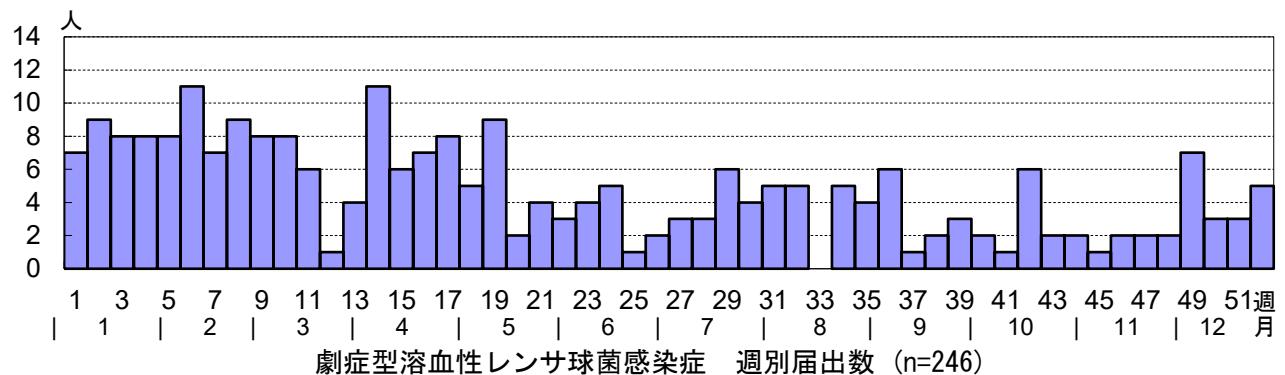
⑧ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2024年は246件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性136人、女性110人で、年齢階級別では10歳未満2人（うち5歳未満なし）、10～19歳2人、20～29歳3人、30～39歳11人、40～49歳25人、50～59歳39人、60～69歳38人、70～79歳51人、80～89歳59人、90歳以上16人であった。死亡例は75人（20～29歳1人、30～39歳2人、40～49歳4人、50～59歳11人、60～69歳11人、70～

79歳15人、80～89歳23人、90歳以上8人) 報告された。

推定感染地は国内215件、国内又は中国1件、不明30件であった。推定感染経路は創傷感染81件、飛沫・飛沫核感染15件、接触感染5件、経口感染2件、接触感染又は創傷感染1件、飛沫・飛沫核感染又は創傷感染1件、創傷感染又はその他1件、その他12件、不明128件であった。

血清群はA群149件(うちM1UK株62件)、B群29件、C群4件、F群1件、G群62件、未実施1件であった。



⑨ 後天性免疫不全症候群

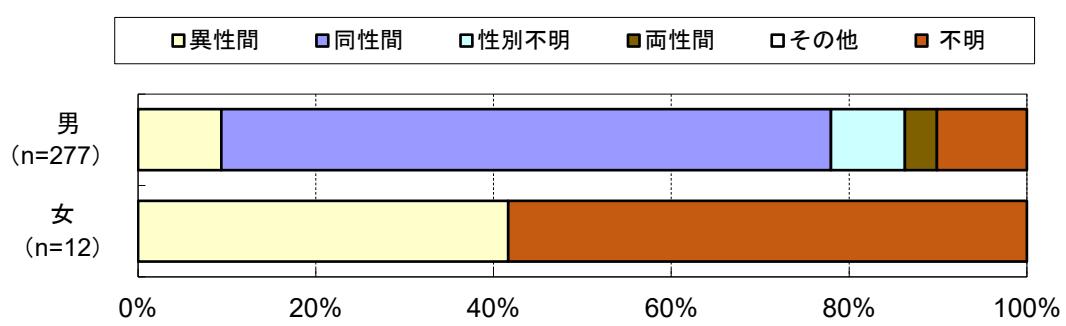
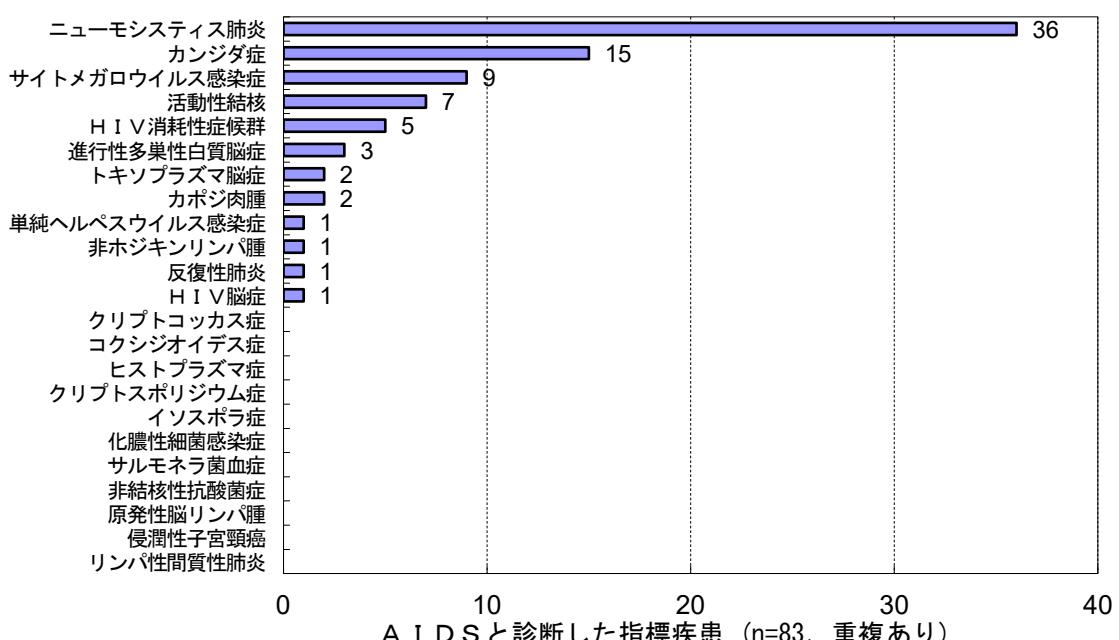
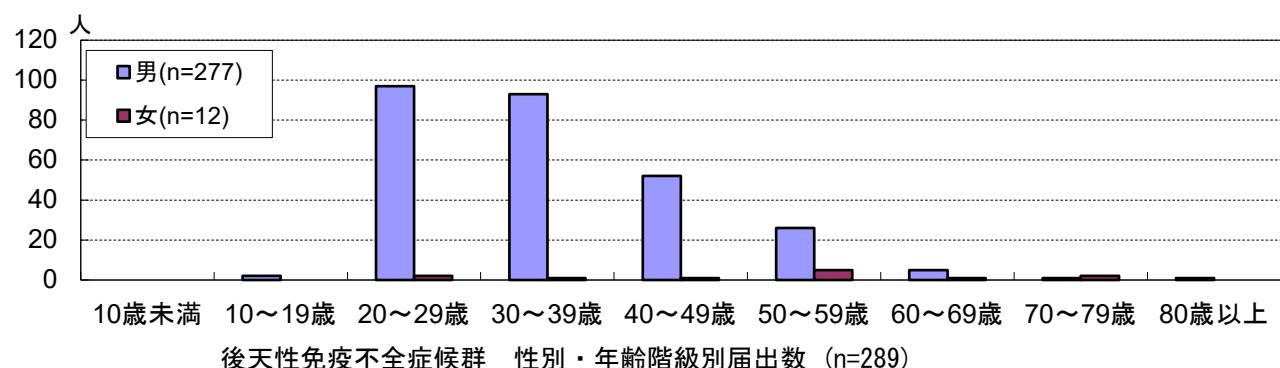
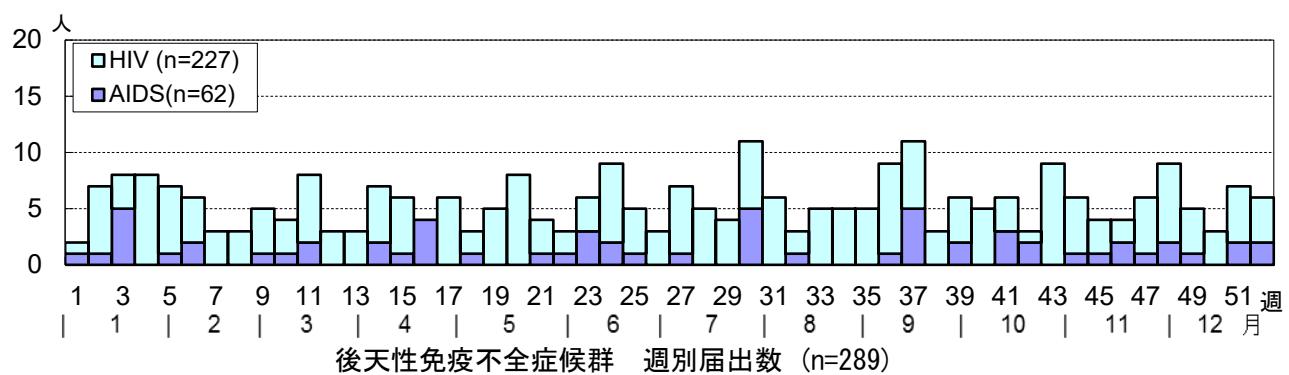
2024年は289件の届出があり、AIDS患者62人、HIV感染者227人(指標疾患以外の有症状者18人、無症状性キャリア209人)であった。届出の内訳は、性別では男性277人、女性12人であった。届出のうち外国籍は42人で、AIDS患者14人、HIV感染者(無症状性キャリア)28人であった。

AIDS患者62人の内訳は男性58人、女性4人で、年齢階級別では10～19歳1人、20～29歳8人、30～39歳20人、40～49歳12人、50～59歳17人、60～69歳3人、70～79歳1人で、死亡例は1人(10～19歳)の報告があった。

AIDS患者の指標疾患は、ニューモシスティス肺炎(36件)が最多で、次にカンジダ症(15件)、サイトメガロウイルス感染症(9件)が多かった。

HIV感染者のうち無症状性キャリアの209人の内訳は男性202人、女性7人で、年齢階級別では10～19歳1人、20～29歳88人、30～39歳69人、40～49歳35人、50～59歳10人、60～69歳3人、70～79歳2人、80～89歳1人であった。

推定感染地は国内226件、国外10件(中国2件、イギリス、インドネシア、ウガンダ、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、フランス、リベリア、コロンビア又はパプアニューギニア各1件)、不明53件であった。推定感染経路は性的接触254件(同性間190件、異性間31件、両性間10件、性別不明23件)、不明35件であった。



⑩ ジアルジア症

2024年は15件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性14人、女性1人で、年齢階級別では、10～19歳1人、30～39歳6人、40～49歳2人、50～59歳4人、60～69歳2人であった。推定感染地は国内7件、国外5件（インド2件、スリランカ1件、メキシコ1件、ペルー1件）、国内又はタイ又は中国1件、不明2件であった。推定感染経路は経口感染5件、同性間性的接触9件、経口感染又は水系感染1件であった。

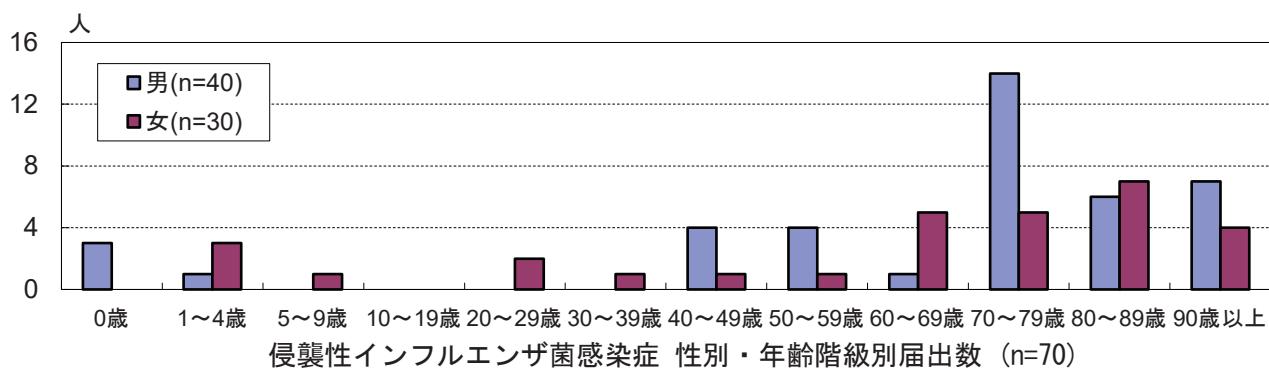
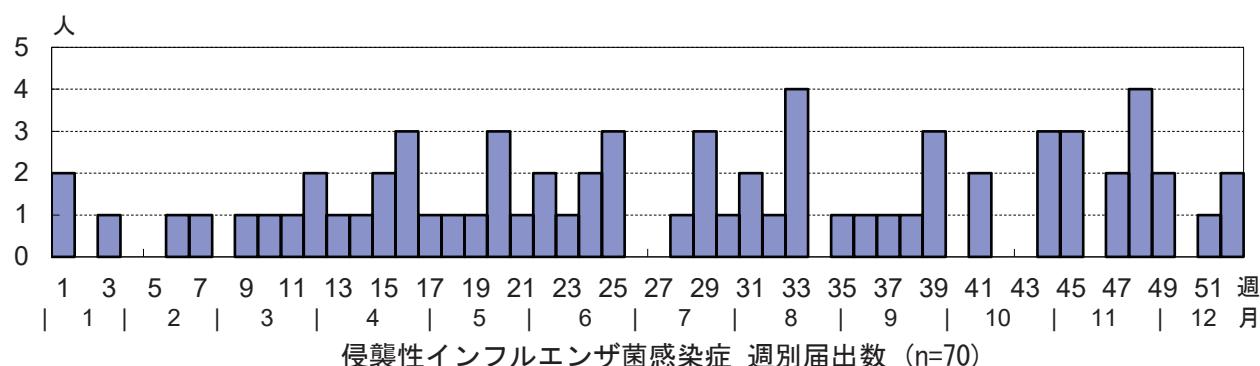
⑪ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2024年は70件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性40人、女性30人で、年齢階級別では10歳未満8人（うち5歳未満7人）、20～29歳2人、30～39歳1人、40～49歳5人、50～59歳5人、60～69歳6人、70～79歳19人、80～89歳13人、90歳以上11人で、死亡例は1人（70～79歳1人）の報告があった。

血清型はb型1件、f型3件、型別不能57件、検査未実施9件であった。

推定感染地は、国内61件、国外（スペイン）1件、不明8件であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染16件、接触感染4件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染2件、その他4件、不明44件であった。

ワクチン接種歴は4回4件、3回1件、1回1件、なし9件、不明55件であった（接種歴があるもののうち3件はワクチンの種類不明、他はHibワクチン）。



⑫ 侵襲性髄膜炎菌感染症

2024年は10件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性5人、女性5人で、年齢階級別では10歳未満1人、20～29歳1人、30～39歳2人、50～59歳3人、60～69歳1人、70～79歳2人であった。血清型はY群4件、B群2件、W-135群1件、群別不能1件、未実施2件であった。推定感染地は国内6件、国外（ウズベキスタン）1件、不明3件で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染2件、その他1件、

不明 7 件であった。ワクチン接種歴はなし 2 件、不明 8 件であった。

⑬ 侵襲性肺炎球菌感染症

2024 年は 281 件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 160 人、女性 121 人であった。年齢階級別では 10 歳未満 35 人（うち 5 歳未満 27 人）、10～19 歳 2 人、20～29 歳 4 人、30～39 歳 21 人、40～49 歳 23 人、50～59 歳 31 人、60～69 歳 39 人、70～79 歳 61 人、80～89 歳 56 人、90 歳以上 9 人で、死亡例は 14 人（50～59 歳 2 人、60～69 歳 1 人、70～79 歳 5 人、80～89 歳 6 人）の報告があった。推定感染地は国内 228 件、国外 3 件（フランス 2 件、渡航先不明 1 件）、国内又はソロモン諸島 1 件、不明 49 件であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 80 件、接触感染 1 件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 5 件、その他 12 件、不明 183 件であった。

血清型が判明したものは 101 件で、最も多い血清型は 3 型の 27 件であった。

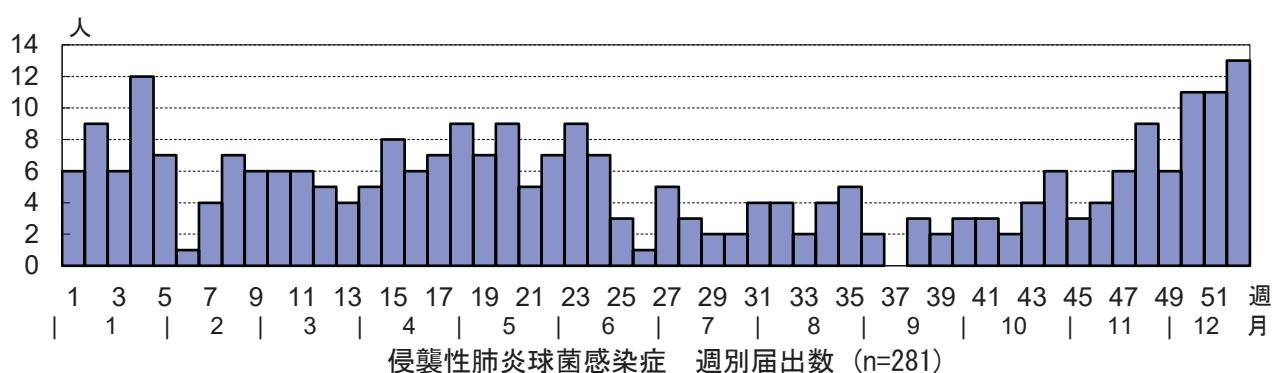
ワクチン接種歴は 4 回 25 件、3 回 7 件、2 回 3 件、1 回 15 件、なし 100 件、不明 131 件であった。

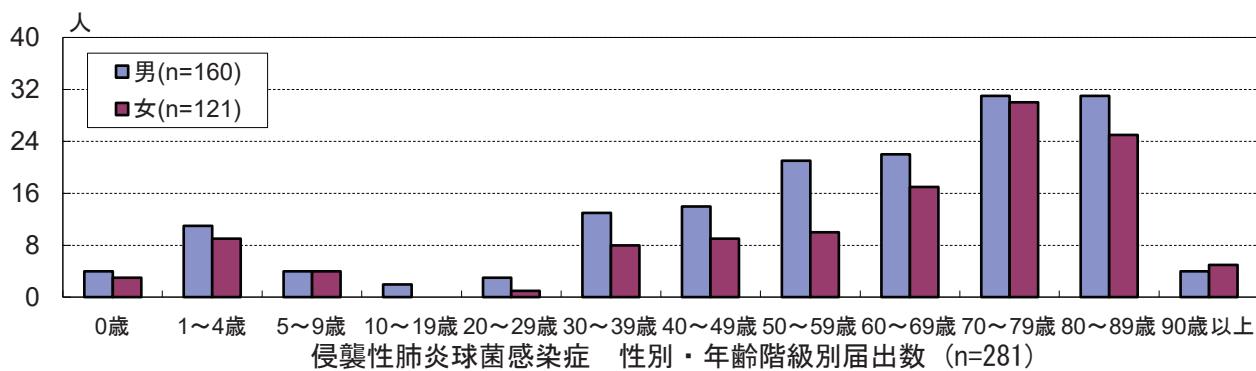
年齢階級別・種類別ワクチン接種歴 (n=281)

	7価	13価	13価2回+価 数不明1回 +23価1回	13価1回+価 数不明2回	23価	価数不明	接種歴 なし	接種歴 不明	総数
回数	4	3	4	4	3	1	2	4	
5歳未満	4	14			2		2	3	1 1 27
5～9歳			6						2 8
10～64歳	1					1		54 37	93
65歳以上				1		4 1 8 3		45 91	153
合 計	1	4	20	1	2	4 1 11 3 3	100	131	281

侵襲性肺炎球菌感染症 血清型 (n=101)

血清型	届出数	血清型	届出数	血清型	届出数	血清型	届出数
3型	27	15B型	4	22F型	11	31型	1
6B型	2	15C型	1	23A型	4	33F型	1
6C型	1	18B型	1	23B型	5	34型	2
10A型	11	19A型	8	24B型	2	35B型	6
11A型	1	19F型	1	24F型	1	38型	4
15A型	6	20型	1				



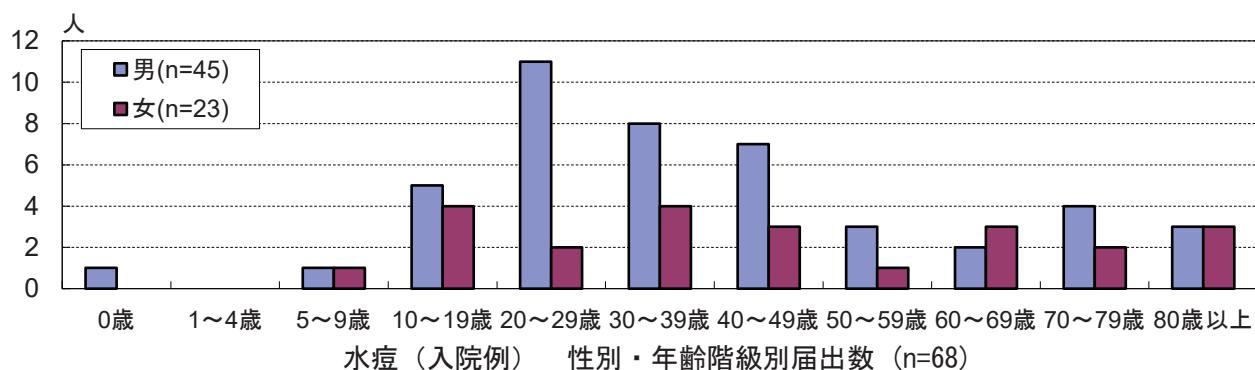
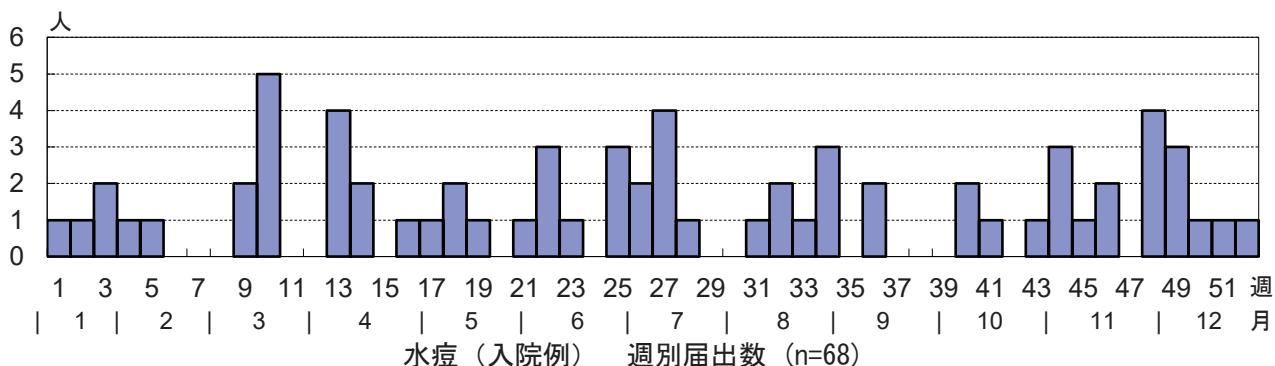


⑭ 水痘（入院例）

2024年は68件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性45人、女性23人で、年齢階級別では10歳未満3人（うち5歳未満1人）、10～19歳9人、20～29歳13人、30～39歳12人、40～49歳10人、50～59歳4人、60～69歳5人、70～79歳6人、80～89歳4人、90歳以上2人であった。

推定感染地は国内56件、不明12件で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染19件、院内感染3件、接触感染4件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染1件、その他1件、不明40件であった。

ワクチン接種歴は2回6件、1回2件、なし21件、不明39件であった。



⑮ 梅毒

2024年は3,760件の届出があった。届出の内訳は、病型では早期顕症梅毒I期1,554件、早期顕症梅毒II期1,280件、晚期顕症梅毒34件、無症候887件、先天梅毒5件であった。性別は男性2,462人、女性1,298人であった。年齢階級別では10歳未満5人（全て0歳）、10～19歳140人、20～29歳1,463人、30～39歳822人、40～49歳662人、50～59歳453人、60～69歳157人、70～79歳41人、80～89歳9

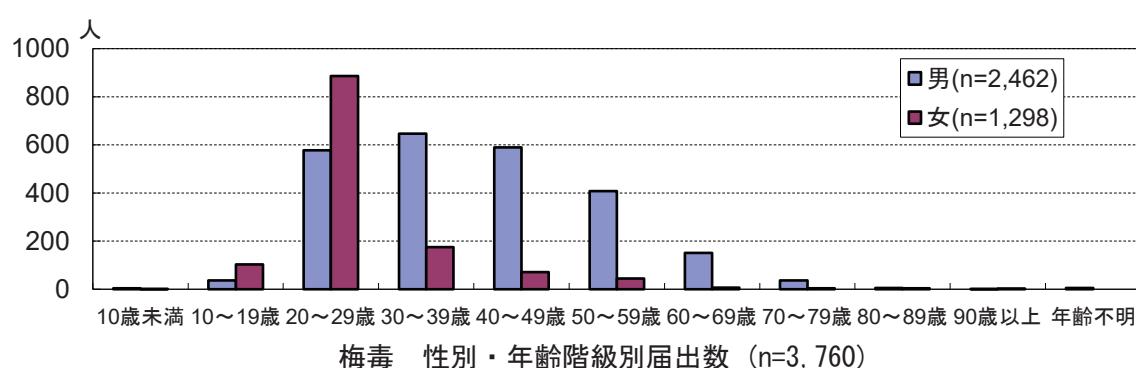
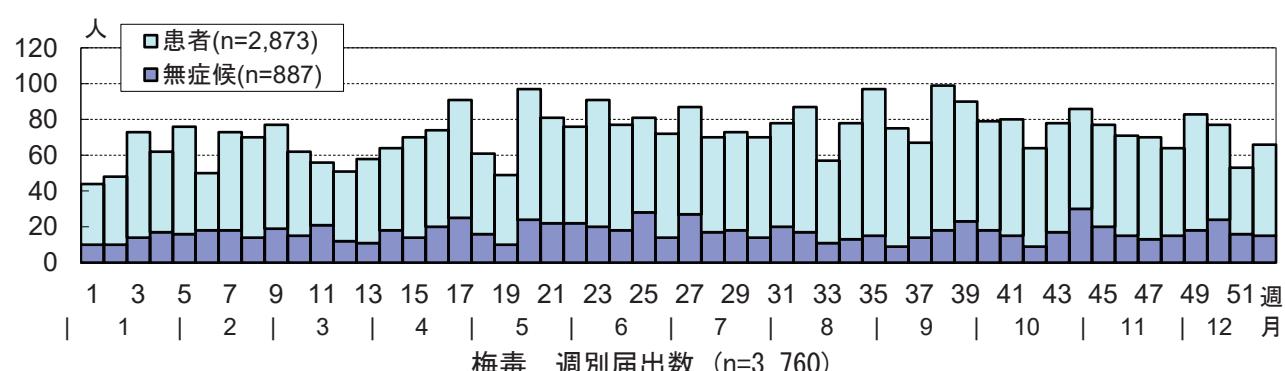
人、90歳以上3人、不明5人で、妊娠可能年齢の女性（15～49歳）は1,235人で女性全体の95.1%を占めた。20～49歳の男性が1,814人で男性全体の73.7%を占めた。

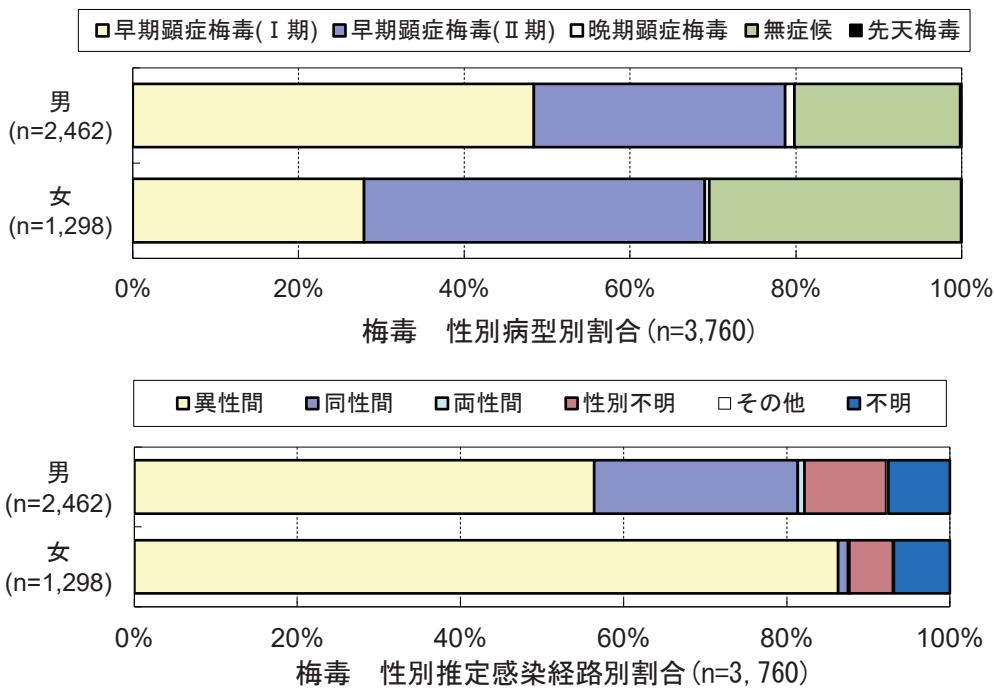
推定感染地は国内3,116件、国外44件（タイ6件、中国6件、米国5件、カンボジア3件、ミャンマー3件、台湾2件、フィリピン2件、インドネシア2件、香港、韓国、ラオス、マレーシア、ベトナム、インド、英国、フランス、ドイツ、カナダ、ウズベキスタン各1件、米国又はインドネシア1件、カンボジア又はタイ又はフィリピン1件、渡航先不明2件）、国内又は国外（フィリピン、タイ、台湾、ザンビア各1件）4件、不明596件であった。

推定感染経路は性的接触3,477件（異性間2,509件、同性間630件、両性間22件、性別不明316件）、母子感染5件、異性間性的接触又は静注薬物使用1件、異性間性的接触又はその他1件、その他1件、不明275件であった。

HIV感染症合併の有無は299件（男性297件、女性2件）が合併ありで、推定感染経路は、男性は性的接触286件（同性間253件、異性間14件、両性間2件、性別不明17件）、不明11件で、女性は異性間性的接触2件であった。

梅毒治療歴ありは609件（男性467件、女性142件）であった。妊娠中は90件であった。直近6か月の性風俗産業の従事者は673件（男性63件、女性610件）で、利用者は925件（男性798件、女性127件）であった。





⑯ 播種性クリプトコックス症

2024年は21件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性14人、女性7人で、年齢階級別では20～29歳1人、30～39歳3人、40～49歳2人、50～59歳1人、60～69歳1人、70～79歳3人、80～89歳7人、90歳以上3件であった。死亡例は3人（60～69歳、80～89歳、90歳以上各1人）報告された。推定感染地は国内16件、不明5件であった。

推定感染経路は、免疫不全18件、不明3件であった。免疫不全18件のうち、基礎疾患のあるものは14件（リウマチ性疾患および類縁疾患5件、血液疾患2件、移植後2件、HIV感染2件、AIDS1件、その他2件）であった。免疫不全18件のうち6件はステロイド等を投与中であった。

⑰ 破傷風

2023年は3件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性2人、女性1人で、年齢階級別では60～69歳1人、80～89歳2人であった。

推定感染地は全て国内（東京都3件）で、推定感染経路は創傷感染2件、創傷感染又は針等の鋭利なものの刺入による感染1件であった。破傷風含有ワクチン接種歴は不明2件、なし1件であった。

⑱ バンコマイシン耐性腸球菌感染症

2024年は7件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性4人、女性3人で、年齢階級別では40～49歳1人、60～69歳1人、70～79歳3人、80～89歳1人、90歳以上1人であった。推定感染地は国内4件、国外2件（インド、米国各1件）、不明1件であった。推定感染経路は接触感染2件、針等の鋭利なものの刺入による感染1件、その他1件、不明3件であった。菌種は*Enterococcus faecium* 6件、*Enterococcus casseliflavus* 1件、耐性遺伝子はvanA 2件、vanB 4件、vanC 1件であった。

⑲ 百日咳

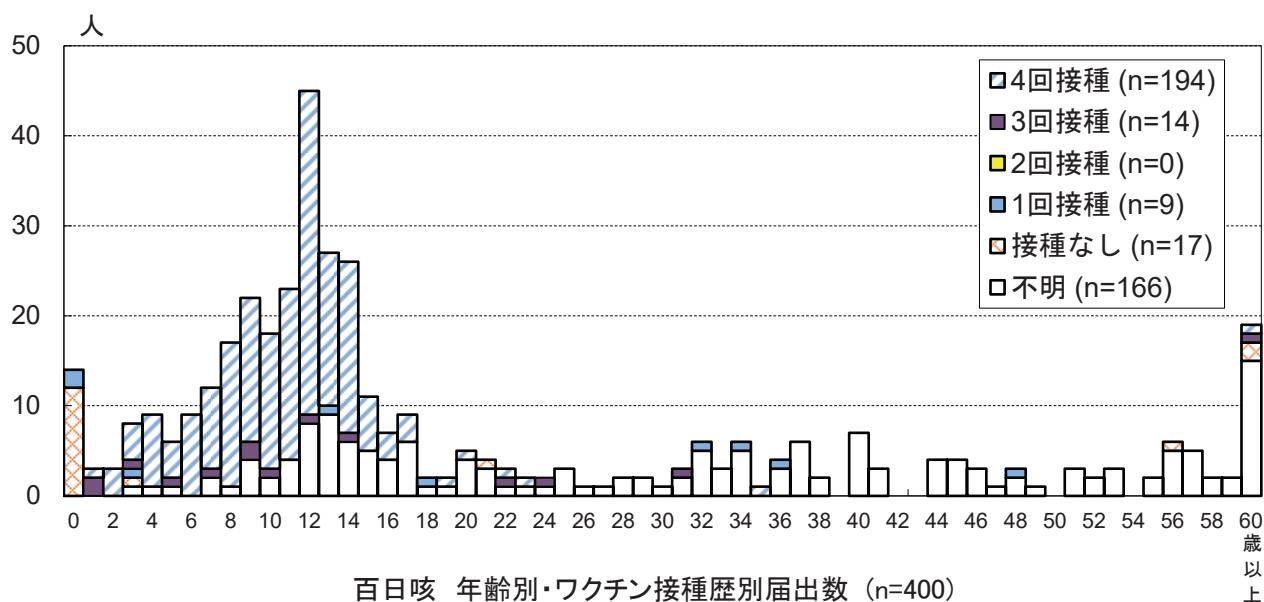
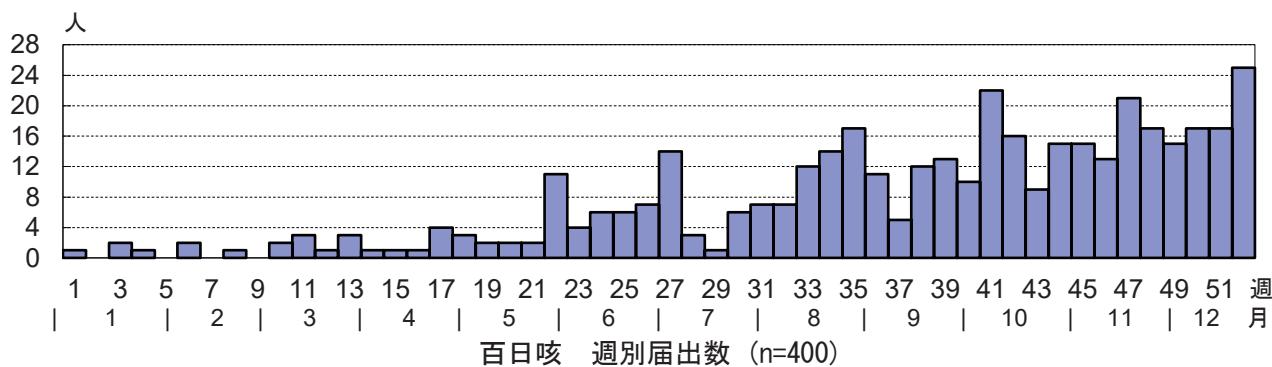
2024年は400件の届出があった。届出の内訳は、性別では男性197人、女性203人で、年齢階級別で

は10歳未満103人（うち5歳未満37人）、10～19歳170人、20～29歳25人、30～39歳32人、40～49歳26人、50～59歳25人、60～69歳10人、70～79歳7人、80～89歳2人であった。

推定感染地は国内304件、国外9件（韓国3件、米国2件、アラブ首長国連邦、インド、カンボジア、タンザニア各1件）、不明87件であった。

百日咳含有ワクチン接種歴は、4回194件、3回14件、1回9件、なし17件、不明166件であった。

診断方法は、抗体検査207件、抗原検査48件、遺伝子検査147件、分離・同定4件、臨床決定11件であった（重複あり）。



㉚ 風しん

2024年は1件の届出があった。検査診断例（IgM抗体の検出）であった。

性別は男性で、年齢階級は20～29歳、推定感染地は国内で、推定感染経路は不明であった。風しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

㉛ 麻しん

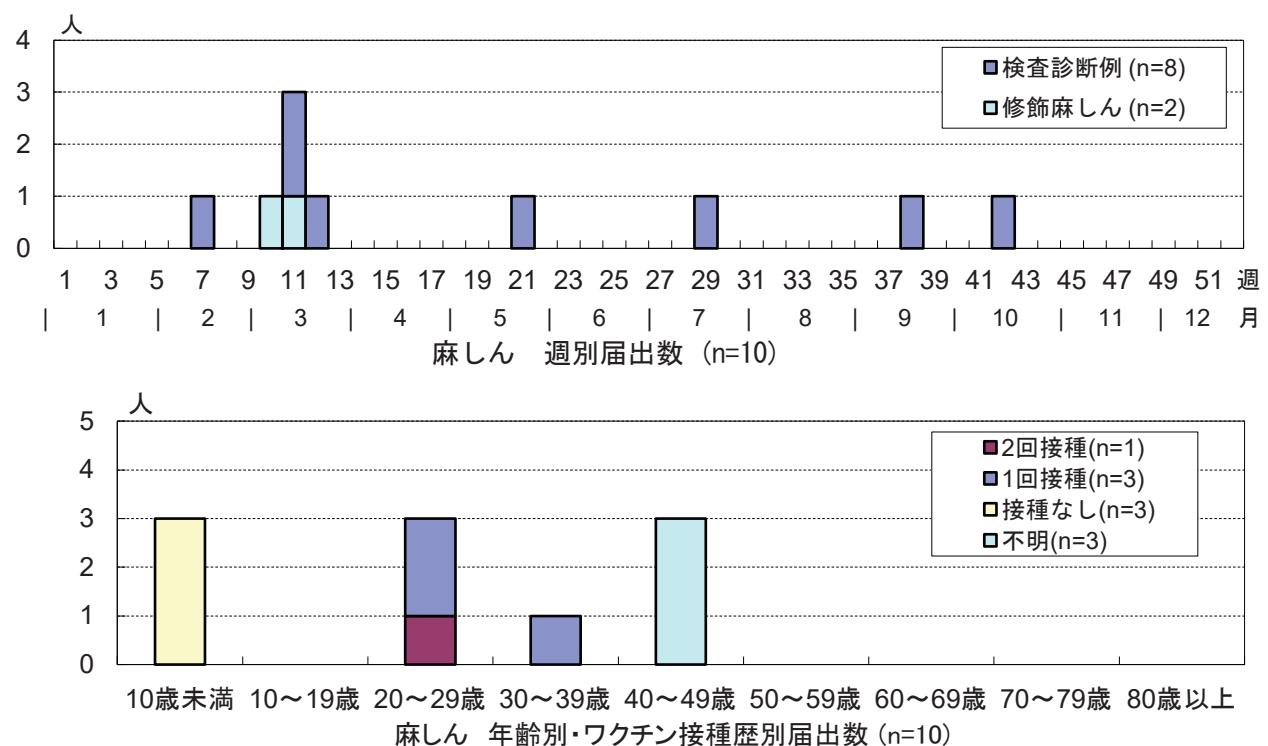
2024年は10件の届出があり、検査診断例は8件（PCR検査による病原体遺伝子の検出8件、IgM抗体の検出2件、ペア血清での抗体の検出1件、重複あり）、修飾麻しん例は2件であった。肺炎、脳炎の合併の報告はなかった。

届出の内訳は、性別では男性7人、女性3人で、年齢階級別では10歳未満3人（全て5歳未満）、20～29歳3人、30～39歳1人、40～49歳3人であった。推定感染地は国内3件、国外6件（インド2件、

アラブ首長国連邦、タイ、マレーシア、イタリア各1件)、国内又はインド1件であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染が4件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染が1件、不明が5件であった。

麻しん含有ワクチン接種歴(暴露後の緊急対応としての接種も含む)は2回1件、1回3件、なし3件、不明3件であった。

PCR検査で麻しんウイルス陽性が確認された10件(修飾麻しん2例含む)の遺伝子型はD8型が7件、B3型が3件であった。



㉒ 薬剤耐性アシнетバクター感染症

2024年は1件の届出があった。性別は男性で、年齢階級別は5歳未満であった。推定感染地は国内で、推定感染経路はその他であった。菌種は *Acinetobacter baumannii* であった。

㉓ その他の五類感染症

先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の届出はなかった。

表3-1(1) 一、二、三類感染症 週別患者報告数

2024年第1週～第52週

週	期 間	一 類							二 類							三 類						
		エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘 そ う	南米出血熱	ペ スト	マールブルグ病	ラッサ熱	急 性 灰 白 髄 炎	結 核 *	ジ フ テ リ ア	重 症 急 性 呼 吸 器 症 候 群	中 東 呼 吸 器 症 候 群	鳥 イ H N F L E N G	鳥 イ H N F L 9	(H I N F L 9)	コ レ ラ	細 菌 性 赤 痢	腸 管 出 血 性 大 腸 菌 感 染 症	腸 チ フ ス	パ ラ チ フ ス	
1	1. 1～1. 7																			2		
2	1. 8～1.14																			1		
3	1.15～1.21																			3		
4	1.22～1.28																			3	1	
5	1.29～2. 4																					
6	2. 5～2.11																		1	4		
7	2.12～2.18																			1		
8	2.19～2.25																					
9	2.26～3. 3																			2		
10	3. 4～3.10																			5		
11	3.11～3.17																		1	3	1	
12	3.18～3.24																			4		
13	3.25～3.31																			3		
14	4. 1～4. 7																				1	
15	4. 8～4.14																		1	5		
16	4.15～4.21																		5	1		
17	4.22～4.28																		2			
18	4.29～5. 5																		3			
19	5. 6～5.12																		4			
20	5.13～5.19																	2	9			
21	5.20～5.26																		10			
22	5.27～6. 2																		5			
23	6. 3～6. 9																		6			
24	6.10～6.16																		9			
25	6.17～6.23																		10			
26	6.24～6.30																	1	9			
27	7. 1～7. 7																		16	1		
28	7. 8～7.14																		15			
29	7.15～7.21																		15			
30	7.22～7.28																		16			
31	7.29～8. 4																		2	20		
32	8. 5～8.11																		4	9		
33	8.12～8.18																		1	19		
34	8.19～8.25																		1	28		
35	8.26～9. 1																		7	21	1	
36	9. 2～9. 8																			18		
37	9. 9～9.15																			17		
38	9.16～9.22																		20	1		
39	9.23～9.29																			16		
40	9.30～10. 6																	2	10			
41	10. 7～10.13																	1	21			
42	10.14～10.20																			18		
43	10.21～10.27																	1	19			
44	10.28～11. 3																			10		
45	11. 4～11.10																		6	1	1	
46	11.11～11.17																			12		
47	11.18～11.24																			11		
48	11.25～12. 1																			6		
49	12. 2～12. 8																		1	10		
50	12. 9～12.15																		1	1	1	
51	12.16～12.22																			6	1	
52	12.23～12.29																			3		
合 計																		2	25	471	7	4

* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-1(2) 四類感染症 週別患者報告数

2024年第1週～第52週

週	期間	四類												
		E型肝炎	A型肝炎	エキノコツクス症	エムポツクス	コクシジオイデス症	チクシジニア熱	つつが虫病	デング熱	日本脳炎	マラリア	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症
1	1. 1～1. 7	2							1				1	
2	1. 8～1. 14				1				1				2	
3	1.15～1.21	5							1		1		5	
4	1.22～1.28	5	1		3				2				2	
5	1.29～2. 4	2	1		3				1				2	
6	2. 5～2. 11	2	1										2	
7	2.12～2.18	2											2	
8	2.19～2.25	3			1				1				4	
9	2.26～3. 3	2			1								2	
10	3. 4～3. 10	6											4	
11	3.11～3. 17	3						3						
12	3.18～3. 24	2						1					2	
13	3.25～3. 31	1						2					2	
14	4. 1～4. 7	2	1					1					4	
15	4. 8～4. 14	4			1						1		6	
16	4.15～4. 21	2				1							1	
17	4.22～4. 28	3	2					1		1			3	
18	4. 29～5. 5	2	1		1									
19	5. 6～5. 12		3					3					3	
20	5.13～5. 19	3	1		1			1		1			8	
21	5. 20～5. 26	2						1						
22	5. 27～6. 2	3						4					2	
23	6. 3～6. 9	5	1					3					1	1
24	6.10～6.16	4								1			4	
25	6.17～6.23	3	1					1					2	
26	6.24～6.30	5						1		1			4	
27	7. 1～7. 7	4						2					6	
28	7. 8～7. 14	3						1					13	
29	7. 15～7. 21	2	1							1			7	
30	7. 22～7. 28	3						3					9	
31	7. 29～8. 4	1						1					6	
32	8. 5～8.11	3	1					1					4	2
33	8.12～8.18	2						2					1	
34	8.19～8.25	2		1				2		1			2	
35	8.26～9. 1	4						3					14	
36	9. 2～9. 8	3				1		5					13	
37	9. 9～9. 15	2	1					1					11	
38	9. 16～9. 22	7	1					1		1	1		6	
39	9. 23～9. 29	3						4					3	1
40	9. 30～10. 6		1					2					3	1
41	10. 7～10.13	2			2		1						14	
42	10.14～10.20	3						1					12	
43	10. 21～10.27	2											11	
44	10. 28～11. 3	6				1		2					8	
45	11. 4～11.10	2					2	3		1			14	
46	11. 11～11.17	3				1		1					7	
47	11. 18～11.24		1			1							10	
48	11. 25～12. 1	1				1				1			5	
49	12. 2～12. 8	1						2					8	
50	12. 9～12.15	1	1					1					2	
51	12. 16～12.22	3	1					2	2				3	
52	12. 23～12.29	6											1	
合計		142	21	1	14	2	5	5	68	1	10	1	261	5

表3-1(3) 全数把握対象の五類感染症 週別患者報告数

2024年第1週～第52週

週	期間	五類																		薬剤耐性アシネットバクター感染症			
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）	急性脳炎	クリプトスボリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	
1	1. 1～1. 7	2	3					7	2	2		6	1	44	3			1					
2	1. 8～1. 14		1	7		1			9	7			9	1	48								
3	1. 15～1. 21		1	3				2	8	8		1	6	2	73				2				
4	1. 22～1. 28	4	1	3	1	1		8	8	2			12	1	62	1			1				
5	1. 29～2. 4		1	3		1		1	8	7			7	1	76	1			1				
6	2. 5～2. 11	6	1	2		2		1	11	6		1		1	50				2				
7	2. 12～2. 18	4		4		2			7	3	1	1	4		73							1	
8	2. 19～2. 25	2		1		3			9	3			7		70				1				
9	2. 26～3. 3	3	6					1	8	5		1	6	2	77								
10	3. 4～3. 10	6	1	3	1	1	1	1	8	4	1	1	1	6	5	62	1		2		1		
11	3. 11～3. 17			4					6	8		1	6		56				3		3		
12	3. 18～3. 24	4	1	3		1			1	3		2		5		51			1		1		
13	3. 25～3. 31	1	2	5					4	3		1	4	4	58				3				
14	4. 1～4. 7	1	2	1			1	1	11	7		1	5	2	64	2			1				
15	4. 8～4. 14	1	1	3	1	2			6	6	1	2		8		70			1				
16	4. 15～4. 21	2	2	6		1			7	4		3		6	1	74			1				
17	4. 22～4. 28	4		3		1			8	6		1	1	7	1	91			1	4			
18	4. 29～5. 5	2		3					5	3		1	9	2	61				3				
19	5. 6～5. 12			3		4	2		9	5		1	7	1	49		1		2				
20	5. 13～5. 19	2		3		2			2	8		3		9		97			1	2			
21	5. 20～5. 26		2	2					4	4		1	5	1	81				2		1		
22	5. 27～6. 2	3	1	2					3	3		2	7	3	76	1			11			1	
23	6. 3～6. 9	1		5		1			4	6		1	9	1	91				4				
24	6. 10～6. 16		1	5	1				5	9		2	1	7		77			1	6			
25	6. 17～6. 23	2	1	3				1	1	5		3		3	3	81	3			6			
26	6. 24～6. 30	2		2					2	3			1	1	2	72				7			
27	7. 1～7. 7	4		4	1	2			3	7			1	5	4	87	2		14	1			
28	7. 8～7. 14	2		3		2			3	5		1		3	1	70	1		3				
29	7. 15～7. 21	5	3	7			1		6	4	1	3		2		73	1		1	1		1	
30	7. 22～7. 28	3	4	1		1			4	11	1	1		2		70			6				
31	7. 29～8. 4	2		3		1			5	6	2	2	1	4	1	78			7				
32	8. 5～8. 11	1		3					5	3		1		4	2	87			1	7			
33	8. 12～8. 18	1	1	1						5		4		2	1	57				12			
34	8. 19～8. 25	4		5		2		1	5	5				4	3	78			14				
35	8. 26～9. 1	1		6			1		4	5	1	1		5		97			17				
36	9. 2～9. 8	2		8		1	3		6	9		1	2	2	2	75			11				
37	9. 9～9. 15	1	2	5					1	11	1	1				67			5				
38	9. 16～9. 22	2	2	9					2	3		1		3		99	1		12		1		
39	9. 23～9. 29	2		2					3	6		3	2	2		90	1		13				
40	9. 30～10. 6	2	1	6			1		2	5				3	2	79			10				
41	10. 7～10. 13		1	6		1	1	1	6	1	2		3	1	80			1	22				
42	10. 14～10. 20	1	1	5					6	3				2		64	1		16		1		
43	10. 21～10. 27	3		5		2			2	9				4	1	78			9				
44	10. 28～11. 3	2	1	4		1	1		2	6		3		6	3	86		1	15				
45	11. 4～11. 10	2	1	1		2	1	1	4	1	3		3	1	77				15				
46	11. 11～11. 17	1	1	3					2	4				4	2	71	1		13				
47	11. 18～11. 24	1		5		3			2	6	1	2		6		70			21				
48	11. 25～12. 1			5	1	1		2	2	9		4		9	4	64			17				
49	12. 2～12. 8	3	4	11		2			7	5		2		6	3	83			15				
50	12. 9～12. 15	3		2		2			3	3	1			11	1	77	1	1	17				
51	12. 16～12. 22		1	3		4			3	7		1		11	1	53			17				
52	12. 23～12. 29	3		8		4			5	6		2		13	1	66			25				
合計		103	42	209	5	54	14	11	246	289	15	70	10	281	68	3,760	21	3	7	400	1	10	1

表3-2(1) 一、二、三類感染症 保健所別患者報告数

2024年第1週～第52週

	一類							二類							三類						
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ	鳥インフルエンザ	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス		
千代田																1	8				
中央区																1	7				
みなど																6	16				
新宿区																1	1	15	2	1	
文京																	1	7	2	1	
台東																		8			
墨田区																	2	16	2		
江東区																		13			
品川区																		23			
目黒区																		8			
大田区																	2	40			
世田谷																	1	26		1	
渋谷区																		13			
中野区																	1	13			
杉並																		15			
池袋																		10			
北区																		6			
荒川区																		3			
板橋区																	1	25			
練馬区																	1	16			
足立																	2	23			
葛飾区																		10			
江戸川																	1	20			
八王子市																		24			
町田市																		5			
西多摩																	1	12		1	
南多摩																		10			
多摩立川																		26			
多摩府中																	1	2	29		
多摩小平																	1	23	1		
島しょ																		1			
合 計																	2	25	471	7	4

* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-2(2) 四類感染症 保健所別患者報告数

2024年第1週～第52週

	四類												
	E型肝炎	A型肝炎	エキノコツクス症	エムポツクス	コクシジオイデス症	チクシジニア熱	つつが虫病	デング熱	日本脳炎	マラリア	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症
千代田	8	1						2				7	
中央区	1										1	3	
みなと	19	2		1				10		2		8	1
新宿区	18	3	1	8	1			19		4		5	
文京	8	5		3		1		4		2		15	1
台東	1	1			1							7	
墨田区	3			1				2				5	
江東区	6											2	
品川区	9							2				5	
目黒区	3							1				4	
大田区	9	1				1		7		1		8	
世田谷	1	1						1				3	
渋谷区	3	1		1				4		1		8	1
中野区	1											3	1
杉並	2							3				2	
池袋	1											1	
北区	5						1					3	
荒川区												3	
板橋区	10	1						3				34	
練馬区	4							1				8	1
足立	5							1				4	
葛飾区	2					1		2				6	
江戸川	7	2										2	
八王子市	1							2	1			12	
町田市	3	1										4	
西多摩	2						1	2				16	
南多摩	2											3	
多摩立川	2	1				1						20	
多摩府中	5					1	2	2				9	
多摩小平	1	1										51	
島しょ							1						
	142	21	1	14	2	5	5	68	1	10	1	261	5

表3-2(3) 全数把握対象の五類感染症 保健所別患者報告数

2024年第1週～第52週

	五類																					
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）	急性脳炎	クリプトポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネットバクター感染症	
千代田	4	2	2					5	3				5		44	1		7				
中央区	7		7					5	15		2	1	6		228			1				
みなと	8	4	24	1				9	19		4		13	3	205			21			1	
新宿区	24	4	7	1	1	9		17	121	11	5	1	17	7	1,271	2	1	9		2		
文京	6	5	24		10	1	1	32	18	1	7		28	2	174	3		2	10			
台東	1	1	3						2		1		4		138				9			
墨田区	2		1		1	1	1	9	8		1	2	10	3	39						2	
江東区	4	1	2	1				1	1				4	1	33			20		1		
品川区	4	1	13		2			1	11	11	1	3	1	15	2	165			5		1	
目黒区	2		3			1	1	3	3			1	14	3	32	1		20				
大田区	3	1	9		3			18	7		2		10	4	45	1		1	13			
世田谷	3	5	5		14	1	1	3	3		5		8	8	41	2		96				
渋谷区	2		12		1			9	17		1	1	8	2	362			1	4			
中野区	2	1	2		1			3	7		1		2	3	19			2	1			
杉並	2	1	1					6	6				4	4	37			11				
池袋	4	1	3		1				2	1			2		362			5				
北区			1	7				2	3		2		7	2	47	1						
荒川区															21							
板橋区	6	2	20	1	1			23	11		5		15	6	53	3		16				
練馬区	3		5		1			10	3		3		12	1	31		1	2	8			
足立	1		4					8	1		3		4	1	51			15		2		
葛飾区			10				1		2		1		4	3	27			1	8		1	
江戸川			4	2				2	3		4		5	2	54	3		19		1		
八王子市	1	2	2		1			4	2				9	2	39	2		25				
町田市	1		1		1			2					1	1	27			9				
西多摩	1		1					4	2		1	1	2		11			15				
南多摩	2		3					5			2	1	7	2	42			10				
多摩立川	2		12				1	8	3		3		13	1	77	1		9				
多摩府中	5	4	14	1	13	1	4	32	15	1	10	1	34	5	53	1	1	22				
多摩小平	3	2	10		3			15	1		4		18		32			11				
島しょ																						
合 計	103	42	209	5	54	14	11	246	289	15	70	10	281	68	3,760	21	3	7	400	1	10	1

表3-3(1) 一、二、三類感染症 年齢階級別患者報告数

2024年第1週～第52週

	一類						二類						三類							
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラツサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ	鳥インフルエンザ	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	
0歳																				
1～4歳																		15	1	
5～9歳																1	24	1		
10～14歳																	22	1		
15～19歳																1	45		1	
20～24歳																2	85			
25～29歳																5	68		1	
30～34歳																4	38	1		
35～39歳																1	34	1	1	
40～44歳																4	17			
45～49歳																	21			
50～54歳																1	1	31		
55～59歳																2	15	1		
60～64歳																1	2	10		
65～69歳																1	15	1	1	
70～74歳																	13			
75～79歳																1	8			
80～84歳																	3			
85～89歳																	5			
90歳以上																	2			
合計																2	25	471	7	4

* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-3(2) 四類感染症 年齢階級別患者報告数

2024年第1週～第52週

	四類												
	E型肝炎	A型肝炎	エキノコツクス症	エムポックス	コクシジオイデス症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本脳炎	マラリア	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症
0歳													
1～4歳													
5～9歳								1					
10～14歳		1											
15～19歳	1							4			1		
20～24歳		1	1					5					
25～29歳	7	1		2			1	11					
30～34歳	2	1		6		2	1	11				2	1
35～39歳	6	1		2		1		13		2		2	
40～44歳	12	2		3		1		5		1		6	
45～49歳	13	1		1				5		2		14	
50～54歳	31	1			1		1	7		2	1	13	3
55～59歳	23	1				1		3				24	
60～64歳	12	4						2				32	1
65～69歳	10	1			1			1		3		32	
70～74歳	13	2					1					42	
75～79歳	8	1							1			32	
80～84歳	3	2					1					32	
85～89歳	1	1										18	
90歳以上												11	
合計	142	21	1	14	2	5	5	68	1	10	1	261	5

表3-3(3) 全数把握対象の五類感染症 年齢階級別患者報告数

2024年第1週～第52週

	五類																			薬剤耐性アシネットバクター感染症		
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）	急性脳炎	クリプトスピロジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	
0歳		4	5		4					3		7	1	5				14		2		
1～4歳			3	1	23					4		20						23		1	1	
5～9歳			2	2	13			2		1	1	8	2					66				
10～14歳			2	2	6			2				1	2	1				139				
15～19歳		1	2		1			2	1			1	7	139				31				
20～24歳	1	6	1		1	2		1	40		1	2	7	802				16		1		
25～29歳	3	9	1			2		2	59		2		2	6	661	1			9	1	2	
30～34歳	5	4	2		1	2		3	52	3	1	1	6	7	445	2			19			
35～39歳	7	4	3			1		8	42	3		1	15	5	377	1			13		1	
40～44歳	9	3	4			2		10	28	1	1		12	5	339	2		1	14		1	
45～49歳	7	1	8			3		15	25	1	4		11	5	323				12		2	
50～54歳	25	3	6			1	1	21	17	2	2	2	17	3	277	1			8			
55～59歳	10	2	15					18	14	2	3	1	14	1	176				17			
60～64歳	13		20		1	1		11	4	1	4	1	12	2	103	1		1	8			
65～69歳	7	1	18		1		1	27	2	1	2		27	3	54		1		2			
70～74歳	8		22		1		2	21	3		11	1	35	2	25	1		1	3			
75～79歳	4	1	27				3	30			8	1	26	4	16	2		2	4			
80～84歳	3	3	28		2		2	32			6		37	3	4	5	1		2			
85～89歳	1		28				2	27	1		7		19	1	5	2	1	1				
90歳以上			12					16			11		9	2	3	3		1				
不明															5							
合 計	103	42	209	5	54	14	11	246	289	15	70	10	281	68	3,760	21	3	7	400	1	10	1

(2) 小児科・内科疾患

ア インフルエンザ

2024 年の報告数は 143,719 人、定点当たり 345.47 人だった。前年（2023 年）は、前々年（2022 年）に比べ大きく増加し、過去 10 年で最高の報告数となったものの、2024 年は前年比 0.86 倍と減少した。

2022/23 シーズンは、2022 年 50 週（12.12～12.18）に 1.12 人と 1.0 人を超えて流行期に入ったと判断されたあと、2023 年は、7 週（2.13～2.19）に 10.04 人と流行注意報発令基準（定点当たり 10.0 人）を超える、その後も 10.0 人前後を推移して、11 週（3.13～3.19）に 7.74 人と 10.0 人以下となり、15 週（4.10～4.16）には 1.92 人と 2.0 人以下となり、流行警報発令基準（定点当たり 30.0 人）には達しなかったが、その後は 1.0 人～2.0 人前後で推移した。35 週（8.28～9.3）に 2.95 人、36 週（9.4～9.10）に 5.95 人と増加し、37 週（9.11～9.17）には 11.37 人と流行注意報発令基準を超えた。2023/24 シーズンは、2022/23 シーズン中に流行開始の指標である定点当たり報告数が 1.00 を下回る週がなかったため、シーズン最初から流行状態であった。その後も 10.0 人から 20.0 人前後を推移し、2023 年中には流行警報発令基準に達していないものの、2023 年中の流行期が長く持続したことによって、2023 年の報告数は過去 10 年で最高となった。

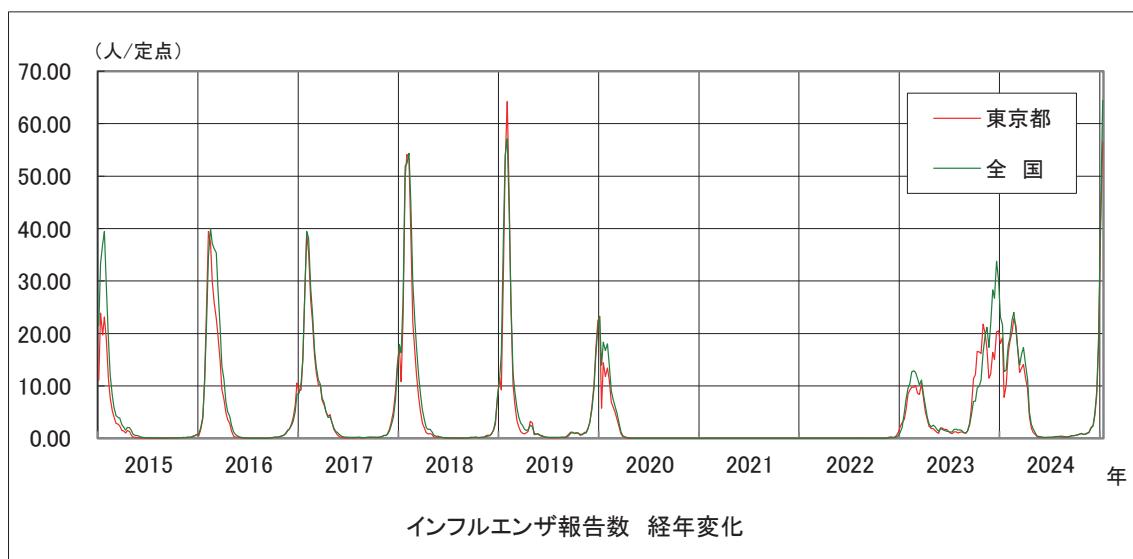
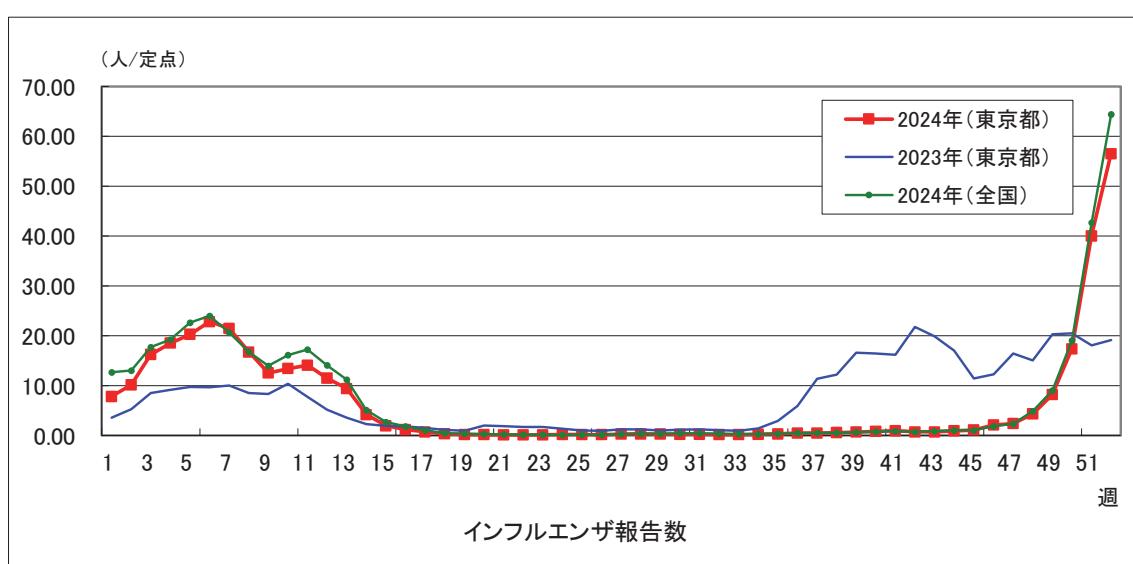
2024 年 1 週（1.1～1.7）は 7.81 人と、前年（2023 年）からの流行状態が持続したまま、2 週（1.8～1.14）には 10.13 人と流行注意報発令基準を超える、6 週（2.5～2.11）には 22.83 人とピークを迎えたあと、13 週（3.25～3.31）には 9.40 人と 10.00 人を下回り、17 週（4.22～4.28）には 0.72 人と 1.00 人を下回り、その後は 1.0 人未満で推移した。

2024/25 シーズンは、45 週（11.4～11.10）に 1.12 人と 1.0 人を超えて流行期に入ったと判断されたあと、50 週（12.9～12.15）には 17.36 人と流行注意報発令基準を超える、51 週（12.16～12.22）には 40.02 人と流行警報発令基準を上回った。52 週（12.23～12.29）に 56.52 人とピークを迎えたあと、2025 年 4 週（1.20～1.26）には 6.60 人と流行注意報発令基準である 10.0 人を下回った。

2024 年は前年比 0.86 倍と減少したが、2023 年の流行状況が、COVID-19 流行以前の傾向と違って、2023/24 シーズンの流行が早く始まったのに対し、2024/25 シーズンの流行開始は、COVID-19 流行以前の状況に近づいた影響もあったと考えられる。

2024 年の保健所別定点当たり患者報告数で最も多かったのは、八王子市の 591.34 人、次いで荒川区の 538.64 人、多摩小平の 483.09 人であった。

年齢階級別に患者報告数をみると 1 歳未満 1,182 人（0.8%）、1 歳～10 歳未満 56,736 人（39.5%）、10 歳～20 歳未満 46,786 人（32.6%）、20 歳～60 歳未満 34,072 人（23.7%）、60 歳以上 4,943 人（3.4%）であった。



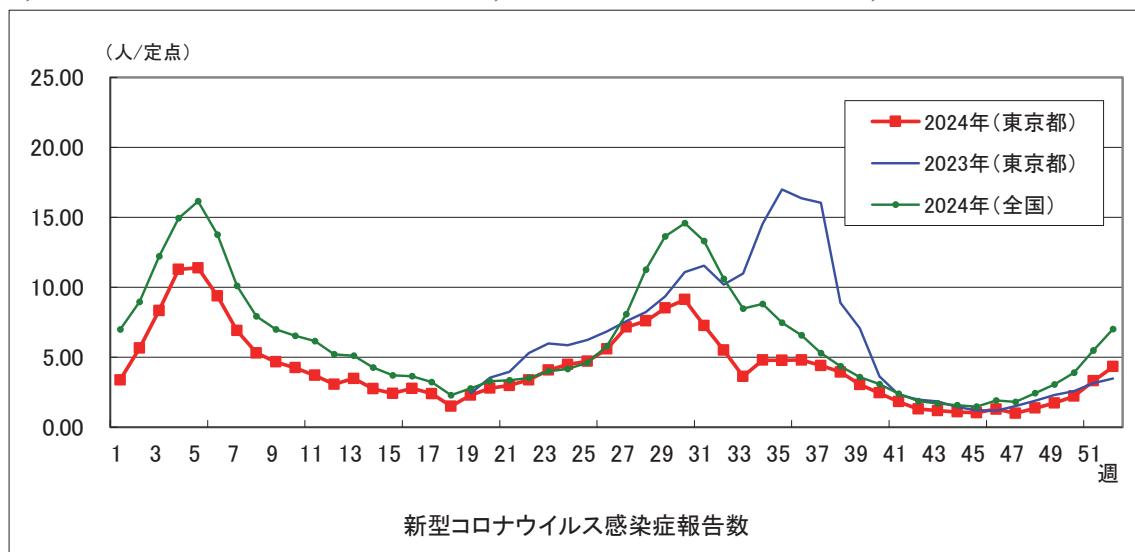
イ 新型コロナウイルス感染症

2024年の報告数は91,965人、定点当たり221.34人であった。前年比(定点当たり)は1.02であった。2024年の報告数は前年並みであったが、2023年の報告数は2023年の5月に定点把握対象となって以後の数値であり、それを考慮すれば前年より減少したと考えられる。

週別定点当たりの報告数では、2023年38週(9.18～9.24)には8.89人と10.0人を下回り、46週(11.13～11.19)には1.17人と2023年で最も少ない報告数であったが、その後、増加傾向を示し、2024年4週(1.22～1.28)には11.27人と10.0人を超えた。5週(1.29～2.4)には11.38人とピークを迎え、6週(2.5～2.11)には9.37人と10.0人を下回った。以後、減少傾向で推移し18週(4.29～5.5)には1.49人まで低下したあと、増加傾向に転じたが、30週(7.22～7.28)の9.12人をピークに、ふたたび減少傾向を呈した。47週(11.18～11.24)には0.99人と1.0人を下回ったものの、その後はやや増加傾向となり、52週(12.23～12.29)には4.33人となった。その後、本稿執筆時点で、2024年は1.0～4.0人前後で推移している。

保健所別定点当たりの報告数で最も多かったのは島しょの369.50人、次いで墨田区の354.17人であった。

年齢階級別報告数では、1歳未満2,049人(2.2%)、1歳～10歳未満11,460人(12.5%)、10歳～20歳未満14,183人(15.4%)、20歳～60歳未満45,317人(49.3%)、60歳以上18,956人(20.6%)であった。



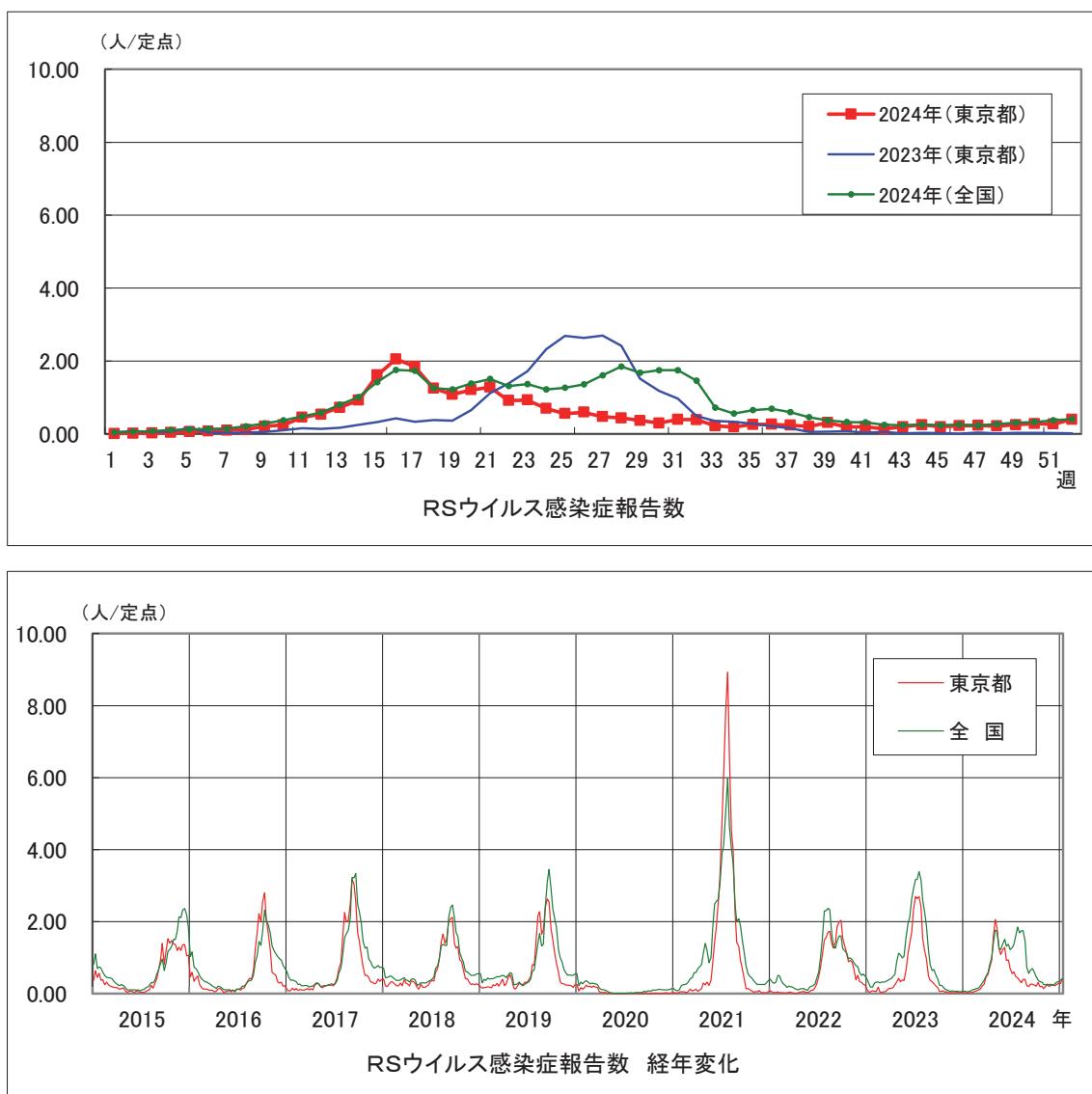
ウ RS ウイルス感染症

2024 年の報告数は 6,485 人、定点当たり 24.69 人であった。2003 年の調査開始以降最も多い報告数であった 2021 年より大きく減少した 2022 年以降、減少傾向にあるが、ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 30.00 人であり、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行以前の例年並みの報告数より、やや低い数値であった。

週別定点当たりの報告数では 15 週（4.8～4.14）に 1.62 人と 1.0 人を超えた、16 週（4.15～4.21）には 2.05 人とピークを迎え、22 週（5.27～6.2）には 0.92 人と 1.0 人を下回った。

保健所別定点当たりの報告数で最も多かったのは荒川区の 100.67 人であった。

年齢階級別報告数では 6 か月未満が 606 人(9.3%)、6 か月～12 か月未満が 1,170 人(18.0%)、1 歳代が 2,445 人(37.7%)、2 歳代が 1,170 人 (18.0%) と 2 歳以下で 83.1% を占めている。



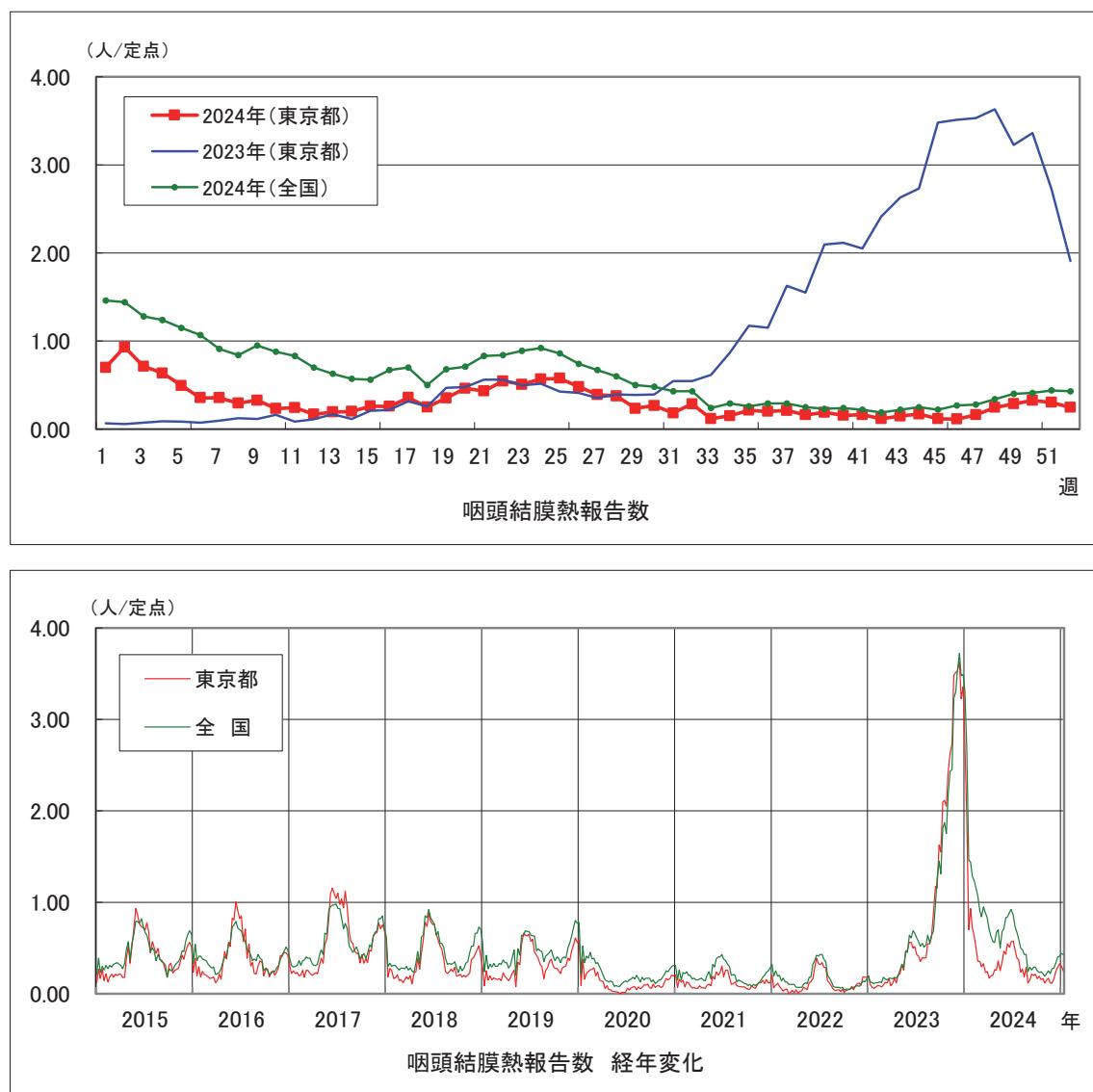
工 咽頭結膜熱

2024年の報告数は4,310人、定点当たり16.44人と、前年（2023年）の報告数14,418人、定点当たり55.36人を大きく下回った。前年比（定点当たり）は0.30であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は19.27人であり、2024年の報告数はここ10年ではやや少なめの報告数であった。

週別定点当たりの報告数では、前年（2023年）48週（11.27～12.3）には3.63人とピークを迎えたあと、2024年1週（1.1～1.7）に0.70人と1.0人を下回り、以降年間を通じて1.0未満で推移した。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは足立の48.44人、次いで多摩小平の39.45人、大田区の36.74人であった。

年齢階級別報告数では1歳代が916人（21.3%）と最も多く、6歳代以下で82.7%を占めている。



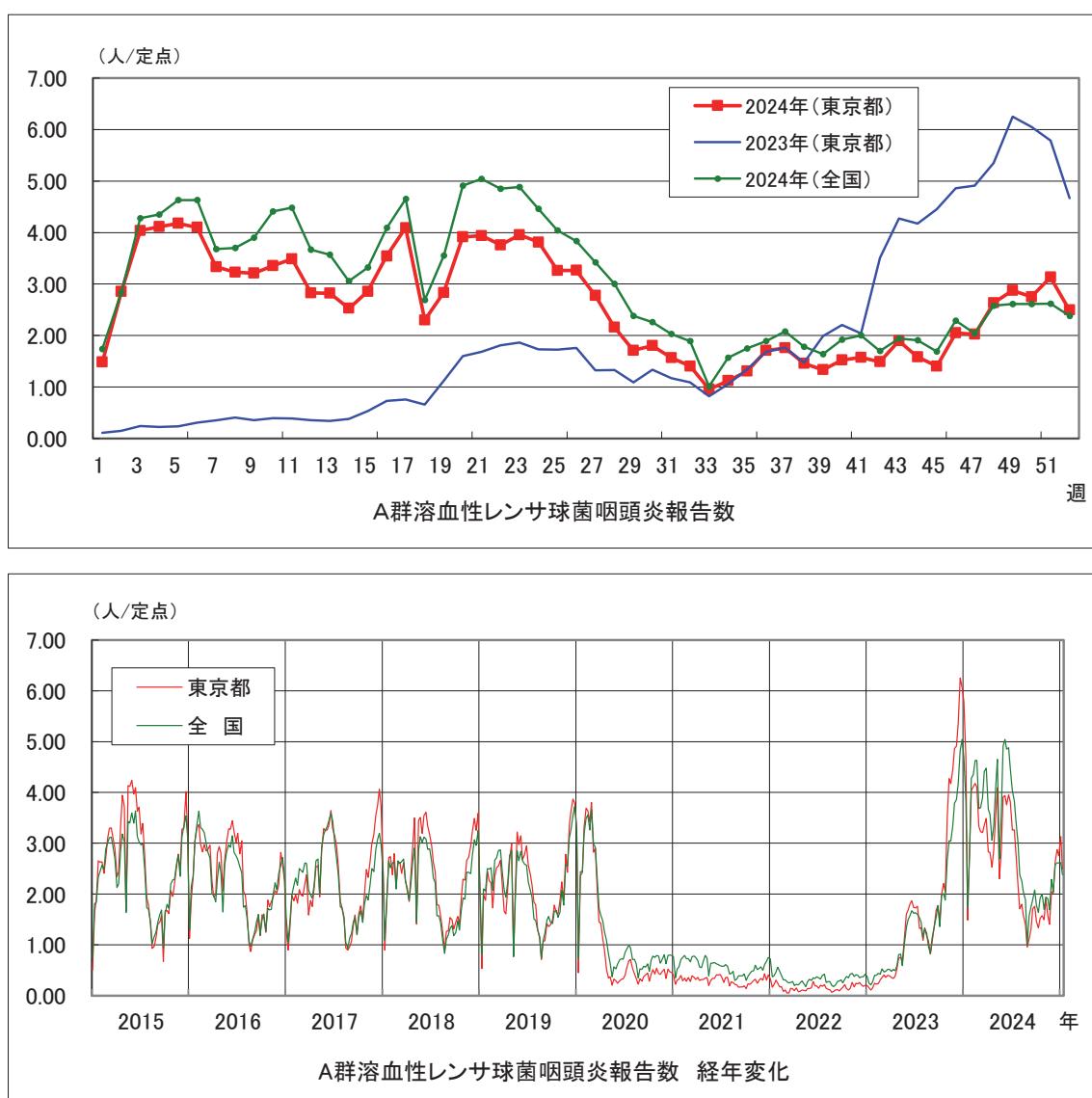
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024年の報告数は35,588人、定点当たり135.59人と、前年（2023年）の報告数25,052人、定点当たり96.27人を上回った。前年比（定点当たり）は1.41倍だった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は91.55人であるが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行以前の水準を上回り、2015年の報告数と同程度であった。

週別定点当たりの報告数では、2023年49週（12.4～12.10）に6.25人とピークを迎えた後は4.05人～6.05人で推移し、2024年1週（1.1～1.7）に1.49人と低下した。その後、2024年前半は2.0人～4.0人前後で推移した。29週（7.15～7.21）に1.71人と2.0人を下回り、以降1.0人～2.0人未満で推移し、46週（11.11～11.17）に2.05人と2.0人を超えた後は2.0人から3.0人前後で推移した。2025年1週（12.30～1.4）に0.44人と低下したが、本稿執筆時点では、2.0人前後で推移している。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは多摩小平の264.37人、次いで荒川区の247.25人、中野区の245.40人であった。

年齢階級別報告数では、2歳代から9歳代の合計が26,811人で、75.3%を占めている。



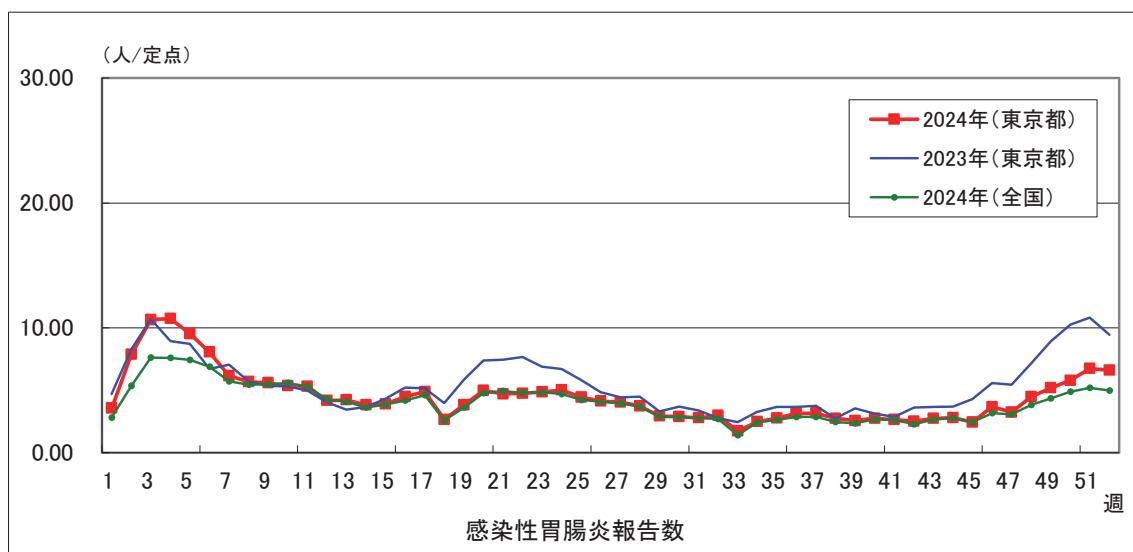
力 感染性胃腸炎

2024年の報告数は61,265人、定点当たり233.59人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均280.07人であり、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行以前の報告数と比較しても、少なめの報告数であった。

週別定点当たりの報告では、2週(1.8~1.14)から7週(2.12~2.18)にかけて、6.0人を超える山があり、その後は2.0~5.0人前後で推移したが、51週(12.16~12.22)、52週(12.23~12.29)と6.0人を上回り、年始に減少したものの、2025年に入っても増加傾向を呈し2025年6週には10.00人となった。2024年のピークは4週(1.22~1.28)の10.75人であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは台東の481.50人、次いで八王子市の416.92人であった。

年齢階級別報告数では1歳代が7,044人(11.5%)、2歳代が5,423人(8.9%)、3歳代が4,898人(8.0%)、4歳代が5,107人(8.3%)、5歳代が4,916人(8.0%)と、1歳代から5歳代で44.7%を占めている。



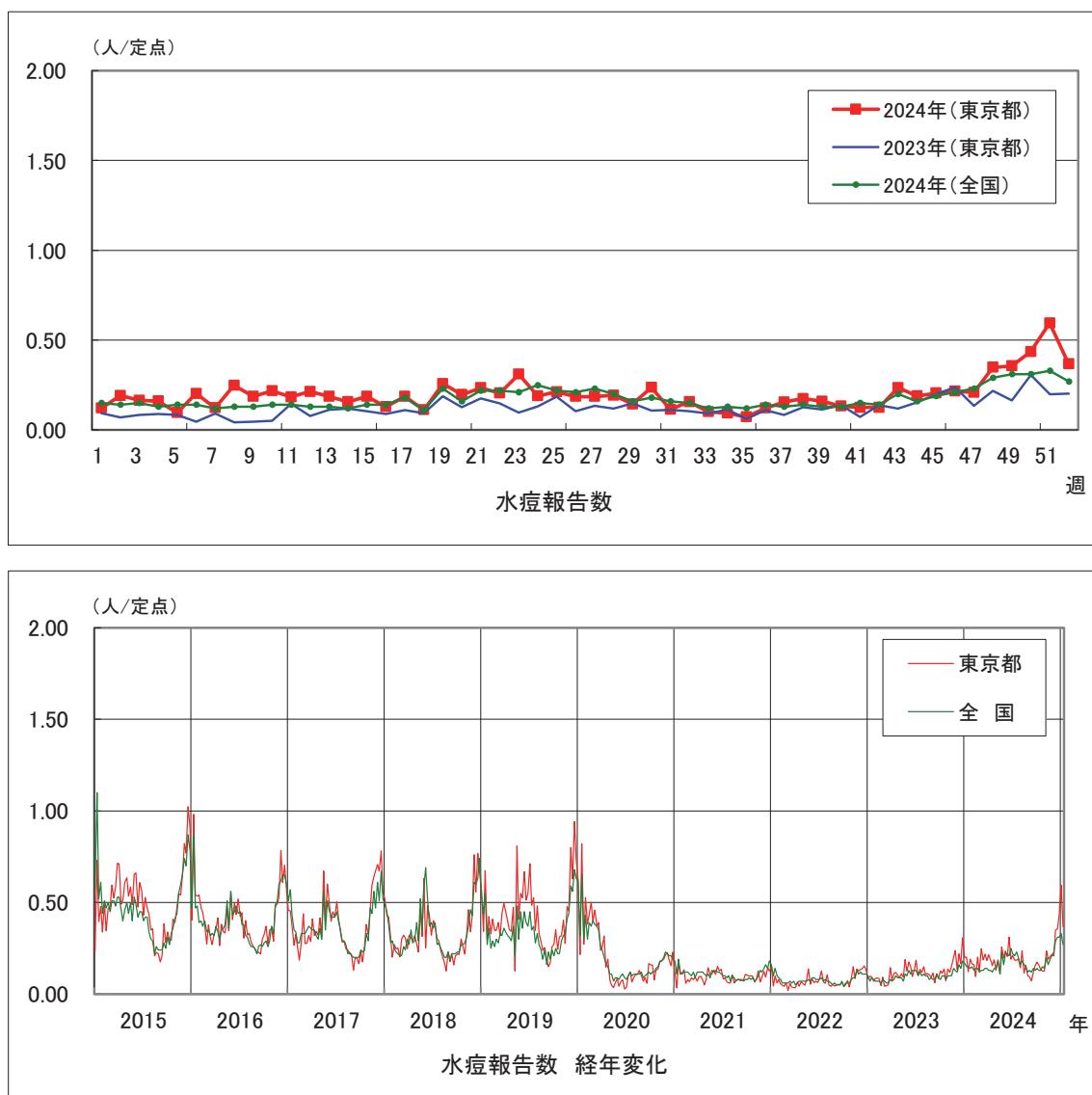
キ 水痘

2024年の報告数は2,706人、定点当たり10.30人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は14.23人であり、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行以前の報告数と比較しても、少なめの報告数であった。

週別定点当たりの報告数は、年間を通じて0.60人未満で推移した。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは中野区の31.57人であった。

年齢階級別報告数では、10歳未満で1,964人（72.6%）だったが、10～14歳も670人（24.8%）の報告があった。



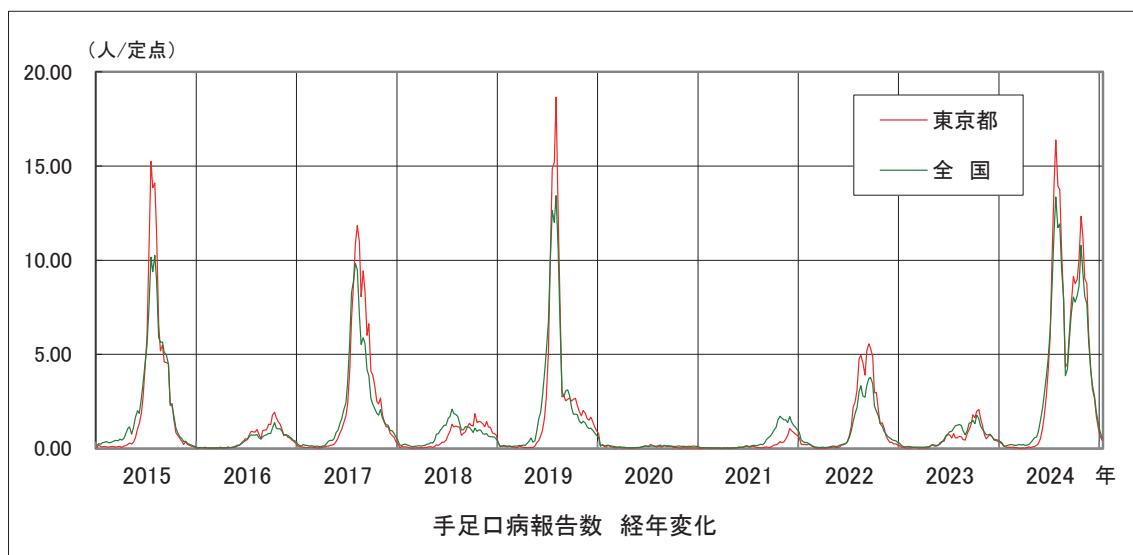
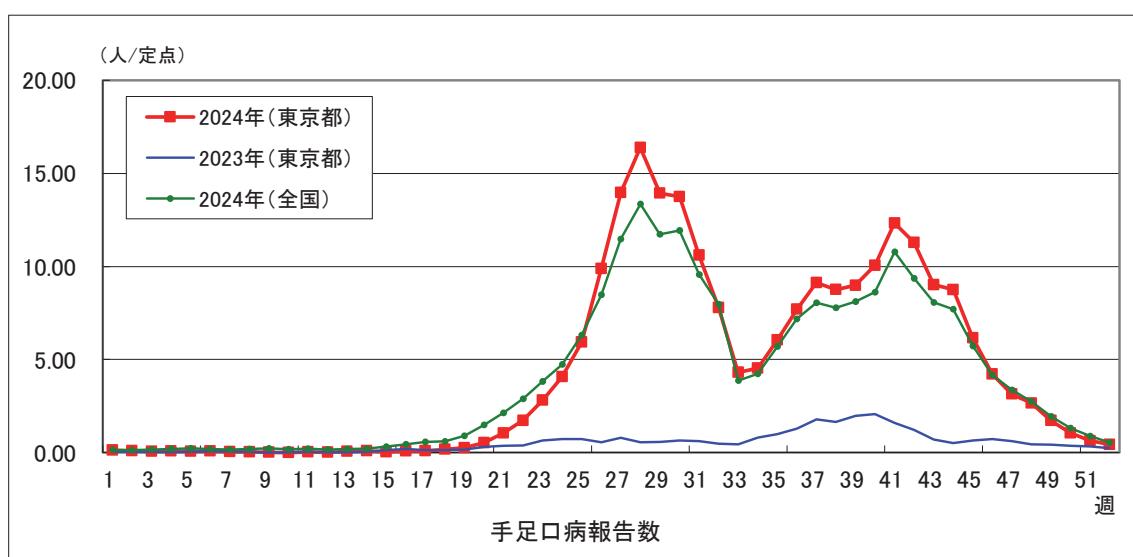
ク 手足口病

2024 年の報告数は 59,022 人、定点当たり 224.86 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 77.97 人であった。近年では 2010 年以降 1 年ごとに報告の多い年と少ない年を繰り返しており、2020 年は報告数が少ない年に、2021 年は報告数が多い年にあたっていたが、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する感染予防対策の影響もあってか、定点当たりの報告数は圧倒的に少ない報告数であった。2022 年は報告数の多い年に、2023 年は少ない年に当たると考えられ、2023 年は前年 (2022 年) に比較して報告数は低下し、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行以前の、報告数が少ない年並みの報告数であった。この順番で行けば 2024 年は報告数が多い年に当たり、前年比 (定点当たり) は 8.15 となって、ここ 10 年では、最も多い報告数となった。

週別定点当たりの報告数では、年初から 1.0 人未満で推移していたが、21 週 (5.20~5.26) に 1.05 人となり、28 週 (7.8~7.14) に 16.39 人と、41 週 (10.7~10.13) に 12.33 人と、2 つの山をもって流行し、51 週 (12.16~12.22) に 0.64 人と 1.0 人未満となった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは、荒川区の 411.17 人で、次いで多摩小平の 400.81 人であった。

年齢階級別報告数では 1 歳代が 14,788 人(25.1%) と最も多かった。



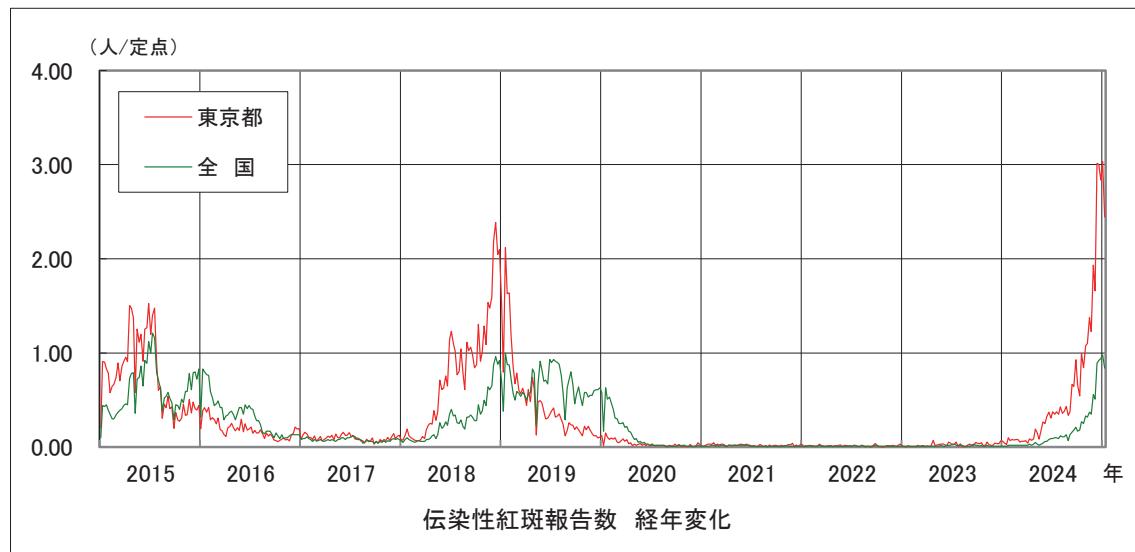
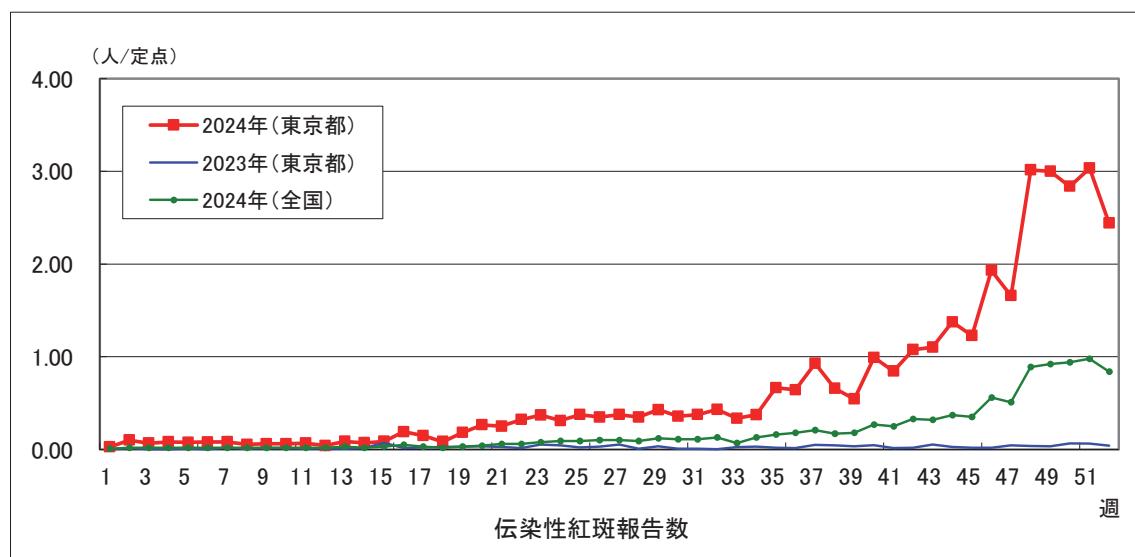
ケ 伝染性紅斑

2024年の報告数は9,187人、定点当たり34.90人であった。前年比（定点当たり）は26.04と2023年に比べ著しく増加した。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は15.84人であり、2024年の報告数はこの10年では2018年、2015年に次いで多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数は、年初から1.0人未満で推移していたが、42週（10.14～10.20）に1.08人と1.0人を上回り、51週（12.16～12.22）に3.03人とピークを迎えた。2025年に入っても年初を除いて2.0人前後で推移している。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは荒川区の68.08人、次いで多摩府中の59.38人、文京の57.25人であった。

年齢階級別報告数では5歳代が1,659人（18.1%）、4歳代が1,510人（16.4%）、6歳代が1,364人（14.8%）と多かった。



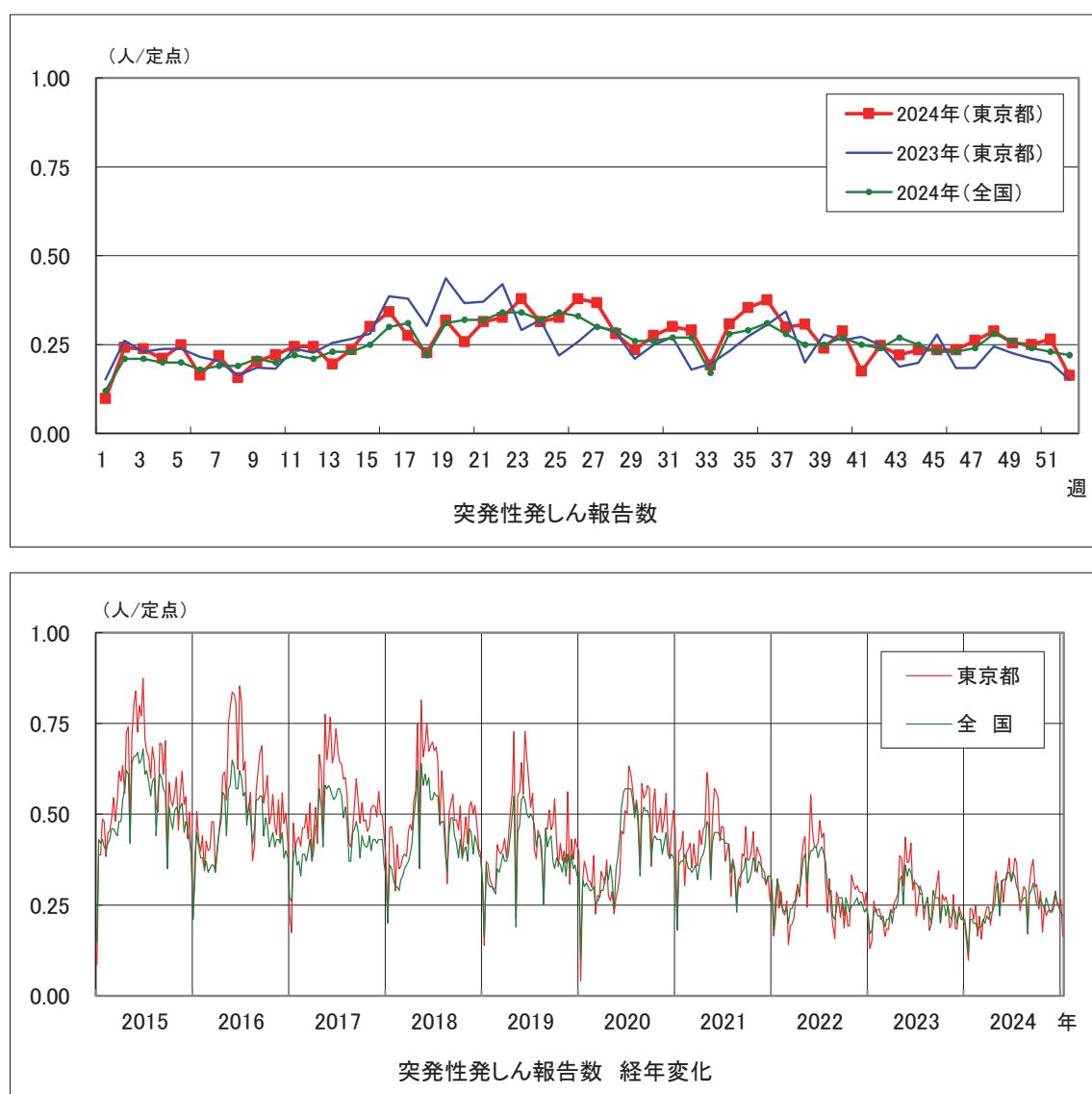
コ 突発性発しん

2024年の報告数は3,571人、定点当たり13.61人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は21.82人であり、2024年の定点当たりの報告数はここ10年では2023年に次いで少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では、春から秋にかけて多い傾向も見られるが、季節変動は少なかった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは荒川区の33.17人であった。

年齢階級別報告数では1歳代が1,884人(52.8%)と最も多かった。



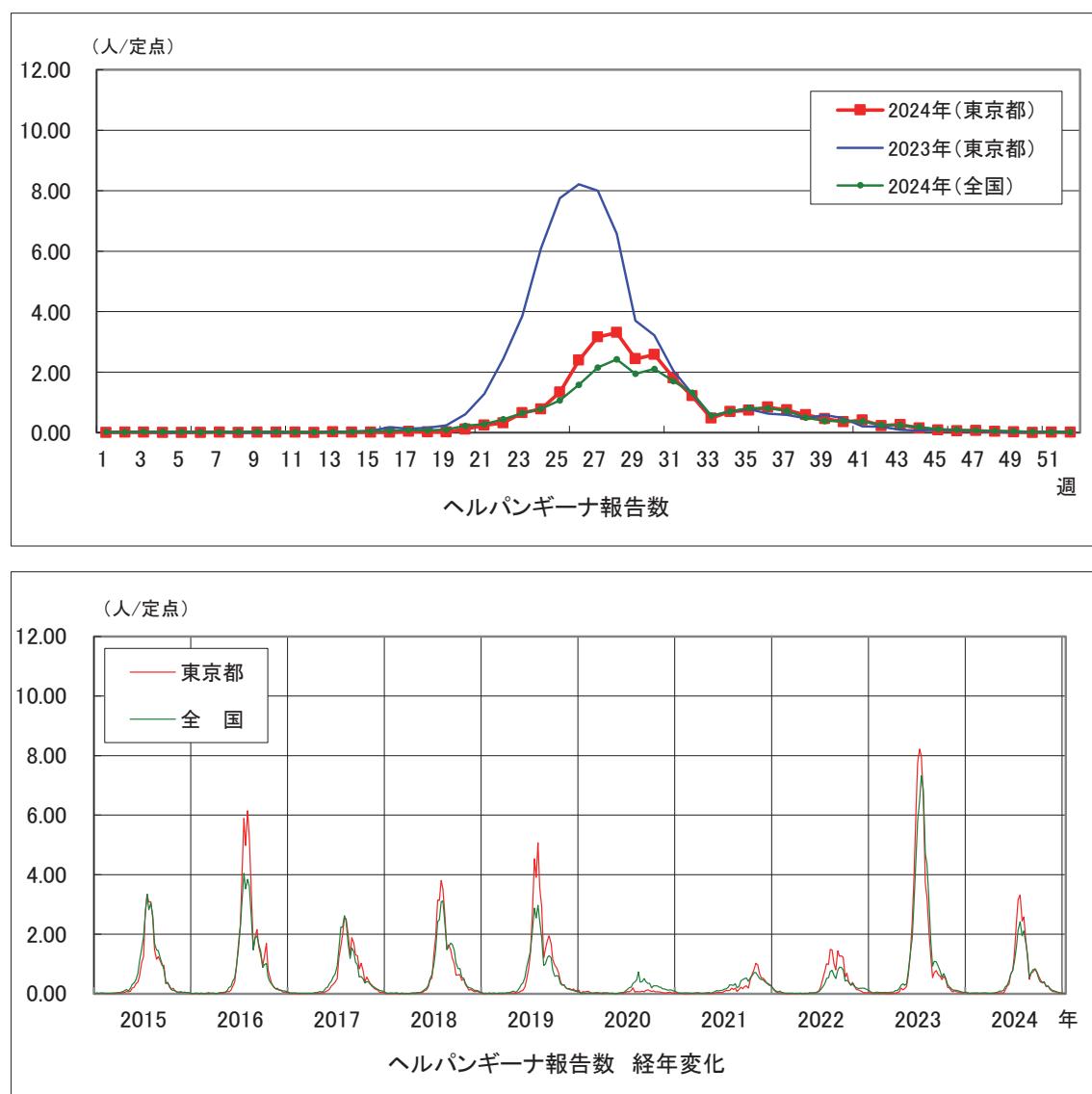
サ ヘルパンギーナ

2024年の報告数は7,063人、定点当たり26.91人であった。ここ10年の定点当たりの平均は29.60人であった。前年比（定点当たり）0.44と、ここ10年では最も多い報告数であった2023年を、大きく下回った。

週別定点当たりの報告数では、年初から0.10人未満で推移していたが、20週（5.13～5.19）に0.12人とやや増えたあと増加傾向を示し、25週（6.17～6.23）に1.34人と1.0人を超えた。ピークは28週（7.8～7.14）の3.31人であった。33週（8.12～8.18）には0.48人と1.0人未満となり、45週（11.4～11.10）以降は、0.10人未満で推移した。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは大田区の46.96人であった。

年齢階級別報告数では1歳代が1,642人（23.2%）と最も多く、次いで2歳代が1,242人（17.6%）であった。



シ 流行性耳下腺炎

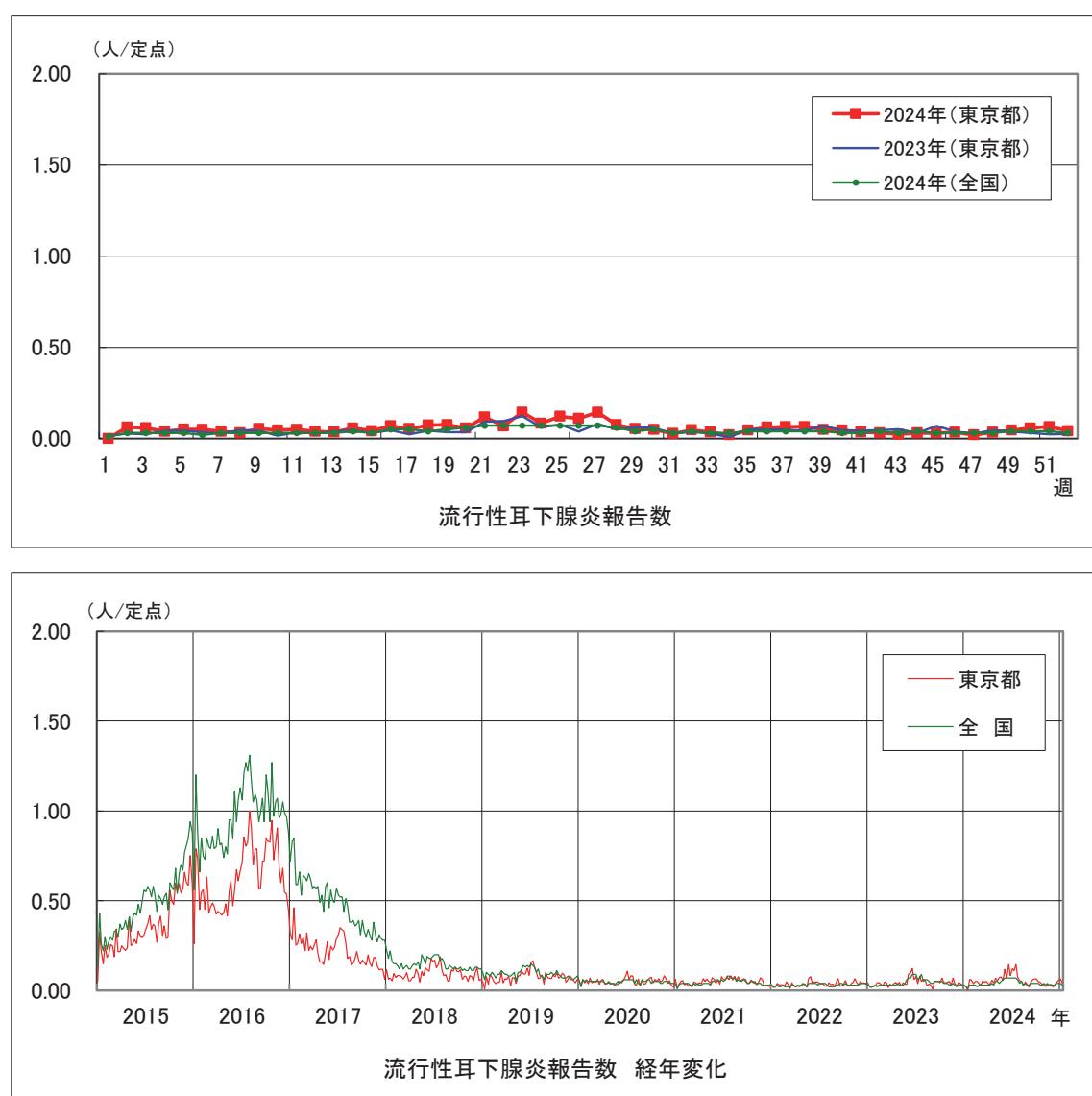
2024 年の報告数は 746 人、定点当たり 2.84 人であった。前年比（定点当たり）は 1.25 であった。

ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 8.37 人であり、2024 年の報告数はここ 10 年で 5 番目に少ない報告数であった。ここ 10 年では 2016 年に大きな流行があった。

週別定点当たりの報告数では季節変動は明らかではない。年間を通して 0.14 人以下で推移した。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは町田市の 6.38 人 であった。

年齢階級別報告数では 5 歳代が 117 人（15.7%）と最も多かった。



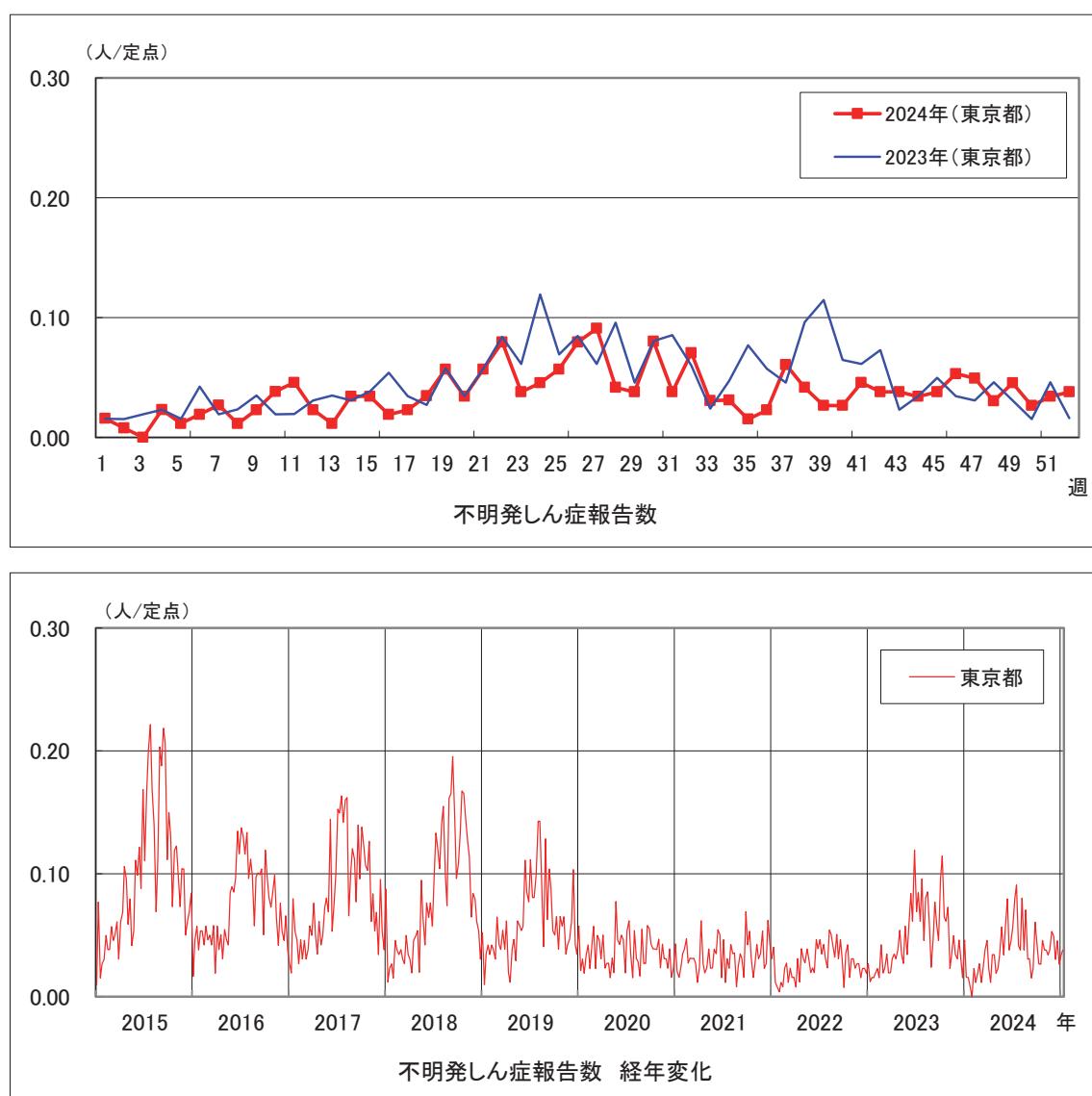
ス 不明発しん症

2024 年の報告数は 507 人、定点当たり 1.93 人であった。前年比（定点当たり）は 0.78 であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 2.98 人であり、2024 年の報告数はここ 10 年で 4 番目に少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では、2024 年は初夏から秋口にかけてやや多い傾向も見られるが、季節変動は顕著ではなかった。年間を通して 0.10 人未満で推移した。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは墨田区の 5.92 人、次いで多摩府中の 5.33 人であった。

年齢階級別報告数では 1 歳代が 113 人（22.3%）と最も多かった。



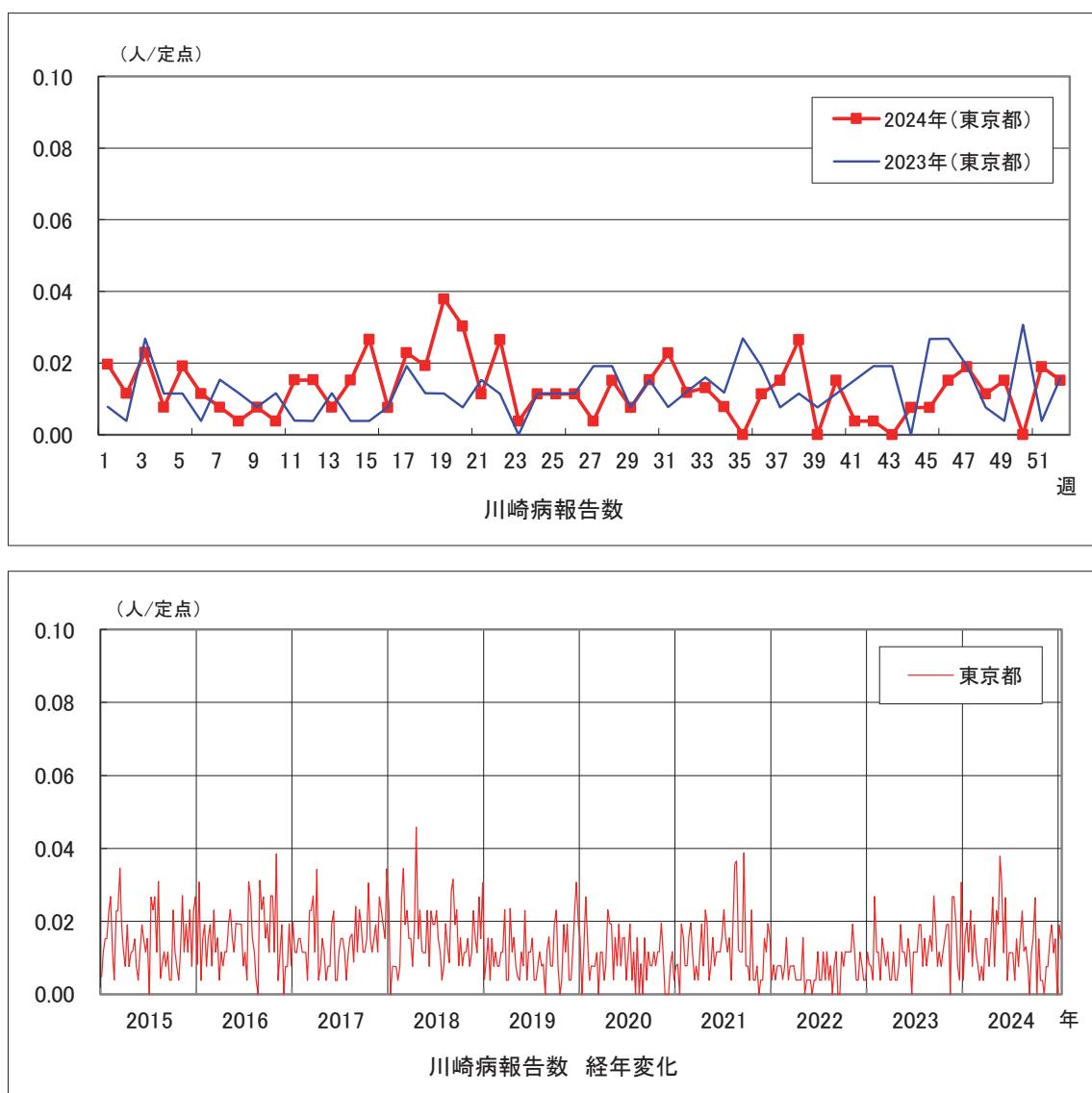
セ 川崎病

2024 年の報告数は 176 人、定点当たり 0.67 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 0.66 人であり、2024 年は、ここ 10 年でみると例年並みの報告数であった。

週別定点当たりの報告数では例年と同様に季節変動は明確でない。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは杉並の 3.82 人であった。

年齢階級別報告数では 1 歳代が 45 人 (25.6%) と最も多く、次いで 2 歳代が 39 人 (22.2%) だった。



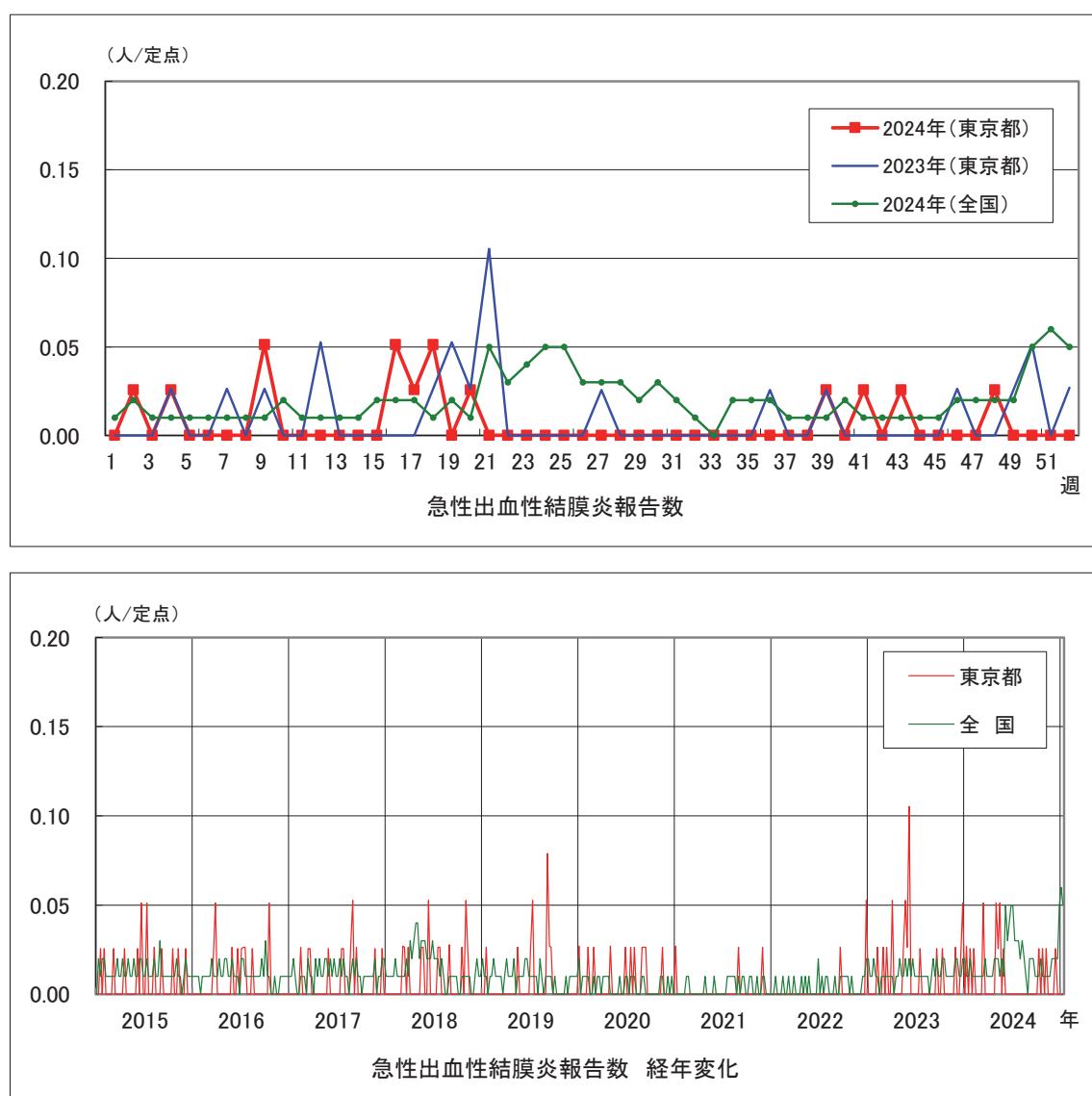
(3) 眼科疾患

ア 急性出血性結膜炎

2024年の報告数は14人、定点当たり0.36人であった。これは、過去10年間の平均年間報告数11.30人、定点当たり0.29人よりも多数であった。

週別患者報告数は16週～20週(4.15～5.19)で6人、21週～38週(5.20～9.22)で報告はなく、時期による変動が見られた。

年齢階級別報告数では30歳以上で86%を占めた。



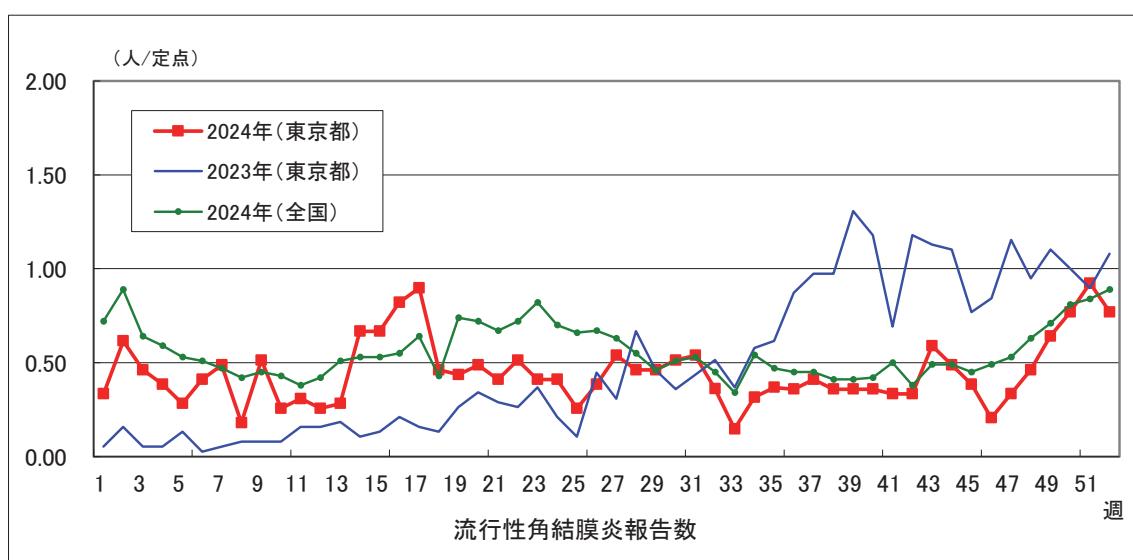
イ 流行性角結膜炎

2024 年の報告数は 909 人、定点当たり 23.37 人であった。これは、過去 10 年間の平均年間報告数 824.80 人、定点当たり 21.51 人よりも多数であった。

週別患者報告数は 16 週～17 週（4.15～4.28）と 50 週～52 週（12.9～12.29）で 30 人以上と多く、その他はほぼ平坦化していた。

二次医療圏別報告数は、区西南部圏と区西北部圏が 150 人以上と顕著に多かった。

年齢階級別報告数では 20 歳以上で 80% を占めた。



(4) 基幹定点医療機関における週報告疾患

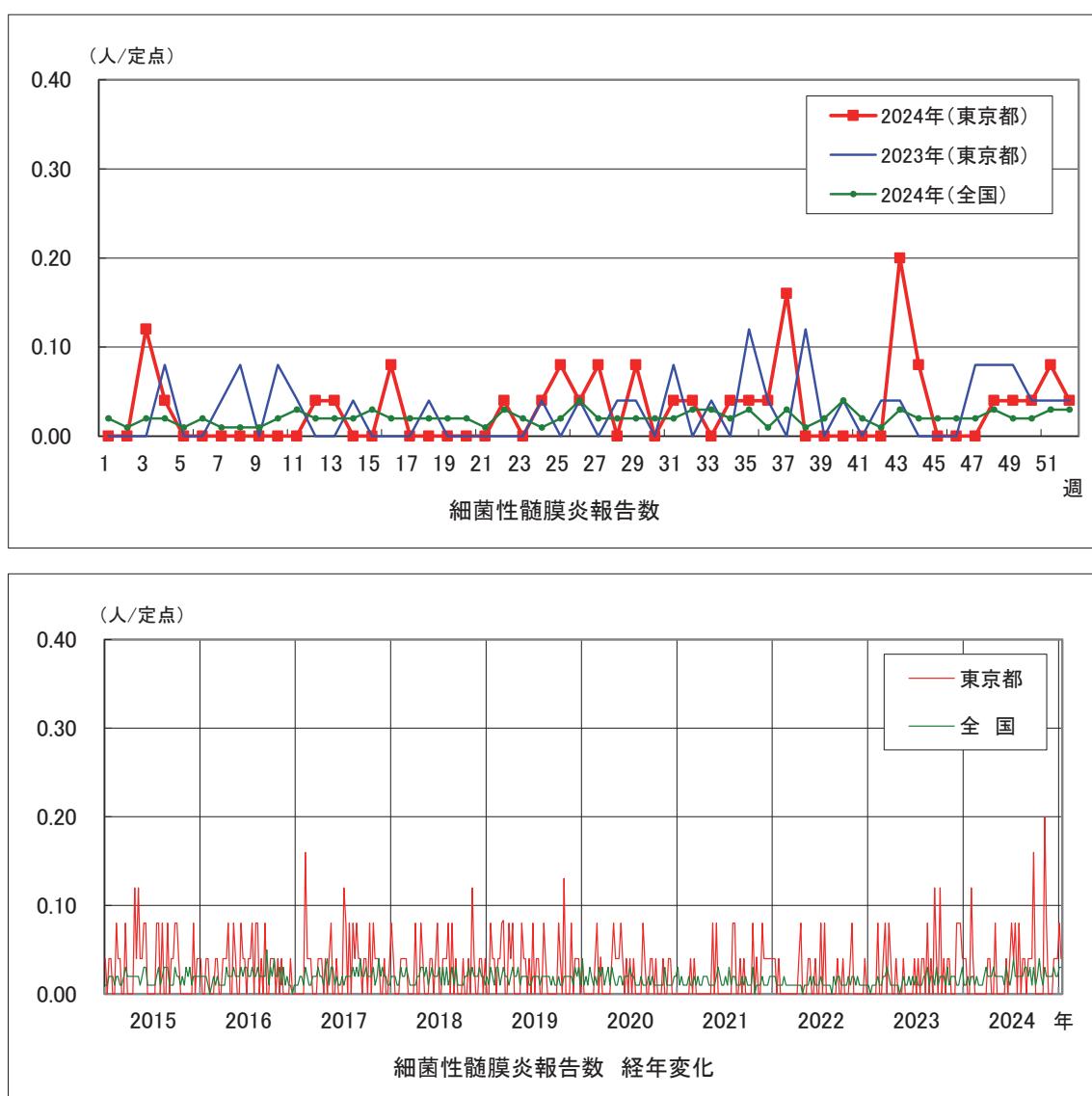
ア 細菌性髄膜炎

2024年の報告数は39人、定点当たり報告数は1.56人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.30人であり、2024年は、ここ10年でみると例年よりやや多めの報告数であった。

週別定点当たりの報告数では年間を通じて散しておき季節変動は明らかではない。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは多摩小平の4.50人、次いで墨田区の4.00人であった。

年齢階級別報告数では6か月未満が6人(15.4%)であった。



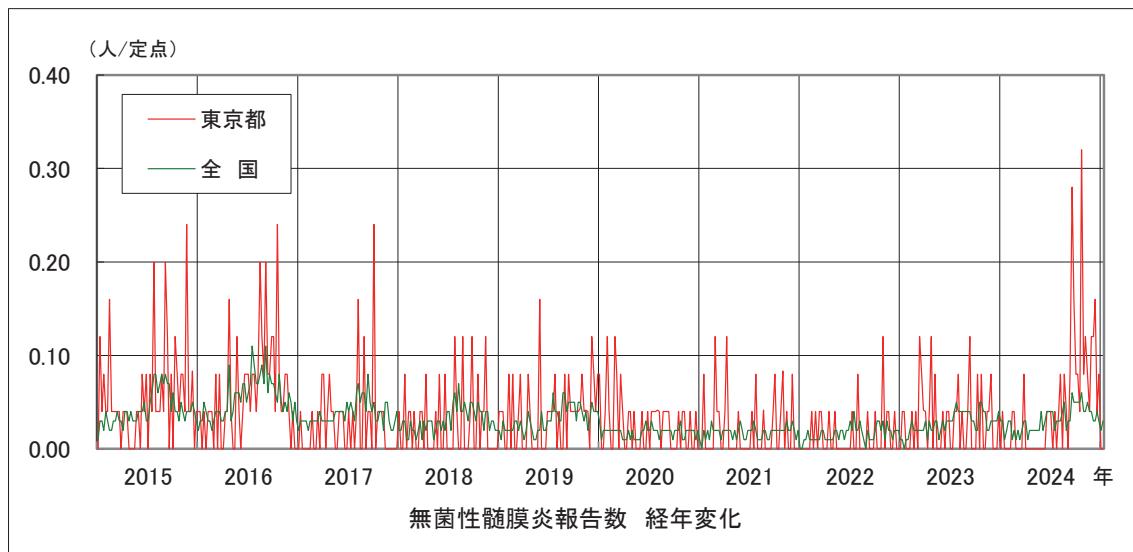
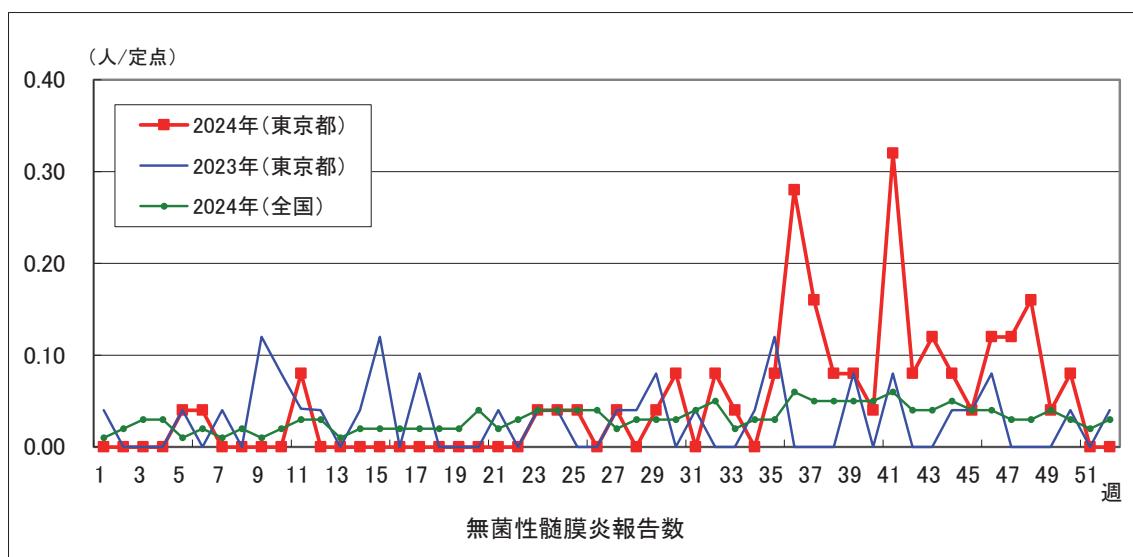
イ 無菌性髄膜炎

2024年の報告数は61人、定点当たり2.44であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.78人であり、2024年は、ここ10年では2016年、2015年に次いで多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数では年間を通じて散発しているが、秋口に2つの山が見られた。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは葛飾区の10.00人であった。

年齢階級別報告数では、6か月未満が27人(44.3%)、60歳以上が6人(9.8%)であった。



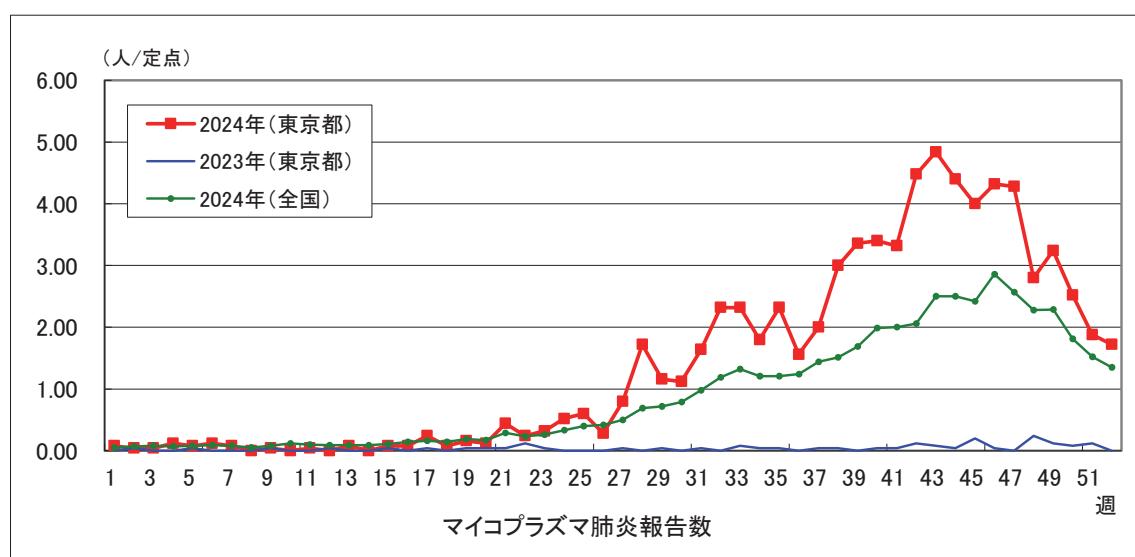
ウ マイコプラズマ肺炎

2024年の報告数は1,855人、定点当たりの報告数は74.20人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は18.95人であり、2024年はここ10年で最も多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数では初夏から冬にかけて、43週(10.21~10.27)をピークとする大きな山が見られた。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは、墨田区の220.00人であった。

年齢階級別報告数では10歳未満が1,064人(57.4%)、10歳代が607人(32.7%)であった。



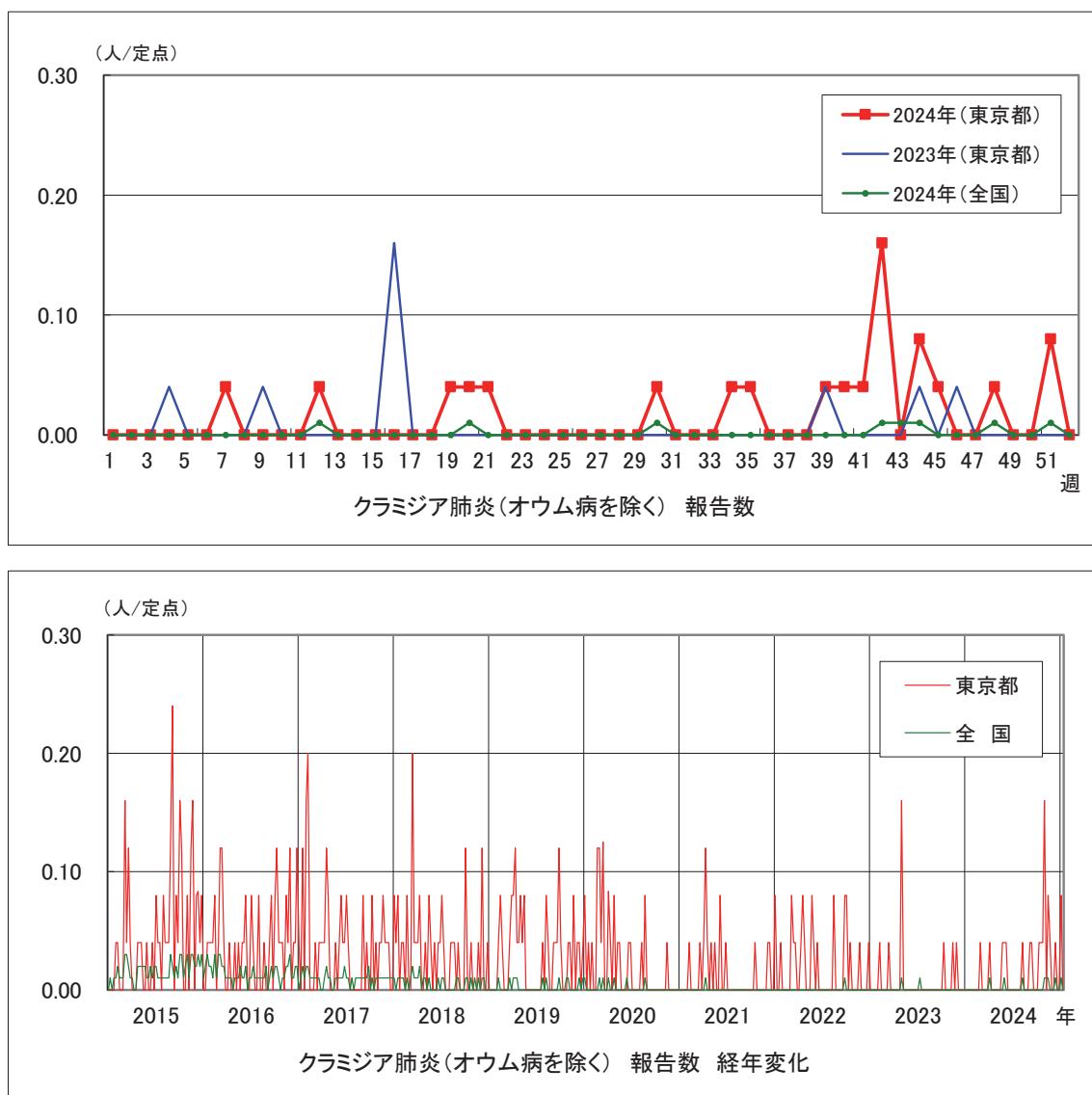
エ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

2024年の報告数は21人であり、定点当たりの報告数は0.84人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.31人であり、2024年の報告数は、ここ10年で2023年、2021年に次いで少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では年間を通じて散発しており明らかな季節変動は見られなかった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは、みなどの4.00人であった。

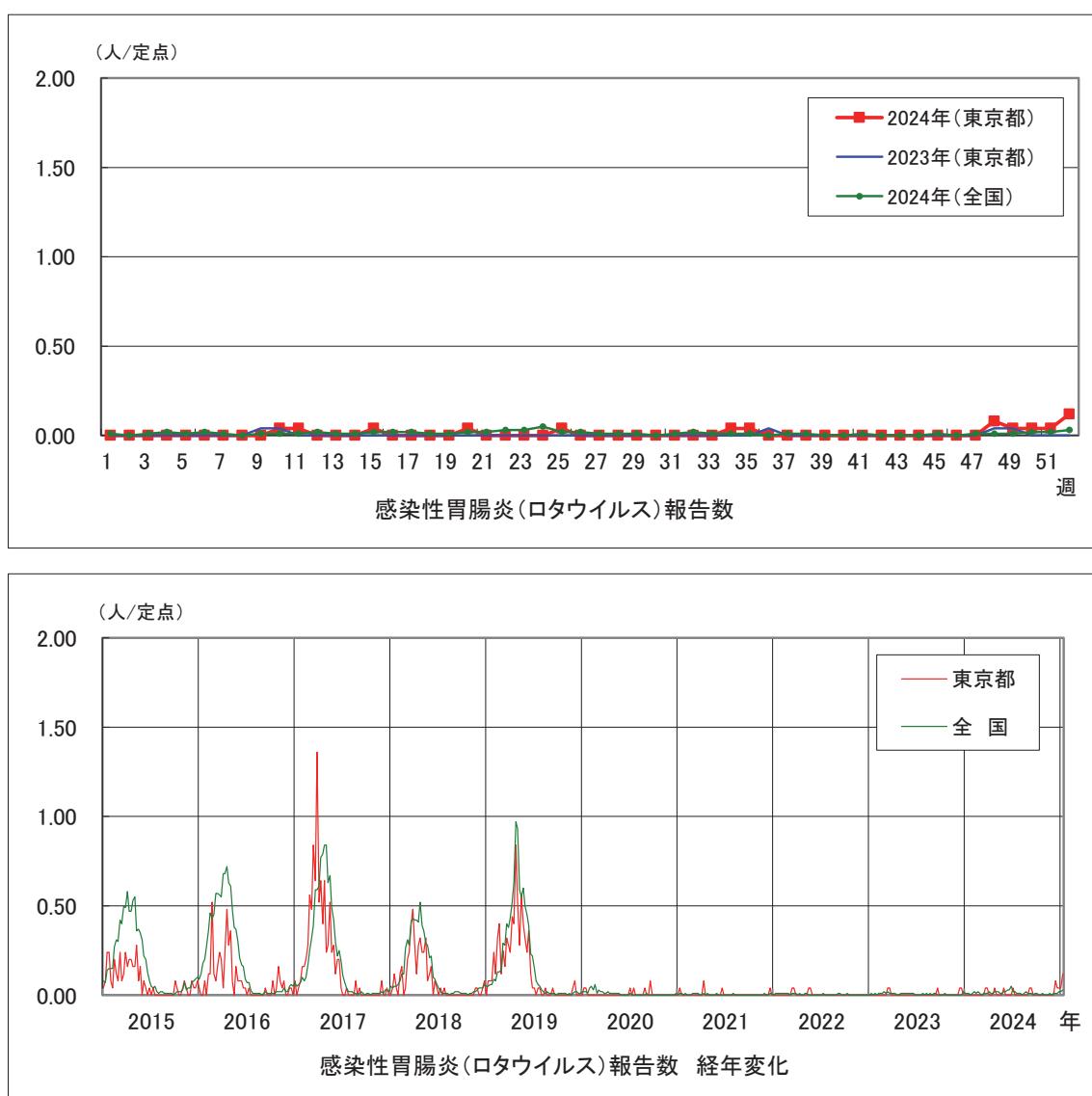
年齢階級別報告数では10歳未満が10人（47.6%）、60歳代が5人（23.8%）であった。



才 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）

2024年の報告数は15人であり、定点当たりの報告数は0.60人であった。ここ10年でみても、5番目に少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では、明らかな季節性は見られなかった。



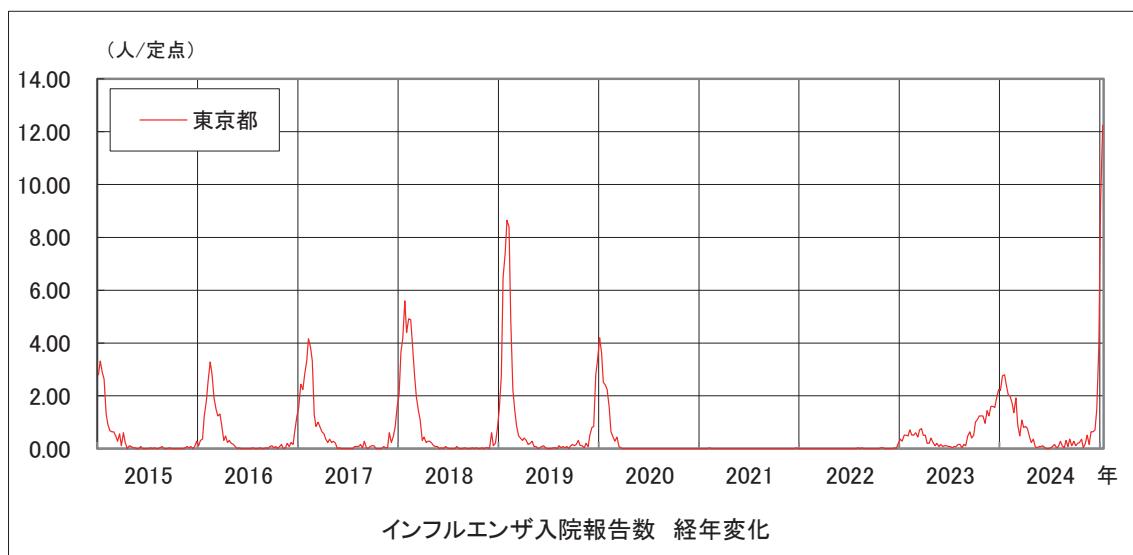
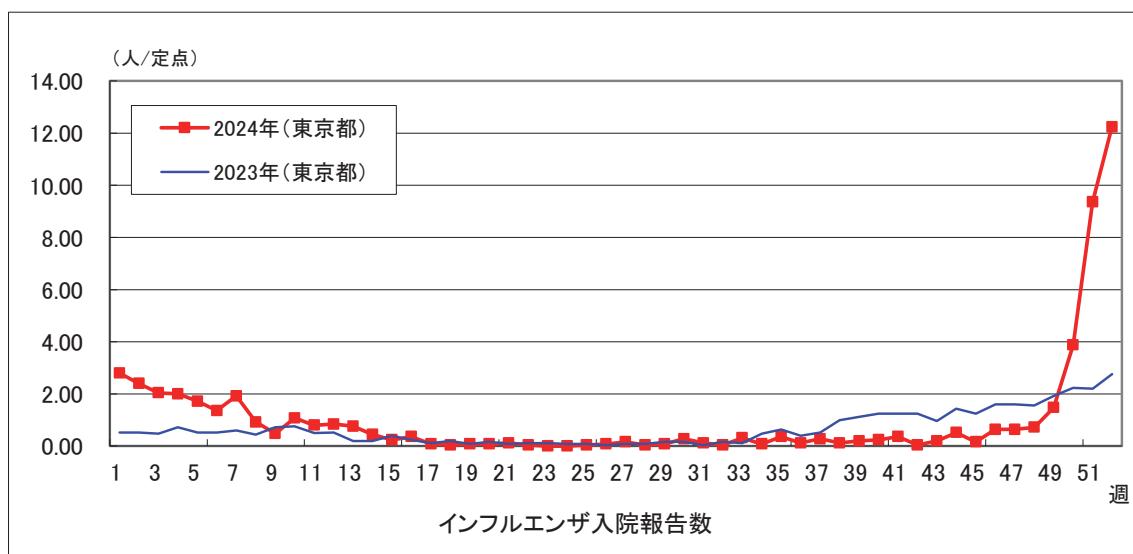
カ インフルエンザ入院

2024 年の報告数は 1,335 人で、定点当たりの報告数は 53.40 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 29.04 人であり、2024 年の報告数は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行以前の水準に戻り、ここ 10 年では 2019 年に次いで多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数では、2023 年 52 週 (12.25~12.31) に 2.76 人と 2023 年のピークを迎えたが、2024 年 1 週 (1.1~1.7) には 2.80 人となったが、その後は減少し 11 週 (3.11~3.17) 以降は 1.0 人未満で推移していた。2024/25 シーズンには、49 週 (12.2~12.8) に 1.48 人と 1.0 人を超え、52 週 (12.23~12.29) には 12.24 人と 2024 年のピークを迎えた。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは、みなとの 117.00 人であった。

年齢階級別報告数では 10 歳未満が 391 人 (29.3%)、60 歳以上が 632 人 (47.3%) であった。



キ 新型コロナウイルス感染症入院

新型コロナウイルス感染症は2023年5月8日から感染症法上の取扱いが五類感染症(定点把握疾患)に変更され、新型コロナウイルス感染症入院についても2023年39週から定点把握対象疾患となった。2024年の報告数は6,194人、定点当たりの報告数は247.76人であった。

週別定点当たりの報告数では4週(1.22～1.28)に8.40人、30週(7.22～7.28)に9.48人と、それぞれをピークにした2つの山が見られる。その後、減少傾向をみせていたが、48週(11.25～12.1)ころから、増加傾向となり、52週(12.23～12.29)には5.04人となった。2025年の年初は4.0～5.0人前後で推移している。保健所別定点当たりの報告数で最も多かったのは八王子市の508.00人であった。

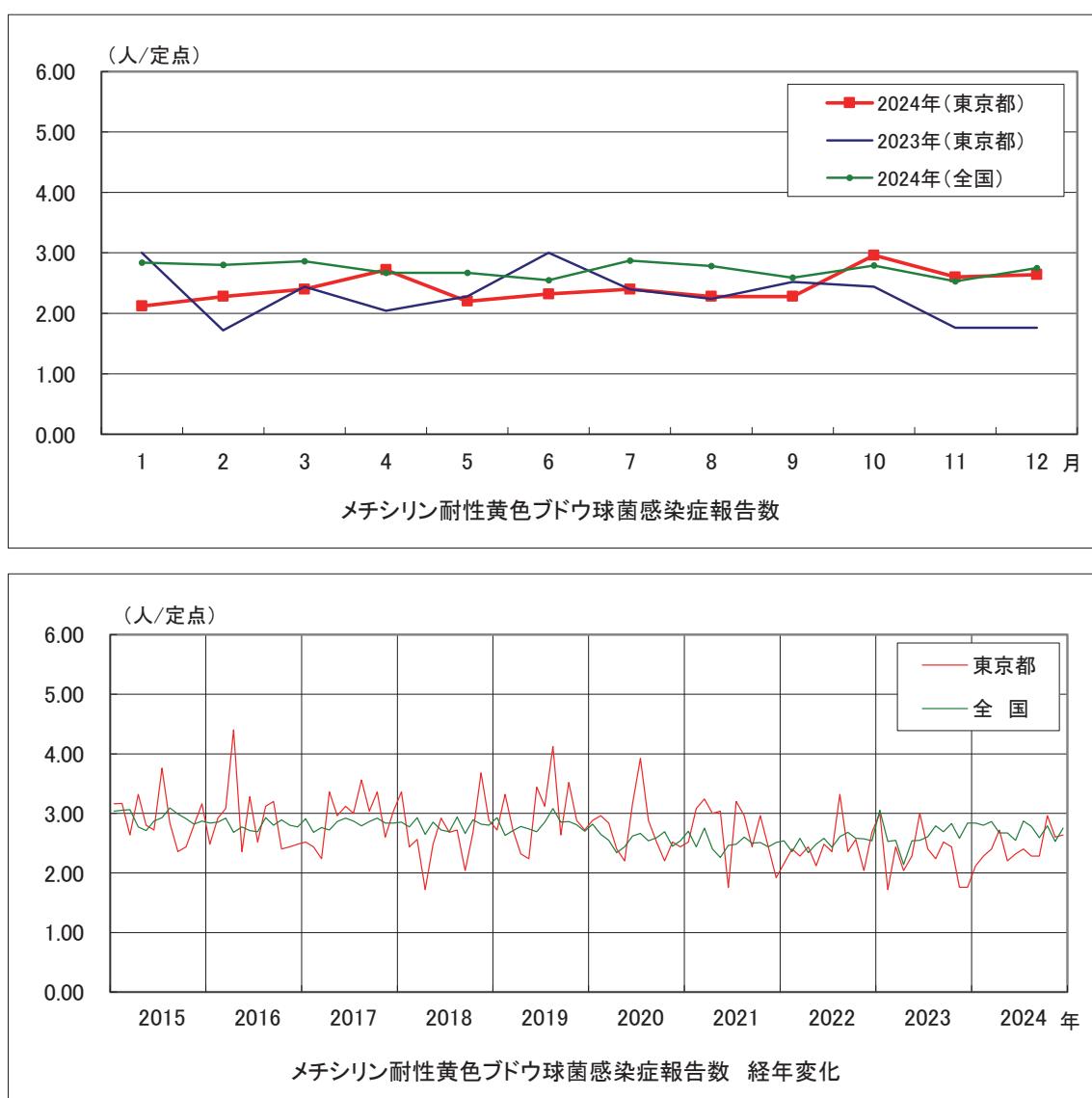
年齢階級別に患者報告数をみると、70歳以上が4,165人(67.2%)であった。



(5) 基幹定点医療機関における月報告疾患

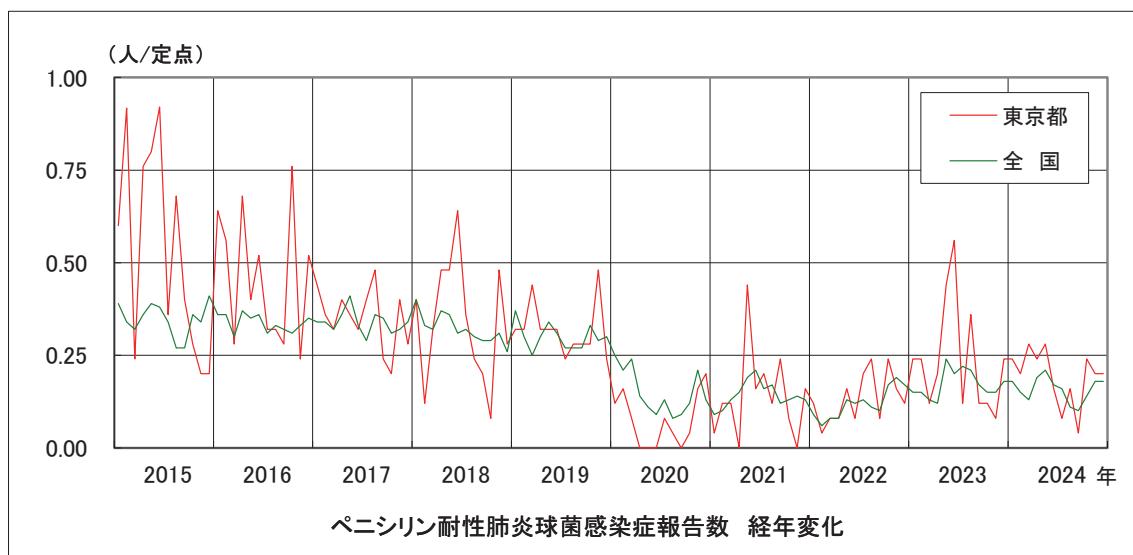
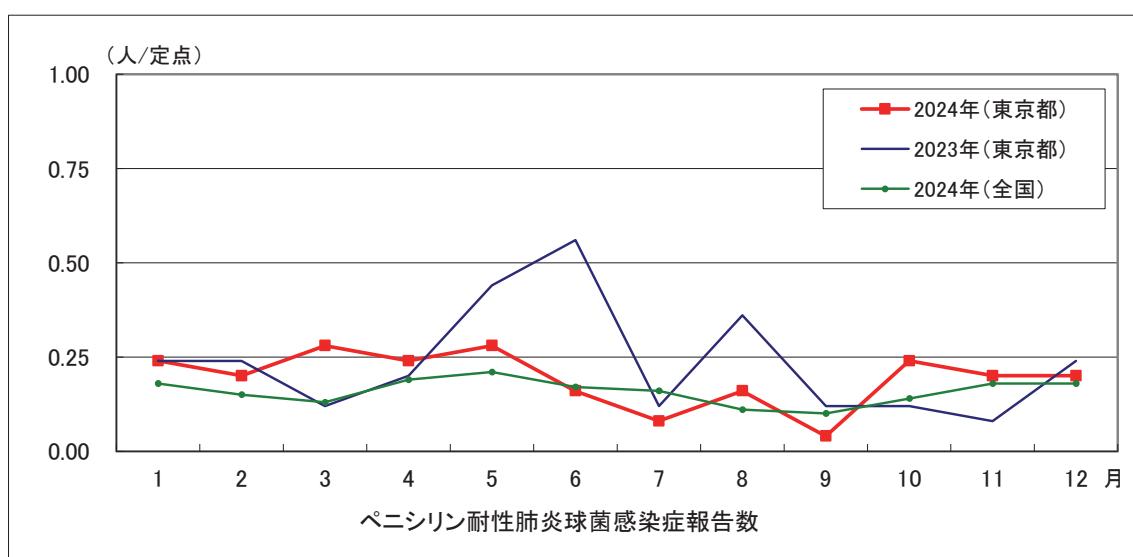
ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2024年の報告数は730人、定点当たりの報告数は29.20人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は32.47人であり、2024年はここ10年でみると2023年に次いで少ない報告数であった。



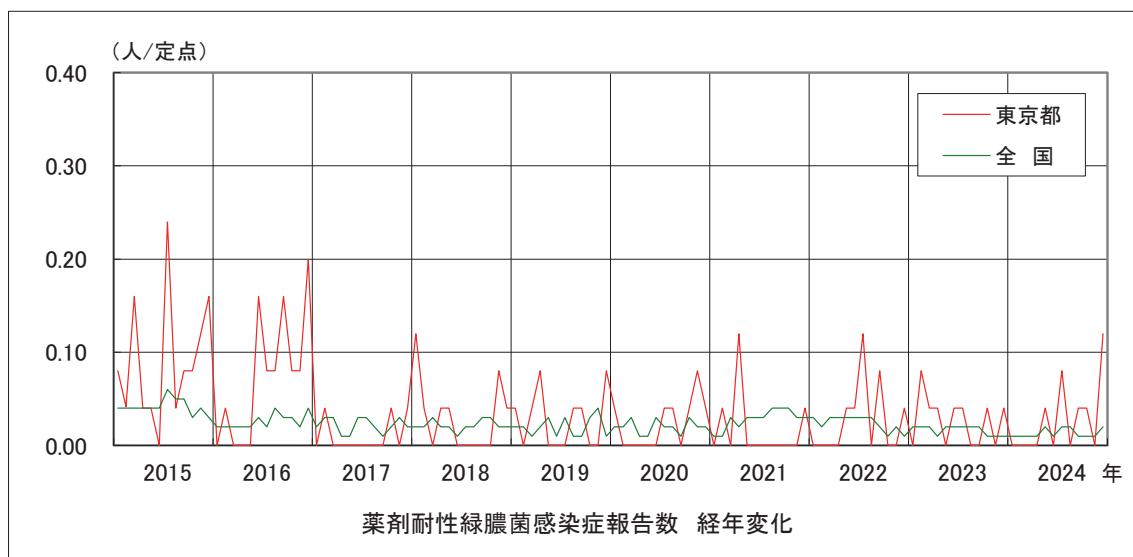
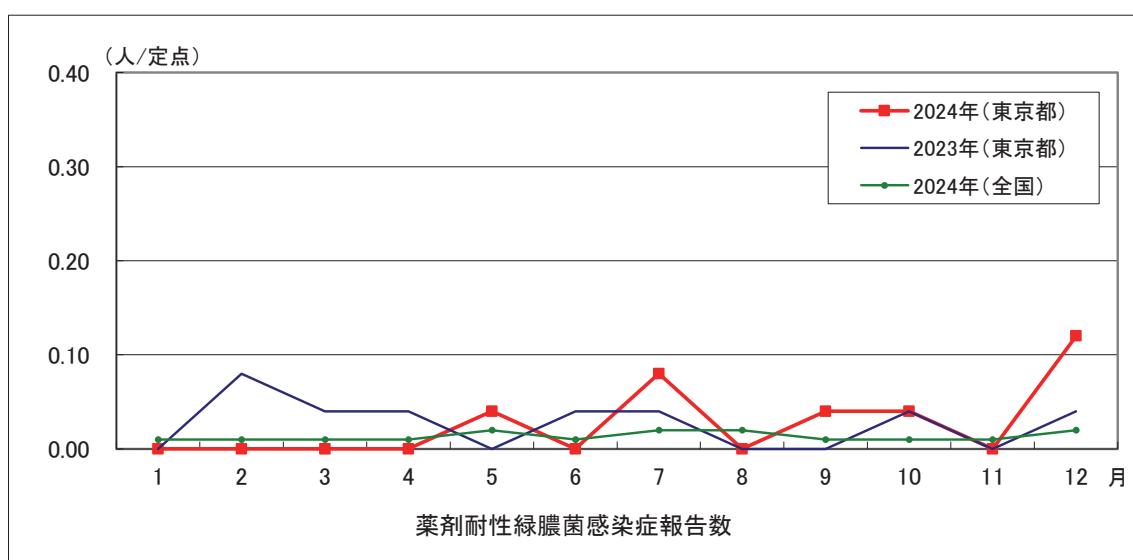
イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2024 年の報告数は 58 人、定点当たりの報告数は 2.32 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 3.33 人であり、2024 年は過去 10 年で 4 番目に少ない報告数であった。



ウ 薬剤耐性綠膿菌感染症

2024 年の報告数は 8 人、定点当たりの報告数は 0.32 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 0.42 人であり、2024 年はここ 10 年では少なめの報告数であった。



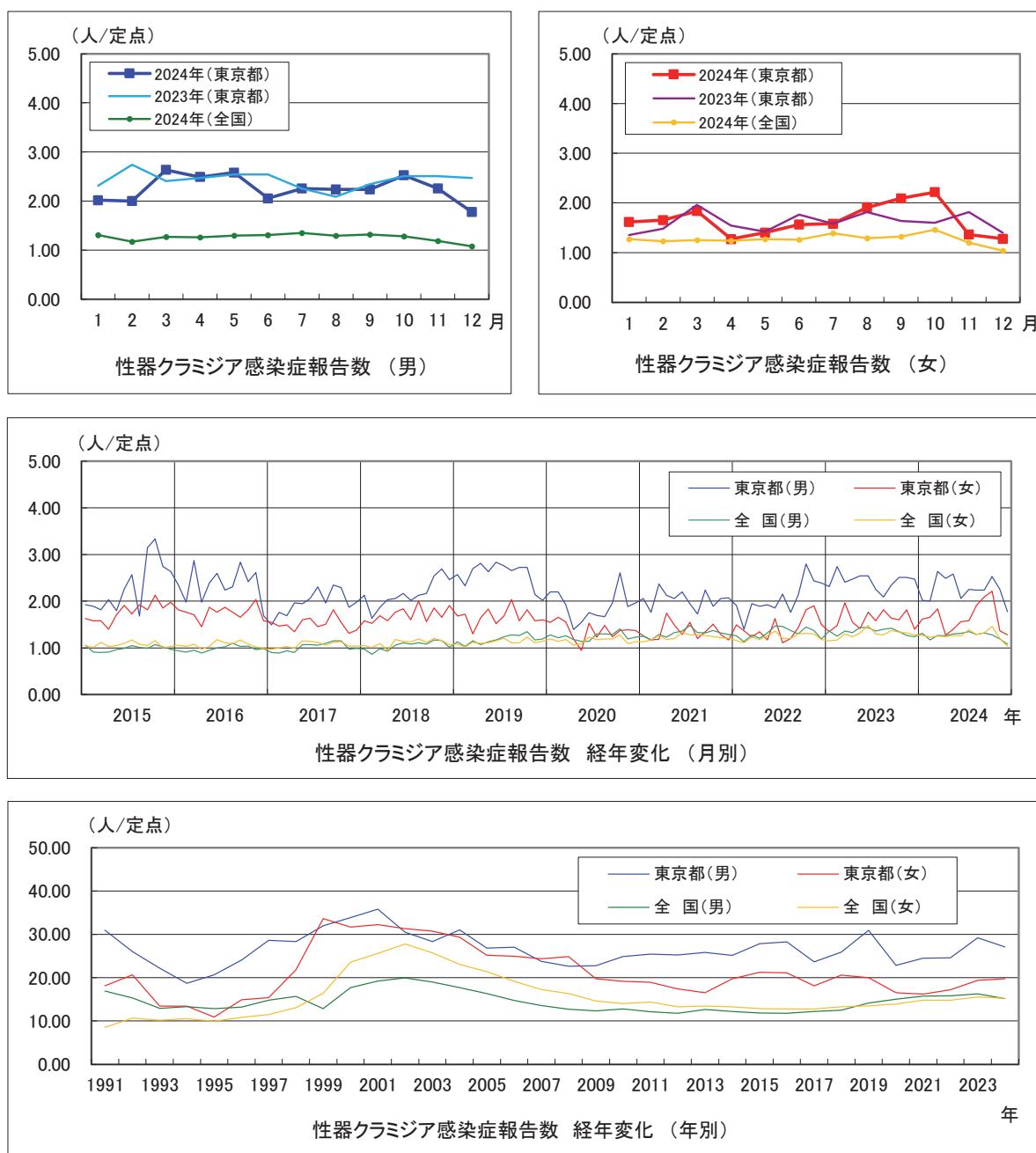
(6) 性感染症

ア 性器クラミジア感染症

年間患者報告数は2,574人、定点当たり46.86人で、前年比0.96とわずかに減少した。男性の報告数は1,487人、定点当たり27.07人（前年比0.93）、女性の報告数1,087人、定点当たり19.79人（前年比1.02）であった。

月別報告数では、男性は3月が最多で145人、12月が最少で96人、女性では10月が最多で122人、12月が最少で69人だった。

性別年齢階級別では、男性は25～29歳の354人（23.8%）が最多で、20歳代と30歳代で男性全体の70.8%を占めた。女性は20～24歳の359人（33.0%）が最多で、20歳代と30歳代で女性全体の83.1%を占めた。

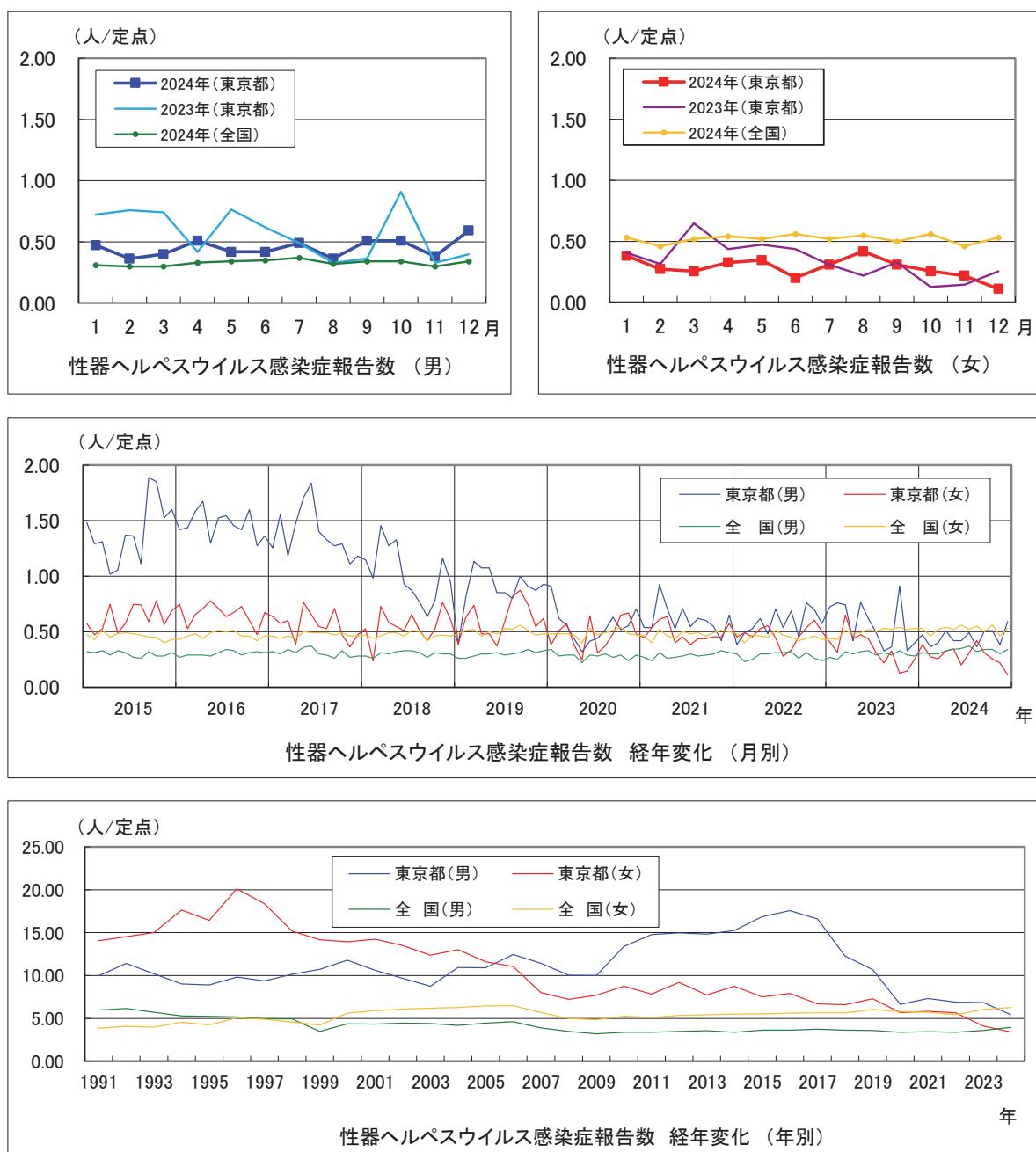


イ 性器ヘルペスウイルス感染症

年間患者報告数は485人、定点当たり8.83人で、前年比0.81と減少した。男性の報告数は298人、定点当たり5.43（前年比0.79）、女性の報告数187人、定点当たり3.40人（前年比0.83）であった。

月別報告数では、男性は12月が最多で32人、2月、8月が最少で20人、女性では8月が最多で23人、12月が最少で6人だった。

性別年齢階級別では、男性は25～29歳の55人（18.5%）が最多で、20歳代と30歳代が男性全体の54.4%を占めた。女性は25～29歳の38人（20.3%）が最多で、20歳代と30歳代で女性全体の68.4%を占めた。

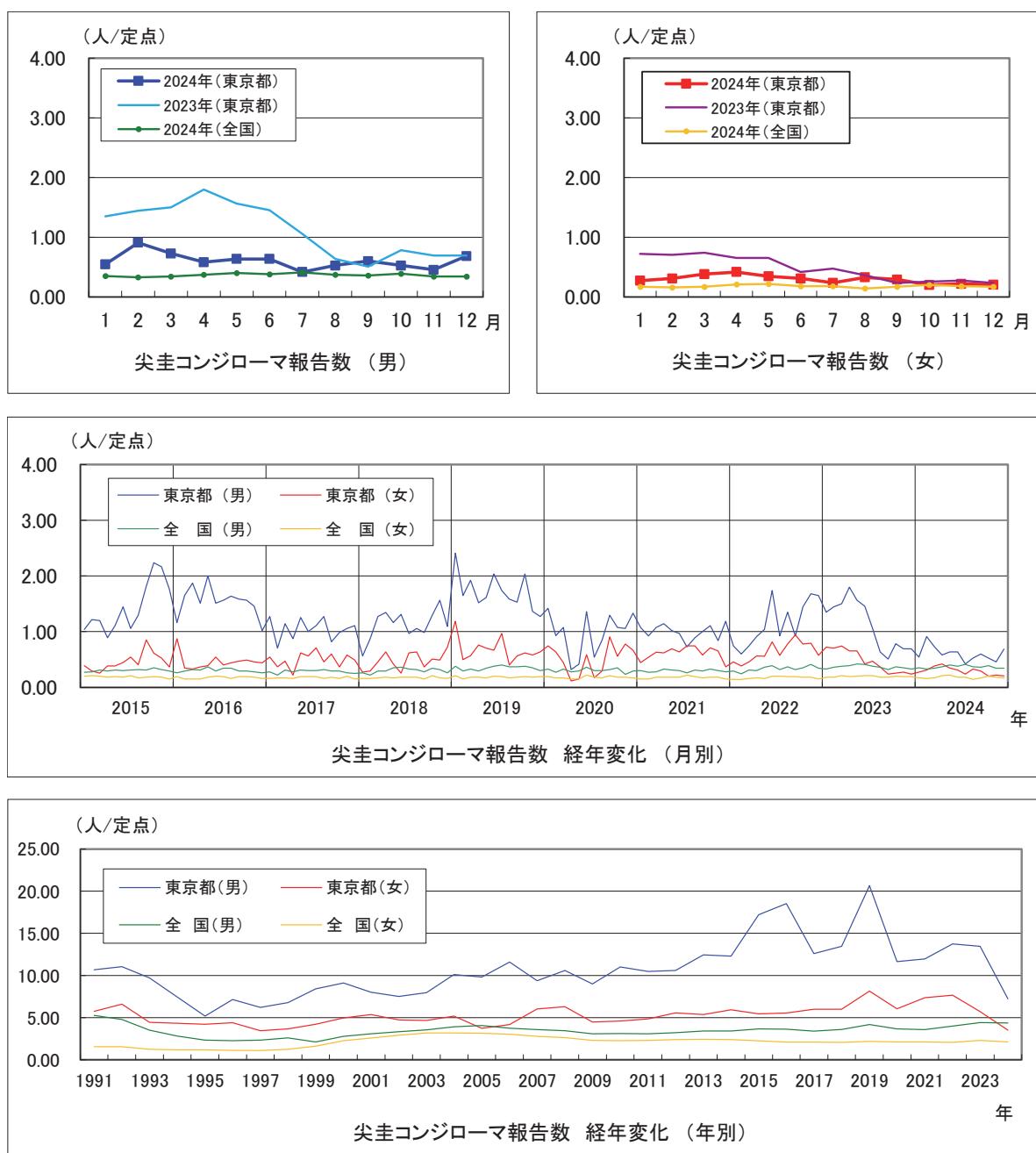


ウ 尖圭コンジローマ

年間患者報告数は 591 人、定点当たり 10.76 人で、前年比 0.56 と大幅に減少した。男性の報告数は 398 人、定点当たり 7.25 (前年比 0.54)、女性の報告数 193 人、定点当たり 3.51 人 (前年比 0.61) であった。

月別報告数では、男性は 2 月が最多で 50 人、7 月が最少で 23 人、女性では 4 月が最多で 23 人、10 月、12 月が最少で 11 人だった。

性別年齢階級別では、男性は 30~34 歳の 75 人 (18.8%) が最多で、20 歳代と 30 歳代が男性全体の 54.5% を占めた。女性は 20~24 歳の 75 人 (38.9%) が最多で、20 歳代と 30 歳代で女性全体の 79.8% を占めた。

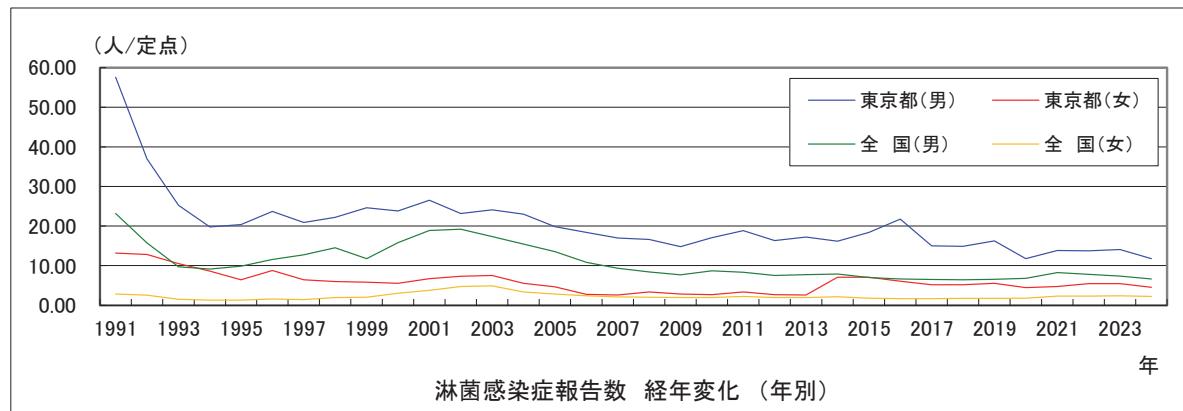
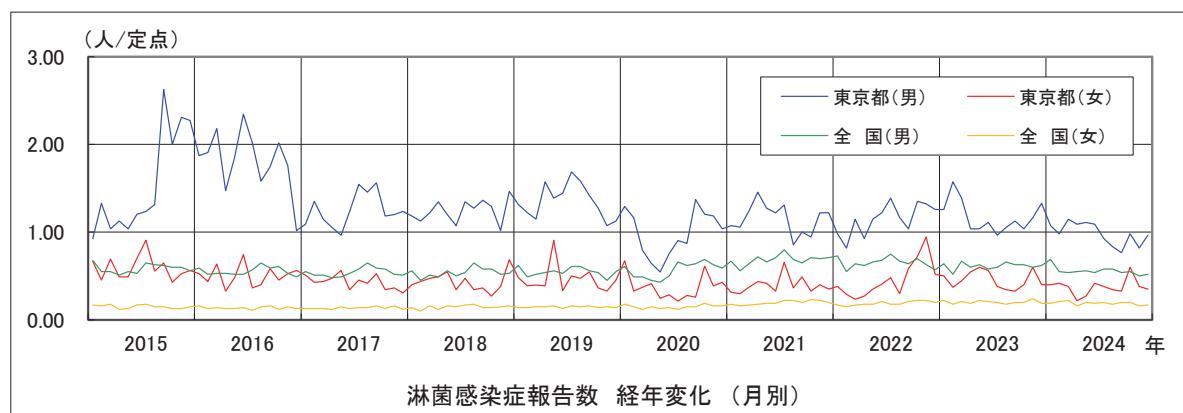
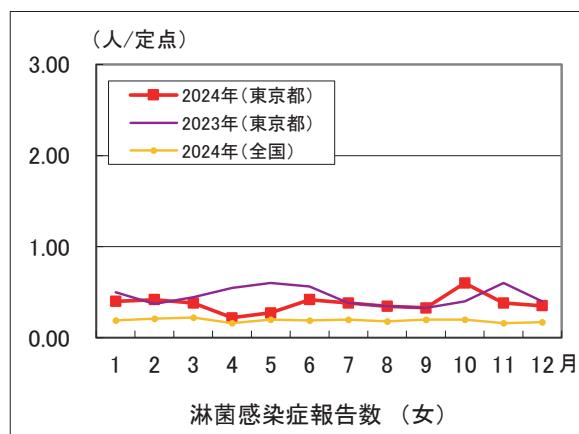
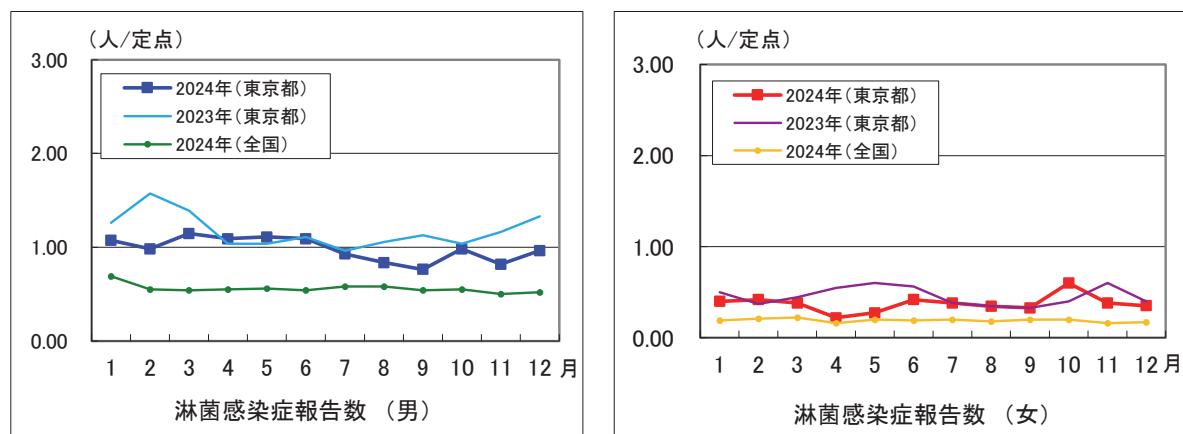


エ 淋菌感染症

年間患者報告数は894人、定点当たり16.28人で、前年比0.83と減少した。男性の報告数は647人、定点当たり11.78（前年比0.84）、女性の報告数247人、定点当たり4.50人（前年比0.82）であった。

月別報告数では、男性は3月が最多で63人、9月が最少で42人、女性では10月が最多で33人、4月が最少で12人だった。

性別年齢階級では、男性は25～29歳の148人（22.9%）が最多で、20歳代と30歳代が男性全体の68.2%を占めた。10～14歳の男性が1名報告された。女性は20～24歳の80人（32.4%）が最多で、20歳代と30歳代で女性全体の67.2%を占めた。



才 膣トリコモナス症

膣トリコモナス症は、東京都が独自に定点把握疾患に定めている。年間患者報告数は 89 人、定点当たり 1.62 人で、前年比 1.12 と増加した。男性の報告数は 3 人、定点当たり 0.05 人（前年比 0.56）、女性の報告数は 86 人、定点当たり 1.56 人（前年比 1.16）であった。

男性は報告数が少なく、年齢階級や季節による特徴は評価できなかった。

女性の月別報告数は、1 月、2 月が最多で 11 人、12 月が最少で 3 人だった。女性は 20~24 歳の 16 人（18.6%）が最多で、20 歳代、30 歳代で女性全体の 59.3% を占めた。

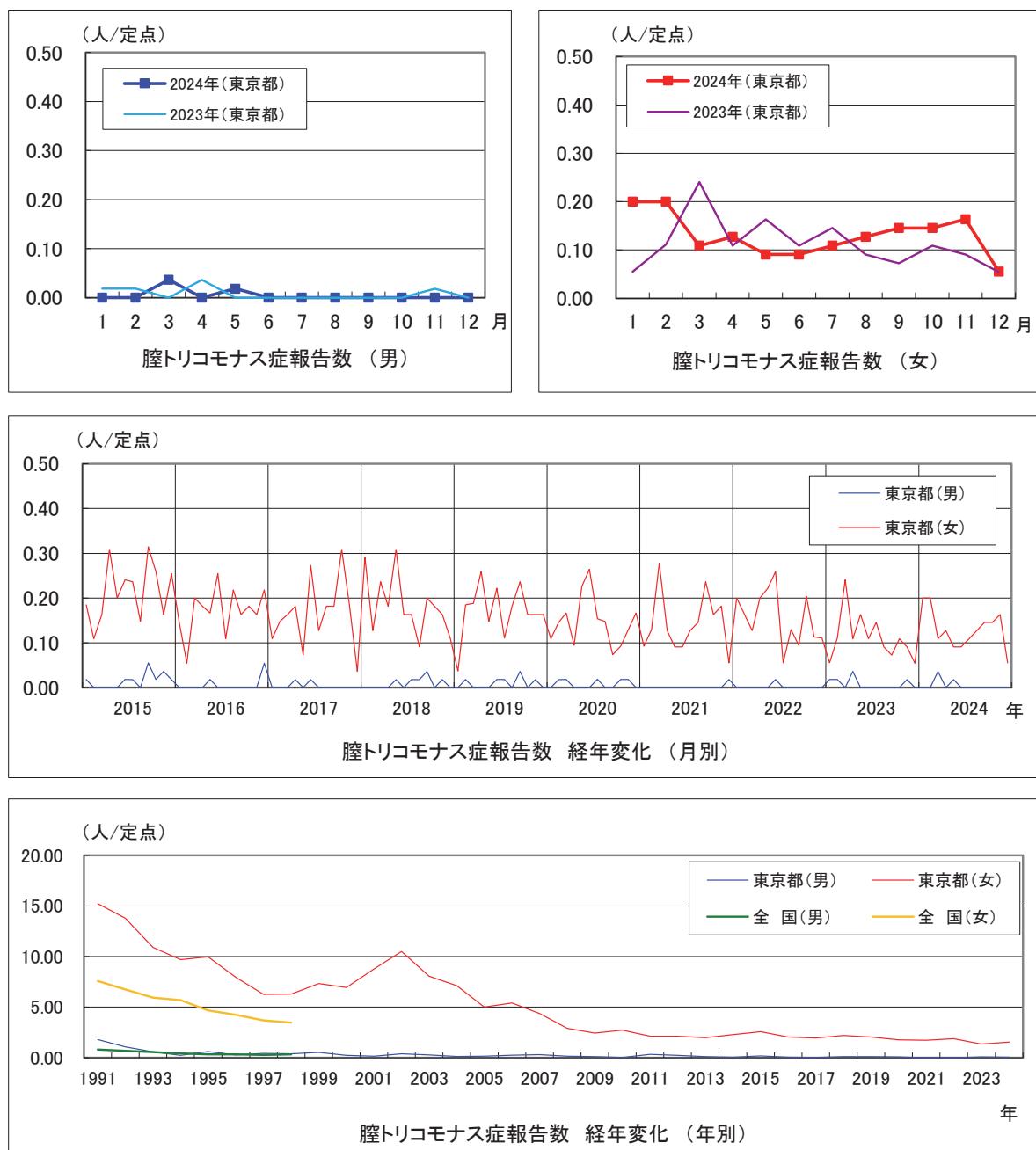


表4-1(1) 週別患者報告数(インフルエンザ/COVID-19・小児科) 2024年第1週～第52週

週	期間	報告点数 (インフルエンザ)	インフルエンザ	新型感染症 ナウイルス	報告点数 (小児科)	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	A球群溶血性咽頭炎レンサ	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1	1. 1～1. 7	405	3,164	1,366	255	3	178	379	911	31	32	7	25	2	
2	1. 8～1.14	414	4,192	2,339	261	5	243	745	2,056	50	25	26	63	4	16
3	1.15～1.21	414	6,725	3,448	261	6	186	1,054	2,785	43	16	18	62	3	15
4	1.22～1.28	414	7,672	4,667	261	11	166	1,073	2,805	42	21	21	55	1	10
5	1.29～2. 4	414	8,398	4,713	261	16	129	1,090	2,488	25	16	20	65	2	13
6	2. 5～2.11	415	9,475	3,887	262	20	93	1,074	2,113	53	21	21	43	1	13
7	2.12～2.18	415	8,909	2,865	261	27	93	870	1,611	32	13	21	57	4	10
8	2.19～2.25	416	6,964	2,204	262	31	77	846	1,492	65	10	14	41	1	8
9	2.26～3. 3	416	5,214	1,940	262	56	86	841	1,468	49	4	16	53	4	14
10	3. 4～3.10	416	5,588	1,767	262	65	61	879	1,408	57	1	16	58	3	12
11	3.11～3.17	415	5,847	1,537	262	120	64	914	1,395	48	8	18	64	3	13
12	3.18～3.24	416	4,777	1,274	262	141	44	741	1,096	56	4	11	64	2	10
13	3.25～3.31	415	3,903	1,446	262	190	51	739	1,109	49	16	23	51	5	9
14	4. 1～4. 7	418	1,744	1,145	263	243	53	665	1,010	41	25	19	62	3	15
15	4. 8～4.14	418	819	1,010	263	425	69	751	1,031	49	11	23	79	4	11
16	4.15～4.21	418	504	1,159	263	540	68	932	1,183	34	22	50	90	3	18
17	4.22～4.28	416	298	995	262	483	94	1,072	1,284	49	26	39	72	10	14
18	4.29～5. 5	411	142	612	260	325	65	598	694	29	45	22	59	6	19
19	5. 6～5.12	419	82	955	264	286	93	748	1,012	68	70	48	84	5	20
20	5.13～5.19	419	71	1,166	264	320	122	1,033	1,317	52	140	70	68	31	15
21	5.20～5.26	419	59	1,247	264	338	114	1,040	1,246	62	277	66	83	64	31
22	5.27～6. 2	419	51	1,414	264	242	144	992	1,258	54	457	85	86	86	18
23	6. 3～6. 9	419	61	1,708	264	246	134	1,044	1,284	82	742	98	100	173	38
24	6.10～6.16	419	79	1,880	264	184	150	1,006	1,330	50	1,076	82	83	206	22
25	6.17～6.23	418	77	1,966	264	147	152	861	1,177	56	1,567	99	86	355	32
26	6.24～6.30	419	71	2,339	264	158	127	862	1,093	49	2,609	92	100	632	29
27	7. 1～7. 7	419	120	2,994	264	125	103	733	1,071	49	3,689	99	97	835	38
28	7. 8～7.14	419	135	3,180	264	116	99	571	990	51	4,326	92	74	874	20
29	7.15～7.21	419	121	3,563	264	97	62	452	775	38	3,679	113	62	644	14
30	7.22～7.28	417	111	3,803	262	78	70	472	760	62	3,603	94	72	676	13
31	7.29～8. 4	418	102	3,031	263	104	48	413	737	30	2,790	99	79	476	7
32	8. 5～8.11	404	85	2,225	255	100	73	358	763	40	1,983	110	74	310	12
33	8.12～8.18	370	62	1,342	229	50	27	219	398	23	987	77	44	110	8
34	8.19～8.25	410	108	1,962	257	50	39	288	640	24	1,166	96	79	179	5
35	8.26～9. 1	416	130	1,987	263	68	56	344	730	19	1,589	175	93	194	12
36	9. 2～9. 8	419	208	2,011	264	69	53	451	839	32	2,033	170	99	222	16
37	9. 9～9.15	419	202	1,843	264	63	56	464	839	41	2,411	245	79	198	17
38	9.16～9.22	419	246	1,649	264	54	43	385	729	46	2,312	174	81	156	17
39	9.23～9.29	418	290	1,272	263	81	50	351	678	42	2,363	143	63	122	13
40	9.30～10. 6	419	335	1,025	264	50	41	402	730	35	2,655	262	76	94	12
41	10. 7～10.13	418	395	758	263	53	43	414	698	33	3,243	222	46	108	9
42	10.14～10.20	418	308	543	263	35	31	392	666	33	2,967	283	65	61	8
43	10.21～10.27	418	307	491	263	52	39	499	723	62	2,373	290	58	70	6
44	10.28～11. 3	419	387	456	264	66	45	418	743	50	2,311	363	62	40	8
45	11. 4～11.10	418	468	432	264	52	31	371	650	54	1,626	324	62	24	8
46	11.11～11.17	418	873	537	264	59	30	541	971	57	1,113	510	62	16	9
47	11.18～11.24	418	1,000	415	264	62	43	534	861	55	830	438	69	17	5
48	11.25～12. 1	418	1,807	566	264	57	65	696	1,186	92	703	796	76	10	9
49	12. 2～12. 8	418	3,425	719	264	66	76	759	1,372	94	454	792	67	5	12
50	12. 9～12.15	418	7,256	924	264	74	86	726	1,530	115	277	749	66	2	15
51	12.16～12.22	418	16,727	1,379	264	71	80	827	1,783	157	170	801	70	4	17
52	12.23～12.29	418	23,625	1,809	264	105	65	659	1,747	97	115	645	43	3	11
合 計		143,719	91,965			6,485	4,310	35,588	61,265	2,706	59,022	9,187	3,571	7,063	746

表4-1(2) 週別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2024年第1週～第52週

週	期間	報告定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病	報告定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数 (基幹)	細菌性結膜炎	無菌性結膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	報告定点数 (基幹)	インフルエンザ入院	新型コロナウイルス入院
1	1. 1～1. 7	255	4	5	39		13	25			2			25	70	114
2	1. 8～1. 14	261	2	3	39	1	24	25			1			25	60	138
3	1. 15～1. 21	261		6	39		18	25	3		1			25	51	157
4	1. 22～1. 28	261	6	2	39	1	15	25	1		3			25	50	210
5	1. 29～2. 4	261	3	5	39		11	25			1			25	43	187
6	2. 5～2. 11	262	5	3	39		16	25			1			25	34	161
7	2. 12～2. 18	261	7	2	39		19	25			2	1		25	48	160
8	2. 19～2. 25	262	3	1	39		7	25			1			25	23	180
9	2. 26～3. 3	262	6	2	39	2	20	25					1	25	12	119
10	3. 4～3. 10	262	10	1	39		10	25					1	25	27	128
11	3. 11～3. 17	262	12	4	39		12	25		2	1		1	25	20	132
12	3. 18～3. 24	262	6	4	39		10	25	1			1		25	21	103
13	3. 25～3. 31	262	3	2	39		11	25	1		2			25	19	120
14	4. 1～4. 7	263	9	4	39		26	25						25	11	92
15	4. 8～4. 14	263	9	7	39		26	25			2		1	25	6	94
16	4. 15～4. 21	263	5	2	39	2	32	25	2		2			25	9	76
17	4. 22～4. 28	262	6	6	39	1	35	25			6			25	2	55
18	4. 29～5. 5	260	9	5	39	2	18	25			2			25	1	59
19	5. 6～5. 12	264	15	10	39		17	25			4	1		25	2	77
20	5. 13～5. 19	264	9	8	39	1	19	25			3	1	1	25	2	91
21	5. 20～5. 26	264	15	3	39		16	25			11	1		25	3	84
22	5. 27～6. 2	264	21	7	39		20	25	1		6			25	1	105
23	6. 3～6. 9	264	10	1	39		16	25		1	8			25		101
24	6. 10～6. 16	264	12	3	39		16	25	1	1	13			25		120
25	6. 17～6. 23	264	15	3	39		10	25	2	1	15		1	25	1	135
26	6. 24～6. 30	264	21	3	39		15	25	1		7			25	2	140
27	7. 1～7. 7	264	24	1	39		21	25	2	1	20			25	4	161
28	7. 8～7. 14	264	11	4	39		18	25			43			25	1	208
29	7. 15～7. 21	264	10	2	39		18	25	2	1	29			25	2	201
30	7. 22～7. 28	262	21	4	39		20	25		2	28	1		25	7	237
31	7. 29～8. 4	263	10	6	39		21	25	1		41			25	3	204
32	8. 5～8. 11	255	18	3	36		13	25	1	2	58			25	1	178
33	8. 12～8. 18	229	7	3	34		5	25	1		58			25	8	152
34	8. 19～8. 25	257	8	2	38		12	25	1		45	1	1	25	2	143
35	8. 26～9. 1	263	4		38		14	25	1	2	58	1	1	25	9	145
36	9. 2～9. 8	264	6	3	39		14	25	1	7	39			25	3	151
37	9. 9～9. 15	264	16	4	39		16	25	4	4	50			25	7	133
38	9. 16～9. 22	264	11	7	39		14	25		2	75			25	3	96
39	9. 23～9. 29	263	7		39	1	14	25		2	84	1		25	5	94
40	9. 30～10. 6	264	7	4	39		14	25		1	85	1		25	6	78
41	10. 7～10. 13	263	12	1	39	1	13	25		8	83	1		25	9	91
42	10. 14～10. 20	263	10	1	39		13	25		2	112	4		25	1	51
43	10. 21～10. 27	263	10		39	1	23	25	5	3	121			25	5	56
44	10. 28～11. 3	264	9	2	39		19	25	2	2	110	2		25	13	53
45	11. 4～11. 10	264	10	2	39		15	25		1	100	1		25	4	69
46	11. 11～11. 17	264	14	4	39		8	25		3	108			25	16	53
47	11. 18～11. 24	264	13	5	39		13	25		3	107			25	16	51
48	11. 25～12. 1	264	8	3	39	1	18	25	1	4	70	1	2	25	18	69
49	12. 2～12. 8	264	12	4	39		25	25	1	1	81		1	25	37	81
50	12. 9～12. 15	264	7		39		30	25	1	2	63		1	25	97	79
51	12. 16～12. 22	264	9	5	39		36	25	2		47	2	1	25	234	96
52	12. 23～12. 29	264	10	4	39		30	25	1		43		3	25	306	126
合 計		507	176			14	909		39	61	1,855	21	15		1,335	6,194

表4-2(1) 週別定点当たり患者報告数(インフルエンザ/COVID-19・小児科)2024年第1週～第52週

週	期間	報告 定 点 数 O V I D N I F L E W C)	イン フル エン ザ	新 型 感 染 症 ナ ウ イ ル ス	RS ウ イ ル ス 感 染 症 (小 児 科)	咽 頭 結 膜 熱	A球 群 溶 血 性 咽 頭 炎 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ーナ	流行 性 耳 下 腺 炎
1	1. 1～1. 7	405	7.81	3.37	255	0.01	0.70	1.49	3.57	0.12	0.13	0.03	0.10	0.01
2	1. 8～1. 14	414	10.13	5.65	261	0.02	0.93	2.85	7.88	0.19	0.10	0.10	0.24	0.02
3	1. 15～1. 21	414	16.24	8.33	261	0.02	0.71	4.04	10.67	0.16	0.06	0.07	0.24	0.01
4	1. 22～1. 28	414	18.53	11.27	261	0.04	0.64	4.11	10.75	0.16	0.08	0.08	0.21	0.00
5	1. 29～2. 4	414	20.29	11.38	261	0.06	0.49	4.18	9.53	0.10	0.06	0.08	0.25	0.01
6	2. 5～2. 11	415	22.83	9.37	262	0.08	0.35	4.10	8.06	0.20	0.08	0.08	0.16	0.00
7	2. 12～2. 18	415	21.47	6.90	261	0.10	0.36	3.33	6.17	0.12	0.05	0.08	0.22	0.02
8	2. 19～2. 25	416	16.74	5.30	262	0.12	0.29	3.23	5.69	0.25	0.04	0.05	0.16	0.00
9	2. 26～3. 3	416	12.53	4.66	262	0.21	0.33	3.21	5.60	0.19	0.02	0.06	0.20	0.02
10	3. 4～3. 10	416	13.43	4.25	262	0.25	0.23	3.35	5.37	0.22	0.00	0.06	0.22	0.01
11	3. 11～3. 17	415	14.09	3.70	262	0.46	0.24	3.49	5.32	0.18	0.03	0.07	0.24	0.01
12	3. 18～3. 24	416	11.48	3.06	262	0.54	0.17	2.83	4.18	0.21	0.02	0.04	0.24	0.01
13	3. 25～3. 31	415	9.40	3.48	262	0.73	0.19	2.82	4.23	0.19	0.06	0.09	0.19	0.02
14	4. 1～4. 7	418	4.17	2.74	263	0.92	0.20	2.53	3.84	0.16	0.10	0.07	0.24	0.01
15	4. 8～4. 14	418	1.96	2.42	263	1.62	0.26	2.86	3.92	0.19	0.04	0.09	0.30	0.02
16	4. 15～4. 21	418	1.21	2.77	263	2.05	0.26	3.54	4.50	0.13	0.08	0.19	0.34	0.01
17	4. 22～4. 28	416	0.72	2.39	262	1.84	0.36	4.09	4.90	0.19	0.10	0.15	0.27	0.04
18	4. 29～5. 5	411	0.35	1.49	260	1.25	0.25	2.30	2.67	0.11	0.17	0.08	0.23	0.02
19	5. 6～5. 12	419	0.20	2.28	264	1.08	0.35	2.83	3.83	0.26	0.27	0.18	0.32	0.08
20	5. 13～5. 19	419	0.17	2.78	264	1.21	0.46	3.91	4.99	0.20	0.53	0.27	0.26	0.12
21	5. 20～5. 26	419	0.14	2.98	264	1.28	0.43	3.94	4.72	0.23	1.05	0.25	0.31	0.24
22	5. 27～6. 2	419	0.12	3.37	264	0.92	0.55	3.76	4.77	0.20	1.73	0.32	0.33	0.07
23	6. 3～6. 9	419	0.15	4.08	264	0.93	0.51	3.95	4.86	0.31	2.81	0.37	0.38	0.66
24	6. 10～6. 16	419	0.19	4.49	264	0.70	0.57	3.81	5.04	0.19	4.08	0.31	0.31	0.78
25	6. 17～6. 23	418	0.18	4.70	264	0.56	0.58	3.26	4.46	0.21	5.94	0.38	0.33	1.34
26	6. 24～6. 30	419	0.17	5.58	264	0.60	0.48	3.27	4.14	0.19	9.88	0.35	0.38	2.39
27	7. 1～7. 7	419	0.29	7.15	264	0.47	0.39	2.78	4.06	0.19	13.97	0.38	0.37	3.16
28	7. 8～7. 14	419	0.32	7.59	264	0.44	0.38	2.16	3.75	0.19	16.39	0.35	0.28	3.31
29	7. 15～7. 21	419	0.29	8.50	264	0.37	0.23	1.71	2.94	0.14	13.94	0.43	0.23	2.44
30	7. 22～7. 28	417	0.27	9.12	262	0.30	0.27	1.80	2.90	0.24	13.75	0.36	0.27	2.58
31	7. 29～8. 4	418	0.24	7.25	263	0.40	0.18	1.57	2.80	0.11	10.61	0.38	0.30	1.81
32	8. 5～8. 11	404	0.21	5.51	255	0.39	0.29	1.40	2.99	0.16	7.78	0.43	0.29	1.22
33	8. 12～8. 18	370	0.17	3.63	229	0.22	0.12	0.96	1.74	0.10	4.31	0.34	0.19	0.48
34	8. 19～8. 25	410	0.26	4.79	257	0.19	0.15	1.12	2.49	0.09	4.54	0.37	0.31	0.70
35	8. 26～9. 1	416	0.31	4.78	263	0.26	0.21	1.31	2.78	0.07	6.04	0.67	0.35	0.74
36	9. 2～9. 8	419	0.50	4.80	264	0.26	0.20	1.71	3.18	0.12	7.70	0.64	0.38	0.84
37	9. 9～9. 15	419	0.48	4.40	264	0.24	0.21	1.76	3.18	0.16	9.13	0.93	0.30	0.75
38	9. 16～9. 22	419	0.59	3.94	264	0.20	0.16	1.46	2.76	0.17	8.76	0.66	0.31	0.59
39	9. 23～9. 29	418	0.69	3.04	263	0.31	0.19	1.33	2.58	0.16	8.98	0.54	0.24	0.46
40	9. 30～10. 6	419	0.80	2.45	264	0.19	0.16	1.52	2.77	0.13	10.06	0.99	0.29	0.36
41	10. 7～10. 13	418	0.94	1.81	263	0.20	0.16	1.57	2.65	0.13	12.33	0.84	0.17	0.41
42	10. 14～10. 20	418	0.74	1.30	263	0.13	0.12	1.49	2.53	0.13	11.28	1.08	0.25	0.23
43	10. 21～10. 27	418	0.73	1.17	263	0.20	0.15	1.90	2.75	0.24	9.02	1.10	0.22	0.27
44	10. 28～11. 3	419	0.92	1.09	264	0.25	0.17	1.58	2.81	0.19	8.75	1.38	0.23	0.15
45	11. 4～11. 10	418	1.12	1.03	264	0.20	0.12	1.41	2.46	0.20	6.16	1.23	0.23	0.09
46	11. 11～11. 17	418	2.09	1.28	264	0.22	0.11	2.05	3.68	0.22	4.22	1.93	0.23	0.06
47	11. 18～11. 24	418	2.39	0.99	264	0.23	0.16	2.02	3.26	0.21	3.14	1.66	0.26	0.02
48	11. 25～12. 1	418	4.32	1.35	264	0.22	0.25	2.64	4.49	0.35	2.66	3.02	0.29	0.04
49	12. 2～12. 8	418	8.19	1.72	264	0.25	0.29	2.88	5.20	0.36	1.72	3.00	0.25	0.02
50	12. 9～12. 15	418	17.36	2.21	264	0.28	0.33	2.75	5.80	0.44	1.05	2.84	0.25	0.01
51	12. 16～12. 22	418	40.02	3.30	264	0.27	0.30	3.13	6.75	0.59	0.64	3.03	0.27	0.02
52	12. 23～12. 29	418	56.52	4.33	264	0.40	0.25	2.50	6.62	0.37	0.44	2.44	0.16	0.01
平均		6.64	4.26		0.47	0.32	2.61	4.49	0.20	4.32	0.67	0.26	0.52	0.05

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表4-2(2) 週別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2024年第1週～第52週

週	期間	報告定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病	報告定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	報告定点数 (基幹)	インフルエンザ入院	新型感染症入院 イルス
1	1. 1～1. 7	255	0.02	0.02	39	0.33	25	0.08						25	2.80	4.56
2	1. 8～1.14	261	0.01	0.01	39	0.03	25	0.04						25	2.40	5.52
3	1.15～1.21	261		0.02	39	0.46	25	0.12						25	2.04	6.28
4	1.22～1.28	261	0.02	0.01	39	0.03	25	0.04						25	2.00	8.40
5	1.29～2. 4	261	0.01	0.02	39	0.28	25	0.04						25	1.72	7.48
6	2. 5～2.11	262	0.02	0.01	39	0.41	25	0.04						25	1.36	6.44
7	2.12～2.18	261	0.03	0.01	39	0.49	25	0.08	0.04					25	1.92	6.40
8	2.19～2.25	262	0.01	0.00	39	0.18	25							25	0.92	7.20
9	2.26～3. 3	262	0.02	0.01	39	0.51	25	0.04						25	0.48	4.76
10	3. 4～3.10	262	0.04	0.00	39	0.26	25							25	1.08	5.12
11	3.11～3.17	262	0.05	0.02	39	0.31	25	0.08	0.04					25	0.80	5.28
12	3.18～3.24	262	0.02	0.02	39	0.26	25	0.04						25	0.84	4.12
13	3.25～3.31	262	0.01	0.01	39	0.28	25	0.04						25	0.76	4.80
14	4. 1～4. 7	263	0.03	0.02	39	0.67	25							25	0.44	3.68
15	4. 8～4.14	263	0.03	0.03	39	0.67	25	0.08						25	0.24	3.76
16	4.15～4.21	263	0.02	0.01	39	0.82	25	0.08						25	0.36	3.04
17	4.22～4.28	262	0.02	0.02	39	0.90	25	0.24						25	0.08	2.20
18	4.29～5. 5	260	0.03	0.02	39	0.46	25	0.08						25	0.04	2.36
19	5. 6～5.12	264	0.06	0.04	39	0.44	25	0.16	0.04					25	0.08	3.08
20	5.13～5.19	264	0.03	0.03	39	0.49	25	0.12	0.04	0.04				25	0.08	3.64
21	5.20～5.26	264	0.06	0.01	39	0.41	25	0.44	0.04					25	0.12	3.36
22	5.27～6. 2	264	0.08	0.03	39	0.51	25	0.04						25	0.04	4.20
23	6. 3～6. 9	264	0.04	0.00	39	0.41	25	0.04						25		4.04
24	6.10～6.16	264	0.05	0.01	39	0.41	25	0.04						25		4.80
25	6.17～6.23	264	0.06	0.01	39	0.26	25	0.08						25	0.04	5.40
26	6.24～6.30	264	0.08	0.01	39	0.38	25	0.04						25	0.08	5.60
27	7. 1～7. 7	264	0.09	0.00	39	0.54	25	0.08	0.04	0.80				25	0.16	6.44
28	7. 8～7.14	264	0.04	0.02	39	0.46	25	1.72						25	0.04	8.32
29	7.15～7.21	264	0.04	0.01	39	0.46	25	0.08	0.04	1.16				25	0.08	8.04
30	7.22～7.28	262	0.08	0.02	39	0.51	25	0.08	0.04	1.12	0.04			25	0.28	9.48
31	7.29～8. 4	263	0.04	0.02	39	0.54	25	0.04		1.64				25	0.12	8.16
32	8. 5～8.11	255	0.07	0.01	36	0.36	25	0.04	0.08	2.32				25	0.04	7.12
33	8.12～8.18	229	0.03	0.01	34	0.15	25	0.04		2.32				25	0.32	6.08
34	8.19～8.25	257	0.03	0.01	38	0.32	25	1.80	0.04	0.04				25	0.08	5.72
35	8.26～9. 1	263	0.02		38	0.37	25	0.04	0.08	2.32	0.04			25	0.36	5.80
36	9. 2～9. 8	264	0.02	0.01	39	0.36	25	1.56						25	0.12	6.04
37	9. 9～9.15	264	0.06	0.02	39	0.41	25	0.16	0.16	2.00				25	0.28	5.32
38	9.16～9.22	264	0.04	0.03	39	0.36	25	0.08		3.00				25	0.12	3.84
39	9.23～9.29	263	0.03		39	0.36	25	0.08	0.08	3.36	0.04			25	0.20	3.76
40	9.30～10. 6	264	0.03	0.02	39	0.36	25	0.04	0.08	3.40	0.04			25	0.24	3.12
41	10. 7～10.13	263	0.05	0.00	39	0.33	25	0.32	0.32	3.32	0.04			25	0.36	3.64
42	10.14～10.20	263	0.04	0.00	39	0.33	25	0.08		4.48	0.16			25	0.04	2.04
43	10.21～10.27	263	0.04		39	0.59	25	0.20	0.12	4.84				25	0.20	2.24
44	10.28～11. 3	264	0.03	0.01	39	0.49	25	0.08	0.08	4.40	0.08			25	0.52	2.12
45	11. 4～11.10	264	0.04	0.01	39	0.38	25	0.04	0.16	2.80	0.04	0.08		25	0.16	2.76
46	11.11～11.17	264	0.05	0.02	39	0.21	25	0.12	4.32					25	0.64	2.12
47	11.18～11.24	264	0.05	0.02	39	0.33	25	0.12	4.28					25	0.64	2.04
48	11.25～12. 1	264	0.03	0.01	39	0.46	25	0.04	0.16	2.80	0.04	0.08		25	0.72	2.76
49	12. 2～12. 8	264	0.05	0.02	39	0.64	25	0.04	0.04	3.24		0.04		25	1.48	3.24
50	12. 9～12.15	264	0.03		39	0.77	25	0.04	0.08	2.52		0.04		25	3.88	3.16
51	12.16～12.22	264	0.03	0.02	39	0.92	25	0.08		1.88	0.08	0.04		25	9.36	3.84
52	12.23～12.29	264	0.04	0.02	39	0.77	25	0.04		1.72		0.12		25	12.24	5.04
	平均		0.04	0.01		0.01	25	0.03	0.05	1.43	0.02	0.01			1.03	4.76

*定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表5-1(1) 保健所別患者報告数(インフルエンザ/COVID-19・小児科)

2024年第1週～第52週

	設置定点数 (COVID-19) (インフルエンザ)	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	
	設置定点数 (小児科)													
千代田	4	787	1,232	3	81	13	173	259	13	227	30	17	22	2
中央区	5	918	751	3	10	18	177	763	7	448	53	31	19	6
みなど	9	2,071	1,562	6	164	60	596	964	24	1,161	135	97	101	13
新宿区	12	2,471	2,381	8	229	108	914	1,256	48	701	89	39	69	6
文京	7	2,136	1,495	4	46	51	600	818	103	1,090	226	54	41	22
台東	7	1,997	976	4	60	94	795	1,926	66	1,507	158	104	152	19
墨田区	8	2,567	2,806	5	101	64	417	595	16	830	162	60	71	3
江東区	14	4,582	2,351	9	239	64	1,224	2,539	119	3,395	495	133	340	27
品川区	12	2,983	1,822	8	126	61	549	1,674	64	1,066	79	63	248	20
目黒区	8	1,989	1,143	5	152	34	433	710	42	966	122	44	101	11
大田区	21	6,545	3,909	13	533	477	1,475	4,520	86	3,218	570	222	609	56
世田谷	25	8,100	5,014	16	382	152	1,539	3,396	214	2,976	582	143	642	58
渋谷区	7	1,346	983	4	37	20	175	625	54	477	39	24	55	
中野区	10	4,406	2,371	6	116	64	1,463	1,808	188	1,956	231	157	241	28
杉並	17	4,272	2,972	11	255	296	689	2,069	203	1,555	381	90	113	10
池袋	8	2,518	2,303	5	218	92	369	771	22	1,026	146	39	176	4
北区	11	3,862	2,915	7	159	166	1,219	1,314	57	1,487	292	142	147	11
荒川区	7	3,770	1,948	4	402	72	987	1,583	39	1,636	271	132	132	8
板橋区	16	4,511	3,647	10	114	62	973	1,678	45	1,240	361	72	130	18
練馬区	21	7,051	4,633	13	224	157	2,094	2,943	170	3,001	517	193	486	42
足立	20	5,653	4,845	13	489	607	1,741	3,013	58	1,887	134	263	339	28
葛飾区	13	4,245	2,917	8	56	39	916	1,454	94	1,149	215	84	202	6
江戸川	19	7,642	4,869	12	424	188	1,609	3,036	135	2,589	366	149	447	39
八王子市	18	10,643	5,206	11	436	199	2,375	4,552	152	4,031	478	195	426	44
町田市	13	5,473	2,799	8	49	30	1,359	2,290	74	1,951	409	78	265	51
西多摩	14	3,653	2,852	8	28	40	518	1,086	55	1,013	133	47	61	14
南多摩	14	4,745	3,074	9	175	70	549	1,539	56	1,660	149	88	211	29
多摩立川	21	7,904	4,397	14	296	108	2,098	2,201	104	2,715	468	131	311	44
多摩府中	33	13,746	7,154	21	426	329	3,617	5,274	221	5,979	1,247	342	517	85
多摩小平	23	10,796	5,899	15	441	575	3,889	4,609	163	6,012	649	332	388	38
島しょ	2	337	739	1	17		56		14	73		6	1	4
合計	419	143,719	91,965	264	6,485	4,310	35,588	61,265	2,706	59,022	9,187	3,571	7,063	746
定点当たり報告数		345.47	221.34		24.69	16.44	135.59	233.59	10.30	224.86	34.90	13.61	26.91	2.84
前年定点当たり報告数		402.93	217.41		26.90	55.36	96.27	283.49	6.41	27.58	1.34	13.26	61.77	2.28
当年/前年		0.86	1.02		0.92	0.30	1.41	0.82	1.61	8.15	26.04	1.03	0.44	1.25

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表5-1(2) 保健所別患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2024年第1週～第52週

	設置定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病		設置定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎		設置定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎を除く	(オタクノウイルスによる)	感染性胃腸炎	インフルエンザ入院	新型コロナウイルス入院
千代田	3	5							2	1	13	67				18	305
中央区	3	1			1		28										
みなと	6	7	3						1			13	4			117	350
新宿区	8	2	15		2		60		2	1	2	159				31	318
文京	4	2	1		1		37		1			8				20	271
台東	4	7															
墨田区	5	28	3		1				1	4	1	220		2	87		322
江東区	9	13	8		1		9										
品川区	8		3		1		19										
目黒区	5	20	7		1		4										
大田区	13	25	13		2		38		1	2		56				30	174
世田谷	16	59	10		2	2	111		2	6	16	111	2	4	123		439
渋谷区	4	1			1		78		1	1	1	2				58	332
中野区	6	1			1		11										
杉並	11	13	42		1		7		2	1		375	1	1	115		436
池袋	5	2	4		1		72		1			83	3				
北区	7	5	5		1		6										
荒川区	4	8	2		1		22		1	3	3	44		1	41		281
板橋区	10	10			2		28										
練馬区	13	55	1		2		62										
足立	13	12	24		2		35										
葛飾区	8	6			1	2	6										
江戸川	12	28	9		2	3	61										
八王子市	11	28	7		2	2	37									81	508
町田市	8	13	5		1		27										
西多摩	8	9			1		4									43	266
南多摩	9				1		31										
多摩立川	14	6	2		2	4	17									37	221
多摩府中	21	112	3		3	1	72			3	11	11	249	5	3	282	877
多摩小平	15	29	9		2		27										756
島しょ	1																58
合 計	264	507	176		39	14	909			25	39	61	1,855	21	15	1,335	6,194
定点当たり報告数	1.93	0.67				0.36	23.37				1.56	2.44	74.20	0.84	0.60	53.40	247.76
前年定点当たり報告数	2.48	0.64				0.55	25.80				1.44	1.52	2.00	0.36	0.20	35.14	42.08
当年/前年	0.78	1.05				0.65	0.91				1.08	1.61	37.10	2.33	3.00	1.52	5.89

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表5-2(1) 保健所別定点当たり患者報告数(インフルエンザ/COVID-19・小児科)

2024年1週～第52週

	設置 定点 数 (イ ン フ ル エ ン ザ)	イン フル エン ザ	新型 コロ ナウ イル ス感 染症	設置 定点 数 (小 児 科)	R S ウ イ ル ス感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギー ナ	流行 性耳 下 腺 炎
千代田	4	196.75	308.00	3	27.00	4.33	57.67	86.33	4.33	75.67	10.00	5.67	7.33	0.67
中央区	5	183.60	150.20	3	3.33	6.00	59.00	254.33	2.33	149.33	17.67	10.33	6.33	2.00
みなど	9	230.11	173.56	6	27.33	10.00	99.33	160.67	4.00	193.50	22.50	16.17	16.83	2.17
新宿区	12	206.01	200.30	8	28.77	13.55	114.59	157.66	6.05	88.30	11.21	4.93	8.63	0.75
文京	7	305.64	217.92	4	11.50	12.75	150.92	206.25	25.75	275.58	57.25	13.58	10.25	5.50
台東	7	285.29	139.43	4	15.00	23.50	198.75	481.50	16.50	376.75	39.50	26.00	38.00	4.75
墨田区	8	320.98	354.17	5	21.08	12.90	84.18	120.67	3.20	170.98	32.40	12.10	14.33	0.60
江東区	14	327.33	168.03	9	26.71	7.14	136.60	282.43	13.24	377.33	55.03	14.81	37.79	3.03
品川区	12	249.73	153.42	8	15.75	7.63	69.21	211.46	8.13	135.29	9.88	7.92	31.38	2.54
目黒区	8	248.63	143.05	5	30.60	6.80	86.70	142.05	8.40	195.10	24.50	8.90	20.25	2.20
大田区	21	311.68	186.49	13	41.09	36.74	113.62	348.36	6.62	248.97	43.96	17.15	46.96	4.33
世田谷	25	339.59	209.38	16	24.07	9.65	97.60	216.41	13.55	189.26	36.70	9.08	40.91	3.68
渋谷区	7	192.29	140.43	4	9.25	5.00	43.75	156.25	13.50	119.25	9.75	6.00	13.75	
中野区	10	440.81	239.90	6	19.40	10.73	245.40	303.70	31.57	333.27	38.70	26.20	41.90	4.67
杉並	17	251.29	174.82	11	23.18	26.91	62.64	188.09	18.45	141.36	34.64	8.18	10.27	0.91
池袋	8	316.83	293.89	5	44.05	18.55	74.35	155.90	4.45	207.35	29.40	8.15	36.10	0.80
北区	11	351.09	265.00	7	22.71	23.71	174.14	187.71	8.14	212.43	41.71	20.29	21.00	1.57
荒川区	7	538.64	279.19	4	100.67	18.00	247.25	396.33	9.83	411.17	68.08	33.17	33.67	2.00
板橋区	16	281.94	227.94	10	11.40	6.20	97.30	167.80	4.50	124.00	36.10	7.20	13.00	1.80
練馬区	21	342.54	222.58	13	17.32	12.11	163.11	228.16	13.12	233.02	40.06	14.98	37.67	3.24
足立	20	291.48	248.15	13	38.66	48.44	139.13	239.55	4.50	145.44	10.37	20.79	26.12	2.19
葛飾区	13	326.59	224.81	8	7.00	4.88	114.50	181.75	11.75	143.63	26.88	10.50	25.25	0.75
江戸川	19	403.35	259.63	12	35.46	16.05	134.76	254.84	11.39	217.57	30.51	12.56	37.53	3.25
八王子市	18	591.34	291.86	11	39.77	18.18	218.26	416.92	13.91	372.66	43.47	17.85	39.67	4.01
町田市	13	421.00	215.31	8	6.13	3.75	169.88	286.25	9.25	243.88	51.13	9.75	33.13	6.38
西多摩	14	260.96	204.85	8	3.50	5.00	64.86	136.23	6.89	127.46	16.75	5.89	7.73	1.75
南多摩	14	339.70	221.97	9	19.61	7.79	61.51	171.96	6.32	188.53	16.71	9.90	23.57	3.26
多摩立川	21	376.40	209.78	14	21.14	7.71	149.86	157.21	7.43	193.93	33.43	9.36	22.21	3.14
多摩府中	33	416.55	216.79	21	20.29	15.67	172.24	251.14	10.52	284.71	59.38	16.29	24.62	4.05
多摩小平	23	483.09	260.78	15	29.53	39.45	264.37	316.97	10.95	400.81	43.29	22.46	25.88	2.55
島しょ	2	168.50	369.50	1	17.00		56.00		14.00	73.00		6.00	1.00	4.00
定点当たり報告数		345.47	221.34		24.69	16.44	135.59	233.59	10.30	224.86	34.90	13.61	26.91	2.84
前年定点当たり報告数		402.93	217.41		26.90	55.36	96.27	283.49	6.41	27.58	1.34	13.26	61.77	2.28
当年/前年		0.86	1.02		0.92	0.30	1.41	0.82	1.61	8.15	26.04	1.03	0.44	1.25

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表5-2(2) 保健所別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2024年第1週～第52週

	設置定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病	設置定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎 (オウム病を除く)	(口瘻性胃腸炎による)	インフルエンザ入院	新型コロナウイルス入院
千代田	3	1.67					2	0.50	6.50	33.50		9.00	152.50
中央区	3	0.33		1		28.00							
みなど	6	1.17	0.50				1		13.00	4.00		117.00	350.00
新宿区	8	0.25	1.88	2		30.00	2	0.50	1.00	79.50		15.50	159.00
文京	4	0.50	0.25	1		37.00	1		8.00			20.00	271.00
台東	4	1.75											
墨田区	5	5.92	0.60	1									
江東区	9	1.49	0.89	1		9.00							
品川区	8		0.42	1		19.00							
目黒区	5	4.00	1.40	1		4.00							
大田区	13	1.92	1.00	2		19.00	1	2.00		56.00		30.00	174.00
世田谷	16	3.75	0.63	2	1.00	55.50	2	3.00	8.00	55.50	1.00	2.00	61.50
渋谷区	4	0.25		1		78.00	1	1.00	1.00	2.00			
中野区	6	0.17		1		11.00	2	0.50		187.50	0.50	0.50	57.50
杉並	11	1.18	3.82	1		7.00	1		83.00	3.00			
池袋	5	0.40	0.80	1		72.00							
北区	7	0.71	0.71	1		6.00							
荒川区	4	2.00	0.50	1		22.00							
板橋区	10	1.00		2		14.00							
練馬区	13	4.32	0.08	2		31.00							
足立	13	0.94	1.91	2		17.50							
葛飾区	8	0.75		1	2.00	6.00							
江戸川	12	2.33	0.75	2	1.50	30.50							
八王子市	11	2.58	0.64	2	1.00	18.50							
町田市	8	1.63	0.63	1		27.00							
西多摩	8	1.13		1		4.00							
南多摩	9			1		31.00							
多摩立川	14	0.43	0.14	2	2.00	9.00							
多摩府中	21	5.33	0.14	3	0.33	24.00							
多摩小平	15	1.98	0.61	2		13.50							
島しょ	1												
定点当たり報告数		1.93	0.67		0.36	23.37							
前年定点当たり報告数		2.48	0.64		0.55	25.80							
当年/前年		0.78	1.05		0.65	0.91							

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表6(1) 年齢階級別患者報告数(インフルエンザ/COVID-19・小児科)

2024年第1週～第52週

	インフルエンザ	新型インフルエンザ感染症	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
6か月未満	284	653	606	24	17	623	11	457		71	51	1
12か月未満	898	1,396	1,170	224	132	3,370	45	3,788	58	719	530	4
1歳	2,756	2,154	2,445	916	876	7,044	129	14,788	347	1,884	1,642	26
2歳	3,163	1,293	1,170	618	1,606	5,423	109	9,930	562	558	1,242	32
3歳	3,916	1,109	531	527	2,737	4,898	112	7,376	1,030	195	906	60
4歳	5,007	1,066	266	531	3,674	5,107	172	7,008	1,510	90	856	91
5歳	5,930	1,120	105	423	4,145	4,916	197	5,786	1,659	30	672	117
6歳	7,436	1,108	40	301	4,517	4,540	257	3,382	1,364	15	410	90
7歳	9,047	1,124	36	184	3,983	3,906	266	2,010	863	6	230	99
8歳	9,628	1,214	21	116	3,506	3,537	359	1,451	761	2	136	70
9歳	9,853	1,272	20	91	2,643	2,907	307	945	526		115	39
10～14歳	34,959	7,807	36	149	4,901	7,141	670	1,294	423	1	186	88
15～19歳	11,827	6,376	14	25	583	1,562	35	142	14		27	14
20～29歳	8,155	10,059	25	181	2,268	6,291	37	665	70		60	15
30～39歳	8,415	10,113										
40～49歳	10,222	12,219										
50～59歳	7,280	12,926										
60～69歳	2,805	7,798										
70～79歳	1,310	6,340										
80歳以上	828	4,818										
合 計	143,719	91,965										
	6,485	4,310	35,588	61,265	2,706	59,022	9,187	3,571	7,063	746		

※小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

表6(2) 年齢階級別患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2024年第1週～第52週

	不明発しん症	川崎病	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性結膜炎	無菌性結膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジマム病肺炎を除く	（オウム病肺炎を除く）	感染性胃腸炎	（ロタウイルス）	インフルエンザ入院	新型コロナウイルス入院
6か月未満	12	5			6	27	4	1	2	27	140		
12か月未満	49	16		1		1	21				16	71	
1歳	113	45	1	21	2	1	53	1		45		107	
2歳	54	39		24			84	1	1	38		45	
3歳	49	24		16		2	106		2	34		35	
4歳	46	17		19		2	99	3	1	43		27	
5歳	53	13		22	1	2	120	3	1	41		32	
6歳	22	9	1	17		1	120			39		31	
7歳	25	2		7	1	2	164		3	42		28	
8歳	20			7	2		153		3	30		20	
9歳	16			6			140	1	1	36		21	
10～14歳	31	4		20		3	525		1	87		57	
15～19歳	6	2		19	2		82			35		60	
20～29歳	11			114		1	68			30		89	
30～39歳			5	210	1	7	31	3		31		122	
40～49歳			4	179	2	5	47	2		43		162	
50～59歳			1	106	3	2	19	1		86		389	
60～69歳			1	64	4	1	9	5		105		593	
70～79歳			1	57	6	2	7			183		1,366	
80歳以上					8	3	3			344		2,799	
合 計	507	176	14	909	39	61	1,855	21	15	1,335		6,194	

※小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

※眼科定点把握対象疾患の「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

表7-1 二次医療圏別患者報告数(インフルエンザ/COVID-19・小児科・眼科・基幹)

2024年第1週～第52週

	設置定点数 (インフルエンザ)	インフルエンザ	新型ウイルス感染症	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	A咽頭群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	
1 区中央部圏	32	7,909	6,016	20	361	236	2,341	4,730	213	4,433	602	303	335	62
2 区南部圏	33	9,528	5,731	21	659	538	2,024	6,194	150	4,284	649	285	857	76
3 区西南部圏	40	11,435	7,140	25	571	206	2,147	4,731	310	4,419	743	211	798	69
4 区西部圏	39	11,149	7,724	25	600	468	3,066	5,133	439	4,212	701	286	423	44
5 区西北部圏	56	17,942	13,498	35	715	477	4,655	6,706	294	6,754	1,316	446	939	75
6 区東北部圏	40	13,668	9,710	25	947	718	3,644	6,050	191	4,672	620	479	673	42
7 区東部圏	41	14,791	10,026	26	764	316	3,250	6,170	270	6,814	1,023	342	858	69
8 西多摩圏	14	3,653	2,852	8	28	40	518	1,086	55	1,013	133	47	61	14
9 南多摩圏	45	20,861	11,079	28	660	299	4,283	8,381	282	7,642	1,036	361	902	124
10 北多摩西部圏	21	7,904	4,397	14	296	108	2,098	2,201	104	2,715	468	131	311	44
11 北多摩南部圏	33	13,746	7,154	21	426	329	3,617	5,274	221	5,979	1,247	342	517	85
12 北多摩北部圏	23	10,796	5,899	15	441	575	3,889	4,609	163	6,012	649	332	388	38
13 島しょ圏	2	337	739	1	17		56		14	73		6	1	4
合計	419	143,719	91,965	264	6,485	4,310	35,588	61,265	2,706	59,022	9,187	3,571	7,063	746

	設置定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病
1 区中央部圏	20	22	4
2 区南部圏	21	25	16
3 区西南部圏	25	80	17
4 区西部圏	25	16	57
5 区西北部圏	35	72	10
6 区東北部圏	25	26	26
7 区東部圏	26	69	20
8 西多摩圏	8	9	
9 南多摩圏	28	41	12
10 北多摩西部圏	14	6	2
11 北多摩南部圏	21	112	3
12 北多摩北部圏	15	29	9
13 島しょ圏	1		
合計	264	507	176

	設置定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
2			65
3			57
4	2	193	
4			78
6			168
4	2	63	
4	3	70	
1			4
4	2	95	
2	4	17	
3	1	72	
2			27
39	14	909	

	設置定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎除く	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	インフルエンザ入院	新型感染症入院 ウイルス
4	1	13	88	4			155	926
1	2		56				30	174
3	7	17	113	2	4	181	771	
4	2	2	534	1	1	146	754	
2	3	3	127	3	1	41	281	
1		10	158	3	3	59	280	
1	4	1	220		2	87	322	
1			139				43	266
4							81	508
2				12			37	221
3	11	11	249	5	3	282	877	
2	9	4	159	3	1	193	756	
1								58
25	39	61	1,855	21	15	1,335	6,194	

表7-2 二次医療圏別定点当たり患者報告数(インフルエンザ/COVID-19・小児科・眼科・基幹)

2024年第1週～第52週

	設置定点数 (インフルエンザ)	インフルエンザ	新型ウイルス感染症	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	A咽群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	
1 区中央部圏	32	247.22	188.58	20	18.07	11.82	117.11	236.76	10.66	222.29	30.16	15.19	16.83	3.11
2 区南部圏	33	289.13	174.42	21	31.45	25.75	96.71	296.33	7.17	206.10	30.99	13.66	41.13	3.65
3 区西南部圏	40	294.37	183.34	25	22.98	8.32	86.63	191.69	12.50	179.06	29.94	8.54	32.35	2.79
4 区西部圏	39	285.93	198.97	25	24.07	18.77	122.89	205.85	17.58	169.47	28.11	11.48	17.07	1.77
5 区西北部圏	56	323.22	242.54	35	20.52	13.68	133.45	192.29	8.44	194.04	37.77	12.80	26.98	2.15
6 区東北部圏	40	347.01	245.99	25	38.44	29.29	148.58	246.45	7.74	187.16	24.86	19.42	26.99	1.70
7 区東部圏	41	361.28	246.49	26	29.67	12.29	125.63	238.70	10.45	263.86	39.41	13.27	33.19	2.67
8 西多摩圏	14	260.96	204.85	8	3.50	5.00	64.86	136.23	6.89	127.46	16.75	5.89	7.73	1.75
9 南多摩圏	45	463.96	247.97	28	23.70	10.70	153.85	300.87	10.13	276.41	37.21	13.00	32.54	4.44
10 北多摩西部圏	21	376.40	209.78	14	21.14	7.71	149.86	157.21	7.43	193.93	33.43	9.36	22.21	3.14
11 北多摩南部圏	33	416.55	216.79	21	20.29	15.67	172.24	251.14	10.52	284.71	59.38	16.29	24.62	4.05
12 北多摩北部圏	23	483.09	260.78	15	29.53	39.45	264.37	316.97	10.95	400.81	43.29	22.46	25.88	2.55
13 島しょ圏	2	168.50	369.50	1	17.00		56.00		14.00	73.00		6.00	1.00	4.00

	設置定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病	設置定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎除く	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	インフルエンザ入院	新型感染症入院 ウイルス	
1 区中央部圏	20	1.10	0.20	2		32.50	4	0.25	3.25	22.00	1.00		38.75	231.50	
2 区南部圏	21	1.20	0.79	3		19.50	1	2.00		56.00			30.00	174.00	
3 区西南部圏	25	3.24	0.69	4	0.50	48.25	3	2.33	5.67	37.67	0.67	1.33	60.33	257.00	
4 区西部圏	25	0.64	2.28	4		19.67	4	0.50	15.75	0.50	133.50	0.25	0.25	36.50	188.50
5 区西北部圏	35	2.07	0.29	6		28.00	2	1.50	1.50	63.50	1.50	0.50	20.50	140.50	
6 区東北部圏	25	1.05	1.06	4	0.50	15.75	1		10.00	158.00	3.00	3.00	59.00	280.00	
7 区東部圏	26	2.69	0.78	4	0.75	17.67	1	4.00	1.00	220.00		2.00	87.00	322.00	
8 西多摩圏	8	1.13		1		4.00	1		139.00				43.00	266.00	
9 南多摩圏	28	1.47	0.43	4	0.50	23.75	1						81.00	508.00	
10 北多摩西部圏	14	0.43	0.14	2	2.00	9.00	2			12.00			37.00	221.00	
11 北多摩南部圏	21	5.33	0.14	3	0.33	24.00	3	3.67	3.67	83.00	1.67	1.00	94.00	292.33	
12 北多摩北部圏	15	1.98	0.61	2		13.50	2	4.50	2.00	79.50	1.50	0.50	96.50	378.00	
13 島しょ圏	1			1			1							58.00	

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表8-1 月別患者報告数(基幹)

2024年1月～12月

	報告 定 点 数	メ黄色 チ色 シブ リド ンウ 耐球 性菌 感 染 症	ペ肺炎 ニ炎 シ球 リ菌 ン感 耐染 性症	薬剤 耐 性 綠 膿 菌 感 染 症
1月	25	53	6	
2月	25	57	5	
3月	25	60	7	
4月	25	68	6	
5月	25	55	7	1
6月	25	58	4	
7月	25	60	2	2
8月	25	57	4	
9月	25	57	1	1
10月	25	74	6	1
11月	25	65	5	
12月	25	66	5	3
合 計		730	58	8

表8-2 月別定点当たり患者報告数(基幹)

2024年1月～12月

	報告 定 点 数	メ黄色 チ色 シブ リド ンウ 耐球 性菌 感 染 症	ペ肺炎 ニ炎 シ球 リ菌 ン感 耐染 性症	薬剤 耐 性 綠 膿 菌 感 染 症
1月	25	2.12	0.24	
2月	25	2.28	0.20	
3月	25	2.40	0.28	
4月	25	2.72	0.24	
5月	25	2.20	0.28	0.04
6月	25	2.32	0.16	
7月	25	2.40	0.08	0.08
8月	25	2.28	0.16	
9月	25	2.28	0.04	0.04
10月	25	2.96	0.24	0.04
11月	25	2.60	0.20	
12月	25	2.64	0.20	0.12
平均		2.43	0.19	0.03
合 計		29.20	2.32	0.32
前年合計		27.72	2.84	0.32
当年/前年		1.05	0.82	1.00

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表8-3 月別・性別患者報告数(基幹) 2024年1月～12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 綠膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
1月	25	28	6			
2月	35	22	1	4		
3月	36	24	1	6		
4月	44	24	5	1		
5月	29	26	6	1	1	
6月	43	15	3	1		
7月	37	23	2			2
8月	33	24	4			
9月	36	21	1		1	
10月	43	31	4	2		1
11月	36	29	2	3		
12月	41	25	3	2	3	
合 計	438	292	38	20	5	3

表8-4 性別・年齢階級別患者報告数(基幹) 2024年1月～12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
0歳	15	13	5			
1～4歳	16	16	6	2		
5～9歳	10	10	1	2		
10～14歳	3	13	2	2		
15～19歳	4	6		1		
20～24歳	5	5	1			
25～29歳	4	4	3	2		
30～34歳	5	5				
35～39歳	10	5		3		2
40～44歳	7	5	3			
45～49歳	10	4			1	
50～54歳	10	5				
55～59歳	26	7		1	1	
60～64歳	29	9	2			
65～69歳	33	14	4		1	
70歳以上	251	171	11	7	2	1
合計	438	292	38	20	5	3
定点当たり報告数	17.52	11.68	1.52	0.80	0.20	0.12
前年定点当たり報告数	17.04	10.68	1.48	1.36	0.16	0.16
当年／前年	1.03	1.09	1.03	0.59	1.25	0.75

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表9-1 月別患者報告数(性感染症)

2024年1月～12月

報告 定点 数	性器 クラ ミジ ア感 染症	性感 器染 へ症	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	淋 菌 感 染 症	膣 トリ コ モ ナ ス 症	
1月	55	200	47	45	81	11
2月	55	201	35	67	77	11
3月	55	246	36	61	84	8
4月	55	207	46	55	72	7
5月	55	219	42	54	76	6
6月	55	199	34	52	83	5
7月	55	211	44	36	72	6
8月	55	228	43	47	65	7
9月	55	238	45	49	60	8
10月	55	261	42	40	87	8
11月	55	199	33	37	66	9
12月	54	165	38	48	71	3
合計	2,574	485	591	894	89	

表9-2 月別定点当たり患者報告数(性感染症)

2024年1月～12月

報告 定点 数	性器 クラ ミジ ア感 染症	性感 器染 へ症	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	淋 菌 感 染 症	膣 トリ コ モ ナ ス 症	
1月	55	3.64	0.85	0.82	1.47	0.20
2月	55	3.65	0.64	1.22	1.40	0.20
3月	55	4.47	0.65	1.11	1.53	0.15
4月	55	3.76	0.84	1.00	1.31	0.13
5月	55	3.98	0.76	0.98	1.38	0.11
6月	55	3.62	0.62	0.95	1.51	0.09
7月	55	3.84	0.80	0.65	1.31	0.11
8月	55	4.15	0.78	0.85	1.18	0.13
9月	55	4.33	0.82	0.89	1.09	0.15
10月	55	4.75	0.76	0.73	1.58	0.15
11月	55	3.62	0.60	0.67	1.20	0.16
12月	54	3.06	0.70	0.89	1.31	0.06
平均		3.90	0.74	0.90	1.36	0.13
合計		46.86	8.83	10.76	16.28	1.62
前年合計		48.59	10.94	19.21	19.56	1.44
当年/前年		0.96	0.81	0.56	0.83	1.12

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表9-3 月別・性別患者報告数(性感染症) 2024年1月～12月

報告 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	111	89	26	21	30	15	59	22	11
2月	55	110	91	20	15	50	17	54	23	11
3月	55	145	101	22	14	40	21	63	21	6
4月	55	137	70	28	18	32	23	60	12	7
5月	55	142	77	23	19	35	19	61	15	5
6月	55	113	86	23	11	35	17	60	23	5
7月	55	124	87	27	17	23	13	51	21	6
8月	55	123	105	20	23	29	18	46	19	7
9月	55	123	115	28	17	33	16	42	18	8
10月	55	139	122	28	14	29	11	54	33	8
11月	55	124	75	21	12	25	12	45	21	9
12月	54	96	69	32	6	37	11	52	19	3
合 計		1,487	1,087	298	187	398	193	647	247	86

表9-4 月別・性別定点当たり患者報告数(性感染症) 2024年1月～12月

報告 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	2.02	1.62	0.47	0.38	0.55	0.27	1.07	0.40	0.20
2月	55	2.00	1.65	0.36	0.27	0.91	0.31	0.98	0.42	0.20
3月	55	2.64	1.84	0.40	0.25	0.73	0.38	1.15	0.38	0.04
4月	55	2.49	1.27	0.51	0.33	0.58	0.42	1.09	0.22	0.13
5月	55	2.58	1.40	0.42	0.35	0.64	0.35	1.11	0.27	0.09
6月	55	2.05	1.56	0.42	0.20	0.64	0.31	1.09	0.42	0.09
7月	55	2.25	1.58	0.49	0.31	0.42	0.24	0.93	0.38	0.11
8月	55	2.24	1.91	0.36	0.42	0.53	0.33	0.84	0.35	0.13
9月	55	2.24	2.09	0.51	0.31	0.60	0.29	0.76	0.33	0.15
10月	55	2.53	2.22	0.51	0.25	0.53	0.20	0.98	0.60	0.15
11月	55	2.25	1.36	0.38	0.22	0.45	0.22	0.82	0.38	0.16
12月	54	1.78	1.28	0.59	0.11	0.69	0.20	0.96	0.35	0.06

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表9-5 保健所別、二次医療圏別患者報告数(性感染症)

2024年1月～12月

	設 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	17	2	14	5	18	1	9	12		1
中央区	3	34	12	39	13	13	3	17	2		2
みなと	2	77	31	46	11	137	7	29	4		1
新宿区	7	167	63	43	12	24	12	73	11	1	7
文京	1	33		9		17		9			
台東	2	10	67	2	18	5	56	7	76		16
墨田区	2	44	2	4		15	5	15	3		
江東区	2	118	5	32	6	16	11	32	2		
品川区	1	512	339	55	15	72	16	225	96	1	4
大田区	2	5	8					2			
渋谷区	5	135	103	24	35	37	49	73	4	1	2
中野区	2	123	2			3	1	66	1		4
杉並	2	41	9	3	1	9	2	11	2		
池袋	3	82	49	15	34	14	2	50	5		12
北区	1	6						2			
荒川区	1		30								
板橋区	2	8	34	3	1	9		4	4		
足立	2	9	34	1	6	2	3	1	5		4
江戸川	2	61	142	8	1	7	17	21	10		12
八王子市	4	1	50		11		4		5		11
町田市	1		15		3						
多摩立川	2	2	75		13		4		4		9
多摩府中	3	2	13		2			1			
多摩小平	1		2						1		1
合 計	55	1,487	1,087	298	187	398	193	647	247	3	86
定点当たり報告数		27.07	19.79	5.43	3.40	7.25	3.51	11.78	4.50	0.05	1.56
前年定点当たり報告数		29.21	19.38	6.84	4.10	13.48	5.73	14.08	5.48	0.09	1.35
当年/前年		0.93	1.02	0.79	0.83	0.54	0.61	0.84	0.82	0.56	1.16

区中央部圏	10	171	112	110	47	190	67	71	94		20
区南部圏	3	517	347	55	15	72	16	227	96	1	4
区西南部圏	5	135	103	24	35	37	49	73	4	1	2
区西部圏	11	331	74	46	13	36	15	150	14	1	11
区西北部圏	6	96	83	18	35	23	2	56	9		12
区東北部圏	3	9	64	1	6	2	3	1	5		4
区東部圏	6	223	149	44	7	38	33	68	15		12
南多摩圏	5	1	65		14		4		5		11
北多摩西部圏	2	2	75		13		4		4		9
北多摩南部圏	3	2	13		2			1			
北多摩北部圏	1		2						1		1

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表9-6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数(性感染症)

2024年1月～12月

	設 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	8.50	1.00	7.00	2.50	9.00	0.50	4.50	6.00		0.50
中央区	3	11.33	4.00	13.00	4.33	4.33	1.00	5.67	0.67		0.67
みなと	2	38.50	15.50	23.00	5.50	68.50	3.50	14.50	2.00		0.50
新宿区	7	23.86	9.00	6.14	1.71	3.43	1.71	10.43	1.57	0.14	1.00
文京	1	33.00		9.00		17.00		9.00			
台東	2	5.00	33.50	1.00	9.00	2.50	28.00	3.50	38.00		8.00
墨田区	2	22.00	1.00	2.00		7.50	2.50	7.50	1.50		
江東区	2	59.00	2.50	16.00	3.00	8.00	5.50	16.00	1.00		
品川区	1	512.00	339.00	55.00	15.00	72.00	16.00	225.00	96.00	1.00	4.00
大田区	2	2.50	4.00					1.00			
渋谷区	5	27.00	20.60	4.80	7.00	7.40	9.80	14.60	0.80	0.20	0.40
中野区	2	61.50	1.00			1.50	0.50	33.00	0.50		2.00
杉並	2	20.50	4.50	1.50	0.50	4.50	1.00	5.50	1.00		
池袋	3	27.33	16.33	5.00	11.33	4.67	0.67	16.67	1.67		4.00
北区	1	6.00						2.00			
荒川区	1		30.00								
板橋区	2	4.00	17.00	1.50	0.50	4.50		2.00	2.00		
足立	2	4.50	17.00	0.50	3.00	1.00	1.50	0.50	2.50		2.00
江戸川	2	30.50	71.00	4.00	0.50	3.50	8.50	10.50	5.00		6.00
八王子市	4	0.25	12.67		2.83		1.00		1.25		2.75
町田市	1		15.00		3.00						
多摩立川	2	1.00	37.50		6.50		2.00		2.00		4.50
多摩府中	3	0.67	4.33		0.67			0.33			
多摩小平	1		2.00						1.00		1.00
合 計	55	1,487	1,087	298	187	398	193	647	247	3	86
定点当たり報告数		27.07	19.79	5.43	3.40	7.25	3.51	11.78	4.50	0.05	1.56

区中央部圏	10	17.10	11.20	11.00	4.70	19.00	6.70	7.10	9.40		2.00
区南部圏	3	172.33	115.67	18.33	5.00	24.00	5.33	75.67	32.00	0.33	1.33
区西南部圏	5	27.00	20.60	4.80	7.00	7.40	9.80	14.60	0.80	0.20	0.40
区西部圏	11	30.09	6.73	4.18	1.18	3.27	1.36	13.64	1.27	0.09	1.00
区西北部圏	6	16.00	13.83	3.00	5.83	3.83	0.33	9.33	1.50		2.00
区東北部圏	3	3.00	21.33	0.33	2.00	0.67	1.00	0.33	1.67		1.33
区東部圏	6	37.17	24.83	7.33	1.17	6.33	5.50	11.33	2.50		2.00
南多摩圏	5	0.20	13.15		2.85		0.80		1.00		2.20
北多摩西部圏	2	1.00	37.50		6.50		2.00		2.00		4.50
北多摩南部圏	3	0.67	4.33		0.67			0.33			
北多摩北部圏	1		2.00						1.00		1.00

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表9-7 年齢階級別患者報告数(性感染症) 2024年1月～12月

	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳										
1～4歳										
5～9歳										
10～14歳							1			
15～19歳	15	89	3	8	6	14	10	26		4
20～24歳	261	359	30	31	36	75	106	80	1	16
25～29歳	354	337	55	38	57	36	148	50	1	12
30～34歳	240	131	38	34	75	24	106	25	1	15
35～39歳	198	76	39	25	49	19	81	11		8
40～44歳	157	40	46	18	32	9	70	7		10
45～49歳	126	27	27	12	53	4	58	18		10
50～54歳	58	12	17	6	31	4	26	16		8
55～59歳	49	7	20	6	30	6	28	4		2
60～64歳	19	8	12	4	15	1	8	9		
65～69歳	6		6	2	8	1	4			
70歳以上	4	1	5	3	6		1	1		1
合計	1,487	1,087	298	187	398	193	647	247	3	86

表10 検査結果別報告数(基幹) 2024年1週～52週

	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラ ズマ肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	合計
<i>Enterococcus faecium</i>	1					1
<i>Escherichia coli</i>	3					3
<i>Haemophilus influenzae</i>	1					1
<i>Listeria monocytogenes</i>	1					1
<i>Staphylococcus aureus</i>	2					2
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	5					5
<i>Staphylococcus</i> sp.	1					1
<i>Streptococcus agalactiae</i>	5					5
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	1					1
<i>Streptococcus</i> other groups	1					1
<i>Streptococcus</i> group unknown	1					1
other bacteria	1					1
Enterovirus 68		1				1
Herpes simplex virus 1		2				2
Herpes simplex virus 2		1				1
Human herpes virus 6		1				1
Varicella-zoster virus		10				10
Enterovirus NT		23				23
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	1	2	1,845			1,848
<i>Chlamydia trachomatis</i>				2		2
<i>Chlamydia</i> species unknown				1		1
<i>Chlamydophila pneumoniae</i>				18		18
Rotavirus group A NT					1	1
Rotavirus group unknown					14	14
合計	24	40	1,845	21	15	1,945

表11 入院サーベイランス 入院時の状況 2024年1週～52週

	インフルエンザ入院						新型コロナウイルス感染症入院
	I C U入室	人工呼吸器の利用	頭部C T検査	頭部M R I検査	脳波検査	い ズ れ に も 該 当 せ ず	
6か月未満	1	1	1			26	1
12か月未満	2	2	2			13	2
1歳	7	3	25	1	5	18	26
2歳	3		8	3	2	27	10
3歳	4	3	9	1	4	24	10
4歳	4	2	9	2	3	32	10
5歳	8	4	7		3	28	9
6歳	2	2	4	1	3	31	6
7歳	1	3	6	3	2	32	7
8歳	3	3	5	1	2	22	6
9歳	5	3	5	1	3	28	5
10～14歳	9	6	2		1	75	3
15～19歳	3	1		1		31	1
20～29歳	5	5	1			22	1
30～39歳	3	2	2			27	2
40～49歳	6		1		1	37	1
50～59歳	16	5	9	2		62	10
60～69歳	19	7	10	3	1	75	12
70～79歳	15	5	16	6		152	18
80歳以上	23	6	28	6		293	29
合 計	139	63	150	31	30	1,055	169

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・内科・基幹病原体定点医療機関からの搬入検体

ア インフルエンザ

① 2023/2024 年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

インフルエンザウイルスの流行シーズンは、毎年 9 月（第 36 週）を境にシーズン分けがされている。2024 年第 1 週～第 35 週は 2023/2024 年シーズン、2024 年第 36 週～第 52 週は 2024/2025 年シーズンとなる。2023/2024 年シーズン（2023 年第 36 週～2024 年第 35 週）は、インフルエンザ病原体定点医療機関より 595 検体が搬入され、前シーズンの搬入検体数（208 件）よりも大幅に増加した。遺伝子検査では AH1pdm09 132 件（28.7%）、AH3 亜型 189 件（41.1%）、B 型 139 件（Victoria 系統 139 件：30.2%、Yamagata 系統 0 件：0%）の計 460 件が検出され、3 種類の亜型が流行を占めた（図 1a、図 2a）。ウイルス分離検査では、AH1pdm09 114 株、AH3 亜型 149 株、B 型 123 株（Victoria 系統 123 株、Yamagata 系統 0 株）の計 386 株が分離された。2023/2024 年シーズンは、2022/2023 シーズンから流行が引き続いた状態でシーズンが始まり、第 36 週からインフルエンザウイルスが検出され、その後も数多く検出された。2023 年は AH3 亜型と AH1pdm09 の検出割合が高く、2024 年は第 17 週まで B 型 Victoria 系統の検出割合が増加した。

② 2024/2025 年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

2024/2025 年シーズン（2024 年第 36 週～2025 年第 9 週までの途中経過）は、インフルエンザ病原体定点医療機関より 371 検体が搬入された。遺伝子検査では AH1pdm09 221 件（79.5%）、AH3 亜型 42 件（15.1%）、B 型 15 件（Victoria 系統 15 件：5.4%、Yamagata 系統 0 件：0%）の計 278 件が検出され、AH1pdm09 が流行株の大部分を占めた（図 1b、図 2b）。ウイルス分離検査では、AH1pdm09 188 株、AH3 亜型 36 株、B 型 13 株（Victoria 系統 13 株、Yamagata 系統 0 株）の計 237 株が分離された。2024/2025 年シーズンは、第 36 週からインフルエンザウイルスが途絶えることなく検出され、第 46 週から検出数が増加した。2025 年第 5 週まで AH1pdm09 が検出割合の多くを占め、2025 年第 6 週以降は AH3 亜型や B 型 Victoria 系統の検出割合が増加した。

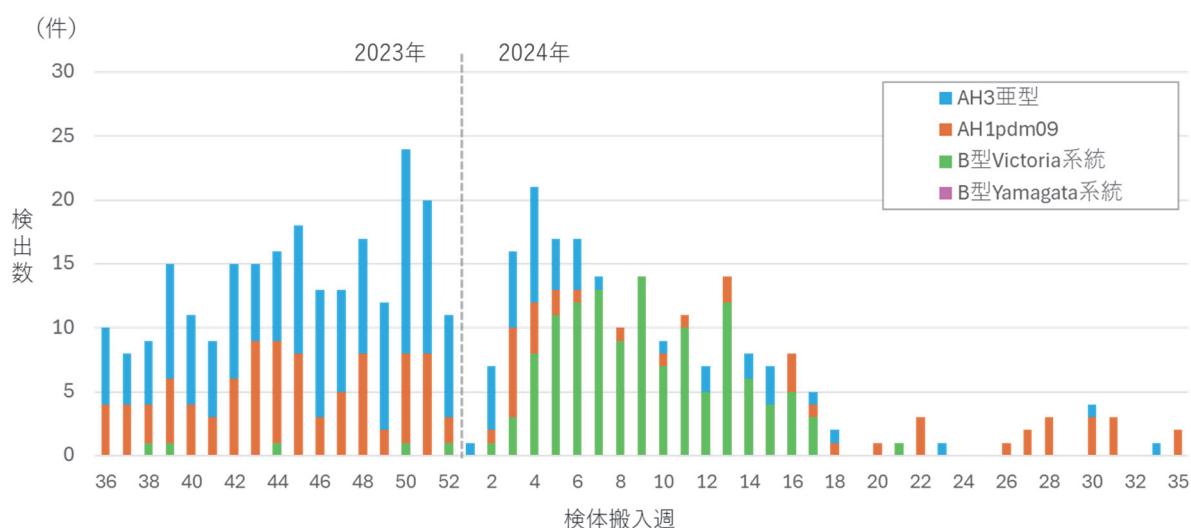


図 1a. 2023/2024 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出数

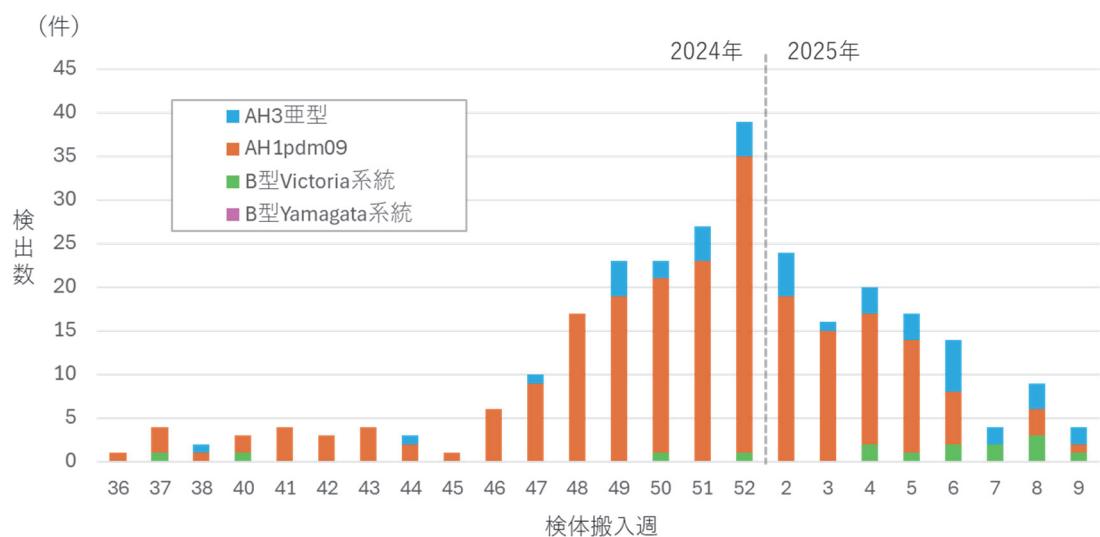


図 1b. 2024/2025 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出数（2025 年 2 月末現在）

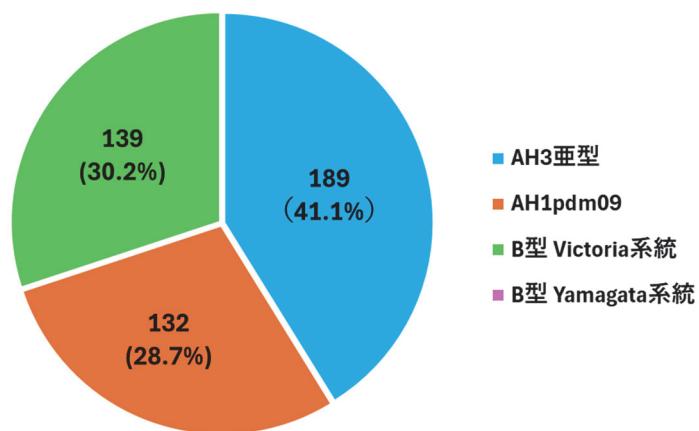


図 2a. 2023/2024 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出状況

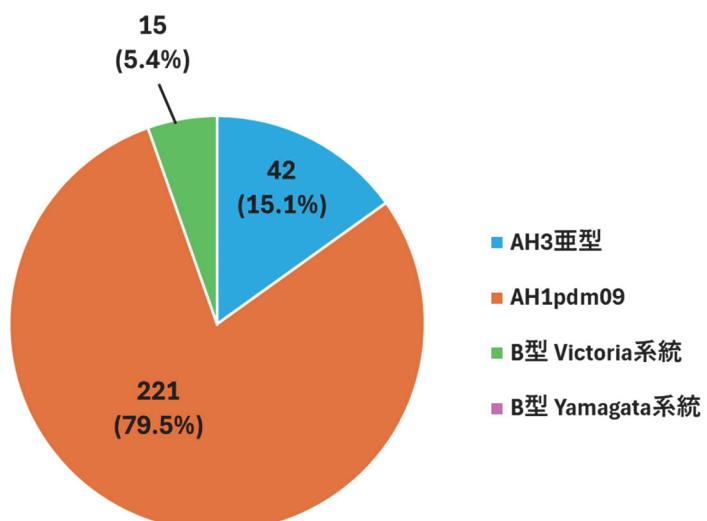


図 2b. 2024/2025 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出状況（2025 年 2 月末現在）

③ インフルエンザウイルスの抗原解析

遺伝子解析及びワクチン株抗血清を用いた HI 試験により、インフルエンザウイルスの抗原性状を比較した。遺伝子解析は、RT-nested -PCR 検査によって得られた HA (ヘマグルチニン) 遺伝子の一部断片を用いてダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定し、ワクチン株と分子系統樹上で比較した。分離株の性状解析は、国立感染症研究所から配布されたインフルエンザサーベイランスキット抗血清を用いた HI 試験 (1.0%モルモット赤血球浮遊液を使用) により行った。

AH1pdm09 は、2023/2024 年シーズンの流行株とワクチン株 (A/Victoria/4897/2022) を比較したところ、解析範囲 (565 塩基) の遺伝子変異は 4~12 塩基 (塩基一致率 : 97.8%~99.2%) であった。これらの株は系統樹上ではクレード①・②の 2 つに大別された (図 3)。HA 値が 8 倍以上あり HI 試験が実施できた 109 株は、107 株 (98.2%) でワクチン株と同等の反応性が見られ、2 株 (1.8%) でワクチン株抗体との反応性の低下が見られた。2024/2025 年シーズンの流行株とワクチン株を比較すると、解析範囲の遺伝子変異は 6~13 塩基 (塩基一致率 : 97.6%~98.9%) であった。系統樹上では、流行株の多くはワクチン株とは異なるクレード①に属した (図 3)。HA 値が 8 倍以上あり HI 試験が実施できた 184 株は、154 株 (83.7%) でワクチン株と同等の反応性が見られ、30 株 (16.3%) でワクチン株抗体との反応性の低下が見られた。

AH3 亜型は、2023/2024 年シーズンの流行株とワクチン株 (A/Darwin/9/2021) を比較すると、解析範囲 (329 塩基) の遺伝子変異は 8~12 塩基 (塩基一致率 : 96.3%~97.5%) であった。系統樹上では、流行株の多くはワクチン株と同じクレードに属した (図 4)。HI 試験による抗原性状ではワクチン株と同等の反応性がみられ、抗原性に大きな変異はないと推察された。2024/2025 年シーズンはワクチン株が A/Darwin/9/2021 から A/California /122/2022 に変更された。2024/2025 年シーズンの流行株とワクチン株を比較すると、解析範囲の遺伝子変異は 4~11 塩基 (塩基一致率 : 96.6%~98.7%) であった。系統樹上では、流行株はワクチン株と同じクレードに属した。(図 4) HA 値が 8 倍以上あり HI 試験が実施できた 34 株は、31 株 (91.2%) でワクチン株と同等の反応性が見られ、3 株 (8.8%) でワクチン株抗体との反応性の低下が見られた。

B 型 Victoria 系統では、2023/2024 年シーズンの検出株とワクチン株 (B/Austria/1359417/2021) では、解析範囲 (243 塩基) での遺伝子変異は 4~6 塩基 (塩基一致率 : 97.5%~98.3%) であった。系統樹上ではワクチン株と同じクレードに属し (図 5)、HI 試験による抗原性状ではワクチン株と同等の反応性がみられた。2024/2025 年シーズンの流行株とワクチン株を比較すると、解析範囲の遺伝子変異は 4~6 塩基 (塩基一致率 : 97.5%~98.3%) であった。系統樹上では、流行株はワクチン株と同じクレードに属し、HI 試験による抗原性状ではワクチン株と同等の反応性がみられた。

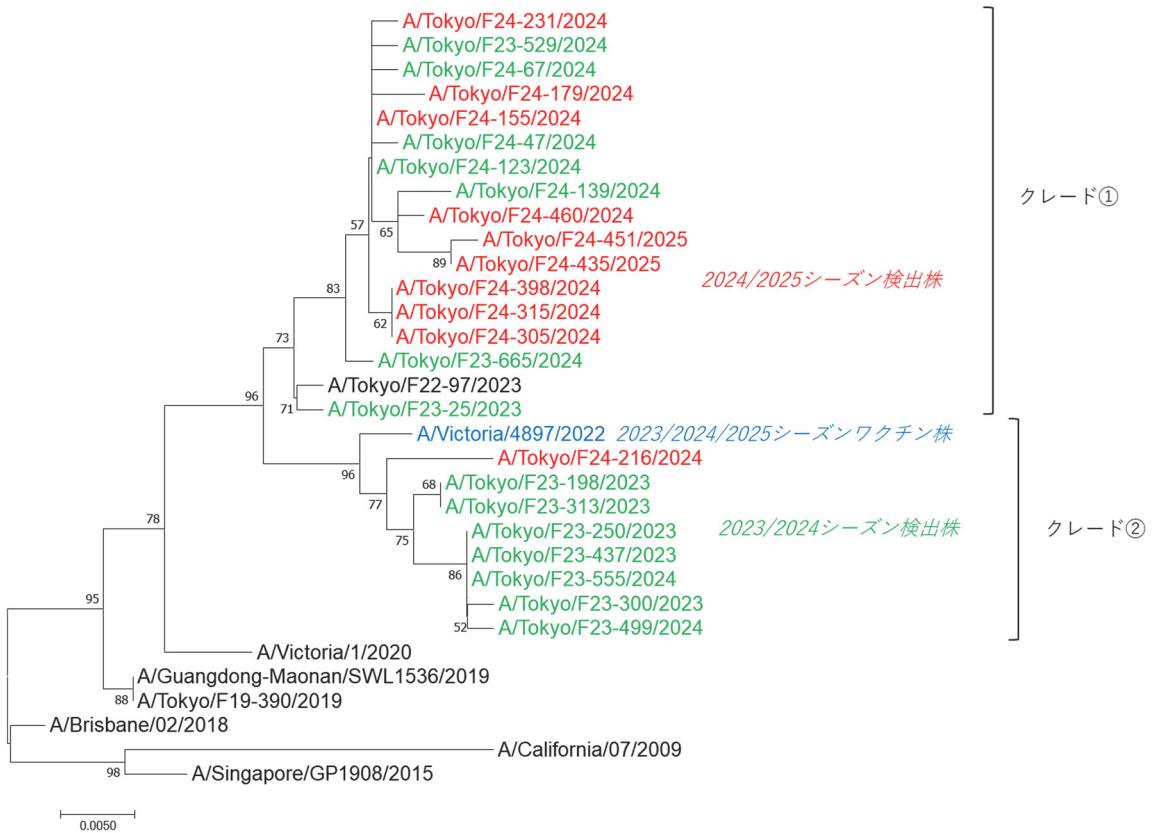


図 3. 東京都における AH1pdm09 インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

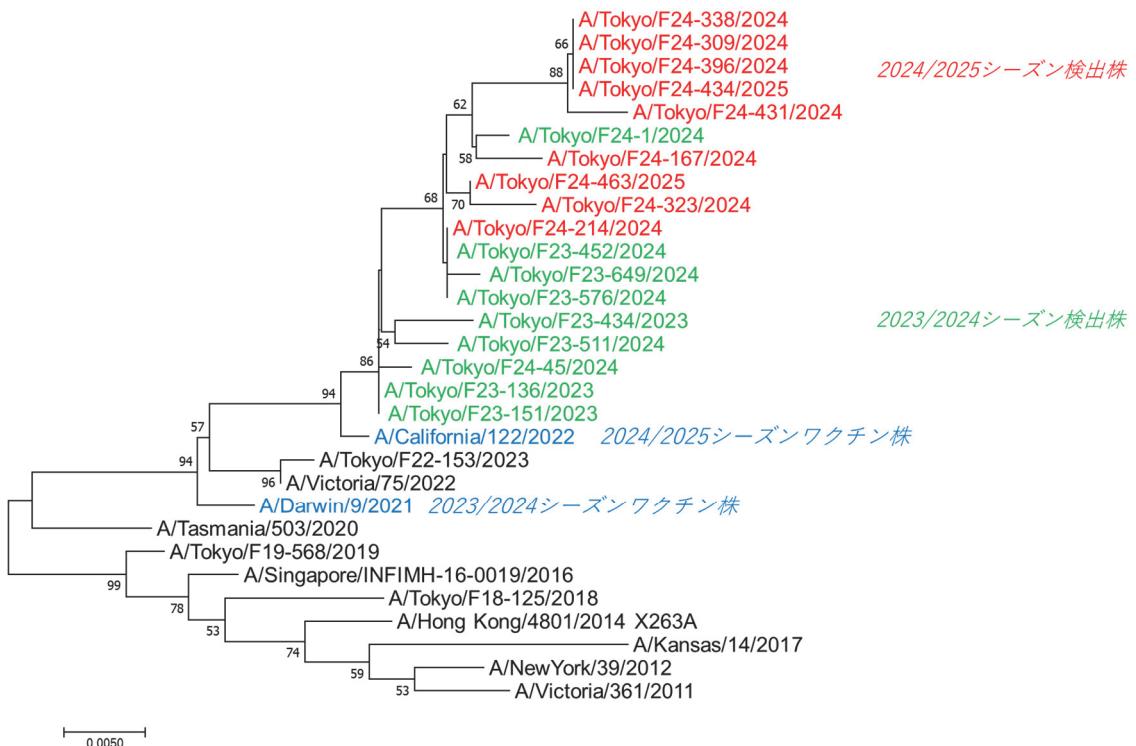


図 4. 東京都における AH3 亜型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

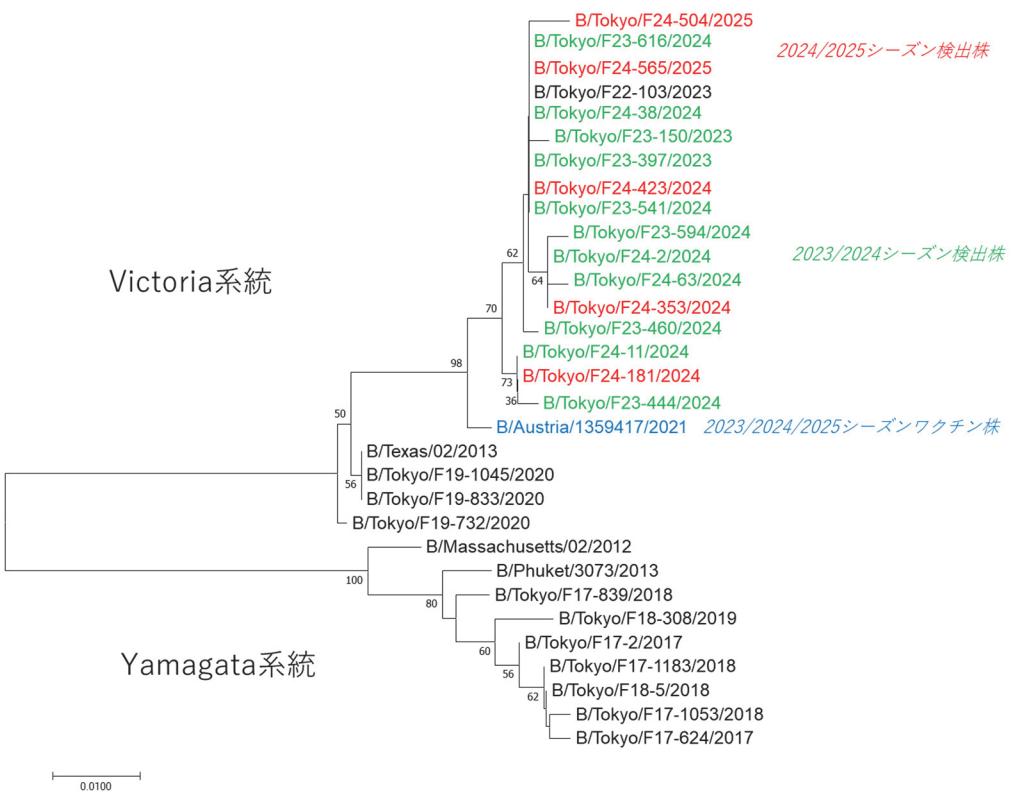


図 5. 東京都における B 型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

④ その他のウイルスの検出状況

インフルエンザウイルスの検査と同時にエンテロウイルス、アデノウイルスおよび新型コロナウイルスの遺伝子検査を行った。その結果、2023/2024 年シーズンは 595 検体が搬入され、ライノウイルス 48 件、コクサッキーウィルス 3 件、エンテロウイルス D68 型 2 件、アデノウイルス 15 件、新型コロナウイルス 53 件が検出された（図 6a）。2024/2025 年シーズンでは 371 検体が搬入され、ライノウイルス 32 件、コクサッキーウィルス 1 件、エンテロウイルス D68 型 3 件、アデノウイルス 8 件、新型コロナウイルス 32 件が検出された（図 6b）。

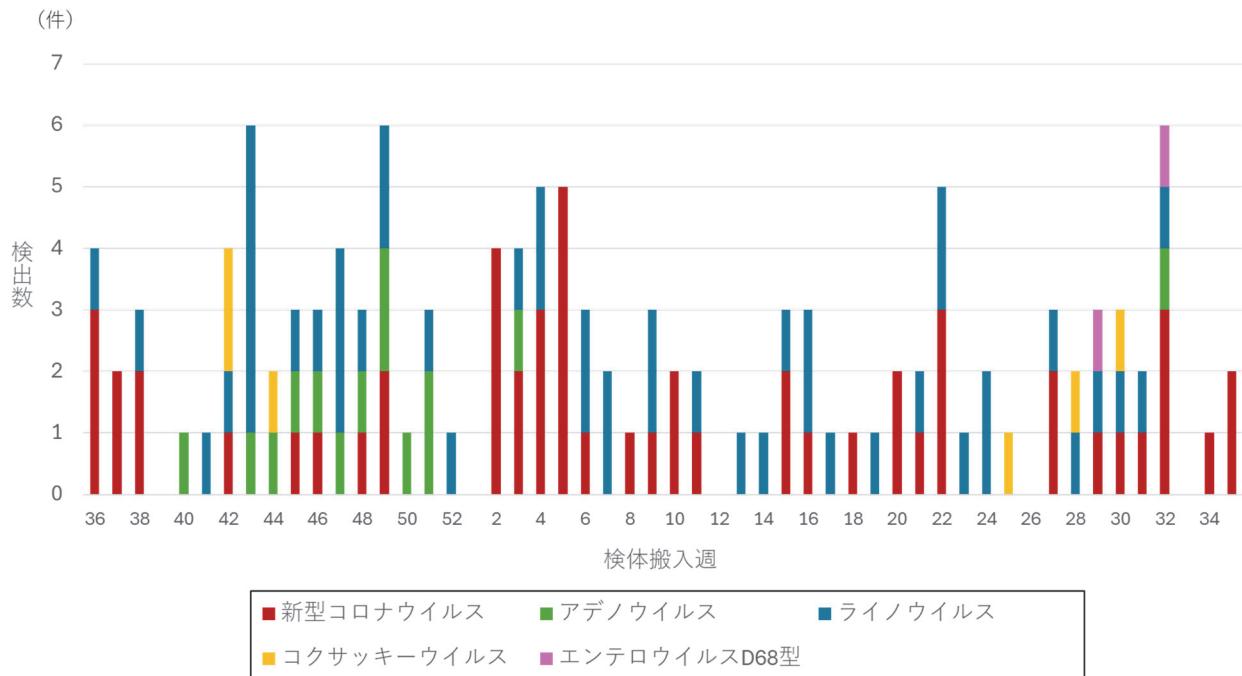


図 6a. 2023/2024 年シーズンのその他のウィルスの遺伝子検出数

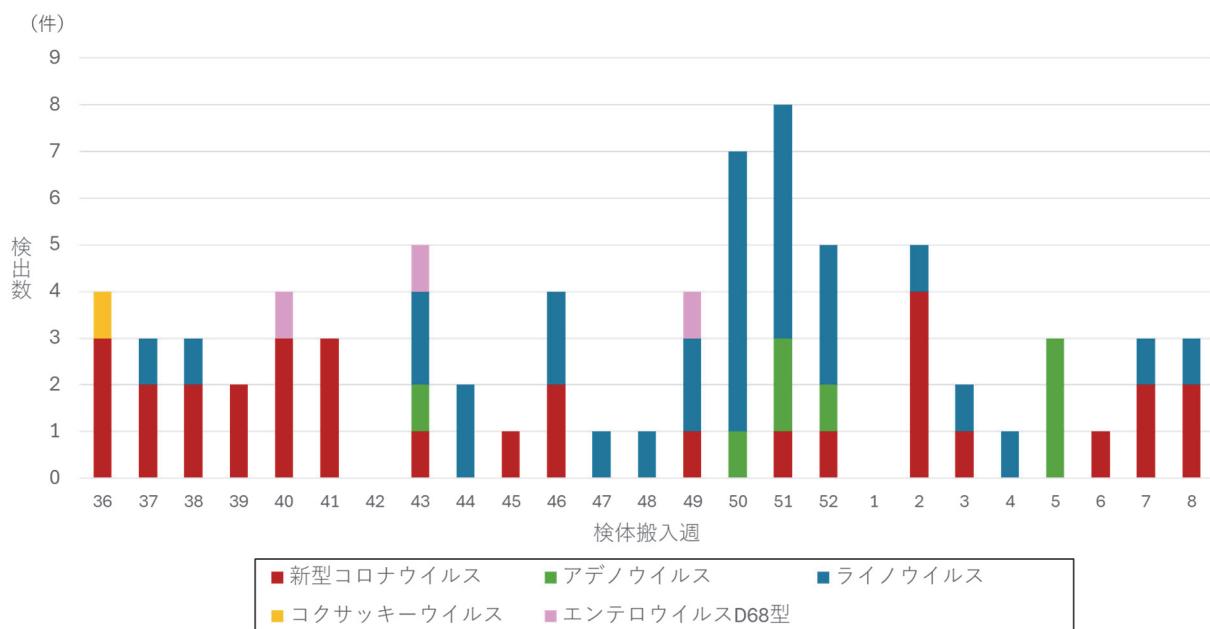


図 6b. 2024/2025 年シーズンのその他のウィルスの遺伝子検出数 (2025 年 2 月末現在)

イ RS ウイルス感染症

小児科定点医療機関で RS ウイルス感染症と診断され、当センターに搬入された患者検体 13 件について RS ウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。13 件中 6 件から RS ウィルス遺伝子（A 型 5 件、B 型 1 件）が検出された。また、新型コロナウイルスが 1 件、ライノウイルスが 1 件、アデノウイルス 2 型が 1 件、パラインフルエンザ 3 型が 1 件検出された（重複検出を含む）。分離試験では、アデノウイルス 2 型が 1 株分離された（表 1、図 7）。

表 1. RS ウイルス感染症患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離株数
RSウイルスA型	5	
RSウイルスB型	1	
新型コロナウイルス	1	
ライノウイルス	1	
アデノウイルス2型	1	1
パラインフルエンザ3型	1	
陰性	4	11

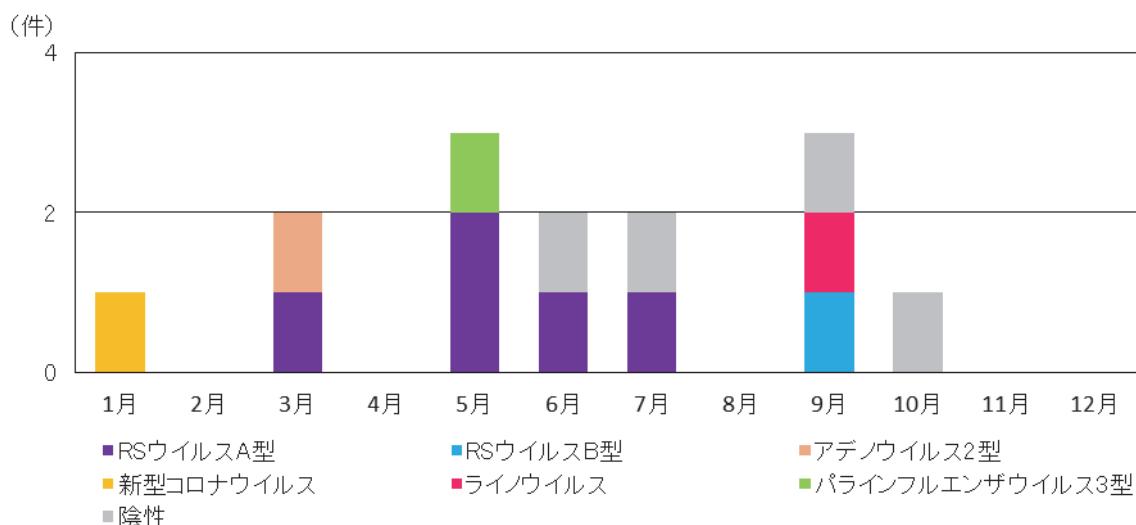


図 7. RS ウイルス感染症患者検体からのウイルス検出状況（重複検出を含む）

ウ 咽頭結膜熱

小児科定点医療機関で咽頭結膜熱と診断され、当センターに搬入された患者検体 13 件についてアデノウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、13 件中 10 件からアデノウイルス遺伝子（1 型：1 件、2 型：5 件、3 型：4 件）が検出された。また、ライノウイルスが 3 件、エンテロウイルス D68 型が 1 件、RS ウィルス A 型が 1 件検出された（重複検出を含む）。分離試験では、アデノウイルス 1 型が 1 株、2 型と 3 型がそれぞれ 3 株ずつ分離された（表 2、図 8）。

表 2. 咽頭結膜熱患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離件数
アデノウイルス1型	1	1
アデノウイルス2型	5	3
アデノウイルス3型	4	3
ライノウイルス	3	
エンテロウイルスD68型	1	
RSウイルスA型	1	
陰性	2	6

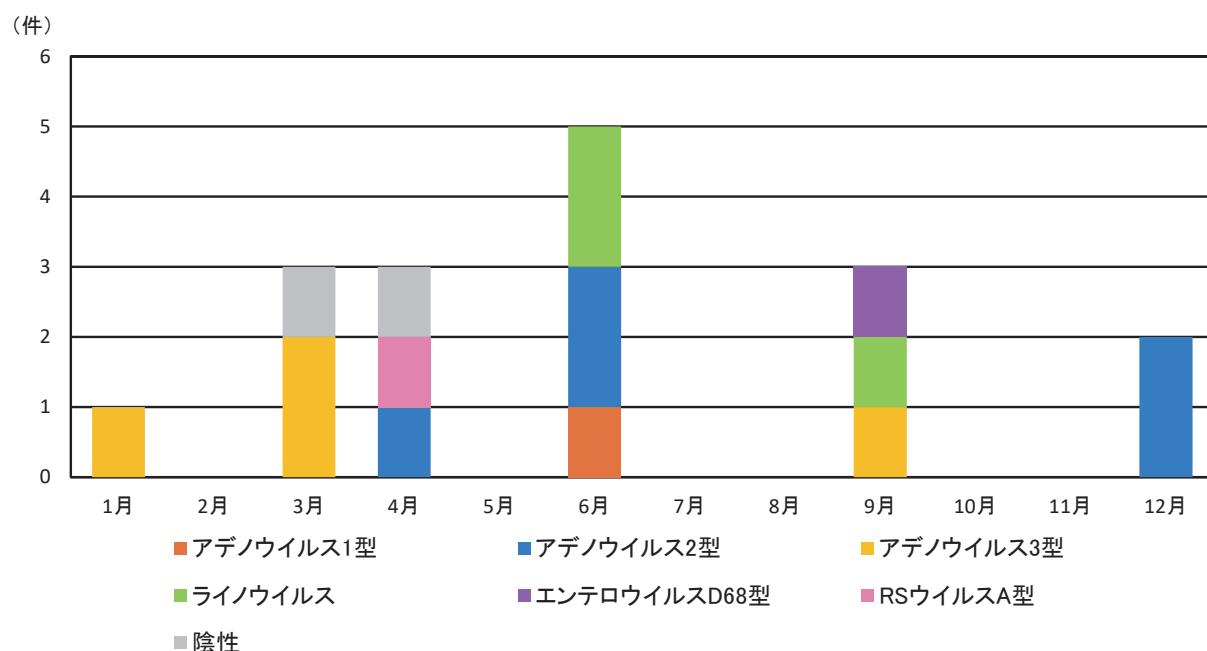


図 8. 咽頭結膜熱患者検体からのウイルス検出状況（重複検出を含む）

工 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は流行時期に合わせ、毎年第 36 週から翌年の第 35 週までの 1 年間を流行シーズンとしているため、2024 年第 1 週～第 35 週は 2023/2024 年シーズン、第 36 週～第 53 週は 2024/2025 年シーズンとなる。

小児科定点医療機関及び基幹定点医療機関において感染性胃腸炎と診断され、当センターに搬入された患者検体について、小児科定点の検体についてはノロウイルス、サポウイルス、A 群ロタウイルス、アデノウイルス及びアストロウイルス、基幹定点の検体では A 群ロタウイルス及び C 群ロタウイルスの遺伝子検査を実施している。

小児科定点医療機関から搬入された 32 件について検査を実施した結果、16 件からウイルスが検出された。内訳は、ノロウイルスが最も多く 11 件、A 群ロタウイルスが 4 件、アストロウイルスが 1 件であった（表 3、図 4）。ノロウイルスの遺伝子型については、GII.3 が 3 件、GII.4 が 3 件、GII.7 が 5 件であった。

A 群ロタウイルスの遺伝子型については、G3P[8]が 2 件、G8P[8]が 2 件であった。

表3. 感染性胃腸炎患者から検出されたウイルス遺伝子の内訳（小児科定点）

検出遺伝子	検出数
ノロウイルス	11
A群ロタウイルス	4
アストロウイルス	1
計	16

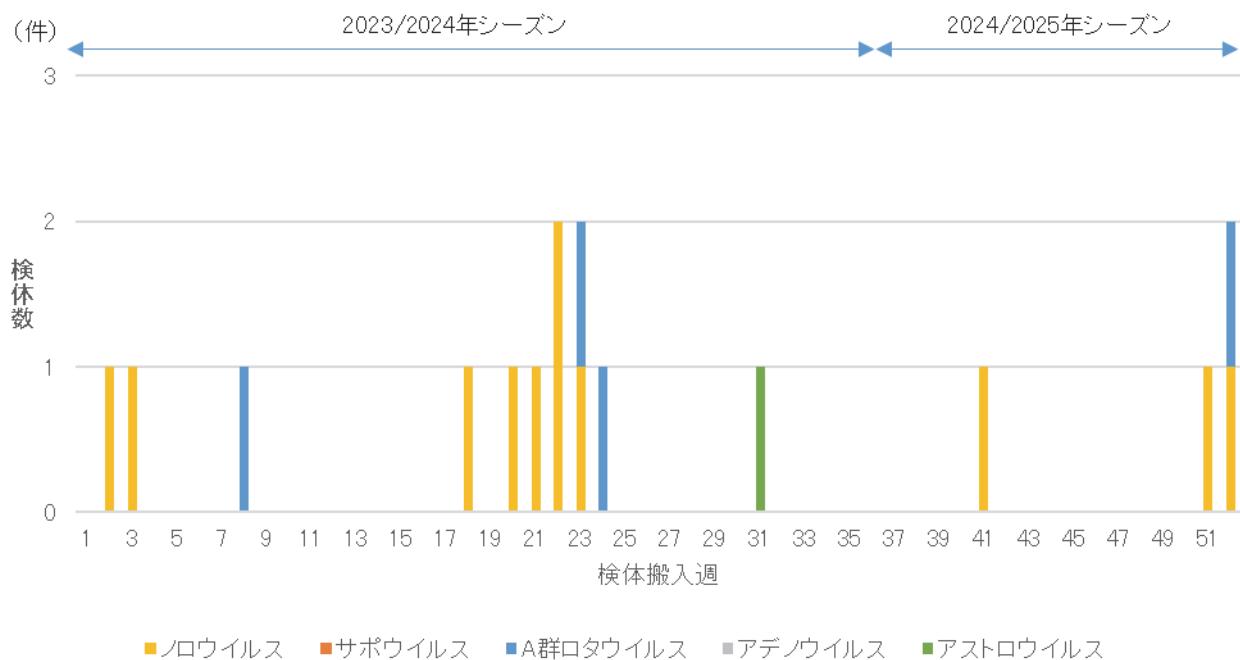


図9. 感染性胃腸炎患者検体からのウイルス遺伝子検出状況（小児科定点）

才 水痘

小児科定点医療機関で水痘と診断され当センターに搬入された患者検体5件について、遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査では、5検体中1件で水痘帯状疱疹ウイルス(VZV)が検出された。その他のウイルスは、コクサッキーウィルスA群6型が2件、エンテロウィルスD68型が1件検出された（重複検出を含む）。分離試験では、コクサッキーウィルスA群6型が1株分離された（表4）。

表4. 水痘から検出されたウイルス遺伝子の内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離株数
水痘帯状疱疹ウイルス	1	
コクサッキーウィルスA群6型	2	1
エンテロウィルスD68型	1	
陰性	2	4

力 手足口病

小児科定点医療機関で手足口病と診断され、当センターに搬入された患者検体 89 件について、エンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査において検出されたエンテロウイルスはコクサッキーウィルス A 群 6 型が 25 件、A 群 10 型が 4 件、A 群 16 型が 29 件、エンテロウイルス 71 型が 12 件、エコーウィルス 11 型が 2 件であった。またライノウイルスが 17 件検出された。分離試験ではコクサッキーウィルス A 群 10 型が 1 株、エンテロウイルス 71 型が 8 株、エコーウィルス 11 型が 2 株分離された（重複検出を含む）。また、コクサッキーウィルス A 群 6 型は 6 月から 8 月の間検出され、エンテロウイルス 71 型は 5 月から 10 月、コクサッキーウィルス A 群 16 型は 8 月から 11 月に検出された（表 5、図 10）。

表 5. 手足口病患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離株数
コクサッキーウィルス A 群 6 型	25	
コクサッキーウィルス A 群 10 型	4	1
コクサッキーウィルス A 群 16 型	29	
エンテロウイルス 71 型	12	8
エコーウィルス 11 型	2	2
ライノウイルス	17	
陰性	9	78

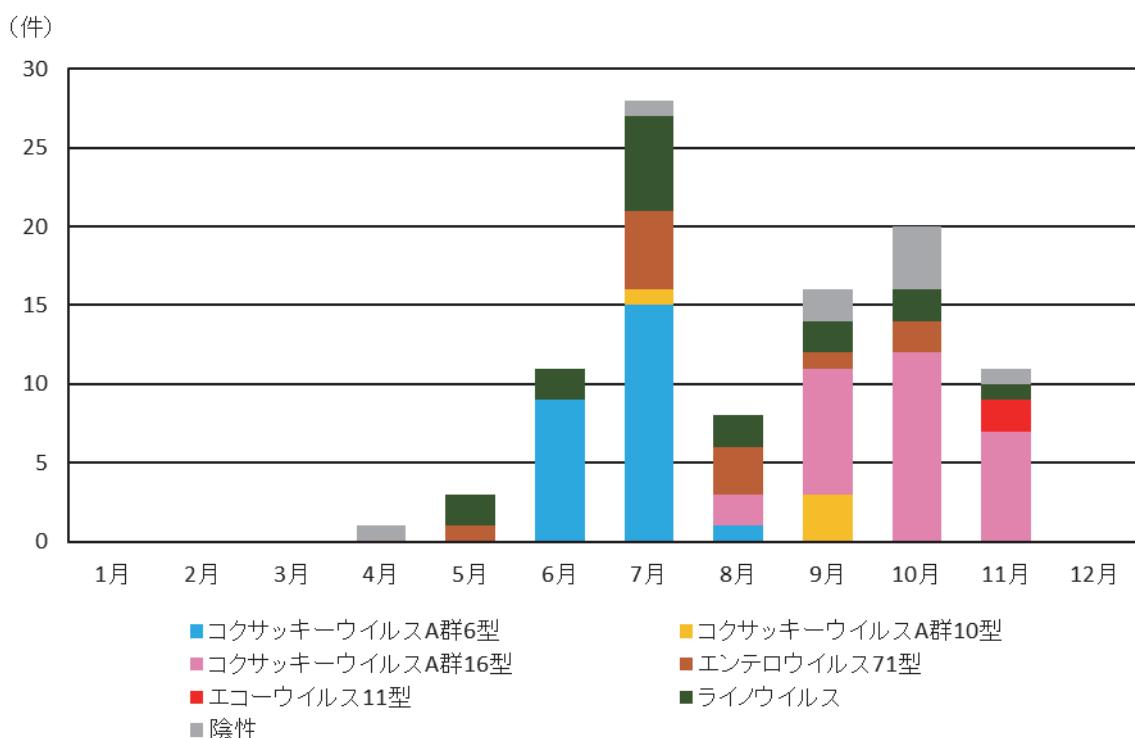


図 10. 手足口病患者検体からのウイルス検出状況（重複検出を含む）

キ 伝染性紅斑

小児科定点医療機関で伝染性紅斑と診断され当センターに搬入された患者検体 36 件について遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査では、パルボウイルス B19 が 22 件から検出された。その他のウイルスでは、エコーウィルス 11 型が 1 件、アデノウイルス 1 型が 1 件、ライノウイルスが 2 件から検出された。分離試験では、エコーウィルス 11 型が 1 株、アデノウイルス 1 型が 1 株分離された。(表 6、図 11)

表 6. 伝染性紅斑の患者から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離株数
パルボウイルスB19	22	
エコーウィルス11型	1	1
アデノウイルス1型	1	1
ライノウイルス	2	
陰性	12	34

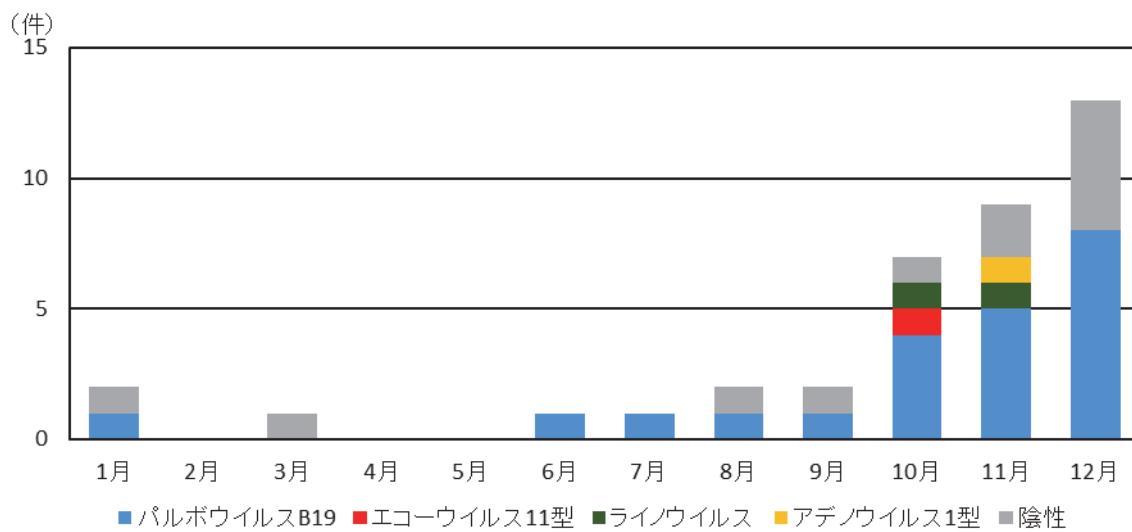


図 11. 伝染性紅斑患者検体からのウイルス検出状況（重複検出を含む）

ク 突発性発しん

小児科定点医療機関で突発性発しんと診断され、当センターに搬入された患者検体 11 件についてヒトヘルペスウイルス 6 型・7 型等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。11 件中 7 件からヒトヘルペスウイルス 6 型遺伝子が、1 件からヒトヘルペスウイルス 7 型遺伝子が検出された。また、ライノウイルスが 1 件検出された。分離試験では、ウイルスは分離されなかった (表 7、図 12)。

表 7. 突発性発しんの患者から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離株数
ヒトヘルペスウイルス6型	7	
ヒトヘルペスウイルス7型	1	
ライノウイルス	1	
陰性	2	11

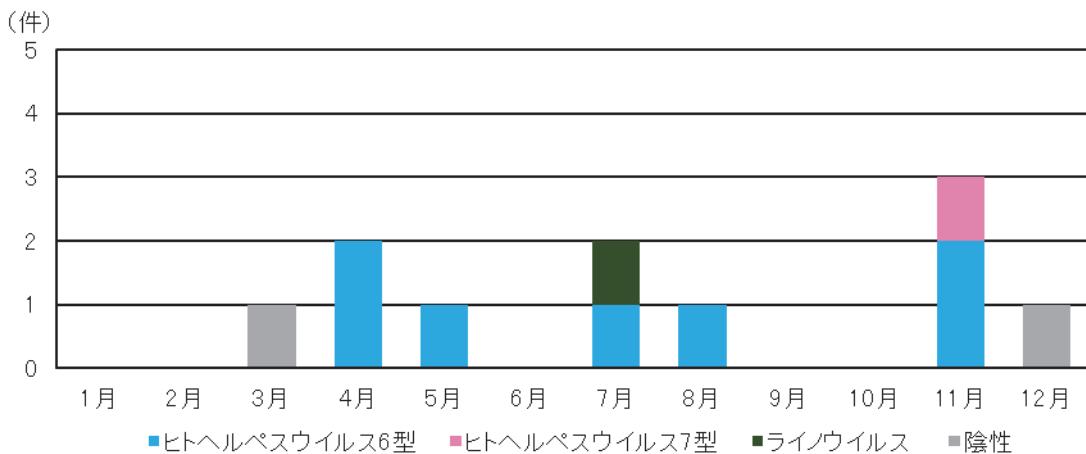


図 12. 突発性発しん患者検体からのウイルス検出状況

ケ ヘルパンギーナ

小児科定点医療機関でヘルパンギーナと診断され、当センターに搬入された患者検体 11 件についてエンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査において検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウィルス A 群 6 型が 2 件、同 10 型が 4 件、同 16 型が 1 件、エンテロウイルス D68 型が 1 件であった。分離試験では、コクサッキーウィルス A 群 10 型が 3 株分離された（表 8、図 13）。

表 8. ヘルパンギーナ患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離株数
コクサッキーウィルスA群6型	2	
コクサッキーウィルスA群10型	4	3
コクサッキーウィルスA群16型	1	
エンテロウイルスD68型	1	
陰性	3	8

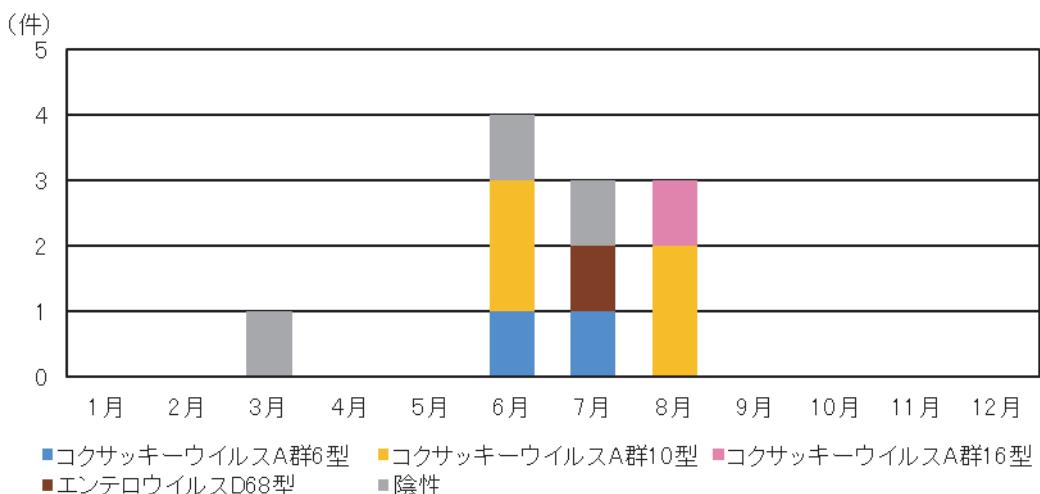


図 13. ヘルパンギーナ患者検体からのウイルス検出状況

コ 流行性耳下腺炎

小児科定点医療機関で流行性耳下腺炎と診断され、当センターに搬入された患者検体 11 件についてムンプスウイルス、EB ウィルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、ムンプスウイルスが 1 件、EB ウィルスが 4 件、アデノウイルス 1 型が 1 件、ヒトパルボウイルス B19 が 1 件検出された。このうちムンプスウイルスと EB ウィルスが重複検出されたものが 1 件あった。分離試験では、アデノウイルス 1 型が 1 件分離された（表 9、図 14）。なお、検出されたムンプスウイルスは遺伝子解析の結果ワクチン株・類似株であった。

表 9. 流行性耳下腺炎の患者から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出数	分離件数
ムンプスウイルス	1	
EBウイルス	4	
アデノウイルス1型	1	1
ヒトパルボウイルスB19	1	
陰性	5	10

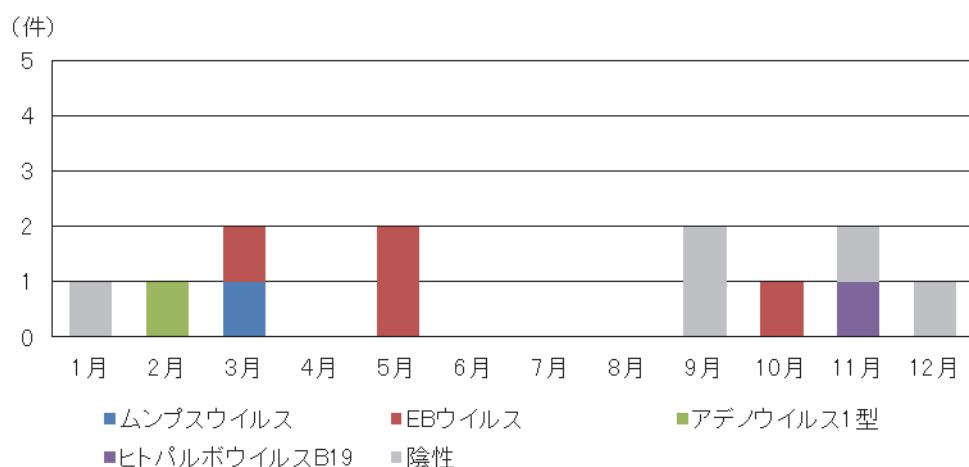


図 14. 流行性耳下腺炎患者検体からのウイルス検出状況（重複検出を含む）

サ 不明発しん症

小児科定点医療機関で不明発しん症と診断され、当センターに搬入された患者検体 53 件について麻しんウイルス、風しんウイルス、ヒトパルボウイルス B19、エンテロウイルス、ヒトヘルペスウイルス 6 型・7 型等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査では、46 件のウイルス遺伝子が検出された。最も多く検出されたのはエンテロウイルスの 14 件で、次いでライノウイルスが 13 件、ヒトパルボウイルス B19 が 10 件、ヒトヘルペスウイルス 6 型が 7 件、加えて麻しんウイルス A 型（ワクチン類似株）とアデノウイルス 1 型がそれぞれ 1 件検出された（重複検出を含む）。エンテロウイルスの内訳は、エンテロウイルス D68 型とコクサッキーウィルス A 群 6 型、コクサッキーウィルス A 群 16 型がそれぞれ 3 件、コクサッキーウィルス A 群 10 型とエコーワイルス 11 型が 2 件、エコーワイルス 18 型が 1 件であった。分離試験では、アデノウイルス 1 型が 1 株分離された（表 10、図 15）。

表 10. 不明発しん症患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離件数
ライノウイルス	13	
ヒトパルボウイルスB19	10	
ヒトヘルペスウイルス6型	7	
エンテロウイルスD68型	3	
コクサッキーウィルスA群6型	3	
コクサッキーウィルスA群10型	2	
コクサッキーウィルスA群16型	3	
エコーウィルス11型	2	
エコーウィルス18型	1	
麻しんウイルスA型(ワクチン類似株)	1	
アデノウイルス1型	1	1
陰性	15	52

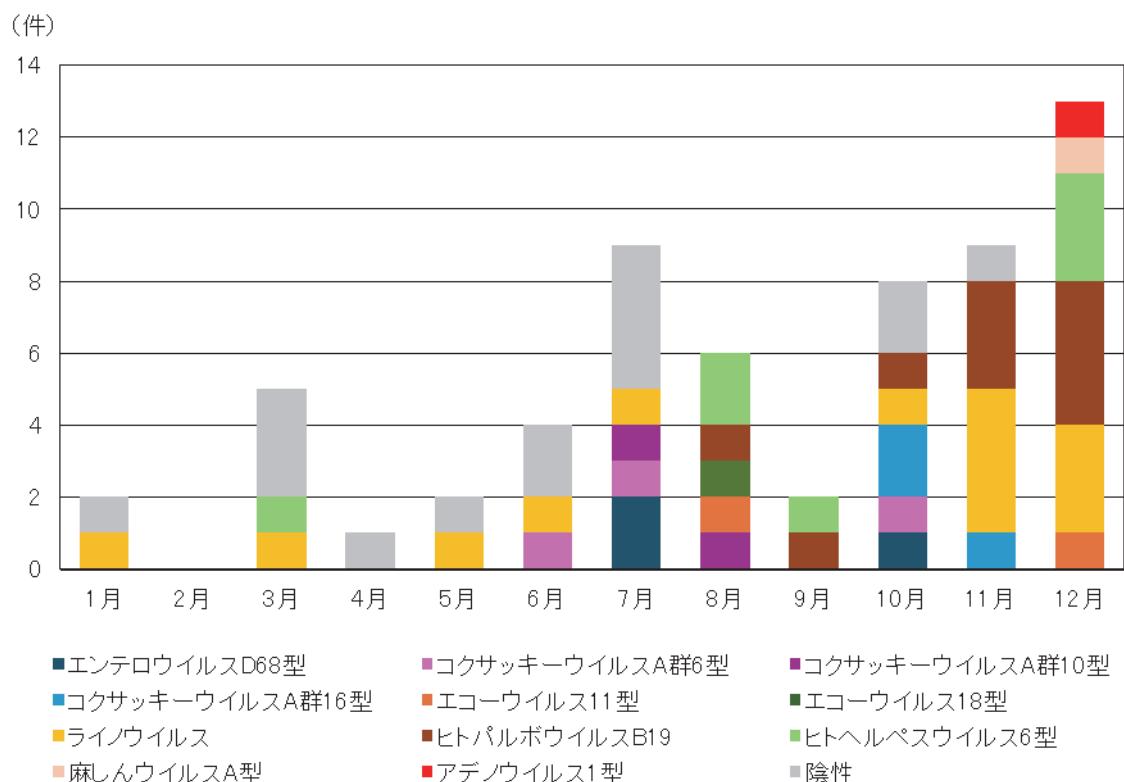


図 15. 不明発しん症患者検体からの月別ウイルス検出状況（重複検出を含む）

シ 川崎病

小児科定点医療機関で川崎病と診断され、当センターに搬入された患者検体1件についてアデノウイルス、エンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、ウイルスは検出されなかった。

ス 無菌性髄膜炎

基幹定点医療機関で無菌性髄膜炎と診断され、当センターに搬入された患者検体8件についてエンテロウイルス、パレコウイルスA型、ムンプスウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、すべての検体でウイルスは検出されなかった。

(2) 眼科病原体定点医療機関からの搬入検体

ア 流行性角結膜炎

定点医療機関で流行性角結膜炎と診断され当センターに搬入された患者検体82件についてアデノウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。82件中36件からアデノウイルス遺伝子(3型:1件、8型:2件、54型:19型、D種:14件)が、エコーウィルス18型が1件検出された(表11、図16)。分離試験では、アデノウイルス3型が1株、8型が1株、54型が2株、D種が14株のほか、エコーウィルス18型が1株分離された。

表11. 流行性角結膜炎患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離件数
アデノウイルス3型	1	1
アデノウイルス8型	2	1
アデノウイルス54型	19	2
アデノウイルスD種	14	14
エコーウィルス18型	1	1
陰性	45	63

(件)

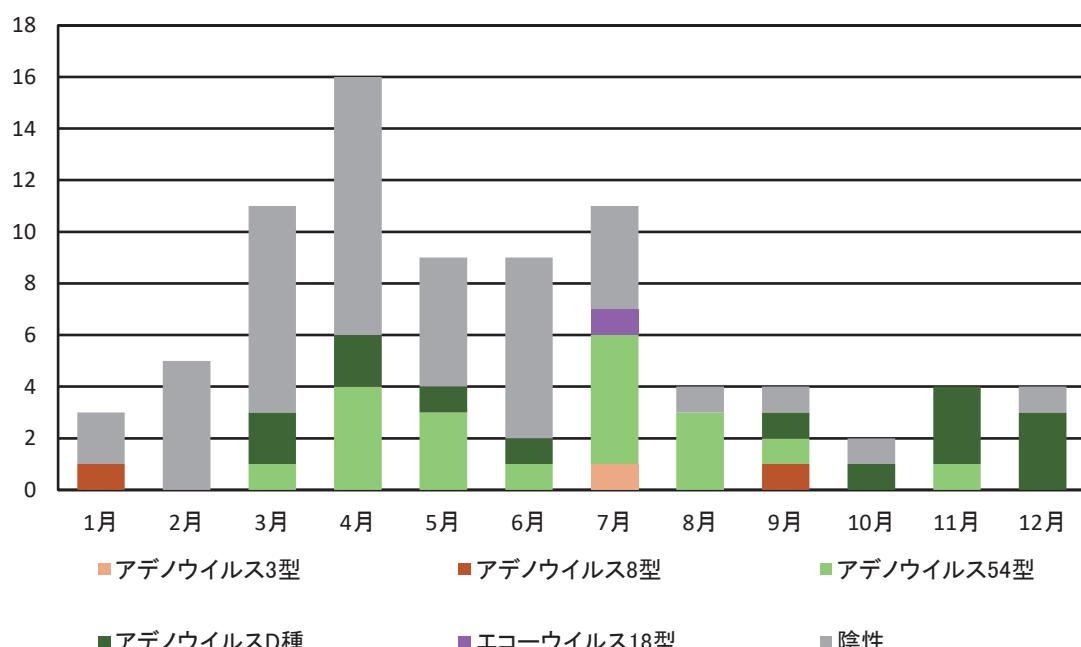


図16. 流行性角結膜炎患者検体からのウイルス検出状況

(3) 性感染症 (STI) 病原体定点医療機関からの搬入検体

ア 性器ヘルペスウイルス感染症

STI病原体定点医療機関から4件(主として性器ヘルペスウイルス感染症を疑う患者の水疱内容物)が搬入された。このうち1件から単純ヘルペスウイルス2型の遺伝子が検出された。

イ 尖圭コンジローマ

STI病原体定点医療機関から2件(尖圭コンジローマ部位擦過物、又は尖圭コンジローマ患部生検材料)が搬入され、2件すべてからヒトパピローマウイルス遺伝子が検出された。いずれも子宮頸がん等のリスク評価分類でLowリスクに分類された[6型:1件、11型:1件]。

(4) 積極的疫学調査による搬入検体

ア 二類感染症

① 中東呼吸器症候群【MERS (Middle East respiratory syndrome) コロナウイルス】

都内医療機関でMERSが疑われ、当センターに搬入された1件(咽頭ぬぐい液)について遺伝子検査を実施した。その結果、MERSコロナウイルスおよび季節性インフルエンザウイルスは陰性であり、新型コロナウイルスが陽性であった。

② 鳥インフルエンザ(A/H5N1亜型、A/H7N9亜型)

都内医療機関で鳥インフルエンザが疑われ、当センターに搬入された患者検体はなかった。

イ 四類感染症

① A型肝炎

医療機関でA型肝炎と診断され、当センターに搬入された患者検体21件について遺伝子検査を実施した。15件からA型肝炎ウイルス遺伝子が検出され、遺伝子解析を行った結果、遺伝子型はIA型が10件、IB型が3件、IIIA型が2件であった。

② E型肝炎

医療機関でE型肝炎と診断され、当センターに搬入された患者検体112件について遺伝子検査を実施した。64件からE型肝炎ウイルス遺伝子が検出され、これらについて遺伝子解析を行った結果、遺伝子型は3型が63件、4型が1件であった。

③ 蚊媒介感染症(デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、日本脳炎)

都内の医療機関でデング熱と診断、またはデング熱等の蚊媒介感染症疑いと診断され、当センターに搬入された患者60例73検体について検査を実施した。その結果、海外感染疑い例のうち39例からデングウイルス遺伝子(1型8例、2型19例、3型11例、4型1例)が検出され、4例からチクングニアウイルス遺伝子が検出された。なお、ジカウイルス遺伝子およびウエストナイルウイルス遺伝子は検出されなかった。また、国内感染を疑う検体は搬入されなかった。

都内の医療機関で日本脳炎と診断され当センターに搬入された患者1例1検体について遺伝子検査を実施した結果、日本脳炎ウイルス遺伝子は検出されなかった。

④ リケッチャ等関連疾患 (Q熱、つつが虫病、日本紅斑熱、発しんチフス、ライム病)

都内の医療機関でリケッチャ等関連疾患と診断され当センターに搬入された患者検体19例（つつが虫病5例6検体、日本紅斑熱4例5検体、つつが虫・日本紅斑熱疑い2例2検体、ライム病5例6検体、Q熱1例1検体、ダニ媒介感染症疑い1例2検体、回帰熱1例2検体）について検査を実施した。つつが虫病患者5例について遺伝子検査を行ったところ1例から*Orientia tsutsugamushi*の遺伝子が検出された

（Kawasaki株様遺伝子1件）。また、日本紅斑熱疑いの患者4例について遺伝子検査を行った結果 *Rickettsia japonica*遺伝子は検出されなかつたが、1例から*Orientia tsutsugamushi*遺伝子（Kawasaki株様遺伝子1件）が検出された。つつが虫・日本紅斑熱疑い2例について、リケッチャ属共通PCR及びつつが虫病遺伝子検査を実施したが、*Rickettsia rickettsii*遺伝子及び*Orientia tsutsugamushi*の遺伝子は検出されなかつた。その他、ライム病を疑う5例について抗体検査を実施したところ、1例でライム病ボレリアに対するIgG抗体の上昇が認められたが、血清中からボレリア属遺伝子は検出されなかつた。また、Q熱1例について、*Coxiella burnetii* PCRを実施したが、*Coxiella burnetii*遺伝子は検出されなかつた。回帰熱1例について抗体検査及びボレリア属遺伝子検査を実施したが、いずれも陰性であった。さらに、ダニ媒介感染症疑い1例については、リケッチャ属共通PCR及び、SFTSウイルス、オズウイルス、エゾウイルス検査を実施したが、いずれの遺伝子も検出されなかつた。

⑤ エムポックス

都内の医療機関でエムポックス疑いと診断され、当センターに搬入された患者35例67検体についてエムポックスウイルス及び水痘帯状疱疹ウイルスの遺伝子検査を行つた。その結果、エムポックスウイルス遺伝子が14例から、水痘帯状疱疹ウイルス遺伝子が1例から検出された。

ウ 五類感染症（全数把握疾患）

① 急性脳炎

都内の医療機関で急性脳炎と診断され、当センターに搬入された患者2例5検体についてエンテロウイルス、アデノウイルス等の遺伝子検査を実施した。その結果、エンテロウイルス71型遺伝子が1例検出された。

② 水痘（入院を要するもの）

都内の医療機関で水痘と診断され入院に至つた事例で、当センターに搬入された患者検体7例について水痘帯状疱疹ウイルスの遺伝子検査を行つたところ、水痘帯状疱疹ウイルス遺伝子が6例から検出された。

③ 急性弛緩性麻痺

都内の医療機関で急性弛緩性麻痺と診断され、当センターに搬入された患者5例20検体（咽頭ぬぐい検体、糞便等）についてエンテロウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、エンテロウイルス71型遺伝子が1例、ライノウイルス遺伝子が1例から検出された。

④ 麻しん及び風しん

都内医療機関で麻しん、あるいは風しん（疑い含む）と診断され、当センターに搬入された患者163例177検体について麻しんウイルス及び風しんウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、麻しん

ウイルス遺伝子が 11 例 (D8 型 : 7 例、B3 型 : 3 例、A 型ワクチン類似株 : 1 例) 検出され、風しんウイルス遺伝子は検出されなかった。

また、麻しん及び風しんウイルスが陰性となった検体 166 件について、病原体レファレンス事業によりヒトパルボウイルス B19 等の遺伝子検査を実施した。その結果、ヒトパルボウイルス B19 遺伝子が 16 件、ヒトヘルペスウイルス 6 型遺伝子が 10 件、ヒトヘルペスウイルス 7 型遺伝子が 1 件、コクサッキーウィルス A 群 9 型遺伝子が 1 件検出された。

2 細菌検査結果

(1) 二類感染症の病原体検索

ア ジフテリア

令和6年中にジフテリア検体の搬入はなかった。

(2) 四類感染症の病原体検索

ア レジオネラ症

患者由来株 20 株 (20 事例) が搬入され、血清型別試験を実施した結果、*Legionella pneumophila* の 1 群が 18 株、5 群が 1 株、6 群が 1 株であった。また、患者喀痰 34 件 (34 事例) が搬入され、分離培養と遺伝子検査を実施した結果、培養陽性、遺伝子陽性が 13 件、培養陰性、遺伝子陽性が 10 件、培養、遺伝子ともに陰性が 11 件であった。分離培養陽性であった 13 件の血清型はすべて 1 群であった。加えて患者喀痰 24 件、患者由来株 4 株、患者喀痰由来 DNA2 件に対し、SBT 型別試験を実施した結果、ST23 が 10 件、ST1646 が 8 件、ST3117 が 4 件、ST354 が 2 件、ST89、613 が各々 1 件ずつ、型別不能が 4 件であった。

(3) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索

ア カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

患者由来株 101 株 (91 事例) が搬入された。菌株の内訳は、*Klebsiella pneumoniae* が最も多く 30 株、次いで *Escherichia coli* が 21 株、*Klebsiella aerogenes* が 12 株、*Enterobacter cloacae* が 8 株であった。その他、*Serratia marcescens*、*Citrobacter freundii* など 30 株が搬入された。

PCR 法による β-ラクタマーゼ遺伝子の検出を実施した結果、NDM 遺伝子保有株が 8 株であった。また、IMP-1 遺伝子保有株が 12 株、KPC 遺伝子保有株が 1 株、OXA-48 遺伝子保有株が 1 株、CTX-M-1 group 遺伝子保有株が 33 株、CTX-M-9 group 遺伝子保有株が 12 株、EBC 遺伝子保有株が 4 株、CIT 遺伝子保有株が 4 株、DHA 遺伝子保有株が 4 株であった。また、検査したいずれの耐性遺伝子も保有していなかった株は 34 株であった。

イ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

患者由来株 244 株 (223 事例) が搬入され、Lancefield 分類による群別の結果、A 群が 155 株、B 群が 27 株、C 群が 4 株、F 群が 1 株、G 群が 56 株、群別不能が 1 株であった。

A 群のうち 154 株が *Streptococcus pyogenes* であり、1 株は *Streptococcus dysgalactiae* ssp. *equisimilis* (SDSE) であった。B 群レンサ球菌 27 株はすべて *Streptococcus agalactiae* であり、C 群の 3 株及び G 群は SDSE、C 群の 1 株及び F 群レンサ球菌は *Streptococcus anginosus*、群別不能株は *Streptococcus constellatus* であった。

(表 12)。*S. pyogenes* と *S. agalactiae* について型別用免疫血清を用いた血清型別を実施した。*S. pyogenes* では T 血清型別の結果、1 型が 80 株で最も多く、次いで B3264 型が 13 株、12 型が 11 株、22 型が 6 株、11 型が 5 株、14/49 型が 3 株、4 型及び 28 型が 2 株ずつであり、13 型及び Imp.19 型が各 1 株、型別不能が 30 株であった (表 13)。*S. agalactiae* 27 株の血清型は、II 型が 6 株と最も多く、次いで Ib 型 : 5 株、Ia 型 : 4 株、IV 型及び V 型が各 3 株、VI 型 : 1 株であり、型別不能が 7 株であった (表 14)。

S. pyogenes 及び SDSE については、M タンパク又は M 様タンパクをコードする遺伝子により型別を決定する *emm* 型別を実施した。その結果、*S. pyogenes* では、1 型が 82 株と最も多く、次いで 89 型及び 49 型が 16 株、12 型が 11 株、81 型が 10 株などであった (表 14)。SDSE 60 株では、stG840 型が 12 株 stG485 及び stG6792 型が各 10 株、stG652 が 7 株、stG245 型が 4 株、stG4222 型が 3 株などであった (表 15)。

また、令和5年末よりM1_{UK}株の増加がみられたことから、令和6年1月に厚生労働省によりM1_{UK}株についての解析を実施し報告するよう感染症対策課長通知が各都道府県に出された。これを受け、emm1型株についてM1_{UK}の検査を実施した。その結果、emm1型株82株中75株がM1_{UK}株であった。

表 12. 劇症型溶血性レンサ球菌感染症由来株の群別及び菌種名

菌種名	Lancefield 分類 群別						計
	A	B	C	F	G	-	
<i>S. pyogenes</i>	154						154
<i>S. agalactiae</i>		27					27
<i>S. anginosus</i>			1	1			2
<i>S. constellatus</i>						1	1
<i>S. dysgalactiae</i> ssp. <i>equisimilis</i>	1		3		56		60
計	155	27	4	1	56	1	244

表 13. *Streptococcus pyogenes* の T 血清型及びemm 型

emm 型	T 型										計	
	1	4	11	12	13	22	28	14/49	B3264	Imp.19		
1	80									2	82	
4		2									2	
11			3								3	
12				10						1	11	
28						1					1	
31								1			1	
44			1								1	
49						1				15	16	
76					1					3	4	
81					5		2	1		2	10	
82										1	1	
87					1					1	2	
89							12			4	16	
90				1							1	
104			1							1	2	
113				1							1	
計	80	2	5	11	1	6	2	3	13	1	30	154

表 14. B 群レンサ球菌 (*Streptococcus agalactiae*) の血清型

血清型							計
Ia	Ib	II	IV	V	VI	型別不能	
4	5	6	3	3	1	5	27

表 15. *Streptococcus dysgalactiae* ssp. *equismilis* の *emm* 型

emm 型									計
stG245	stG485	stG652	stG6792	stG4222	stG840	stC74a	stC5345	その他*	
4	10	7	10	3	12	2	2	10	60

*その他(各 1 株) : stC36,stC839,stC1400,stC6979,stG2078,stG30,stG480,stG62647,stG653,stGLP1.2

ウ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

患者由来のインフルエンザ菌 67 株 (65 事例) が搬入され、免疫血清及び PCR 法による血清型別試験を実施した結果、f 型が 3 株、無莢膜型が 63 株、菌死滅による検査不能が 1 株であった。

エ 薬剤耐性アシネットバクター感染症

搬入された本疾患患者由来株は *Acinetobacter baumannii* 1 株 (1 事例) であり、PCR 法による耐性遺伝子の検出を実施した結果、OXA-51-like β-ラクタマーゼをコードする遺伝子とプロモーター活性を有する挿入遺伝子領域 (ISAbal) を保有していた。

オ 侵襲性肺炎球菌感染症

患者由来の肺炎球菌 105 株 (97 事例) が搬入され、莢膜膨化法による血清型別試験を実施した結果は表 16 の通りであった。

表 16. 肺炎球菌の血清型別結果

血清型	事例数	血清型	事例数	血清型	事例数
3	26	38	4	18B	1
10A	11	23A	3	19F	1
22F	10	6B	2	20	1
19A	8	24B	2	24F	1
35B	6	34	2	31	1
15A	5	6C	1	33F	1
23B	5	11A	1		
15B	4	15C	1		

カ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

搬入された菌株は患者由来 8 株 (7 事例) であり、*Enterococcus faecium* が 6 株、*Enterococcus casseliflavus* が 2 株であった。

PCR 法によるバンコマイシン耐性遺伝子の検出を実施した結果、*vanB* 遺伝子保有株が 4 株、*vanA* 遺伝子保有株が 2 株、*vanC2* 遺伝子保有株が 2 株であった。

キ 侵襲性髄膜炎菌感染症

搬入された患者由来の髄膜炎菌は 10 株(10 事例)であり、PCR 法による血清群別を実施した結果、Y 群が 4 株、B 群が 2 株、W-135 群が 1 株、群別不能が 1 株、菌死滅による検査不能が 2 株となった。

ク 百日咳

搬入された患者由来の百日咳菌は 1 株(1 事例)であり、LAMP 法による百日咳菌同定検査及び MLST 型別試験を実施した結果、百日咳菌と同定され、MLST-2 に型別された。

(4) 五類感染症（定点把握対象）の病原体検索

ア A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

小児科定点医療機関から A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者由来咽頭スワブが 88 件搬入され、74 株の A 群溶血性レンサ球菌が分離された。T 血清型別試験を実施した結果、4 型が 24 株と最も多く、次いで T1 型 : 21 株、B3264 型 : 14 株、12 型 : 11 株、6 型 : 1 株であり、型別不能が 3 株であった。

イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑いの患者糞便 1 件について腸管系の細菌検査を実施した。その結果、*Campylobacter jejuni* が検出された。

ウ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症

基幹定点医療機関の MRSA 感染症患者由来検体が 36 件搬入された。MRSA 35 株および MSSA 1 株が分離され、コアグラーゼ型別試験を実施した。その結果、MRSA のコアグラーゼ型は、I 型 : 1 株、II 型 : 3 株、III 型 : 10 株、VII 型 : 20 株であり、型別不能は 1 株であった。MSSA はコアグラーゼIII 型であった。

エ マイコプラズマ肺炎

基幹定点医療機関からマイコプラズマ肺炎患者由来咽頭スワブが 3 件搬入され、遺伝子検査及び分離培養を実施した。その結果、3 検体が遺伝子陽性であり、2 検体から *Mycoplasma pneumoniae* が分離された。

(5) 性感染症（STI）病原体定点医療機関からの搬入検体

2024 年 1 月から 12 月に都内 4 ヶ所の性感染症病原体定点医療機関（STI 定点）より 111 検体が搬入された。搬入検体の内訳は、男性 : 尿 105 例、女性 : スワブ 2 例、性別不明 : 尿 4 例であった（表 17、18）。それらについて、クラミジア・トラコマチス、淋菌等の検査を実施した。

ア クラミジア・トラコマチスおよび淋菌

尿およびスワブ 111 検体についてクラミジア・トラコマチスおよび淋菌の遺伝子検査を実施した。

性別および年齢階級別の病原体検査成績を表 17 に示した。クラミジア・トラコマチスについては、男性 45 例（42.9%）、女性 2 例（100.0%）が陽性を示した。淋菌は男性 22 例（21.0%）が陽性を示し、女性では陽性例は見られなかった。クラミジアと淋菌の遺伝子が共に検出されたのは、男性 105 名中 8 例（7.6%）、女性 0 例であった。淋菌遺伝子が検出された 22 例のうち 9 例（40.9%）から淋菌が分離された。

性別および臨床診断別の病原体検査結果を表 18 に示した。男性では、性器クラミジア感染症と診断された 102 例中 45 例（44.1%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、21 例（20.6%）から淋菌遺伝子が検出され、うち 9 例（42.9%）から淋菌が分離された。また、淋菌感染症と診断された 3 例からはクラミジア・トラコマチス遺伝子は検出されず、1 例（33.3%）から淋菌遺伝子が検出され、さらに淋菌が分離された。女性では、性器クラミジア感染症と診断された 2 例中 2 例（100.0%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。

イ 膣トリコモナス

膣トリコモナスが疑われる検体は搬入されなかった。

表 17. 性別および年齢階級別の病原体検査結果

性別	年齢階級	検体数	遺伝子検査陽性			分離培養陽性 淋菌
			クラミジア・ トラコマチス	淋菌	膿トリコモナス	
	10 歳代	3				
	20 歳代	39	25	8		4
	30 歳代	24	11	6		3
	40 歳代	19	6	6		2
男性	50 歳代	14	2	2		
	60 歳代	3	1			
	70 歳代	2				
	不明	1				
	計	105	45	22	0	9
	20 歳代	1	1			
女性	30 歳代	1	1			
	計	2	2	0	0	0
	10 歳代	1				
	40 歳代	1				
不明	50 歳代	1				
	60 歳代	1		1		
	計	4	0	1	0	0
合計		111	47	23	0	9

表 18. 性別および臨床診断別の病原体検査結果

臨床診断 (疑い例含む)	検体数	遺伝子検査陽性			分離培養陽性 淋菌
		クラミジア・ トラコマチス	淋菌	膿トリコモナス	
性器クラミジア感染症	102	45	21		9
男性 淋菌感染症	3		1		
計	105	45	22	0	9
性器クラミジア感染症	2	2			
女性 膿トリコモナス症	0				
計	2	2	0	0	0
性器クラミジア感染症	4	0	1		
不明 淋菌感染症	0				
計	4	0	1	0	0
合計	111	47	23	0	9

第 3 章

資 料

1 東京都感染症発生動向調査定点医療機関名簿

小児科（264定点）

2024年12月31日 現在

保健所名	医療機関名	所在地	備考
千代田	滝医院	千代田区九段南4-3-1	
千代田	千代田加賀クリニック	千代田区神田神保町1-35	
千代田	東京通信病院	千代田区富士見2-14-23	○ *
中央区	小坂こども元気クリニック	中央区佃1-9-3	
中央区	わたなべこどもクリニック	中央区月島1-8-1 アイ・マークタワー202	
中央区	塙小児科医院	中央区日本橋浜町2-20-2	
みなと	ぼれぼれクリニック	港区高輪1-5-21 ルート高輪ビル4F	○
みなと	とようら小児科	港区芝浦3-11-5 第三協栄ビル2階	
みなと	サニーガーデンこどもクリニック	港区麻布十番2-16-4 プラスワンビル3F	
みなと	白金タワークリニック	港区白金1-17-1-106	
みなと	南青山おつかクリニック	港区南青山4-9-17	
みなと	東京都済生会中央病院	港区三田1-4-17	○ *
新宿区	岡田小児科クリニック	新宿区大久保1-5-15	
新宿区	村橋医院	新宿区早稲田町73	
新宿区	若松皮ふ科こどもクリニック	新宿区余丁町10-8 第2浜崎ビル2階	
新宿区	オリエンタル診療所	新宿区西落合2-20-1 哲学堂公園ハイツ1-1	
新宿区	早稲田たけのこクリニック	新宿区早稲田鶴巻町518番地 第一石川ビル3階	
新宿区	(社)聖母会 聖母病院 小児科	新宿区中落合2-5-1	○ *
新宿区	星野こどもクリニック	新宿区中落合2-16-26	
新宿区	国立国際医療研究センター 病院	新宿区戸山1-21-1	
文京	保坂こどもクリニック	文京区白山5-27-12	
文京	石原医院	文京区小日向1-6-6	
文京	大塚診療所	文京区湯島3-31-6	
文京	吉村小児科	文京区大塚2-18-6	
台東	いりやキッズクリニック	台東区下谷3-11-12	
台東	柴田小児科医院	台東区松ヶ谷3-16-4	
台東	クローバーこどもクリニック	台東区蔵前4-20-4 蔵前4ビル1F	
台東	小川こどもクリニック	台東区浅草橋1-25-5 小川ハイム201	
墨田区	増田小児科	墨田区東駒形1-19-8	
墨田区	鈴木こどもクリニック	墨田区墨田4-45-1	○
墨田区	平野医院	墨田区立花6-1-14-1F	
墨田区	唐澤医院	墨田区立川1-12-13	
墨田区	にじま小児科	墨田区京島1-23-16	
江東区	竹内小児科医院	江東区扇橋2-1-3 ET21ビル2F	
江東区	笠井小児クリニック	江東区大島9-5-1 コアシティ東大島103	
江東区	のずえ小児科	江東区東雲1-9-11-102	
江東区	までのこうじクリニック	江東区東陽3-27-32 玉河ビル2階	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医療機関名	所在地	備考
江東区	たけうちこどもクリニック	江東区豊洲4-9-13 東京フロントコート132号	
江東区	城田小児科医院	江東区門前仲町1-6-9	
江東区	亀戸キッズクリニック	江東区亀戸2-42-5 くらまえ三洋ビル2F	2024年3月31日まで
	あかちゃんとこどものクリニック カメイドクロック	江東区亀戸6-31-6 カメイドクロック4階	2024年4月1日から
江東区	正木医院	江東区北砂7-1-25	○ 2024年7月31日まで
	おかもとこどもクリニック	江東区南砂2-32-5 センタービレッジ南砂2階	○ 2024年8月1日から
江東区	なおやこどもクリニック	江東区東砂7-19-13 ベルコモン南砂2F	
品川区	医療法人社団縁 のぞみクリニック	品川区北品川2-9-12	
品川区	宮平医院	品川区西五反田4-22-3	
品川区	林小児科内科医院	品川区大井3-6-12 NAビル2F	
品川区	村井こどもクリニック	品川区中延5-8-19	
品川区	鈴の木こどもクリニック	品川区戸越1-3-1 夢のこども館	
品川区	旗の台アレルギー ・こどもクリニック	品川区旗の台2-1-22 もとまる2号館2階	
品川区	藤川医院	品川区大井7-29-2	
品川区	吉原医院	品川区戸越5-8-5	
目黒区	自由が丘メディカルプラザ	目黒区自由が丘2-11-16 日能研自由が丘ビル2F	
目黒区	目黒通りこどもクリニック	目黒区下目黒6-1-27 アメニティハウス2F	
目黒区	田口医院	目黒区碑文谷6-7-4 KYレジデンス	
目黒区	井手小児科	目黒区目黒本町6-17-27	
目黒区	仲村医院	目黒区五本木1-8-9	
大田区	かげ山小児科	大田区池上7-14-11	
大田区	井上小児科医院	大田区山王3-30-2	
大田区	宮下クリニック	大田区大森中3-35-9	
大田区	田園小児科クリニック	大田区田園調布5-36-3	
大田区	鶴の木さくらクリニック	大田区鶴の木1-16-19	
大田区	原口小児科クリニック	大田区北糀谷1-11-8	
大田区	森岡小児科医院	大田区西六郷1-19-15	
大田区	医療法人社団 多摩おやこクリニック	大田区下丸子3-8-8 2F	
大田区	神川小児科クリニック	大田区本羽田1-6-22	
大田区	斎藤医院	大田区南馬込5-26-7	
大田区	どうどうクリニック	大田区仲池上1-31-13	○
大田区	うちやまこどもクリニック	大田区久が原3-36-13-3F	
大田区	城南チャイルド ゼネラルクリニック	大田区蒲田1-7-14	
世田谷	いなみ小児科	世田谷区下馬3-10-7	
世田谷	吉川小児科	世田谷区松原3-28-8-2階	
世田谷	橋本小児科医院	世田谷区祖師谷3-37-5	○
世田谷	かねみつ小児クリニック	世田谷区南烏山4-7-14	
世田谷	小林クリニック	世田谷区喜多見2-10-3-101	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医療機関名	所在地	備考
世田谷	山口小児科内科	世田谷区中町4-35-6	
世田谷	永井小児科内科医院	世田谷区深沢6-20-14	
世田谷	矢野こどもクリニック	世田谷区宮坂3-13-6 経堂すずらん会館1F	
世田谷	うめはらこどもクリニック	世田谷区太子堂3-38-18	
世田谷	つだ小児科クリニック	世田谷区世田谷4-5-8 アルス世田谷ネクステージ1F	
世田谷	えんどう小児科クリニック	世田谷区桜上水1-7-10 クールセリシェ1F	
世田谷	三宅小児科	世田谷区上北沢4-21-13	
世田谷	直宮医院	世田谷区北沢3-11-14	
世田谷	臼井医院	世田谷区成城5-7-12	
世田谷	用賀クリニック	世田谷区玉川台2-22-16 パークヒル用賀Ⅲ 1F	
世田谷	藤井医院	世田谷区奥沢1-38-19	
渋谷区	医療法人社団澤池会 坂本クリニック	渋谷区笹塚1-31-11 ビラージュ笹塚 I-101	
渋谷区	医療法人社団 育心会 稻垣クリニック	渋谷区代々木5-7-17-1F	
渋谷区	かずえキッズクリニック	渋谷区幡ヶ谷3-81-7	
渋谷区	医療法人社団文昭会 内藤小児科内科医院	渋谷区恵比寿南2-5-9	
中野区	やよい町こども医院	中野区弥生町1-8-11	
中野区	江原町小児科耳鼻科	中野区江原町3-35-8	
中野区	田沼内科・小児科医院	中野区本町6-23-3	
中野区	小池小児科医院	中野区若宮1-43-11	
中野区	宇野医院	中野区中野1-6-2	
中野区	しばたこども&アレルギー クリニック	中野区東中野5-1-1 ユニゾンタワー3F	
杉並	立正佼成会附属佼成病院	杉並区和田2-25-1	○ 2024年4月1日 * 医療機関名称変更
	杏林大学医学部付属杉並病院		
杉並	柿田医院	杉並区下井草2-23-5	
杉並	長沼内科	杉並区成田東3-36-8	
杉並	中里医院	杉並区上荻4-14-14	
杉並	かなやファミリークリニック	杉並区方南2-28-3	
杉並	松野医院	杉並区阿佐谷北3-42-10	
杉並	宮下小児科医院	杉並区成田西3-20-3	
杉並	ぐめかわつ小児科クリニック	杉並区和泉4-51-14 エクセレント和泉2F	
杉並	岩崎小児科医院	杉並区和田3-49-7	
杉並	セキこどもクリニック	杉並区阿佐谷南2-1-27	
杉並	高井戸こどもクリニック	杉並区高井戸西1-27-22	
池袋	金澤医院	豊島区駒込3-5-7	2024年3月31日まで
	新大塚こどもクリニック	豊島区南大塚2-15-7 アルカディア新大塚1F	2024年4月1日から
池袋	みなと小児科	豊島区要町 3-22-10-301	
池袋	田村医院	豊島区池袋本町1-45-16	
池袋	平井医院	豊島区雑司が谷1-26-10	2024年3月31日まで
	雑司が谷赤ちゃん・ こどもクリニック	豊島区雑司が谷3-1-20 S.Z.ビル 201	2024年4月1日から
池袋	南長崎こみ山医院	豊島区南長崎3-14-17	
北区	すこやかこどもクリニック浮間	北区浮間3-1-40 藤原ビル1階	
北区	ほくとクリニック	北区赤羽2-9-6	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医療機関名	所在地	備考
北区	富士見診療所	北区十条仲原3-1-5	
北区	かとうクリニック	北区神谷1-12-9	○
北区	霜降橋こどもクリニック	北区西ヶ原1-6-5 アフニイ駒込2F	
北区	桑畠医院	北区豊島2-6-1	
北区	はんだこどもクリニック	北区赤羽2-69-4 クリニックプラザ21 2F	
荒川区	鈴木こどもクリニック	荒川区西尾久3-21-5 AYビル1F	
荒川区	まつおかこどもクリニック	荒川区荒川2-4-1 荒川メディカルビル1F・2F	
荒川区	いなばキッズクリニック	荒川区南千住4-7-1 BiVi南千住3D	
荒川区	加藤小児科内科医院	荒川区東日暮里5-44-1-1F	
板橋区	共助会医院	板橋区小豆沢2-26-8	
板橋区	上原内科医院	板橋区板橋3-6-11	
板橋区	石川医院	板橋区常盤台1-61-3	
板橋区	井上医院	板橋区赤塚4-17-11	
板橋区	杉内医院	板橋区成増3-17-16	
板橋区	こうのアマリーケア・クリニック	板橋区志村3-20-26-1F	
板橋区	あべこどもクリニック	板橋区高島平1-28-5 KAZZビル2F	
板橋区	えがおこどもクリニック	板橋区前野町3-31-3	
板橋区	鈴木医院	板橋区大山町10-10	
板橋区	よりふじ医院	板橋区大谷口北町27-4	
練馬区	岩崎小児科医院	練馬区大泉学園町8-7-17	
練馬区	秋田医院	練馬区豊玉中4-10-3	
練馬区	医療法人社団健志会 飯島医院	練馬区光が丘7-3-6-102	
練馬区	医療法人社団松生会 うすきクリニック	練馬区南大泉4-47-9 コンフォート南大泉1F	
練馬区	医療法人社団郁翠会 牧田医院	練馬区桜台1-45-15 ブランエノワール1階2階	○
練馬区	沼口整形外科・小児科	練馬区光が丘5-2-5-102	○
練馬区	医療法人社団友健会 浅村こどもクリニック	練馬区石神井町2-8-21 星ビル2F	
練馬区	医療法人社団 上石神井サン・クリニック	練馬区上石神井3-6-34	
練馬区	医療法人社団徳枝会 佐藤皮膚科小児科クリニック	練馬区関町北1-22-10 SATO 1st building 2階	
練馬区	医療法人 のと小児科クリニック	練馬区平和台4-12-6	
練馬区	医療法人社団駿栄会 レーヴこどもクリニック	練馬区大泉町2-12-1	
練馬区	医療法人社団留梨明会 わたなべこどもクリニック	練馬区中村北4-5-2	
練馬区	医療法人社団育慈会 わたなべこどもクリニック	練馬区東大泉1-26-16 オガワビル1階	
足立	和田小児科医院	足立区西保木間2-15-23	○
足立	曙町クリニック	足立区千住曙町41-2-107	
足立	日比谷医院	足立区中央本町5-5-27	
足立	ちばこどもクリニック	足立区東伊興1-12-16	
足立	三原小児科医院	足立区本木北町14-6	
足立	一般社団法人博慈会 博慈会記念総合病院	足立区鹿浜5-11-1	
足立	梅津クリニック	足立区綾瀬3-15-20 遠藤ビル2F	
足立	中島小児科	足立区足立4-41-6	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医療機関名	所在地	備考
足立	中西医院	足立区関原3-44-7	2024年8月31日まで
	おおつば小児科	足立区梅田6-31-11	2024年9月1日から
足立	すずきこどもクリニック	足立区千住柳町18-7 ノリコビル1F	
足立	しみず医院	足立区伊興3-18-21	
足立	師田こども内科クリニック	足立区東伊興3-2-7	2024年4月30日まで
	森川医院	足立区関原1-8-10	2024年5月1日から
足立	木村小児科クリニック	足立区梅島3-32-24 第一矢野新ビル2階	
葛飾区	お花茶屋こどもクリニック	葛飾区宝町2-34-13-115	
葛飾区	高橋小児科医院	葛飾区東新小岩5-17-1	
葛飾区	菊島小児科医院	葛飾区東立石3-24-16	
葛飾区	的場医院	葛飾区金町6-13-9	
葛飾区	医療法人社団双樹敬仁会 青戸キッズクリニック	葛飾区青戸3-41-11 中山ビル1階	
葛飾区	白井医院	葛飾区新小岩1-37-11	
葛飾区	三尾医院	葛飾区東金町3-16-12	○
葛飾区	かめありこどもクリニック	葛飾区亀有3-14-9 ブリムロウズ島田2階	
江戸川	医療法人社団愛児会 南小岩クリニック	江戸川区南小岩7-5-18	
江戸川	小松川医院	江戸川区松江3-12-13	
江戸川	久田医院	江戸川区平井1-27-7	
江戸川	医療法人社団結草会 みやのこどもクリニック	江戸川区南葛西2-18-27	
江戸川	医療法人社団 なかにし小児科クリニック	江戸川区西葛西5-1-8 トーショービル1F	○
江戸川	医療法人社団向日葵会 まつしま病院	江戸川区松島1-41-29	
江戸川	医療法人社団多仁会 はるやま小児科	江戸川区南篠崎町2-10-1 カームコート1F	
江戸川	医療法人社団慶智会 なかぞのクリニック	江戸川区一之江7-49-5 IMSクレイドル1F	
江戸川	星田小児クリニック	江戸川区中葛西2-3-10	
江戸川	医療法人社団晶和会 本橋医院	江戸川区一之江8-15-1 エクセルイチノエ1A	
江戸川	医療法人社団永幸会 ながきこどもクリニック	江戸川区北小岩6-15-5 小岩メディカルセンター新館3F	
江戸川	医療法人社団志越会 アンヌ小児科	江戸川区東松本1-14-9	
八王子市	加地医院	八王子市大楽寺町137	○
八王子市	まつもと小児・ アレルギークリニック	八王子市南大沢2-2 パオレ5F	
八王子市	のま小児科	八王子市みなみ野3-1-8	
八王子市	京王八王子クリニック	八王子市明神町4-7-14 八王子ONビル2F	
八王子市	北野小児科	八王子市北野町545-3 きたのタウン6F	
八王子市	加藤醫院	八王子市七国4-9-3	
八王子市	なかよしこどもクリニック	八王子市堀之内2-6-5 森本ビル201	
八王子市	こどもクリニック南大沢	八王子市南大沢2-27 フレスコ南大沢4F	
八王子市	はしもと小児科	八王子市鴨田町557-3	
八王子市	ノアこどもクリニック	八王子市万町175-1	
八王子市	スマイルこどもクリニック	八王子市散田町5-4-20	
町田市	風の子こどもクリニック	町田市金森東1-25-29 金森メディカルプラザA-2	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医療機関名	所在地	備考
町田市	はやしクリニック	町田市患生2-28-7	○
町田市	やもりこどもクリニック	町田市真光寺2-37-11 鶴川台メディカルヴィレッジ 総合棟1F-A	
町田市	しのはら小児クリニック	町田市小川1-2-8	
町田市	キッズクリニック智	町田市相原町1652-1	
町田市	豊川小児科内科医院	町田市つくし野2-18-18	
町田市	村野小児科アレルギー科	町田市野津田町1083	
町田市	やすだこどもクリニック	町田市本町田920-1	
西多摩	笛本医院	青梅市住江町58	
西多摩	わかくさ医院	羽村市小作台2-7-16	
西多摩	星野小児科内科クリニック	あきる野市小川東1-19-20-1	○
西多摩	鈴木内科	あきる野市館谷156	
西多摩	ばば子どもクリニック	羽村市五ノ神352-22	
西多摩	ナルケンキッズクリニック	青梅市河辺町4-20-4	
西多摩	大堀医院	青梅市今井5-2440-159	
西多摩	東福生むさしの台クリニック	福生市武蔵野台1-1-7 センチュリー武蔵野台1F	
南多摩	須賀小児科	日野市高幡328	
南多摩	佐々木クリニック多摩平	日野市多摩平1-8-10	
南多摩	こどもクリニックしみず	多摩市鶴牧1-24-1 新都心センタービル3F	○
南多摩	桜井医院	稲城市押立1254-1	
南多摩	牛尾医院	日野市平山6-5-13	
南多摩	おおしろクリニック	日野市神明3-6-16 アメニティ明和館1F-1	
南多摩	唐木田こどもクリニック	多摩市唐木田1-53-9 唐木田センタービル2C	2024年10月31日まで
	武井小児科	多摩市関戸2-69-3	2024年11月1日から
南多摩	まえはら小児科	多摩市関戸4-72 聖蹟桜ヶ丘オーパ5F	
南多摩	平尾内科クリニック	稲城市平尾3-7-26	
多摩立川	野上医院	立川市羽衣町2-42-7	○
多摩立川	内野産婦人科外科小児科	国立市東1-8-6 メディカルセンター	
多摩立川	北條医院	武蔵村山市残堀4-113-1	
多摩立川	太陽こども病院	昭島市松原町1-2-1	
多摩立川	医療法人社団瑞涼会 くぼしまこどもクリニック	国分寺市泉町2-9-3 ハートフルビル西晴3F	
多摩立川	まつなかクリニック	立川市西砂町6-6-16	
多摩立川	さいわいこどもクリニック	立川市幸町1-11-3	○
多摩立川	大田医院	昭島市中神町1237	
多摩立川	マシュマロこどもクリニック	国分寺市戸倉4-45-5	
多摩立川	ぐろさわ子ども&内科クリニック	国分寺市本多3-7-25	○
多摩立川	ヒバリこどもクリニック	国立市富士見台3-1-15 2F	
多摩立川	有村クリニック	東大和市南街4-10-6	
多摩立川	さぐらこどもクリニック	東大和市上北台3-393-1	
多摩立川	伊奈平南クリニック	武蔵村山市伊奈平4-4-1	○
多摩府中	ささもとこどもクリニック	調布市飛田給1-41-5 T・Oビル2F	
多摩府中	いいこどもクリニック	調布市調布ヶ丘3-19-12	
多摩府中	松本医院	武蔵野市吉祥寺東町1-23-3	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医療機関名	所在地	備考
多摩府中	おぎわらこどもクリニック	武藏野市中町3-3-2	2024年3月31日まで
	武藏境駅前こどもクリニック	武藏野市境南町2-8-17	2024年4月1日から
多摩府中	きたのこどもクリニック	三鷹市北野4-12-17 きたのメディカルパーク1階	
多摩府中	若林医院	三鷹市井の頭4-16-10	
多摩府中	まつおか小児クリニック	府中市寿町2-4-42 コーポ府中3F	○
多摩府中	東小金井駅前こどもクリニック	小金井市梶野町5-3-25-209 クリオ東小金井パークフロント	
多摩府中	石戸谷小児科	狛江市中和泉1-1-1 狛江YSビル4F	
多摩府中	長谷川小児科医院	武藏野市吉祥寺北町2-8-5	
多摩府中	渡辺こどもクリニック	三鷹市下連雀9-5-1 泰成マンション1F	
多摩府中	つちや小児科	三鷹市下連雀4-16-11	
多摩府中	さくらんぼこどもクリニック	府中市南町4-43-1	
多摩府中	おき医院	府中市白糸台5-24-1	
多摩府中	日野クリニック	府中市住吉町2-15-9	
多摩府中	すみれクリニック	府中市片町3-26-14	
多摩府中	野々田小児科内科	府中市小柳町3-32-26	
多摩府中	佐々木こどもクリニック	調布市西つつじヶ丘3-37-2 横田ファイブ107	
多摩府中	麻生こどもクリニック	調布市小島町1-5-6 アールアンドエスピル3F	
多摩府中	三枝耳鼻咽喉科・小児科医院	小金井市本町5-19-32 三枝ビル2F	
多摩府中	コドモハっぽクリニック	狛江市中和泉5-33-2 ヒルズ蘇月1F	
多摩小平	清水小児科内科医院	小平市大沼町4-43-32	
多摩小平	わかばこどもクリニック	東村山市富士見町3-13-14	
多摩小平	大塚小児科アレルギー科 クリニック	東久留米市本町3-1-23	
多摩小平	すぎはらこどもクリニック	西東京市西原町5-1-17	
多摩小平	斎藤小児科内科クリニック	西東京市下保谷4-2-21	
多摩小平	鈴木小児科内科医院	小平市学園西町2-11-28	○
多摩小平	はなこキッズクリニック	小平市鈴木町2-865-97	
多摩小平	ちあきこどもクリニック	小平市栄町2-3-7	
多摩小平	武こどもクリニック	東村山市栄町2-32-20-201	○
多摩小平	あきつこどもクリニック	東村山市秋津町4-31-16	
多摩小平	いくせ医院	東久留米市新川町1-4-18 わかさとビル1F	
多摩小平	ひばりが丘やまね 小児科アレルギー科	西東京市谷戸町2-1-41 ひばりが丘南メガルスクエア1F	
多摩小平	すぐすぐkidsクリニック	西東京市南町5-9-17	
多摩小平	武藏野総合クリニック	清瀬市元町1-8-30	2023年12月31日まで
	宇都宮小児科内科クリニック	清瀬市元町1-8-2 清水ビル3階	2024年1月1日から
多摩小平	いつもジェネラルクリニック 秋津院	清瀬市野塙5丁目299-4	2024年4月1日から
島しょ	大島医療センター	大島町元町3-2-9	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

2025年変更医療機関

2025年4月1日 現在

保健所名	医療機関名	所在地	備考
多摩小平	宇都宮小児科内科クリニック	清瀬市元町1-8-2 清水ビル3階	2024年12月31日まで
	花園医院	清瀬市松山3-5-14	2025年1月1日から
多摩小平	いつもジェネラルクリニック 秋津院	清瀬市野塩5丁目299-4	2024年12月31日まで
	とみまつ小児科循環器クリニック	清瀬市元町1-1-14 プランドールJ 2階	2025年1月1日から
八王子市	こどもクリニック南大沢	八王子市南大沢2-27 フレスコ南大沢4F	2025年1月31日まで
	山と空こどもアレルギークリニック	八王子市天神町24-3	2025年2月1日から
練馬	秋田医院	練馬区豊玉中4-10-3	2025年3月31日まで
	小山小児科・耳鼻咽喉科医院	練馬区豊玉北6-19-1	2025年4月1日から
文京	吉村小児科	文京区大塚2-18-6	2025年3月31日まで
	文京春日こどもクリニック	文京区小石川1-5-1 パークコート文京小石川ザタワー3F	2025年4月1日から
中央区	わたなべこどもクリニック	中央区月島1-8-1 アイ・マークタワー202	2025年3月31日まで
	勝どき小児クリニック	中央区勝どき1-3-1 Brillia ist Tower 勝どき3階	2025年4月1日から
世田谷	三宅小児科	世田谷区上北沢4-21-13	2025年3月31日まで
	おむすび小児科クリニック	世田谷区船橋4-17-1-1	2025年4月1日から
江戸川	久田医院	江戸川区平井1-27-7	2025年3月31日まで
	緑こどもクリニック	江戸川区小松川2-4-4-101	2025年4月1日から
町田市	キッズクリニック智	町田市相原町1652-1	2025年3月31日まで
	くまくまこどもクリニック	町田市小山ヶ丘3-22-9 京王多摩境駅前ビル1F	2025年4月1日から
新宿区	国立国際医療研究センター 病院	新宿区戸山1-21-1	2025年4月1日 医療機関名称変更
	国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター		

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

内科（155定点）

2024年12月31日 現在

保健所名	医療機関名	所在地	備考
千代田	神田診療所	千代田区内神田2-8-14	
中央区	松本内科院	中央区京橋2-11-5-5F	2024年2月29日まで
	医療法人社団健杏会 杉野内科クリニック	中央区勝どき2-9-12 HBビル勝どき 3F	2024年3月1日から
	中央内科クリニック	中央区日本橋人形町2-7-8	
みなと	馬場クリニック	港区麻布十番2-13-2	
みなと	もとやまクリニック	港区白金1-8-9	
みなと	新田町ビル診療所	港区芝5-34-6 新田町ビル2F	
新宿区	高橋医院	新宿区北新宿3-21-8	
新宿区	早稻田クリニック	新宿区馬場下町10 早稻田レストハイツ2F	
新宿区	石井外科	新宿区住吉町8-2	
新宿区	磯貝クリニック	新宿区西早稻田2-4-8	
文京	八千代診療所	文京区白山1-5-8	
文京	森谷医院	文京区千駄木5-43-11	
文京	大橋内科クリニック	文京区西片2-15-11	
台東	関戸クリニック	台東区西浅草2-14-3	
台東	城所医院	台東区北上野2-26-5	○
台東	かとう医院	台東区根岸3-12-14	
墨田区	隅田川診療所	墨田区向島1-24-6	
墨田区	東京曳舟病院	墨田区東向島2-27-1	
墨田区	さとう内科クリニック	墨田区本所4-13-3-1F	○
江東区	小林クリニック	江東区大島4-1-6-105	
江東区	みやたけクリニック	江東区東砂4-23-6	
江東区	大陽ビルクリニック	江東区東陽3-23-6 大陽ビル102	
江東区	望月内科クリニック	江東区高橋13-2 ヴィラロイヤル森下1F	
江東区	辰巳中央診療所	江東区辰巳1-9-49-102	
品川区	白井クリニック	品川区大井2-4-1	
品川区	さとうクリニック	品川区南品川2-17-25 菱倉ビル2F	
品川区	医療法人社団雄喜会 大崎広小路内科	品川区西五反田8-4-15 グリンデル広小路4階	
品川区	青柳医院	品川区豊町1-4-15	
目黒区	駒場クリニック	目黒区駒場2-4-5	2024年2月29日まで
	目黒吉田内科クリニック	目黒区下目黒5-9-15 1F	2024年3月1日から
目黒区	清水クリニック	目黒区上目黒5-19-40	
目黒区	阿部医院	目黒区平町2-5-7	
大田区	テクノポートクリニック	大田区南蒲田2-16-1 テクノポートカマタセンタービル 別館2F	
大田区	馬込中央診療所	大田区中馬込1-5-8	
大田区	北條医院	大田区大森北3-4-5	○
大田区	井出内科クリニック	大田区下丸子3-13-11	
大田区	松坂医院	大田区萩中1-6-28	
大田区	溝谷医院	大田区大森東2-1-4	
大田区	並木医院	大田区東雪谷5-27-13	
大田区	せせらぎクリニック多摩川	大田区田園調布1-33-3	
世田谷	菅澤医院	世田谷区中町4-31-13	
世田谷	世田谷北部病院	世田谷区南烏山2-9-17	○
世田谷	幸野メディカルクリニック	世田谷区祖師谷3-30-28	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医療機関名	所在地	備考
世田谷	竹川内科医院	世田谷区宮坂1-41-20	2024年1月31日まで
	大坪医院	世田谷区松原5-58-11	2024年4月1日から
世田谷	医療法人社団 シンセリティ いなみ内科クリニック	世田谷区三軒茶屋1-13-7 三茶JOYビル2F	
世田谷	こうらクリニック	世田谷区豪徳寺1-23-22	
世田谷	高橋医院	世田谷区玉川3-23-22	2024年3月31日まで
	森山医院	世田谷区中町2-17-20	2024年4月1日から
世田谷	桂原医院	世田谷区用賀4-13-11	
世田谷	西島内科クリニック	世田谷区宇奈根3-1-21	
渋谷区	医療法人社団恵比寿会 淳クリニック	渋谷区恵比寿西1-14-2-201	
渋谷区	医療法人社団 しおざき内科	渋谷区渋谷1-7-5 青山セブンハイツ2F	○
渋谷区	医療法人社団慶照会 幡ヶ谷内科クリニック	渋谷区幡ヶ谷2-16-8	
中野区	大場診療所	中野区大和町3-40-6	
中野区	山田クリニック	中野区新井2-6-10	
中野区	東中野クリニック	中野区東中野1-58-12	
中野区	溝口医院	中野区弥生町2-12-9	
杉並	藤多クリニック	杉並区上荻1-9-1	
杉並	富士見丘医院	杉並区久我山5-20-1	○
杉並	河合内科クリニック	杉並区上荻3-1-11	
杉並	内山クリニック	杉並区和泉3-6-2	
杉並	石井こども・内科循環器科クリニック	杉並区松ノ木1-6-21	
杉並	清水内科クリニック	杉並区高円寺南1-7-4	
池袋	武藤クリニック	豊島区長崎1-22-11	
池袋	山下診療所大塚	豊島区北大塚2-13-1 ba07 5F	
池袋	目白おかの内科	豊島区目白3-16-15 茜ビル1F	
北区	青木内科クリニック	北区西ヶ原1-46-17 旭レデデンス1F	
北区	共和堂医院	北区東十条2-5-1	
北区	王子神谷齋藤クリニック	北区豊島8-24-4	
北区	医療法人社団景星会赤羽 赤羽東口病院	北区赤羽1-38-5	
荒川区	水野クリニック	荒川区荒川1-49-2 サクラハイツ2F	
荒川区	南千住つのだ医院	荒川区南千住6-65-12	
荒川区	東京リバーサイド病院	荒川区南千住8-4-4	
板橋区	平山医院	板橋区中台1-46-3	
板橋区	岡部医院	板橋区板橋3-37-1	
板橋区	天木診療所	板橋区清水町47-7	○
板橋区	高島平東口クリニック	板橋区高島平8-5-10 MAビル3F	
板橋区	赤塚新町クリニック	板橋区赤塚新町2-5-16 ヴィルヌーヴ赤塚1F	
板橋区	多比良医院	板橋区成増4-13-2	
練馬区	川邊内科	練馬区上石神井2-26-15	○
練馬区	医療法人社団健康文化会 練馬第一診療所	練馬区平和台4-20-16	
練馬区	すずしろ医療生活協同組合 すずしろ診療所	練馬区練馬1-15-1 堀越ビル2階	
練馬区	医療法人社団 金谷クリニック	練馬区光が丘2-4-11-102	
練馬区	じんの内科医院	練馬区氷川台3-24-21	
練馬区	医療法人社団安和会 若井内科・呼吸器科	練馬区大泉学園町7-15-16 ハナブサ第一ビル3階	
練馬区	医療法人社団昌泉会 やすひさ内科クリニック	練馬区東大泉5-40-24 サンダリオンビル1F	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医療機関名	所在地	備考
練馬区	水谷内科呼吸器科クリニック	練馬区東大泉6-51-4 TKマンション1F	
足立	江北ファミリークリニック	足立区江北5-1-1	
足立	久勝医院	足立区弘道2-1-3	
足立	健愛クリニック	足立区千住曙町37-8	
足立	山一ビル内科クリニック	足立区島根3-8-1 山一ビル島根Ⅱ1F	
足立	天沼医院	足立区西保木間4-5-14-2	
足立	佐々木医院	足立区綾瀬2-26-17	
足立	旭医院	足立区千住旭町9-15	
葛飾区	吉川内科医院	葛飾区白鳥3-31-2-101	
葛飾区	遠藤医院	葛飾区柴又3-12-18	
葛飾区	富田医院	葛飾区奥戸5-1-18	
葛飾区	久保島医院	葛飾区小菅2-25-10	
葛飾区	猪口医院	葛飾区柴又4-6-14	
江戸川	医療法人社団 同愛会病院	江戸川区松島1-42-21	
江戸川	医療法人社団美友梨会 福田クリニック	江戸川区南篠崎町2-38-13	
江戸川	医療法人社団黄耆会 京谷医院	江戸川区北小岩6-17-7	
江戸川	医療法人社団孝仁会 小暮医院	江戸川区興宮町16-13	
江戸川	中川医院	江戸川区小松川3-75-3	
江戸川	医療法人社団 葛西中央病院	江戸川区船堀7-10-3	
江戸川	恵仁堂医院	江戸川区東小岩4-10-5	○
八王子市	秋山内科医院	八王子市子安町1-32-7	
八王子市	京王八王子駅前診療所	八王子市明神町4-7-1 京王駅前ビル5F	○
八王子市	近藤内科医院	八王子市長房町1502-30	
八王子市	遠山内科・循環器クリニック	八王子市みなみ野2-16-3 モンパルテ1F	
八王子市	伊藤内科消化器医院	八王子市大和田町4-15-14	
八王子市	南大沢クリニック	八王子市南大沢5-14-4-1	
八王子市	わかばやし内科クリニック	八王子市元本郷町2-5-1	
町田市	こばやし医院	町田市金森1-26-15	
町田市	中村クリニック	町田市木曾東3-20-28	○
町田市	泰生医院	町田市小山町2470-5	
町田市	医療法人社団泰大会 薬師台おはなぼっぽクリニック	町田市薬師台1-25-12 薬師台メディカルテラス	
町田市	はやし内科クリニック	町田市真光寺2-37-11	
西多摩	福生クリニック	福生市加美平3-35-13	
西多摩	日の出ヶ丘病院	日の出町大久野310	
西多摩	片平医院	青梅市河辺町10-16-20	○
西多摩	近藤医院	あきる野市油平35	
西多摩	双葉クリニック	羽村市双葉町1-1-15	
西多摩	石畠診療所	瑞穂町石畠207	
南多摩	斎藤内科呼吸器科	多摩市永山4-2-6-202	
南多摩	土方クリニック	日野市万願寺1-13-1	
南多摩	中川クリニック	日野市南平7-18-11	
南多摩	やはの内科・胃腸科クリニック	多摩市閔戸1-11-9 桜ヶ丘富沢ビル6F	
南多摩	長峰クリニック	稲城市長峰2-2-2	
多摩立川	唯善クリニック 内科・呼吸器内科	立川市富士見町1-34-9-1F	
多摩立川	藤井医院	立川市栄町5-22-6	○
多摩立川	まことクリニック	昭島市松原町2-9-1	
多摩立川	国分寺内科中央病院	国分寺市東元町2-3-19	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医療機関名	所在地	備考
多摩立川	新田クリニック	国立市西2-26-29	
多摩立川	向日葵クリニック	武藏村山市学園3-88-2	
多摩立川	浅香医院	東大和市湖畔1-1043-39	
多摩府中	赤須内科クリニック	府中市緑町2-17-9	
多摩府中	小林内科	調布市上石原2-30-22	
多摩府中	田原医院	武藏野市関前3-3-9	
多摩府中	渡辺医院	武藏野市吉祥寺本町4-7-9	
多摩府中	岡庭医院	三鷹市井の頭3-21-16	
多摩府中	いりえ内科クリニック	三鷹市北野4-5-30 キュー・コート鳥山101号	
多摩府中	府中よつやクリニック	府中市四谷3-37-14	
多摩府中	仙川さとうクリニック	調布市仙川町2-18-15 メゾン仙川1F	
多摩府中	小金井メディカルクリニック	小金井市本町5-15-9 栄ハイツエクシード2階	
多摩府中	やまだ総合内科クリニック	狛江市和泉本町3-27-10	○
多摩府中	中村内科クリニック	府中市西府町2-12-1	
多摩府中	辻医院	調布市下石原3-60-4	
多摩小平	松岡内科クリニック	小平市花小金井1-1-11 エマラルドビル3F	
多摩小平	西都保健生活協同組合 北多摩生協診療所	東村山市本町4-2-32 ドルチェ久米川	
多摩小平	ワンズタワーすこやかクリニック	東村山市野口町1-46 ワンズタワー4階	
多摩小平	宮本医院	清瀬市松山1-42-6	
多摩小平	山口内科・呼吸器科クリニック	東久留米市本町3-12-2	○
多摩小平	廣川クリニック	西東京市東町4-8-28 JUN西東京市101	
多摩小平	ますだ内科クリニック	西東京市芝久保町3-6-26	
多摩小平	井上内科クリニック	小平市仲町268-6 サライ仲町102	
島しょ	小笠原村診療所	小笠原村父島清瀬	

2025年変更医療機関

2025年4月1日 現在

保健所名	医療機関名	所在地	備考
練馬区	水谷内科呼吸器科クリニック	練馬区東大泉6-51-4 TKマンション1F	2024年12月31日まで
	竹下医院	練馬区南大泉5-36-9	2025年1月1日から
南多摩	斎藤内科呼吸器科	多摩市永山4-2-6-202	2025年2月9日まで
	つるまき八木クリニック	多摩市鶴牧5-4-1	2025年2月10日から
文京	八千代診療所	文京区白山1-5-8	2025年3月31日まで
	森内科	文京区大塚3-35-8 クリサンス小石川1F	2025年4月1日から

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

眼科 (39定点)

2024年12月31日 現在

保健所名	医療機関名	所在地	備考
中央区	宮下眼科医院	中央区京橋2-5-18 3F	
新宿区	東京女子医科大学病院眼科	新宿区河田町8-1	○ *
新宿区	東京医科大学病院眼科	新宿区西新宿6-7-1	
文京	順天堂大学医学部眼科	文京区本郷3-1-3	
墨田区	毛塚眼科医院	墨田区向島1-5-7	
江東区	さとう眼科	江東区南砂6-1-11	
品川区	濱崎眼科医院	品川区大井3-18-17	
目黒区	にっぽのクリニック	目黒区原町2-1-24	
大田区	朝広眼科	大田区久が原5-17-9	
大田区	下丸子眼科クリニック	大田区下丸子1-6-24 グランドステラ下丸子1F	
世田谷	福地眼科	世田谷区上北沢3-20-22	
世田谷	喜多見眼科	世田谷区喜多見8-18-10 小泉ビル3F	
渋谷区	角谷眼科医院	渋谷区恵比寿南1-3-6 C1ビル2F	○
中野区	福田眼科医院	中野区新井2-33-1	
杉並	荒木眼科医院	杉並区西荻北2-9-10	○
池袋	大木眼科	豊島区池袋2-17-1	
北区	クリスタル眼科	北区堀船3-18-3	
荒川区	眼科アリモト	荒川区東日暮里5-51-7	
板橋区	フルヤ眼科クリニック	板橋区板橋1-22-8 古谷ビル2F	
板橋区	小暮眼科	板橋区成増3-10-5	
練馬区	荻野眼科医院	練馬区石神井町1-25-10	
練馬区	医療法人社団静秀会 氷川台眼科	練馬区氷川台3-38-8 M&Rビル1階	
足立	三原眼科医院	足立区本木北町14-6	
足立	こばやし眼科クリニック	足立区千住宮元町1-1 千住宮元ビル2F	
葛飾区	的場眼科クリニック	葛飾区金町6-13-9	
江戸川	医療法人社団星明会 松江八木橋眼科	江戸川区松江2-1-5 日々沢ビル	2024年8月31日まで
	医療法人社団時中会 つぼい眼科クリニック	江戸川区一之江8-17-17	2024年9月1日から
江戸川	安田医院	江戸川区瑞江1-43-12	
八王子市	きむら眼科	八王子市子安町4-10-1	
八王子市	大熊眼科医院	八王子市千人町2-19-15 長塚ビル3F	
町田市	すずかけ台眼科クリニック	町田市南つくし野3-4-2 久保田ビル2階	
西多摩	後藤眼科診療所	青梅市森下町508	
南多摩	小川眼科	多摩市閑戸2-40-1 ニッセイ聖蹟桜ヶ丘ビル3F	
多摩立川	天佑眼科医院	東大和市南街1-27-5	2024年3月31日まで
	(医社)晴山会 おしきり眼科	武藏村山市学園3-50-1	2024年4月1日から
多摩立川	曾根医院	国分寺市本町4-19-8	
多摩府中	こはら眼科	武藏野市中町1-4-4 スクウェア三鷹1F	2024年9月30日まで
	三鷹まちかど眼科	武藏野市中町1-4-4 スクウェア三鷹1F	2024年10月1日から
多摩府中	武蔵境眼科医院	武蔵野市境南町1-8-1 武蔵野STビル2F	
多摩府中	平山眼科医院	府中市宮町1-20-19 大津ビル2F	
多摩小平	徳島診療所	東村山市富士見町1-2-14	○
多摩小平	つしま眼科医院	清瀬市元町1-8-19 アーク清瀬201	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

性感感染症（55定点）

2024年12月31日 現在

保健所名	医療機関名	所在地	備考
千代田	スバル医院	千代田区有楽町1-2-6	
千代田	(公社)東京都教職員互助会 三楽病院	千代田区神田駿河台2-5	
中央区	医療法人社団賢仁会 銀座吉田医院	中央区銀座2-4-8 GINZA YUKI BLD 8・9F	
中央区	弓削医院	中央区日本橋蛎殻町1-28-7	
中央区	対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座	中央区銀座2-6-5 銀座トレシャスピル7F	
みなと	大原皮膚泌尿器科	港区赤坂2-14-33 栄屋清水ビル5階	
みなと	赤枝六本木診療所	港区元麻布3-1-30	
新宿区	神楽坂泌尿器科クリニック	新宿区中里町13イーストハウス神楽坂1F	
新宿区	たつきクリニック	新宿区西新宿7-16-14 ミクラ西新宿ビル2F	
新宿区	植松医院	新宿区高田馬場1-32-14 UKビル2F	
新宿区	医療法人社団川添記念会 四谷川添産婦人科	新宿区左門町18	
新宿区	竹下医院	新宿区高田馬場2-14-22	
新宿区	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立大久保病院	新宿区歌舞伎町2-44-1	
新宿区	しらかば診療所	新宿区住吉町8-28 B・STEPビル2階	
文京	細部医院	文京区根津1-1-15	
台東	佐々木医院	台東区浅草5-33-12	
台東	永寿総合病院	台東区東上野2-23-16	
墨田区	南外科泌尿器科	墨田区東向島5-38-14	
墨田区	賛育会病院	墨田区太平3-20-2	
江東区	西大島駅と亀戸駅の間のいわぶち内科と泌尿器科のクリニック	江東区大島3-4-3 タワーレジデンス西大島2階	○
江東区	江東病院	江東区大島6-8-5	
品川区	医療法人社団OURS KARADA内科クリニック	品川区西五反田1-2-8 FPG links GOTANDA 10F	
大田区	前村医院	大田区大森中2-19-17	
大田区	東京蒲田病院	大田区西蒲田7-10-1	
渋谷区	医療法人社団三昭会 渋谷新南口クリニック	渋谷区渋谷3-28-8 第三久我屋ビル2F	
渋谷区	赤阪医院	渋谷区神宮前3-31-9	
渋谷区	JR東京総合病院	渋谷区代々木2-1-3	
渋谷区	笹塚レディースクリニック	渋谷区笹塚1-30-3 ピラージュ 笹塚Ⅲ4F	
渋谷区	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立広尾病院	渋谷区恵比寿2-34-10	*
中野区	やなだクリニック	中野区弥生町6-2-20	
中野区	新渡戸記念中野総合病院	中野区中央4-59-16	
杉並	荻窪駅前クリニック	杉並区荻窪5-27-8 FCビル4F	
杉並	荻窪病院	杉並区今川3-1-24	
池袋	安康レディースクリニック	豊島区池袋2-42-3 オスカービル2F	
池袋	要町駅前クリニック	豊島区要町1-1-11 要町KTビル7F	
池袋	渡辺胃腸科医院	豊島区南大塚1-53-1	○

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医療機関名	所在地	備考
北区	十条銀座診療所	北区上十条2-30-4	
荒川区	医療法人社団静産会 あらかわレディースクリニック	荒川区町屋1-8-8	
板橋区	本多医院	板橋区大山町18-12	
板橋区	板橋中央総合病院	板橋区小豆沢2-12-7	
足立	長門クリニック	足立区中川2-5-8	
足立区	医療法人社団成和会 西新井病院	足立区西新井本町1-12-12	
江戸川	医療法人社団理弘会 岩倉病院	江戸川区南小岩7-28-4	○
江戸川	医療法人社団山紫会 とおるクリニック	江戸川区瑞江2-3-1 瑞江駅前ビル3F	
八王子市	新クリニック	八王子市台町2-16-8	
八王子市	西島産婦人科	八王子市千人町1-8-5	○
八王子市	米山産婦人科クリニック	八王子市新町2-12	
八王子市	はぎの医院	八王子市本町11-6	
町田市	ベルンの森クリニック	町田市小山ヶ丘4-3-1	
多摩立川	泉医院	立川市曙町2-14-16	
多摩立川	こむかい産婦人科	立川市錦町2-3-30	
多摩府中	武藏野陽和会病院	武藏野市緑町2-1-33	
多摩府中	武藏野赤十字病院	武藏野市境南町1-26-1	*
多摩府中	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立多摩総合医療センター	府中市武蔵台2-8-29	*
多摩小平	真能クリニック	小平市学園西町2-13-37 カミデビル2F	

2025年変更医療機関

2025年4月1日 現在

保健所名	医療機関名	所在地	備考
みなと	赤枝六本木診療所	港区元麻布3-1-30	2025年1月31日まで
	丸茂レディースクリニック	港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー4階	2025年3月1日から
八王子市	米山産婦人科クリニック	八王子市新町2-12	2024年11月30日まで
	医療法人社団福神会 柴田産婦人科医院	八王子市横川町515	2025年2月1日から
新宿区	植松医院	新宿区高田馬場1-32-14 UKビル2F	2025年3月31日まで
	医療法人社団医精会 マインティクリニック	新宿区新宿3-25-10 當山ビル6F	2025年4月1日から

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

基幹（25定点）

2024年12月31日 現在

保健所名	医療機関名	所在地	備考
千代田	東京通信病院	千代田区富士見2-14-23	○ *
千代田	(公社)東京都教職員互助会 三楽病院	千代田区神田駿河台2-5	
みなと	東京都済生会中央病院	港区三田1-4-17	○ *
新宿区	(社)聖母会 聖母病院	新宿区中落合2-5-1	○ *
新宿区	東京女子医科大学病院	新宿区河田町8-1	○ #
文京	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立駒込病院	文京区本駒込3-18-22	○
墨田区	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立墨東病院	墨田区江東橋4-23-15	○
大田区	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立荏原病院	大田区東雪谷4-5-10	○
世田谷	国立成育医療研究センター	世田谷区大蔵2-10-1	
世田谷	公立学校共済組合 関東中央病院	世田谷区上用賀6-25-1	
渋谷区	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立広尾病院	渋谷区恵比寿2-34-10	○ &
杉並	立正佼成会附属佼成病院	杉並区和田2-25-1	○ 2024年4月1日 * 医療機関名称変更
	杏林大学医学部付属杉並病院		
杉並	河北総合病院	杉並区阿佐谷北1-7-3	
池袋	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立大塚病院	豊島区南大塚2-8-1	○
板橋区	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立豊島病院	板橋区栄町33-1	○
葛飾区	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立東部地域病院	葛飾区亀有5-14-1	○
八王子市	東京医科大学 八王子医療センター	八王子市館町1163	○
西多摩	市立青梅総合医療センター	青梅市東青梅4-16-5	○
多摩立川	国家公務員共済組合連合会 立川病院	立川市錦町4-2-22	○
多摩府中	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立多摩総合医療センター	府中市武藏台2-8-29	○ &
多摩府中	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター	府中市武藏台2-8-29	○
多摩府中	武藏野赤十字病院	武藏野市境南町1-26-1	○ &
多摩小平	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立多摩北部医療センター	東村山市青葉町1-7-1	○
多摩小平	公立昭和病院	小平市花小金井8-1-1	○
島しょ	町立八丈病院	八丈島八丈町三根26-11	○

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。

備考欄に「*」、「#」、「&」の表示がある医療機関は、それぞれ小児科、眼科、性感染症定点を兼ねる。

疑似症（36定点）

2024年12月31日 現在

保健所名	種別	医療機関名	所在地	備考
千代田		東京通信病院	千代田区富士見2-14-23	
中央区		聖路加国際病院	中央区明石町9-1	
みなと		虎の門病院	港区虎ノ門2-2-2	
みなと		東京慈恵会医科大学附属病院	港区西新橋3-19-18	
新宿区	特定	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院	新宿区戸山1-21-1	
新宿区		東京女子医科大学病院	新宿区河田町8-1	
文京	一種	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立駒込病院	文京区本駒込3-18-22	
台東		永寿総合病院	台東区東上野2-23-16	
墨田区	一種	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立墨東病院	墨田区江東橋4-23-15	
江東区		昭和大学江東豊洲病院	江東区豊洲5-1-38	
品川区		昭和大学病院	品川区旗の台1-5-8	
大田区	一種	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立荏原病院	大田区東雪谷4-5-10	
大田区		東邦大学医療センター大森病院	大田区大森西6-11-1	
目黒区		独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター	目黒区東が丘2-5-1	
世田谷	一種	自衛隊中央病院	世田谷区池尻1-2-24	
渋谷区		日本赤十字社医療センター	渋谷区広尾4-1-22	
渋谷区		地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立広尾病院	渋谷区恵比寿2-34-10	
中野区		東京警察病院	中野区中野4-22-1	
杉並		河北総合病院	杉並区阿佐谷北1-7-3	
池袋		地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立大塚病院	豊島区南大塚2-8-1	
北区		公益社団法人 地域医療振興協会 東京北医療センター	北区赤羽台4-17-56	
板橋区	二種	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立豊島病院	板橋区栄町33-1	
練馬区		練馬光が丘病院	練馬区光が丘2-11-1	
足立		東京女子医科大学 附属足立医療センター	足立区江北4-33-1	
足立		博慈会記念総合病院	足立区鹿浜5-11-1	
葛飾区		東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター	葛飾区青戸6-41-2	
江戸川		日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院	江戸川区臨海町1-4-2	
八王子市	二種	東京医科大学八王子医療センター	八王子市館町1163	
町田市		町田市民病院	町田市旭町2-15-41	
西多摩	二種	青梅市立総合病院	青梅市東青梅4-16-5	
南多摩		地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立多摩南部地域病院	多摩市中沢2-1-2	
多摩立川	二種	国家公務員共済組合連合会 立川病院	立川市錦町4-2-22	
多摩立川		社会医療法人 社団健生会 立川相互病院	立川市緑町4-1	
多摩府中	二種	武藏野赤十字病院	武藏野市境南町1-26-1	
多摩小平	二種	公立昭和病院	小平市花小金井8-1-1	
島しょ	二種	町立八丈病院	八丈島八丈町三根26-11	

2 東京都感染症予防検討委員会委員名簿

2024年12月31日現在：順不同

氏名	役職
◎ 櫻山 豊夫	東京都結核予防会理事
○ 岡部 信彦	川崎市健康安全研究所参与
○ 萩原 温久	萩原医院(東京小児科医会)
永井 英明	独立行政法人国立病院機構東京病院感染症科部長
尾形 英雄	公益財団法人結核予防会復十字病院安全管理特任部長
尾本 光祥	北区保健所長
河合 江美	町田市保健所長
今村 頤史	地方独立行政法人 東京都立病院機構 がん・感染症センター都立駒込病院感染症科部長
丸山 玄	東京都保健医療局健康安全部食品危機管理担当課長
村田 ゆかり	東京都健康安全研究センター 企画調整部 健康危機管理情報課 疫学情報担当課長
高橋 琢理	国立感染症研究所感染症疫学センター 第四室 室長
渡部 ゆう*	東京都保健医療局感染症対策部防疫課長 事務取扱 保健医療局担当部長
長尾 慶治*	みたか南口泌尿器科クリニック(東京泌尿器科医会)
武知 公博	きりんウイメンズクリニック武藏野(東京産婦人科医会)
時田 章史	クリニックばんびいに(東京小児科医会)
稻毛 佐知子	いなげ眼科(東京都眼科医会)
美田 敏宏	順天堂大学医学部 热带医学・寄生虫病学講座教授
山下 隆博	恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育病院副院長・産婦人科部長
芳賀 猛*	東京大学大学院農学生命科学研究科 獣医学専攻 感染制御学研究室教授/副研究科長
川上 一恵	東京都医師会理事（疾病担当）

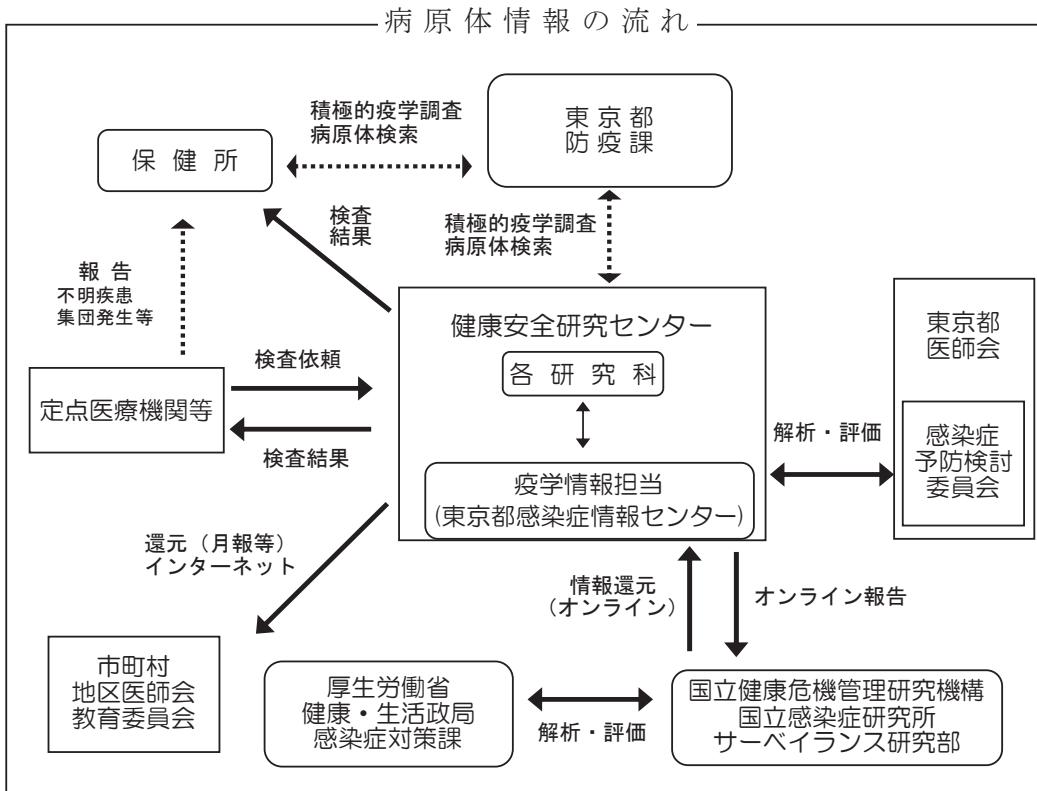
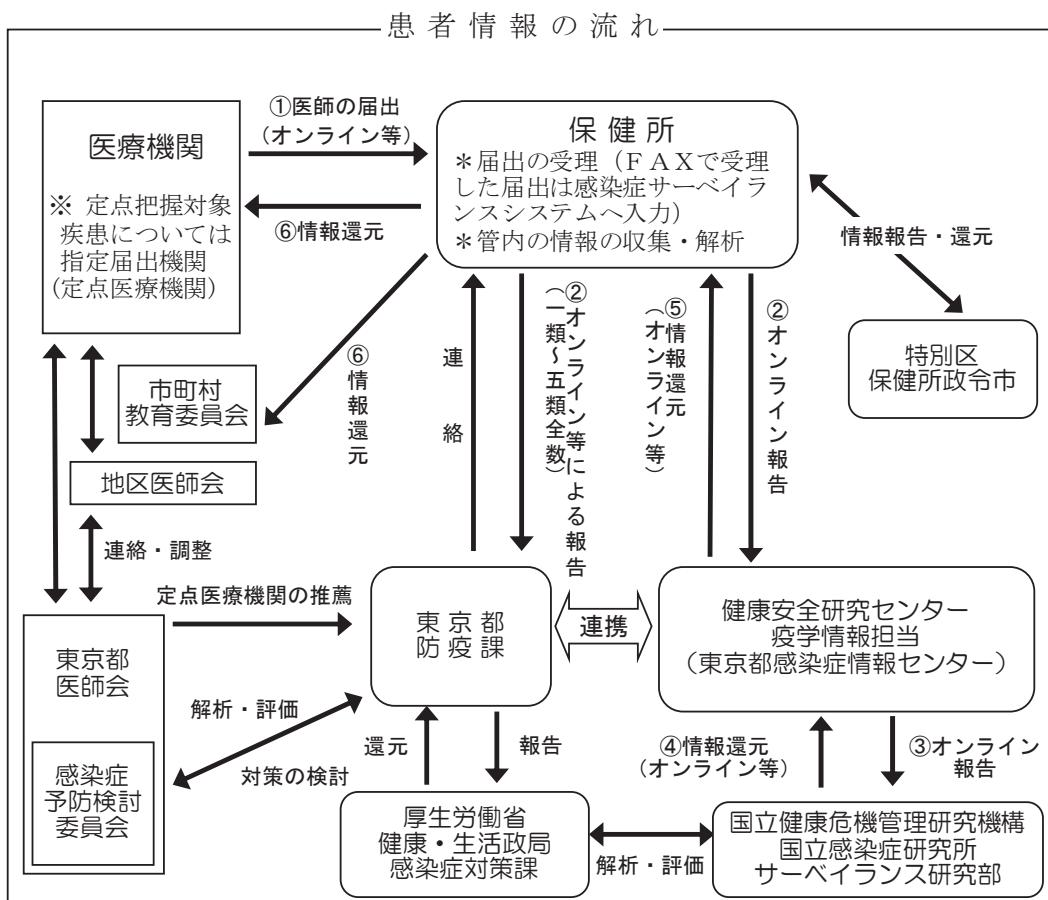
◎委員長 ○副委員長

* 2024年4月1日から

2024年3月31日まで

カエベタ 亜矢	東京都保健医療局感染症対策部防疫課長
山本 史郎	山本医院（東京泌尿器科医会）
池田 忠生	元日本大学医学部准教授

3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ



東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11衛福結第680号

平成12年3月30日

最終改正

6保医感防第1125号

令和7年3月31日

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生状況の正確な把握と分析、その結果の国民や医療関係者への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及び蔓延を防止するとともに、病原体情報を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として実施するものとする。

第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施体制

1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都、特別区及び保健所政令市における患者情報、疑似症情報及び病原体情報（検査情報を含む。以下同じ。）を収集・分析し、東京都、特別区及び保健所政令市の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、

地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター（以下「健康安全研究センター」という。）は、東京都全域の患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

- (1) 東京都は、定点把握対象の感染症についての、患者及び当該感染症により死亡した者（感染症法第14条第1項の厚生労働省令で定める五類感染症に限る。）の情報及び疑似症情報を収集するため、感染症法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定する。
- (2) 東京都は、定点把握対象の五類感染症等についての、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定する。なお、感染症法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、感染症法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定する。
- (3) 東京都は、上記（1）及び（2）に係る指定届出機関及び指定提出機関との連絡調整及び推薦等に係る業務を、東京都医師会に委託することができる。

3 感染症予防検討委員会

- (1) 東京都内における情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、小児科、内科、眼科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、微生物学、疫学、獣医学、昆虫学等の専門家、保健所及び地方衛生研究所の代表、地域の医師会の代表等（10名程度）からなる感染症予防検討委員会を置く。
- (2) 東京都は、上記（1）に係る事務を、東京都医師会へ委託することができる。

4 検査施設

東京都内における本事業に係る検体等の検査については、健康安全研究センターにおいて実施する。健康安全研究センターは、検査施設における病原体等検査の業務管理要領（以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（別表1の75、85及び86に掲げるもの）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断又は検案した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（別表1の75、

85及び86に掲げるもの)、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について(一部改正)」(以下「届出基準」という。)に基づき診断した場合及び当該感染症により死亡した者(当該感染症により死亡したと疑われる者を含む。)の死体を検案した場合は、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により、本要綱の別記様式8から9、及び11から74を用いて、届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等を提供する。

ウ 保健所

(ア) 届出を受けた保健所は、直ちに届出内容の確認を行うとともに、当該届出が感染症サーベイランスシステムの入力環境がない医師からの届出である場合には、直ちに感染症サーベイランスシステムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼等するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて保健医療局感染症対策部防疫課及び健康安全研究センターと協議する。

(イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。

(ウ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所等からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、保健医療局感染症対策部防疫課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合(疑いを含む。)又は東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び

国から求められた場合にあっては、保健医療局感染症対策部防疫課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

オ 情報の報告等

(ア) 都道府県知事、保健所を設置する市又は特別区の長（以下「都道府県知事等」という。）は、その管轄する区域外に居住する者について法第12条第1項の規定による届出を受けたときは、当該届出の内容を、その居住地を管轄する都道府県知事等に通報する。保健所を設置する市又は特別区の長（以下「保健所設置市等の長」という。）が通報先となる場合には、当該市・区が所在する都道府県知事にも通報する。

(イ) 保健所設置市等の長は、厚生労働大臣に対して、

- ・ 法第12条の規定による発生届出の一連の事務の中で、同条第2項の報告を行う場合
- ・ 法第15条の規定による積極的疫学調査の一連の事務の中で、同条第13項の報告を行う場合

は、併せて都道府県知事に報告する。

(ウ) 都道府県知事等は、他の都道府県知事等が管轄する区域内における感染症のまん延を防止するために必要な場合は、法第15条の規定による積極的疫学調査の結果を、当該他の都道府県知事等に通報する。保健所設置市等の長が通報先となる場合には、当該市・区が所在する都道府県知事にも通報する。

(エ) (ア) から (ウ) の報告等について、感染症サーベイランスシステムにより相互に情報を閲覧できる措置を講じた場合は、当該報告をしたものとみなす。

2 全数把握対象の五類感染症（別表1の75、85及び86に掲げるものを除く。）

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断又は検案した医師

全数把握対象の五類感染症（別表1の75、85及び86に掲げるものを除く。）を届出基準に基づき診断した又は当該感染症により死亡した者（当該感染症により死亡したと疑われる者を含む。）の死体を検案した医師は、7日以内に最寄りの保健所に届出を行う。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により、国の定める届出基準の別記様式5-1から5-11、5-13から5-15、5-17から5-21、5-24並びに本要綱の

別記様式10を用いて、届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、提供する。

ウ 保健所

(ア) 届出を受けた保健所は、直ちに届出内容の確認を行うとともに、当該届出が感染症サーベイランスシステムの入力環境がない医師からの届出である場合には、直ちに感染症サーベイランスシステムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて保健医療局感染症対策部防疫課及び健康安全研究センターと協議する。

(イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。

(ウ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所等からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、保健医療局感染症対策部防疫課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、保健医療局感染症対策部防疫課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の五類感染症等

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症等について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合及び当該感染症により死亡した者（当該感染症により死亡したと疑われる者を含む。）の死体と検案される場合とする。

（2）定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症等の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

（ア）小児科定点

対象感染症のうち、別表1の88、89、91、92、98、102から104まで、106、112、115及び117までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、急性呼吸器感染症定点（別表1の88、89、90、91、93、97及び106の届出を行う定点医療機関をいう。以下同じ。）として協力するよう努めること。

（イ）急性呼吸器感染症定点

対象感染症のうち、別表1の88、89、90、91、93、97及び106については、前記（ア）で選定した小児科定点のうち急性呼吸器感染症定点として協力する小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせて急性呼吸器感染症定点とする。

（ウ）眼科定点

対象感染症のうち、別表1の94及び111に掲げるものについては、眼科を標ぼうする医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。

（エ）性感染症定点

対象感染症のうち、別表1の99から101まで、113及び116までに掲げるものについては、産婦人科、産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和二十三年政令第三百二十六号）第三条の二第一項第一号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合せた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標ぼうする医療機関（主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。

（オ）基幹定点

対象感染症のうち、別表1の90及び97に掲げるもの（届出基準は急性呼吸

器感染症定点と異なり、入院患者に限定される)、別表1の95、96、105、107から110まで及び114までに掲げるものについては、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって、内科及び外科を標榜する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)を二次医療圏毎に1か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、病原体定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

- (ア) 医療機関を病原体定点として選定する場合は、原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。
- (イ) アの(ア)により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とし、別表1の88、89、91、92、98、102から104まで、106、112、115及び117までを対象感染症とする。
- (ウ) アの(ア)及び(イ)により選定された患者定点の概ね10%を急性呼吸器感染症病原体定点とし、別表1の84、88、89、90、91、93、95、97、106及び107を対象感染症とする。また、急性呼吸器感染症病原体定点を、感染症法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として指定する。
- (エ) アの(ウ)により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定し、別表1の94及び111を対象感染症とする。
- (オ) アの(エ)により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定し、別表1の99から101まで、113及び116を対象感染症とする。
- (カ) アの(オ)により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定し、別表1の90に掲げるインフルエンザ(入院患者に限る)、別表1の95、96、105、107から110まで及び114までを対象感染症とする。

(3) 調査単位等

ア 患者情報

調査単位の期間等は、別表2のとおりとする。

なお、(2)のアの(イ)により選定された患者定点は、別表1の88、89、90、91、93、97及び106については、別に定める届出基準に一致する者として当該患者の総数を「急性呼吸器感染症」として届出を行うほか、別表1の90及び97については、疾病毎の患者数を届出することとする。

また、(2)のアの(ア)により選定された小児科定点のうち、急性呼吸器感染症定点として協力する小児科定点は、別表1の88、89、91及び106について、小児科定点としての届出も必要である。

イ 病原体情報

- (ア) 病原体情報のうち、(2) のイの (ウ) により選定された病原体定点に関するものについては、別表 1 の 84、88、89、90、91、93、95、97、106 及び 107 については、1 週間（月曜日から日曜日）を調査単位とする。その他病原体定点に関するものについては、各月を調査単位とする。
- (イ) (2) のイの (ウ) により選定された病原体定点に関するもののうち、別表 1 の 97 のゲノム解析については、各月を調査単位とする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

- (ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。
- (イ) (2) のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、別表 2 のとおり、それぞれの調査単位の患者発生状況を届け出る。
- (ウ) (イ) の届出に当たっては、感染症法施行規則第 7 条に従い行うとともに、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により、別記様式 2 から 7 を用いて、届出を行う。

イ 病原体定点

- (ア) 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のために検体等を採取する。
- (イ) 病原体定点は、検体等について、別記様式 1 の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。
- (ウ) (2) のイの (イ) により選定された病原体定点においては、別表 1 の 88、89、91、92、98、102 から 104 まで、106、112、115 及び 117 までの対象感染症のうち、調査単位ごとに、概ね 4 症例からそれぞれ少なくとも 1 種類の検体を送付するものとする。
- (エ) (2) のイの (ウ) により選定された病原体定点においては、(1) のアの (イ) により選定された患者定点にて探知された症例から採取し、調査単位ごとに、送付するものとする。検体の選定法については、原則、(2) のイの (ウ) により選定された病原体定点の営業日のうち、週はじめから数えて第 2 営業日に収集された、はじめの 5 検体を目標に提出するものとする。

なお、別表 2 の 97 のゲノム解析で用いる検体は健康安全研究センターで選定するため、(2) のイの (ウ) により選定された病原体定点で区別し送付する必要はない。

ウ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、提供する。

エ 保健所

(ア) 届出を受けた保健所は、直ちに届出内容の確認を行うとともに、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない医療機関からの届出である場合には、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症サーベイランスシステムに入力するものとし、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、保健医療局感染症対策部防疫課及び健康安全研究センターに報告する。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて保健医療局感染症対策部防疫課及び健康安全研究センターと協議する。

- (イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。
- (ウ) 保健所は、定点把握の対象の五類感染症等の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

オ 健康安全研究センター

- (ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所等からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- (イ) 健康安全研究センターは、別記様式1の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所、保健医療局感染症対策部防疫課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。
- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、保健医療局感染症対策部防疫課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。
- (オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センタ

一等の関係機関に提供・公開する。

4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症（定点）

（1）対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

（2）疑似症定点の選定

東京都は、関係医師会の協力を得て、国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱第5の4（2）に定める基準を満たす医療機関の中から疑似症定点を選定する。

また、疑似症定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

（3）調査単位

調査単位の期間等は、別表3のとおりとする。

（4）実施方法

ア 疑似症定点

（ア）疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

（イ）疑似症定点として選定された医療機関は、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を届け出る。

（ウ）（イ）の届出に当たっては、感染症法施行規則第7条に従い行うとともに、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により、国の定める届出基準の別記様式6-7を用いて、届出を行う。

イ 保健所

（ア）保健所は、疑似症定点から得られた疑似症情報を、隨時保健医療局感染症対策部防疫課に報告する。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、保健医療局感染症対策部防疫課及び健康安全研究センターに報告する。

（イ）保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 保健医療局感染症対策部防疫課

保健医療局感染症対策部防疫課は保健所から得られた疑似症情報を健康安全研究センターに報告する。

エ 健康安全研究センター

基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての疑似症情報を収集し、疑似症定点において感染症サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を感染症サーベイランスシステムに入力する。また、当該情報を分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

5 その他

- (1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。
- (2) 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等については、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外の目的のために用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ、本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の規定に従い行うものとする。
- (3) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて保健医療局長が定めることとする。

6 特別区及び保健所政令市との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区及び保健所政令市と協議し、連携を図るものとする。

附 則

この実施要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年11月5日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成16年8月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年6月12日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成19年6月15日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成20年1月31日から施行し、同年1月1日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成20年7月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成22年3月16日から施行し、同年3月11日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成23年2月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成23年9月5日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成25年5月22日から施行し、同年5月6日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成25年10月14日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成26年6月12日から施行し、同年5月12日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成26年8月13日から施行し、同年7月26日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成26年9月19日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成27年2月25日から施行し、同年1月21日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成27年5月21日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成28年1月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成28年2月15日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成30年1月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成30年5月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成31年1月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和元年5月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和2年1月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和2年2月3日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和2年5月13日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和2年6月24日から施行し、5月29日から適用する。

附 則

この実施要綱は、令和2年6月25日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和2年10月2日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和2年10月14日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和3年3月31日から施行し、同年2月13日から適用する。

附 則

この実施要綱は、令和3年6月18日から施行し、同年6月3日から適用する。

附 則

この実施要綱は、令和3年12月14日から施行し、同年12月1日から適用する。

附 則

この実施要綱は、令和4年3月31日から施行し、同年3月17日から適用する。

附 則

この実施要綱は、令和4年6月30日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和4年8月29日から施行し、同年8月19日から適用する。

附 則

この実施要綱は、令和4年10月31日から施行する。

附 則

1 この実施要綱は、令和5年5月8日から施行する。

2 この実施要綱の施行の日から令和5年6月30日までの間、「保健医療局感染症対策部防疫課」とあるのは「福祉保健局感染症対策部防疫・情報管理課」、「保健医療局長」とあるのは「福祉保健局長」とする。

附 則

この実施要綱は、令和5年5月26日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和5年9月25日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和6年1月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和6年6月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和7年4月7日から施行する。

別表 1

感染症法に基づく感染症の分類

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

	疾 患 名	届出対象者			届出方法	
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別	時 期
一 類	1 エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	2 クリミア・コンゴ出血熱					
	3 痢そう					
	4 南米出血熱					
	5 ペスト					
	6 マールブルグ病					
	7 ラッサ熱					
二 類	8 急性灰白髄炎	○	—	○	全数	直ちに
	9 結核	○	○	△※		
	10 ジフテリア	○	—	○		
	11 重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○		
	12 中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○		
	13 鳥インフルエンザ (H5N1)	○	○	○		
	14 鳥インフルエンザ (H7N9)	○	○	○		
三 類	15 コレラ	○	—	○	全数	直ちに
	16 細菌性赤痢	○	—	○		
	17 腸管出血性大腸菌感染症	○	—	○		
	18 腸チフス	○	—	○		
	19 パラチフス	○	—	○		
四 類	20 E型肝炎	○	—	○	全数	直ちに
	21 ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)	○	—	○		
	22 A型肝炎	○	—	○		
	23 エキノコックス症	○	—	○		
	24 エムポックス	○	—	○		
	25 黄熱	○	—	○		
	26 オウム病	○	—	○		
	27 オムスク出血熱	○	—	○		
	28 回帰熱	○	—	○		
	29 キャサヌル森林病	○	—	○		
	30 Q熱	○	—	○		
	31 狂犬病	○	—	○		
	32 コクシジオイデス症	○	—	○		
	33 ジカウイルス感染症	○	—	○		
	34 重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)	○	—	○		
	35 腎症候性出血熱	○	—	○		
	36 西部ウマ脳炎	○	—	○		
	37 ダニ媒介脳炎	○	—	○		
	38 炭疽	○	—	○		
	39 チクングニア熱	○	—	○		
	40 つつが虫病	○	—	○		
	41 デング熱	○	—	○		
	42 東部ウマ脳炎	○	—	○		
	43 鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9を除く)	○	—	○		
	44 ニパウイルス感染症	○	—	○		
	45 日本紅斑熱	○	—	○		
	46 日本脳炎	○	—	○		
	47 ハンタウイルス肺症候群	○	—	○		

※結核の無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要。

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別	時 期
48	Bウイルス病	○	—	○		
49	鼻疽	○	—	○		
50	ブルセラ症	○	—	○		
51	ベネズエラウマ脳炎	○	—	○		
52	ヘンドラウイルス感染症	○	—	○		
53	発しんチフス	○	—	○		
54	ボツリヌス症	○	—	○		
55	マラリア	○	—	○		
56	野兎病	○	—	○		
57	ライム病	○	—	○		
58	リッサウイルス感染症	○	—	○		
59	リフトバレー熱	○	—	○		
60	類鼻疽	○	—	○		
61	レジオネラ症	○	—	○		
62	レプトスピラ症	○	—	○		
63	ロッキー山紅斑熱	○	—	○		
指定感染症	—	—	—	—	—	—

※令和7年3月31日現在、政令に基づく指定感染症なし。

2 五類感染症（全数把握）

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別	時 期
64	アメーバ赤痢	○	—	—		
65	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	—	—		
66	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	○	—	—		
67	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	○	—	—		
68	急性脳炎 (ウェストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	—	—		
69	クリプトスボリジウム症	○	—	—		
70	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	—	—		
71	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	—	—		
72	後天性免疫不全症候群	○	—	○		
73	ジアルジア症	○	—	—		
74	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	—	—		
75	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	—	—	全数	直ちに
76	侵襲性肺炎球菌感染症	○	—	—		
77	水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	○	—	—		
78	先天性風しん症候群	○	—	—		
79	梅毒	○	—	○		
80	播種性クリプトコックス症	○	—	—	全数	7日以内
81	破傷風	○	—	—		
82	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
83	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	—	—		
84	百日咳	○	—	—		
85	風しん	○	—	—	全数	直ちに
86	麻しん	○	—	—		
87	薬剤耐性アシネットバクター感染症	○	—	—	全数	7日以内

3 新型インフルエンザ等感染症

	疾 患 名	届出対象者			届出方法	
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別	時 期
118	新型インフルエンザ	○	○	○	全数	直ちに
119	再興型インフルエンザ	○	○	○		
120	新型コロナウイルス感染症	○	○	○		
121	再興型コロナウイルス感染症	○	○	○		

4 五類感染症等(定点把握)

	疾 患 名	届出対象者			届出方法	
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別 (定点)	時 期
88	RSウイルス感染症	○	—	—		
89	咽頭結膜熱	○	—	—		
90	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	○	—	—		
91	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	—	—		
92	感染性胃腸炎	○	—	—		
93	急性呼吸器感染症 (インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く。)、新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。)、百日咳、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ肺炎を除く。)	○	—	—		
94	急性出血性結膜炎	○	—	—		
95	クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	○	—	—		
96	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)	○	—	—		
97	新型コロナウイルス感染症 (病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。)	○	—	—		
98	水痘	○	—	—		
99	性器クラミジア感染症	○	—	—		
100	性器ヘルペスウイルス感染症	○	—	—		
101	尖圭コンジローマ	○	—	—		
102	手足口病	○	—	—		
103	伝染性紅斑	○	—	—		
104	突発性発しん	○	—	—		
105	ベニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	—	—		
106	ヘルパンギーナ	○	—	—		
107	マイコプラズマ肺炎	○	—	—		
108	無菌性髄膜炎	○	—	—		
109	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
110	薬剤耐性綠膿菌感染症	○	—	—		
111	流行性角結膜炎	○	—	—		
112	流行性耳下腺炎	○	—	—		
113	淋菌感染症	○	—	—		
114	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	○	—	—		
115	川崎病 (都単独)	○	—	—		
116	臍トリコモナス症 (都単独)	○	—	—		
117	不明発しん症 (都単独)	○	—	—		

別表2 参照

5 疑似症

	届出対象	届出対象者			調査単位 (期間)	時期
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者		
122	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。	—	○	—		別表3参照

6 法第14条第8項の規定に基づく把握

	届出対象	届出対象者			調査単位 (期間)	時期
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者		
123	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものであって、当該感染症にかかった場合の病状の程度が重篤であるものが发生し、又は発生するおそれがあると判断し、知事が指定届出機関以外の病院又は診療所の医師に法第14条第8項に基づき届出を求めたもの。	—	○	—		別表3参照

別表2

五類感染症等（定点把握）の調査単位と報告時期

定点種別	報告対象	調査単位(期間)	時期
小児科定点※	R Sウイルス感染症 咽頭結膜熱 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 感染性胃腸炎 水痘 手足口病 伝染性紅斑 突発性発しん ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎 不明発しん症 (都単独) 川崎病 (都単独) インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。) 新型コロナウイルス感染症 (病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。)	週単位 (月曜日から 日曜日。以 下同じ。)	次の月曜日
内科定点※	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。) 新型コロナウイルス感染症 (病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。)	週単位	次の月曜日
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎	週単位	次の月曜日
性感染症定点	性器クラミジア感染症 性器ヘルペスウイルス感染症 尖圭コンジローマ 淋菌感染症 腫トリコモナス症 (都単独)	月単位	翌月初日
基幹定点	クラミジア肺炎（オウム病を除く） 感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。) 細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く) マイコプラズマ肺炎 無菌性髄膜炎 インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。入院患者のみ。) 新型コロナウイルス感染症 (病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。入院患者のみ。)	週単位	次の月曜日
	ベニシリソ耐性肺炎球菌感染症 メチシリソ耐性黄色ブドウ球菌感染症 薬剤耐性綠膿菌感染症	月単位	翌月初日

※小児科定点と内科定点を合わせて急性呼吸器感染症定点とする。

別表3

疑似症の調査単位と報告時期

定点種別	届出対象	調査単位 (期間)	時期
疑似症定点	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。	随時	直ちに
法第14条第8項の規定に基づく把握	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものであって、当該感染症にかかった場合の病状の程度が重篤であるものが発生し、又は発生するおそれがあると判断し、知事が指定届出機関以外の病院又は診療所の医師に法第14条第8項に基づき届出を求めたもの。	随時	直ちに

(注)

- 1 感染症法に規定する感染症によるものでないことが明らかである場合には、本届出の対象とはならない。
- 2 感染症法に規定する感染症によるものであることが明らかであり、かつ、いずれの感染症であるかが特定可能な場合には、当該感染症の届出基準に基づき届出を行うこととなるため、本届出の対象とはならない。

別記様式一覧表

別記 様式	件名等	別記 様式	件名等
1	感染症発生動向調査病原体定点検査票	38	キャサヌル森林病発生届
2	五類感染症（定点把握対象）小児科患者定点報告票	39	Q熱発生届
3	五類感染症（定点把握対象） 急性呼吸器感染症患者定点報告票	40	狂犬病発生届
4	五類感染症（定点把握対象）眼科患者定点報告票	41	コクシジオイデス症発生届
5	五類感染症（定点把握対象）性感染症患者定点報告票	42	エムポックス発生届
6-1 6-2 6-3	五類感染症（定点把握対象） 基幹患者定点報告票（週報告分）	43	ジカウイルス感染症発生届
7	五類感染症（定点把握対象） 基幹患者定点報告票（月報告分）	44	重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。）発生届
8	麻しん発生届	45	腎症候性出血熱（HFRS）発生届
9	結核発生届	46	西部ウマ脳炎発生届
10	梅毒発生届	47	ダニ媒介脳炎発生届
11	風しん発生届	48	炭疽発生届
12	エボラ出血熱発生届	49	チクングニア熱発生届
13	クリミア・コンゴ出血熱発生届	50	つつが虫病発生届
14	痘そう発生届	51	デング熱発生届
15	南米出血熱発生届	52	東部ウマ脳炎発生届
16	ペスト発生届	53	鳥インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9）を除く。）発生届
17	マールブルグ病発生届	54	ニパウイルス感染症発生届
18	ラッサ熱発生届	55	日本紅斑熱発生届
19	急性灰白髄炎発生届	56	日本脳炎発生届
20	ジフテリア発生届	57	ハンタウイルス肺症候群（HPS）発生届
21	重症急性呼吸器症候群（SARS）発生届	58	Bウイルス病発生届
22	中東呼吸器症候群（MERS）発生届	59	鼻疽発生届
23	鳥インフルエンザ（H5N1）発生届	60	ブルセラ症発生届
24	鳥インフルエンザ（H7N9）発生届	61	ベネズエラウマ脳炎発生届
25	コレラ発生届	62	ヘンドラウイルス感染症発生届
26	細菌性赤痢発生届	63	発しんチフス発生届
27	腸管出血性大腸菌感染症発生届	64	ボツリヌス症発生届
28	腸チフス発生届	65	マラリア発生届
29	パラチフス発生届	66	野兎病発生届
30	E型肝炎発生届	67	ライム病発生届
31	ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎含む）発生届	68	リッサウイルス感染症発生届
32	A型肝炎発生届	69	リフトバレー熱発生届
33	エキノコックス症発生届	70	類鼻疽発生届
34	黄熱発生届	71	レジオネラ症発生届
35	オウム病発生届	72	レプトスピラ症発生届
36	オムスク出血熱発生届	73	ロッキー山紅斑熱発生届
37	回帰熱発生届	74	侵襲性髄膜炎菌感染症発生届

各様式は東京都感染症情報センターに掲載（<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/survey/kobetsu/>）